

## 第2部 九州と各国・地域の経済関係

### 第1章 九州と韓国の経済関係

#### 1. 韓国の経済概況

国名	大韓民国
面積	約10万km <sup>2</sup> (朝鮮半島全体の45%、日本の約4分の1)
人口	約5,127万人(出典:2016年、韓国統計庁)
首都	ソウル
人種	韓民族
言語	韓国語
宗教	宗教人口比率53.1%(うち仏教:42.9%、プロテスタント:34.5%、カトリック:20.6%、その他:2.0%)。社会・文化に儒教の影響を色濃く受ける。
政体	民主共和国
主要産業	電気・電子機器、自動車、鉄鋼、石油化学、造船

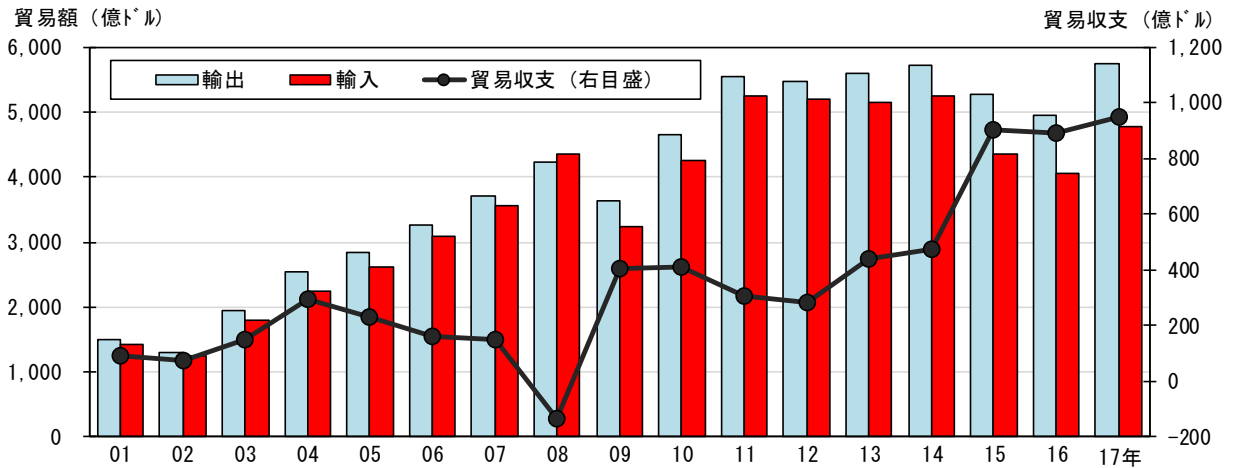
出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

図表 2-1-1 韓国のマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	2.9	3.3	2.8	2.9	3.1
名目GDP総額	十億ドル	1,306	1,411	1,383	1,415	1,540
一人当たりGDP(名目)	ドル	25,890	27,811	27,105	27,608	29,938
輸出額	億ドル	5,596	5,727	5,268	4,954	5,737
	前年比(%)	2.1	2.3	▲ 8.0	▲ 5.9	15.8
輸入額	億ドル	5,156	5,255	4,365	4,062	4,785
	前年比(%)	▲ 0.8	1.9	▲ 16.9	▲ 6.9	17.8
貿易収支	億ドル	440	472	903	892	952
対日貿易収支	億ドル	▲ 254	▲ 216	▲ 203	▲ 231	▲ 283
鉱工業生産指数	前年比(%)	0.7	0.2	▲ 0.3	2.3	1.8
失業率	(%)	3.1	3.5	3.6	3.7	3.7
消費者物価指数	前年比(%)	1.3	1.3	0.7	1.0	1.9
直接投資受入額	億ドル	145	190	209	213	229*
為替レート(1ドル)	ウォン	1,094.85	1,052.96	1,131.16	1,160.43	1,130.43
為替レート(1ウォン)	円	0.09	0.10	0.11	0.09	0.10

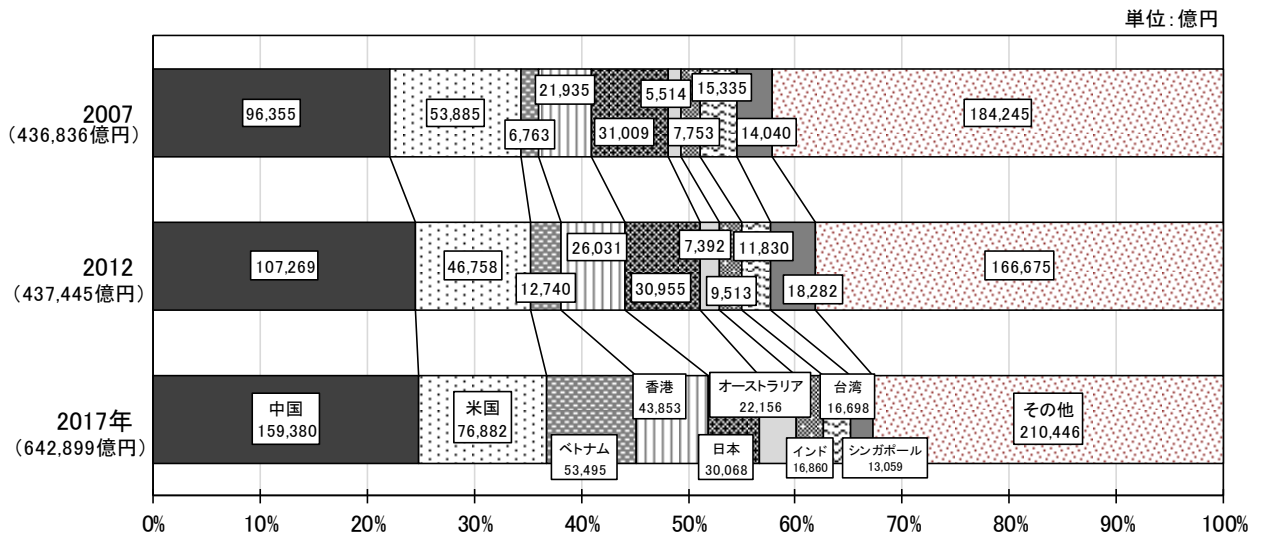
出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」(平成30年10月)、\*はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

図表 2-1-2 韓国の対外貿易額の推移

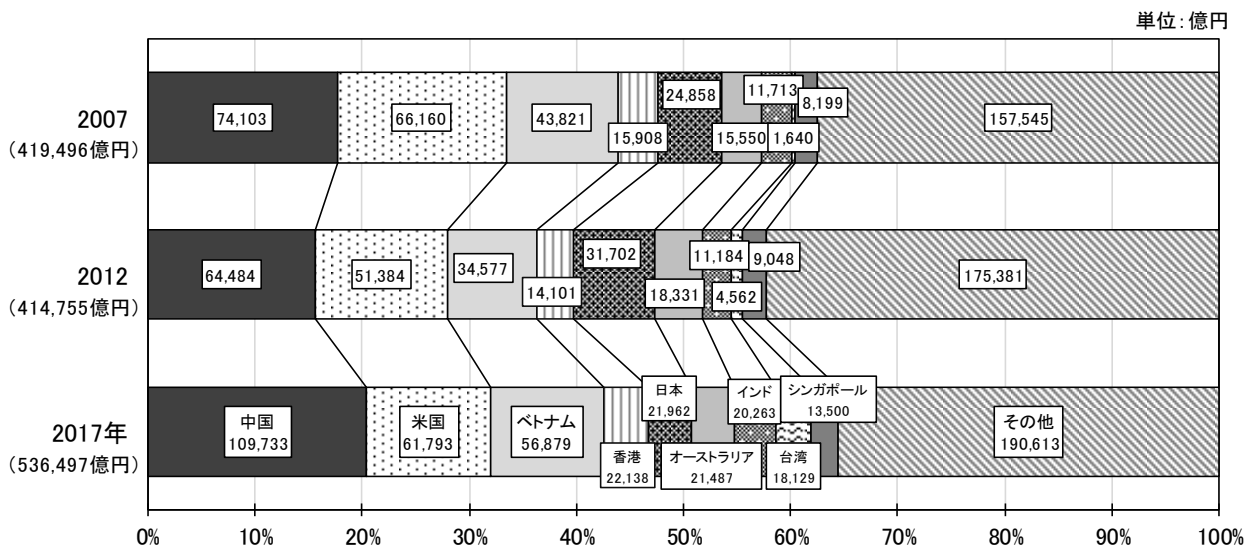


出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」（平成 30 年 10 月）より九州経済産業局作成。

図表 2-1-3 韓国の輸出相手国・地域の推移



図表 2-1-4 韓国の輸入相手国・地域の推移

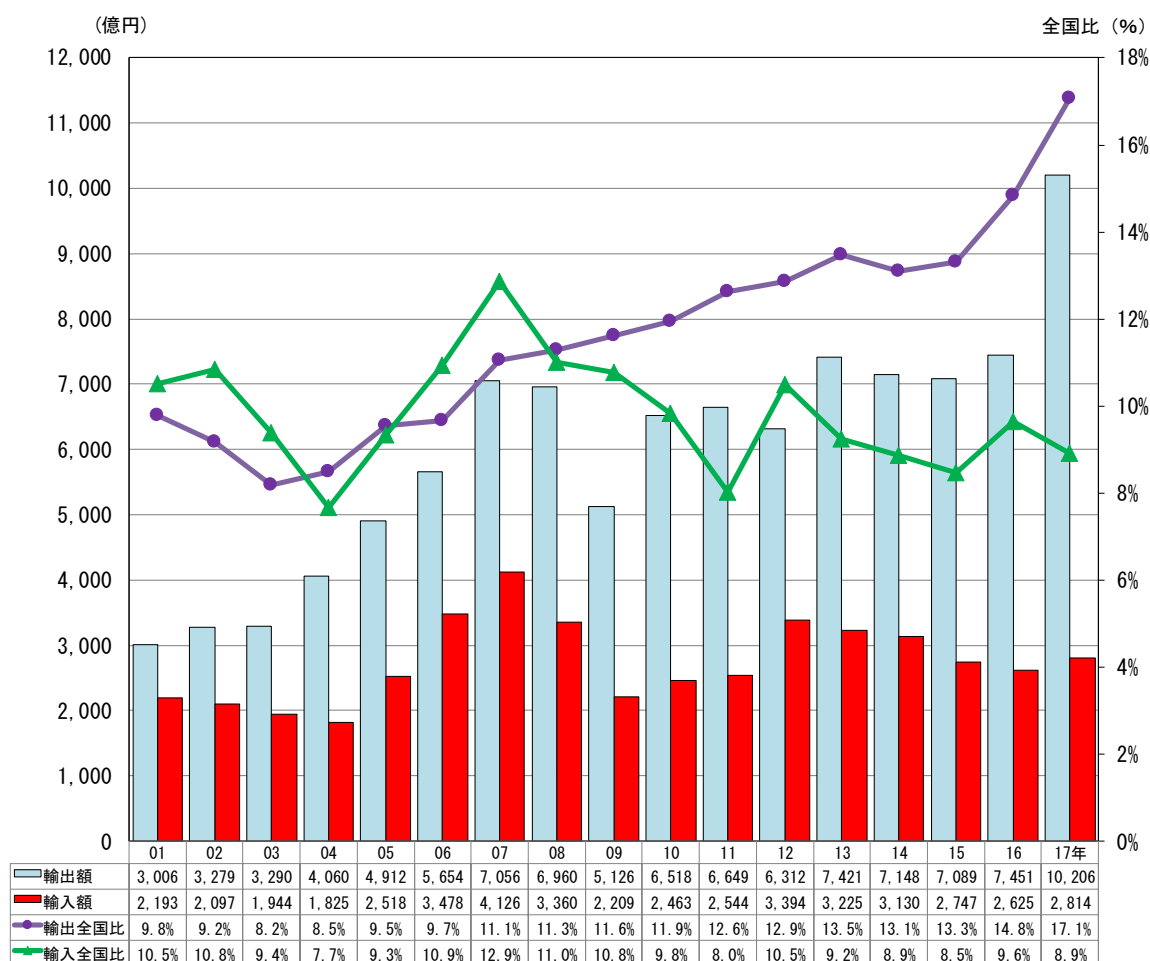


図表 2-1-3～4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

## 2. 九州と韓国の経済動向

- 2017年の九州の対韓国貿易額は、輸出が10,206億円（前年比37.0%増）と2年連続増加した。輸入は2,814億円（前年比7.2%増）と5年ぶりに増加に転じた。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、半導体等製造装置、半導体等電子部品、鉄鋼のフラットロール製品等となっている。輸出額の増加に大きく寄与したものは、半導体等製造装置（寄与度：+15.6%）、半導体等電子部品（同+9.8%）等となっている。一方、減少では、原動機（同▲0.9%）、銅及び同合金（同▲0.5%）等となっている。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、鉄鋼のフラットロール製品、自動車の部分品、石油製品等となっている。輸入額の増加に大きく寄与したものは、鉄鋼のフラットロール製品（寄与度：+4.8%）、鉄鋼製構造物及び同建設材（同+2.6%）等となっている。一方、減少では、石油製品（同▲3.1%）、半導体等電子部品（同▲1.1%）等となっている。

図表 2-1-5 九州の対韓国貿易額の推移

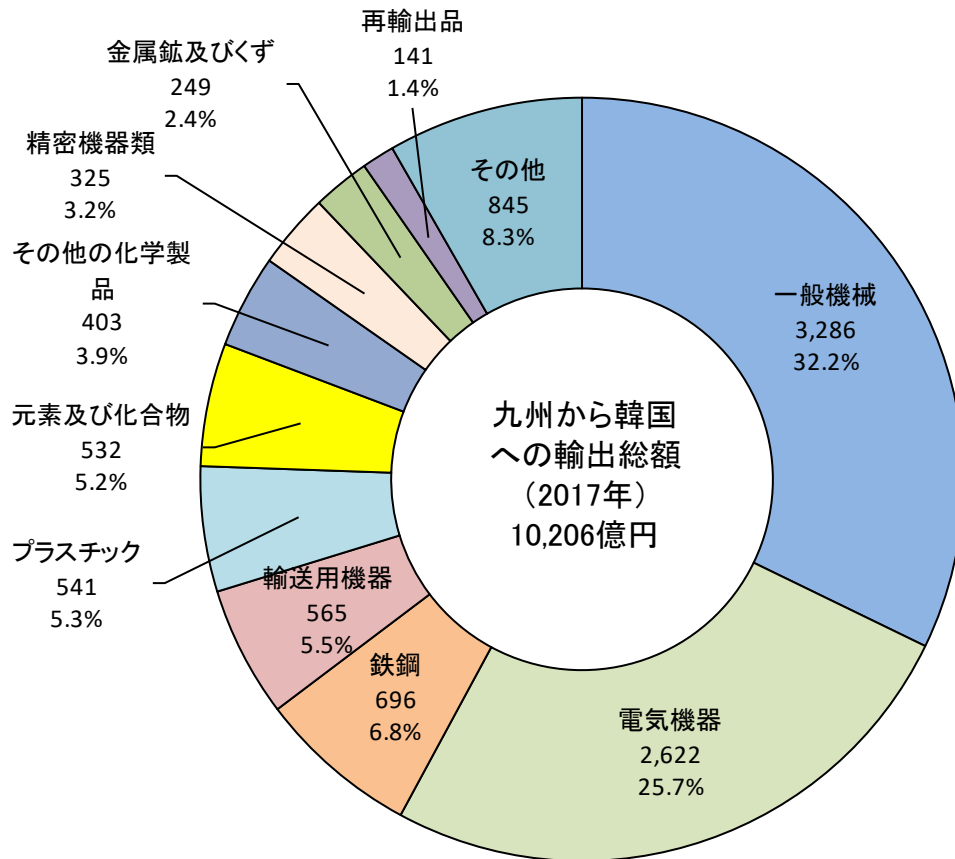


出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 2-1-6 九州から韓国への輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
半導体等製造装置	一般機械	2,868	28.1%
半導体等電子部品	電気機器	2,191	21.5%
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	635	6.2%
プラスチック	プラスチック	541	5.3%
自動車	輸送用機器	506	5.0%
有機化合物	元素及び化合物	467	4.6%
科学光学機器	精密機器類	325	3.2%
鉄鋼くず	金属鉱及びびくず	216	2.1%
電気回路等の機器	電気機器	92	0.9%
映像機器	電気機器	81	0.8%
その他		2,284	22.4%
総 額		10,206	100%

寄与度 (増加分) : 半導体等製造装置 (+15.6%)、半導体等電子部品 (+9.8%) 等

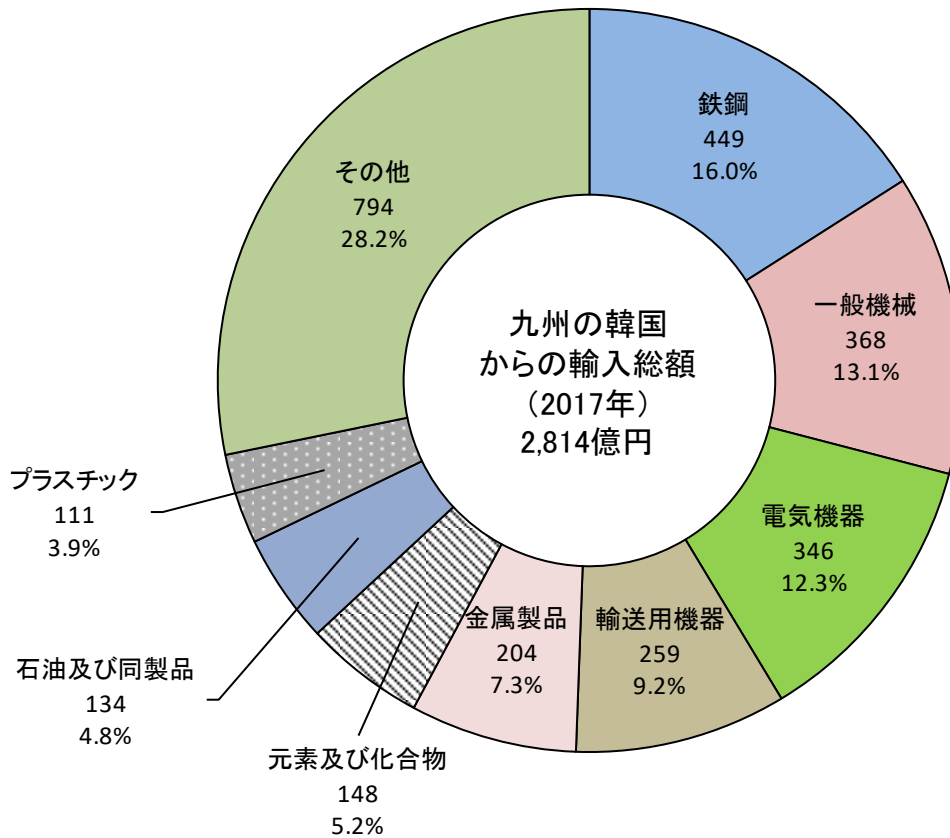
寄与度 (減少分) : 原動機 (▲0.9%) 等

出所 : 財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-1-7 九州の韓国からの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)

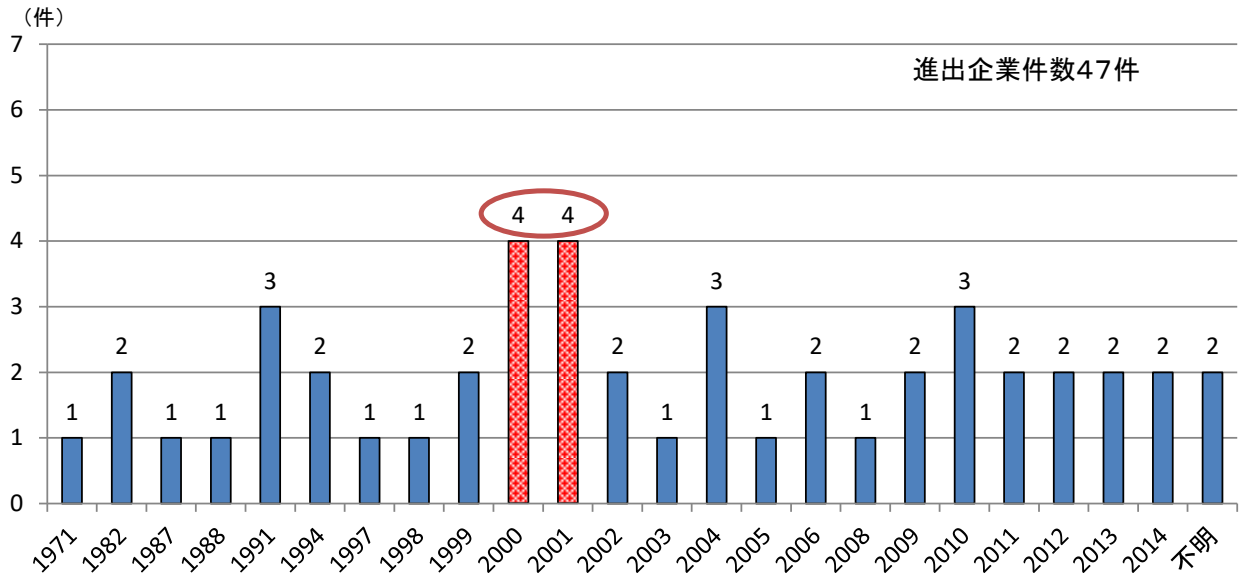


主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	393	14.0%
自動車の部分品	輸送用機器	254	9.0%
石油製品	石油及び同製品	134	4.8%
鉄鋼製構造物及び同建設材	金属製品	128	4.5%
半導体等電子部品	電気機器	121	4.3%
有機化合物	元素及び化合物	118	4.2%
半導体等製造装置	一般機械	86	3.1%
原動機	一般機械	77	2.7%
野菜	果実及び野菜	64	2.3%
抗生物質製剤	医薬品	54	1.9%
その他		1,384	49.2%
総 額		2,814	100%

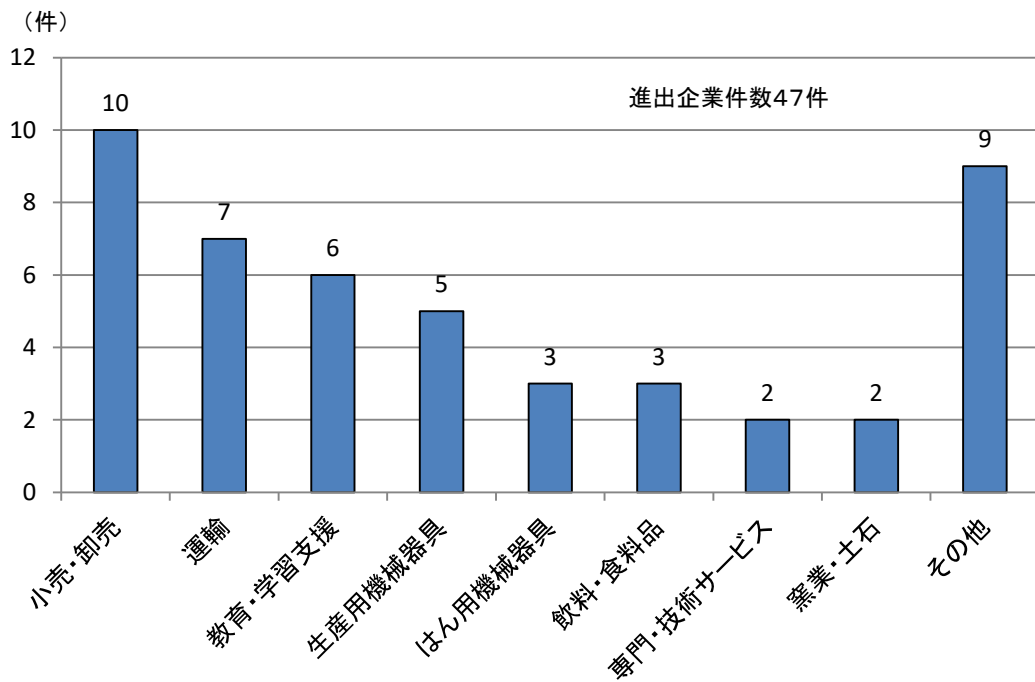
寄与度 (増加分) : 鉄鋼のフラットロール製品 (+4.8%)、鉄鋼製構造物及び同建設材 (+2.6%) 等  
 寄与度 (減少分) : 石油製品 (▲3.1%)、半導体等電子部品 (▲1.1%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-1-8 九州企業の韓国への進出件数の推移



図表 2-1-9 韓国に進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-1-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

## 【トピックス】韓国からの「自動車の部分品」の輸入について

○自動車部品の調達においてグローバル化が進む中、2017年の九州の韓国からの「自動車の部分品」の輸入額は254億円に達し、10年前と比べて約3倍に増加しています。

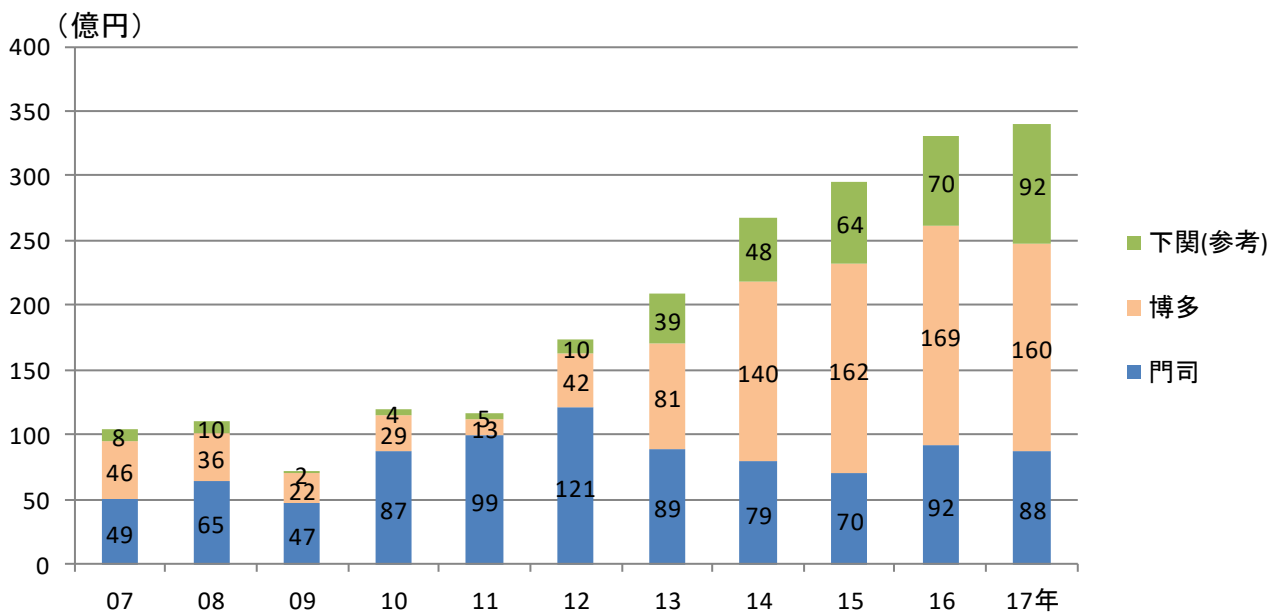
○九州の自動車メーカーでは、韓国においてミルクラン方式(\*1)による集荷や日韓ダブルナンバーのシャーシ(\*2)の活用による効率的な部品調達を進めており、こうした部品調達方式の拡大も韓国からの輸入額増加の背景にあると思われます。

○上記の部品調達方式においては、日韓間の輸送に定期フェリー(博多港-釜山港、下関港-釜山港)を活用しており、近年、博多港と下関港からの輸入額が大きく伸長しています。

※1:自動車メーカーが複数の部品メーカーを回って部品を調達(混載)する方式で、従来型の各部品メーカーが個別に自動車メーカーに納品する方式よりも積載率が向上。

※2:輸送車両を相手国との間で相互乗り入れすることができ、相手国で当該国の車両に積み替える手間が省け、物流のスピード化を図ることができる。

【図表】門司港・博多港・下関港における韓国からの自動車の部分品の輸入額推移



備考:九州(下関港を含む)において、韓国からの「自動車の部分品」の輸入額が多い3港の輸入額の推移を比較したもの。

出所:財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

## 第2章 九州と中国の貿易

### 1. 中国の経済概況

国名	中華人民共和国
面積	約960万km <sup>2</sup> (日本の約26倍)
人口	約13.76億人
首都	北京
人種	漢民族(総人口の約92%)及び55の少数民族
言語	漢語(中国語)
宗教	仏教、イスラム教、キリスト教など
政体	人民民主共和制
主要産業	第一次産業(名目GDPの8.6%)、第二次産業(同39.8%)、第三次産業(同51.6%) (注)労働集約・外需主導型産業がけん引する「世界の工場」として第二次産業を中心に発展してきたが、2012年に第三次産業の比率が第二次産業の比率を逆転。

出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

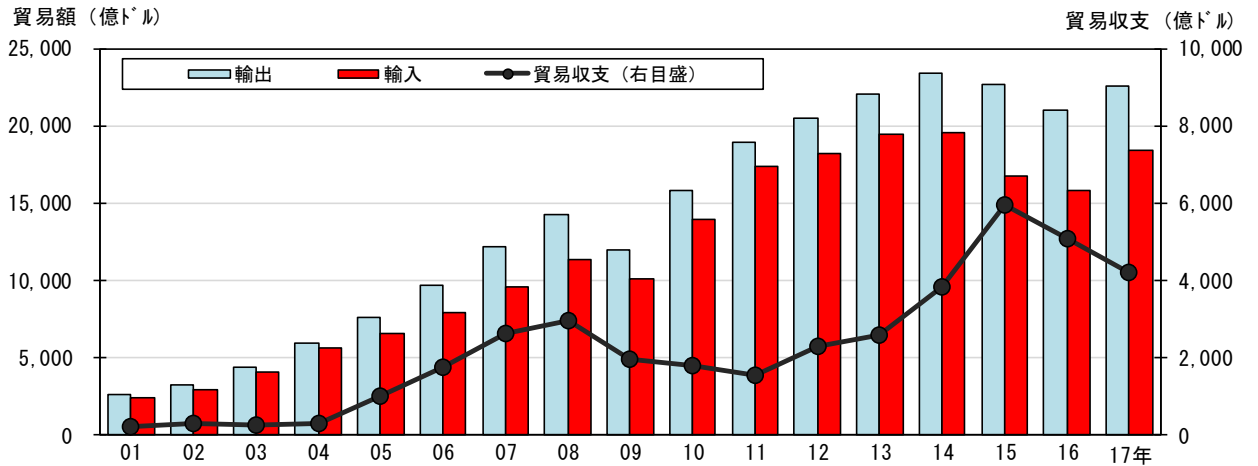
図表 2-2-1 中国のマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	7.8	7.3	6.9	6.7	6.9
名目GDP総額	十億ドル	9,635	10,535	11,226	11,222	12,015
一人当たりGDP(名目)	ドル	7,081	7,702	8,167	8,116	8,643
輸出額	億ドル	22,090	23,423	22,735	20,976	22,634
	前年比(%)	7.8	6.0	▲ 2.9	▲ 7.7	7.9
輸入額	億ドル	19,500	19,592	16,796	15,879	18,438
	前年比(%)	7.2	0.5	▲ 14.3	▲ 5.5	16.1
貿易収支	億ドル	2,590	3,831	5,939	5,097	4,196
対日貿易収支	億ドル	▲ 120	▲ 135	▲ 72	▲ 159	▲ 283
鉱工業生産指数	前年比(%)	9.7	8.3	6.1	6.0	6.6
失業率(都市部)	(%)	4.1	4.1	4.1	4.0	3.9
消費者物価指数	前年比(%)	2.6	2.0	1.4	2.0	1.6
直接投資受入額	億ドル	2,909	2,681	2,425	1,748	1,682 *
為替レート(1ドル)	人民元	6.20	6.14	6.23	6.65	6.76
為替レート(1人民元)	円	15.75	17.25	19.44	16.37	16.60

出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」(平成30年10月)、\*はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

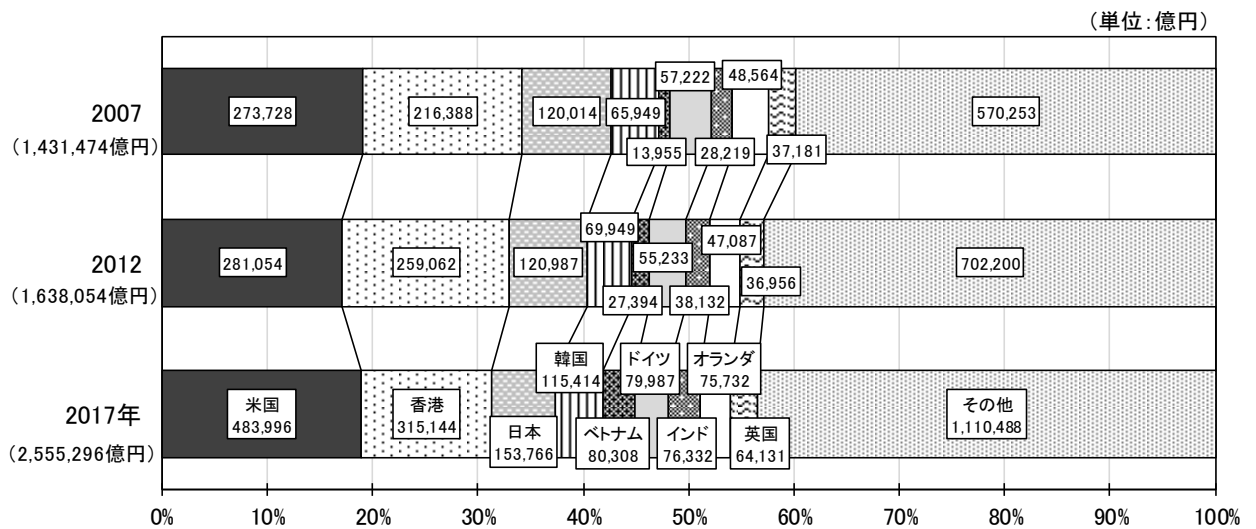


図表 2-2-2 中国の対外貿易額の推移

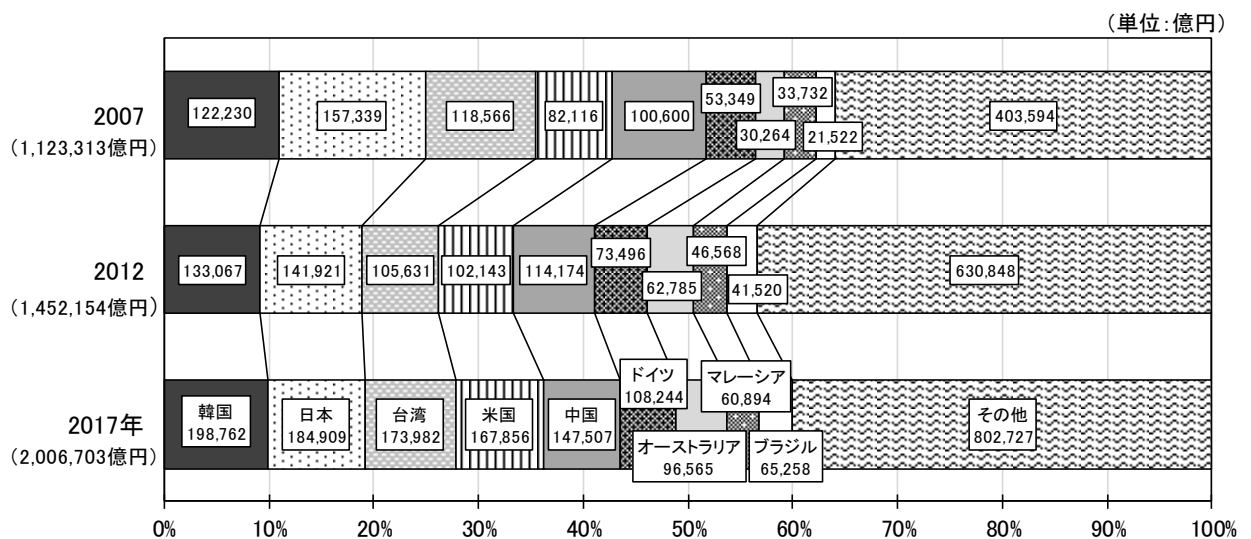


出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」（平成 30 年 10 月）より九州経済産業局作成。

図表 2-2-3 中国の輸出相手国・地域の推移



図表 2-2-4 中国の輸入相手国・地域の推移

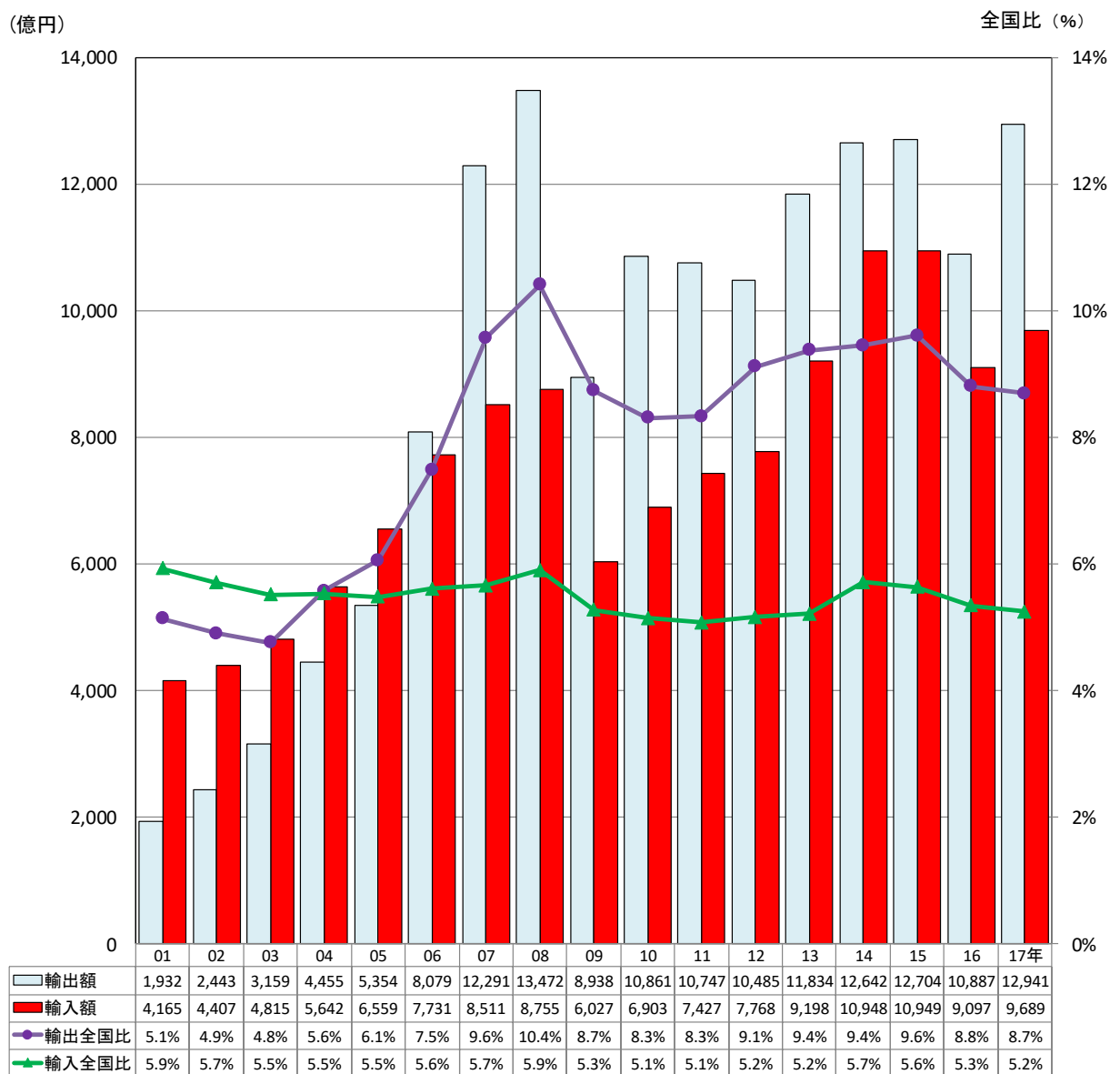


図表 2-2-3~4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

## 2. 九州と中国の経済動向

- 2017年の九州の対中国貿易額は、輸出が1兆2,941億円（前年比18.9%増）で前年より増加した。一方、輸入も9,689億円（前年比6.5%増）で前年より増加した。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、半導体等製造装置、有機化合物であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、自動車（寄与度：+5.3%）、半導体等製造装置（同+4.8%）等であった。一方、減少では、銅及び同合金（同▲1.1%）、半導体等電子部品（同▲0.5%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、自動車の部分品、半導体等電子部品、有機化合物であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、電気回路等の機器（寄与度：+1.5%）、無機化合物（同+1.2%）等であった。一方、減少では、半導体等電子部品（寄与度：▲1.4%）、植物性油かす（同▲1.0%）等であった。

図表 2-2-5 九州の対中国貿易額の推移

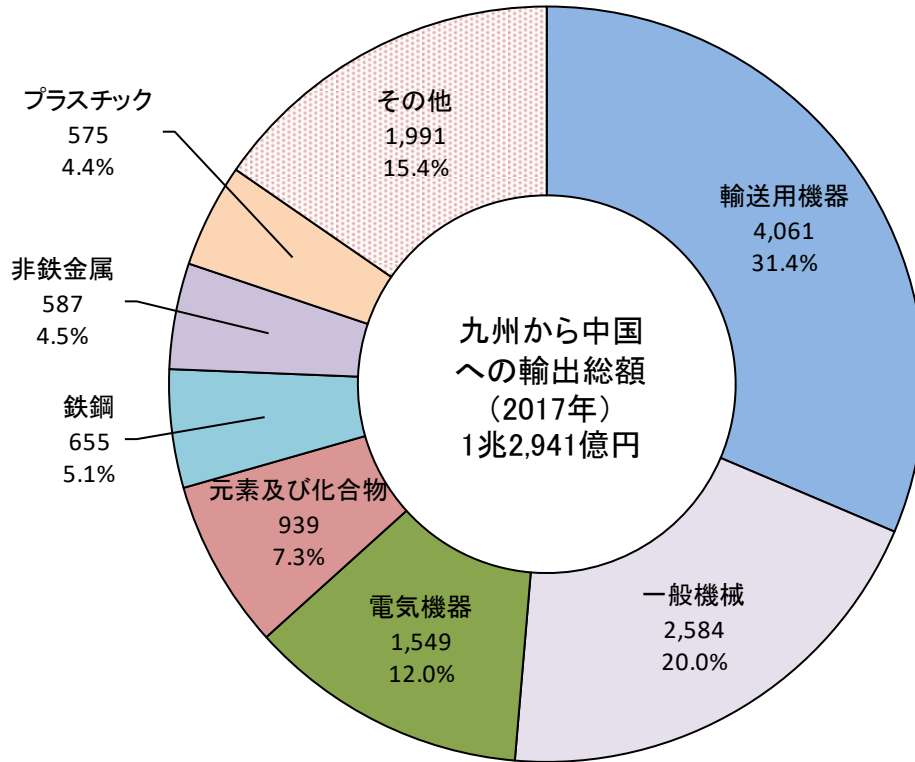


出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 2-2-6 九州から中国への輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
自動車	輸送用機器	4,009	31.0%
半導体等製造装置	一般機械	1,422	11.0%
有機化合物	元素及び化合物	880	6.8%
半導体等電子部品	電気機器	865	6.7%
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	592	4.6%
銅及び同合金	非鉄金属	545	4.2%
原動機	一般機械	482	3.7%
電気回路等の機器	電気機器	229	1.8%
科学光学機器	精密機器類	182	1.4%
鉄鋼くず	金属鉱及びくず	124	1.0%
その他		3,610	27.9%
総 額		12,941	100%

寄与度(増加分)：自動車 (+5.3%)、半導体等製造装置 (+4.8%) 等

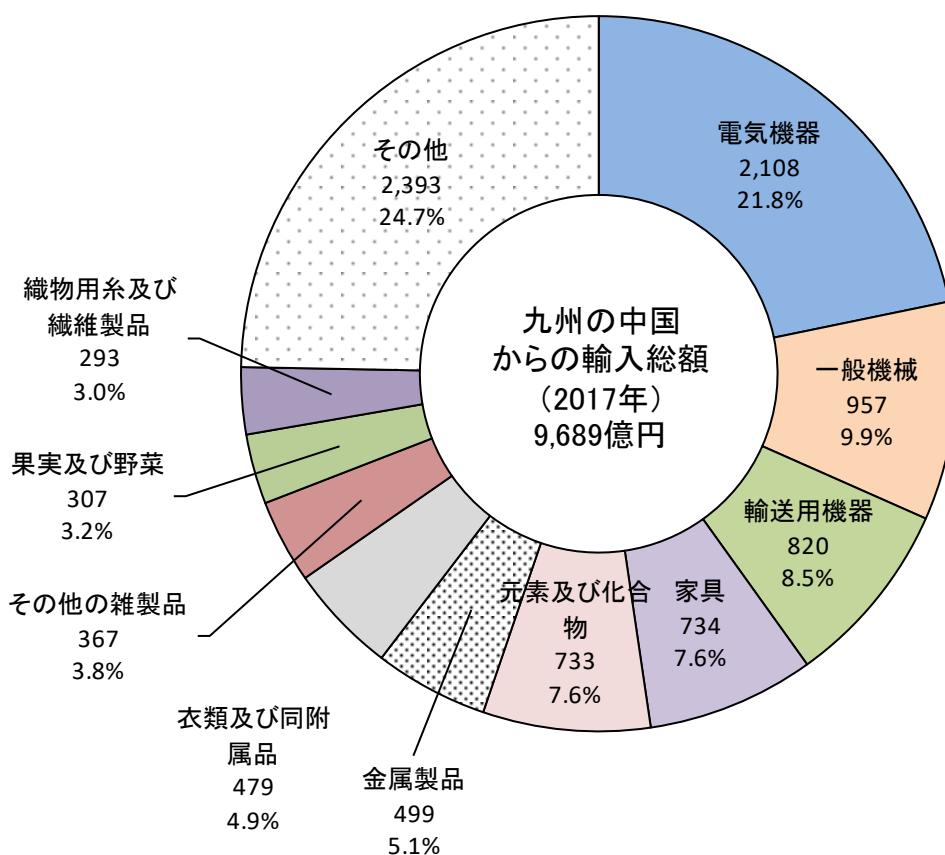
寄与度(減少分)：銅及同合金 (▲1.1%)、半導体等電子部品 (▲0.5%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-2-7 九州の中国からの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)



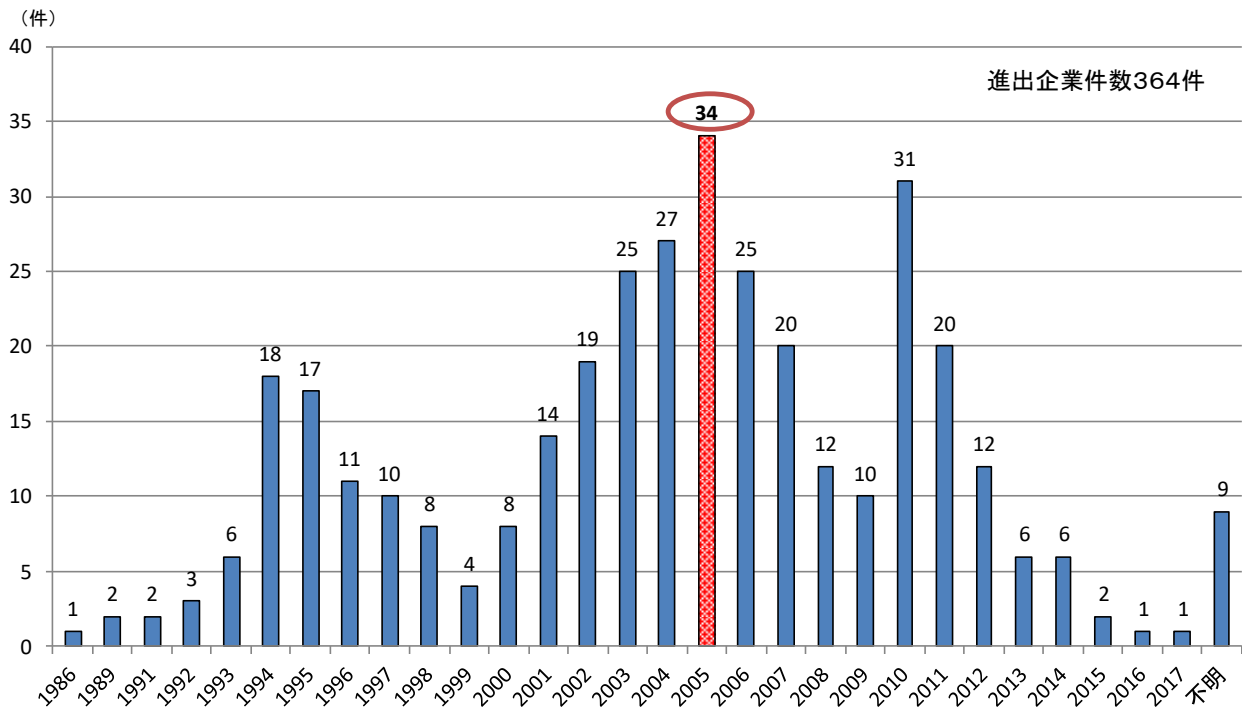
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
自動車の部分品	輸送用機器	684	7.1%
半導体等電子部品	電気機器	546	5.6%
有機化合物	元素及び化合物	462	4.8%
電気回路等の機器	電気機器	371	3.8%
メリヤス編み及びクロセ編み衣類	衣類及び同附属品	261	2.7%
無機化合物	元素及び化合物	254	2.6%
野菜	果実及び野菜	241	2.5%
音響・映像機器(含部品)	電気機器	222	2.3%
家庭用電気機器	電気機器	210	2.2%
プラスチック製品	その他の雑製品	201	2.1%
その他		6,237	64.4%
総 額		9,097	100%

寄与度(増加分)：電気回路等の機器 (+1.5%)、無機化合物 (+1.2%) 等

寄与度(減少分)：半導体等電子部品 (▲1.4%)、植物性油かす (▲1.0%) 等

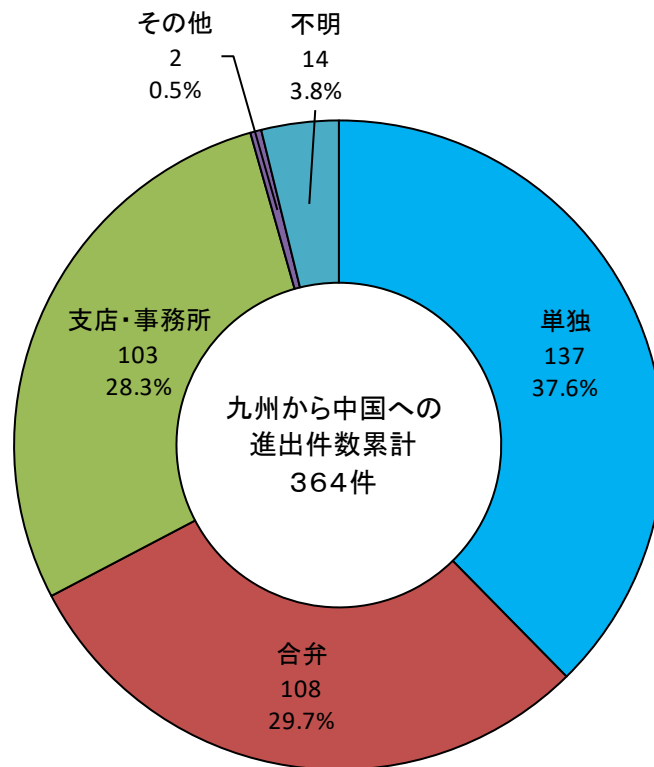
出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-2-8 九州企業の中国への進出件数の推移



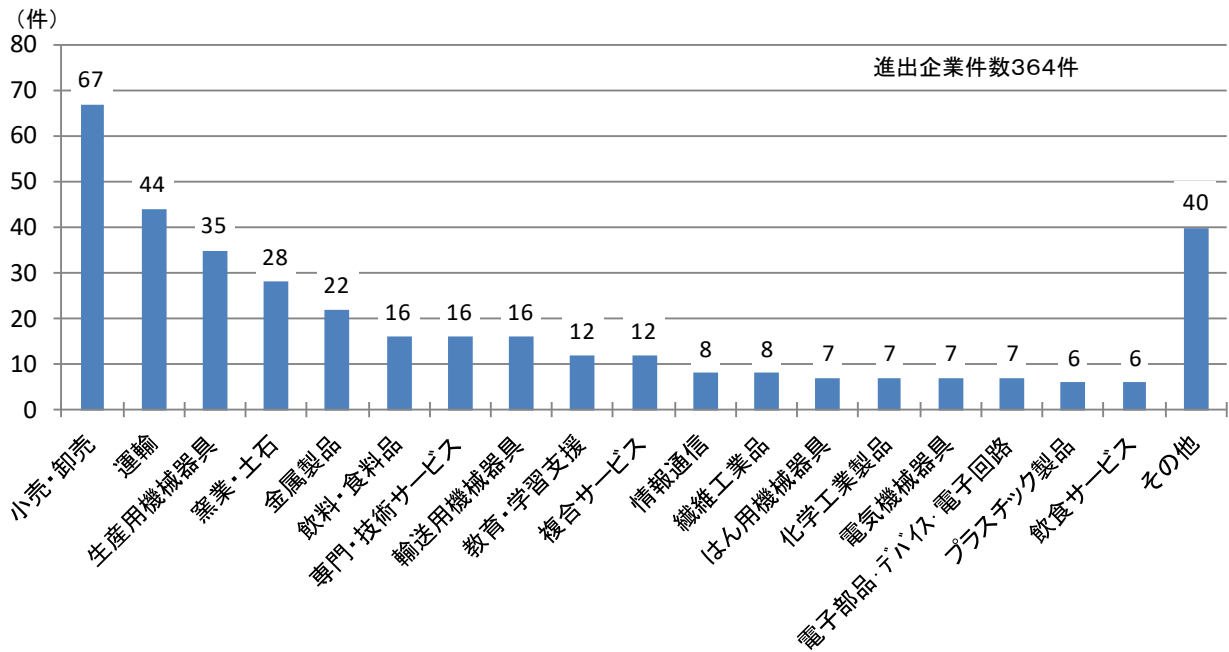
図表 2-2-9 九州企業の中国への進出形態

(単位：億円、%)



図表 2-2-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

図表 2-2-10 中国に進出した九州企業の業種別内訳



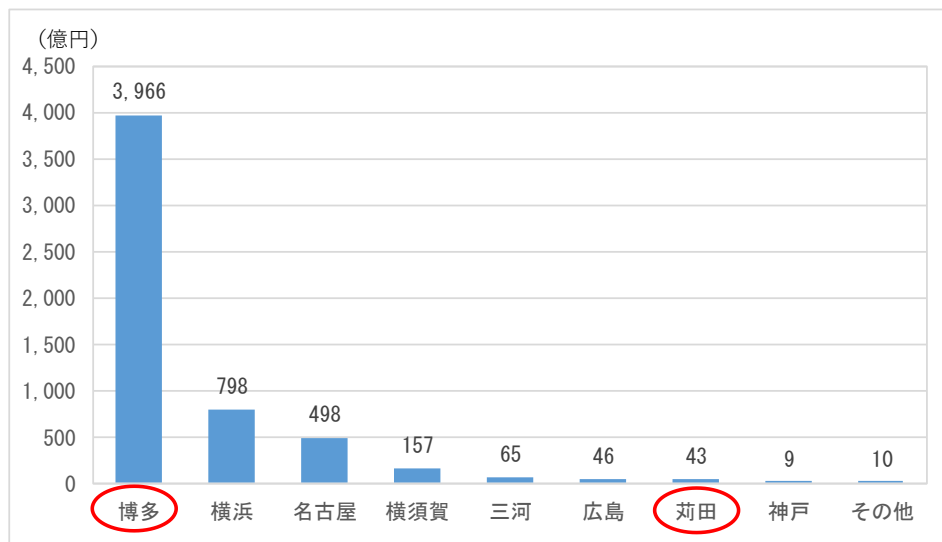
出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

【トピックス】九州から中国への自動車の輸出について

2017年の九州の自動車輸出額(1兆7,006億円)は全国比14.4%ですが、中国への自動車輸出額(全国:5,592億円、九州:4,009億円)については全国比71.7%となっており、九州からの輸出が全国の7割強を占めています。

なかでも、博多港は2017年の中国への自動車輸出額が3,966億円と前年に引き続き全国第1位となっています。また、同じ福岡県内の苅田港についても全国第7位となっており、中国の自動車市場を狙う上で、九州が重要な輸出拠点となっていることがうかがえます。

【図表】港別の中国への自動車輸出額(2017年)



出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

### 第3章 九州と環黄海经济圈の経済関係

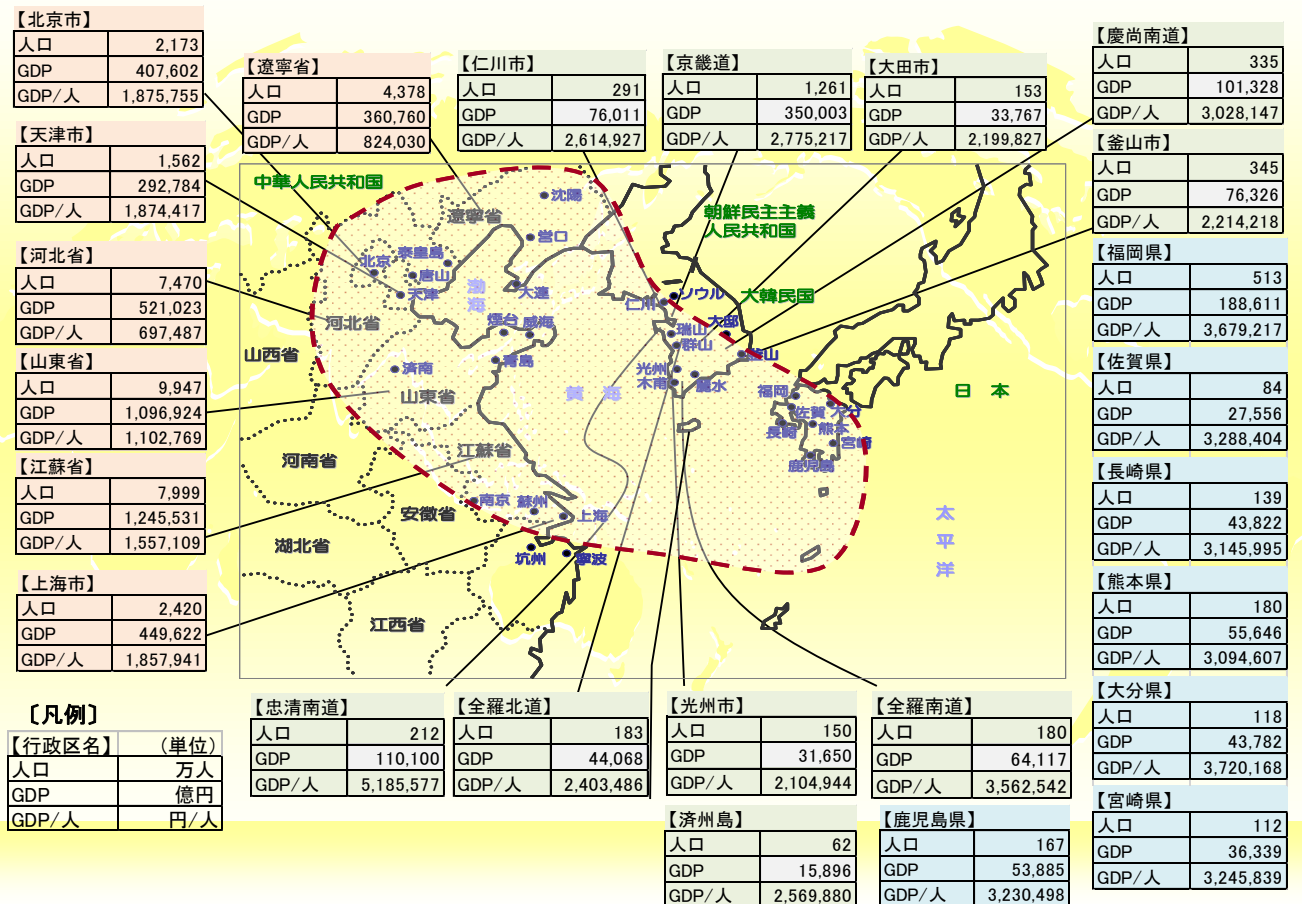
#### 1. 環黄海经济圈の概要

- 九州と韓国・中国の黄海に面した沿岸部で構成される環黄海经济圈は、国家間で協定を結んで形成された EU や ASEAN 等とは異なり、貿易や投資、人の移動等の実体経済の結びつきを背景とした局地经济圈である。
- 圏域は直径約 1,500km 内に収まり、その地理的近接性や長い交流の歴史などを背景として、人的交流、経済交流及び地域間交流などが活発に行われているエリアである。
- 環黄海经济圈の人口は約 4 億人で、他の地域经济圈に比べると比較的少ないものの、GDP では約 5.2 兆ドルで、ASEAN や MERCOSUR を上回る規模となっており、環黄海经济圈の動向が世界に与える影響は小さくない。

図表 2-3-1 環黄海地域の骨格

#### 【環黄海地域図】

※環黄海地域：日本(九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県)  
 中国(北京市、天津市、河北省、遼寧省、上海市、江蘇省、山東省)  
 韓国(釜山市、仁川市、光州市、大田市、京畿道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尚南道、済州島)



	人口 (万人)	面積 (万km <sup>2</sup> )	GDP (億円)	GDP構成 比(%)
九州	1,312	4	449,641	8.2%
中国(環黄海地域)	35,949	63	4,374,246	35.9%
韓国(環黄海地域)	3,173	5	903,265	58.8%
合計	40,434	73	5,727,151	

備考：GDP構成比は当該地域のGDPが国全体のGDPに占める割合を示す。

備考：1ウォン=0.094円、1元=16.37円(2016年時点)で換算(内閣府「海外経済データ」)

出所：【九州】(人口)総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数(H29.1.1現在)」  
(GDP)内閣府「県民経済計算」平成27年度県内総生産(名目)  
(面積)国土交通省「平成29年全国都道府県市区町村別面積調」

【中国】(人口、GDP、面積)中国経済データハンドブック(2017年版)(データは2016年時点)

【韓国】(人口、GDP、面積)「Korea Statistical Yearbook 2017」(データは2016年時点)

## 【トピックス】環黄海経済・技術交流会議について

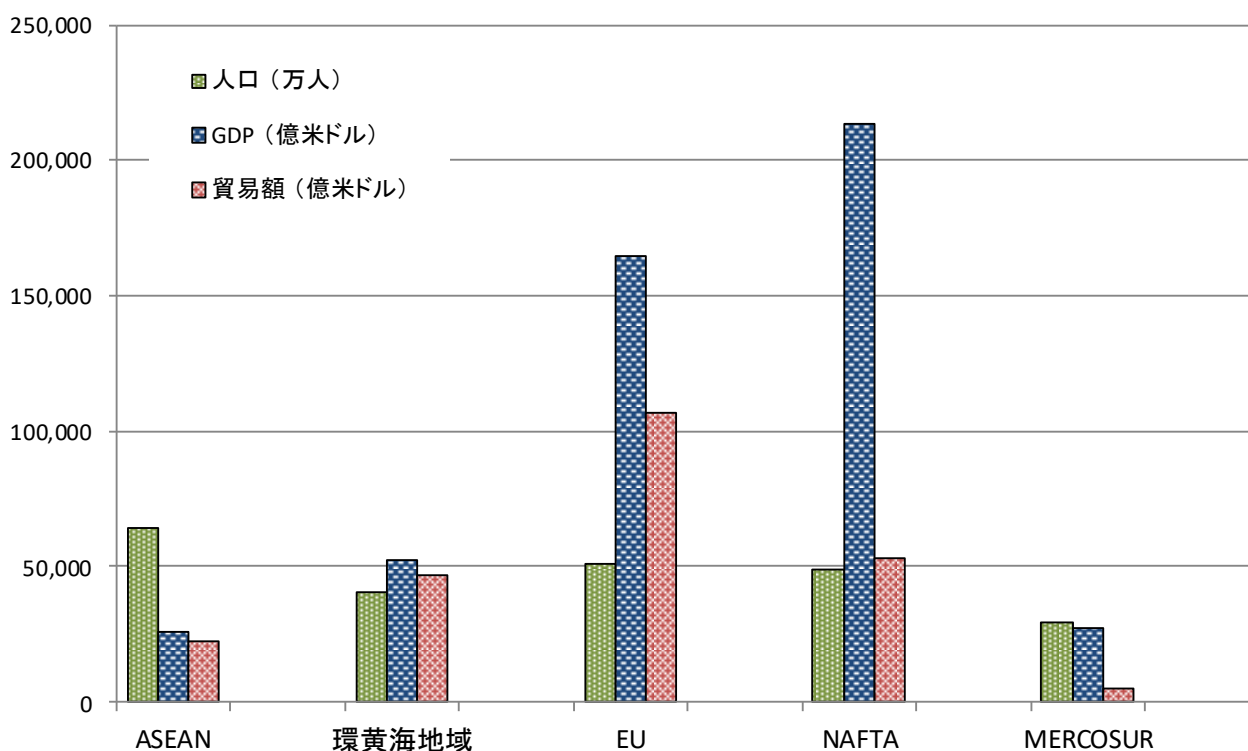
- 九州経済産業局では、中国、韓国等の東アジア・環黄海地域の成長ダイナミズムと連動し、九州の産業・企業の国際競争力を確保することを目的として、韓国、中国の中央政府や経済団体とのパートナーシップのもと、2001年3月から九州・韓国・中国持ち回りで「環黄海経済・技術交流会議」を開催しています。
- 2018年は第17回目となる同会議が11月19日～11月21日に韓国全羅北道群山市において開催され、『地域間交流の促進』と『イノベーションを通じた新産業・新市場の創出』を全体のテーマとし、「環黄海会議本会議」、「環黄海ビジネスフォーラム」、「産業団地・特区協力フォーラム」などを開催しました。九州・韓国・中国の環黄海地域における経済交流促進について、これまでの成果や、今後の環黄海地域での協力、交流深化に向けた活発な情報交換が行われました。
- また、環黄海地域内で先進的・模範的な取組を行う地方公共団体、経済団体や企業等を三国共同で表彰する「環黄海経済・技術交流大賞」の第4回目となる表彰式を実施し、九州・韓国が各二者、中国が一人の計5者に授与されました。  
(次回開催地は、中国山東省・済寧市で解される予定)

### ★第17回環黄海経済・技術交流会議★





図表 2-3-2 世界の地域経済圏との比較（2016年・グラフ）



図表 2-3-3 世界の地域経済圏との比較（2016年）

	加盟国	人口 (万人)	GDP (億米ドル)	GDP/人 (米ドル)	貿易額 (億米ドル)
東南アジア諸国連合 (ASEAN)	10か国	64,051	25,559	3,990	22,425
環黄海地域	(3か国)	40,434	52,208	12,912	46,802
欧州連合 (EU)	28か国	51,039	164,935	32,316	106,409
北米自由貿易協定 (NAFTA)	3か国	48,978	213,362	43,563	52,759
南米共同市場 (MERCOSUR)	6か国	29,324	27,128	9,251	5,182

※為替レート（2016年） 1ドル=108.79円、1,160.43ウォン、6.645円で換算（内閣府「月刊海外経済データ」）

図表2-3-2～3備考：九州のGDPは、2014年度の値（1ドル=105.94円で換算）。

韓国・中国のGDPは、2015年の値（1ドル=1,131.16ウォン、6.228元）

環黄海地域の貿易額は、2016年の九州・中国・韓国の貿易額の合計。

NAFTA加盟国（アメリカ、カナダ、メキシコ）

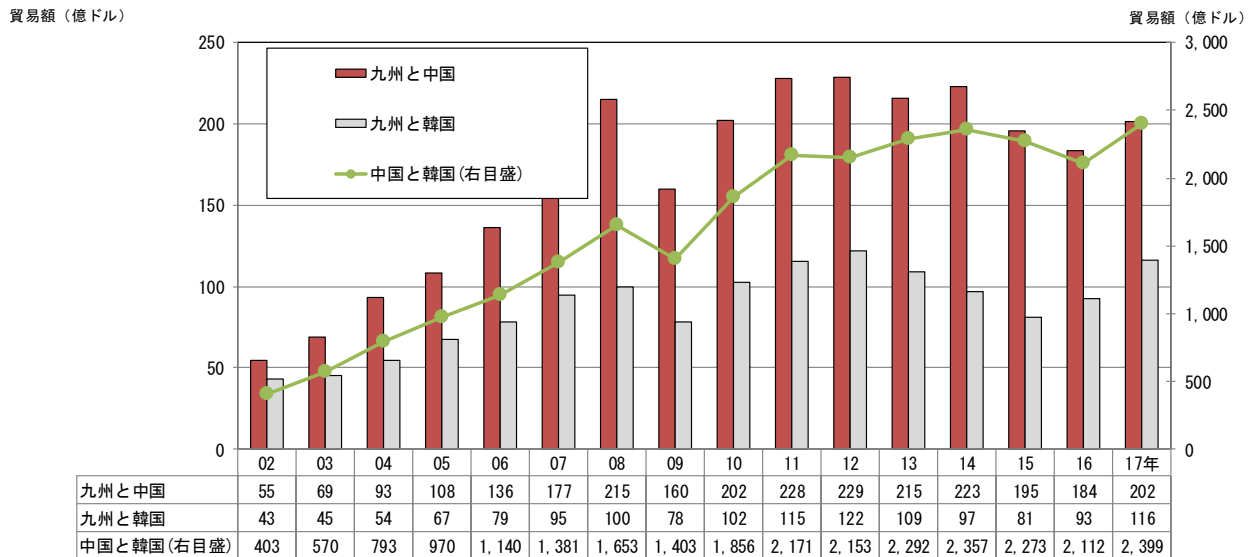
MERCOSUR加盟国（アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ベネズエラ）

図表2-3-2～3出所：環黄海地域以外については、外務省アジア大洋州局地域政策課「目で見えるASEAN」。

環黄海地域については、人口・GDPは図表2-1-1参照。貿易額については、財務省「貿易統計」、内閣府「月刊海外経済データ」より九州経済産業局作成。

## 2. 環黄海经济圈の経済動向

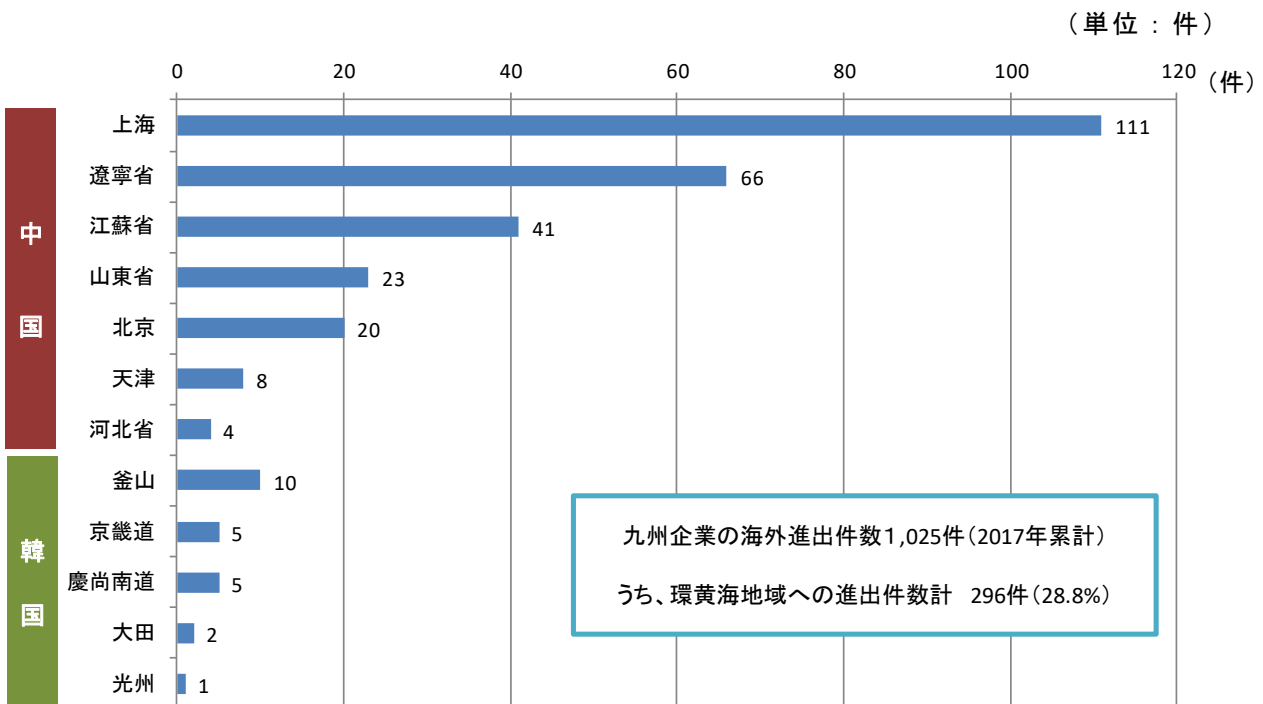
図表 2-3-4 九州・中国・韓国間の貿易額推移



備考：1ドル＝112.17円（内閣府「月刊海外経済データ」）で換算（2017年）

出所：財務省「貿易統計」、「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

図表 2-3-5 九州から環黄海地域への企業進出件数（2017年累計）

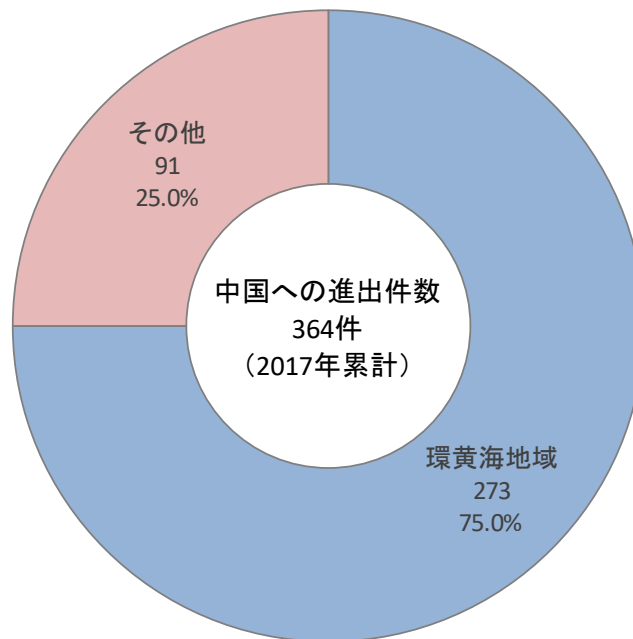


出所：（公財）九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

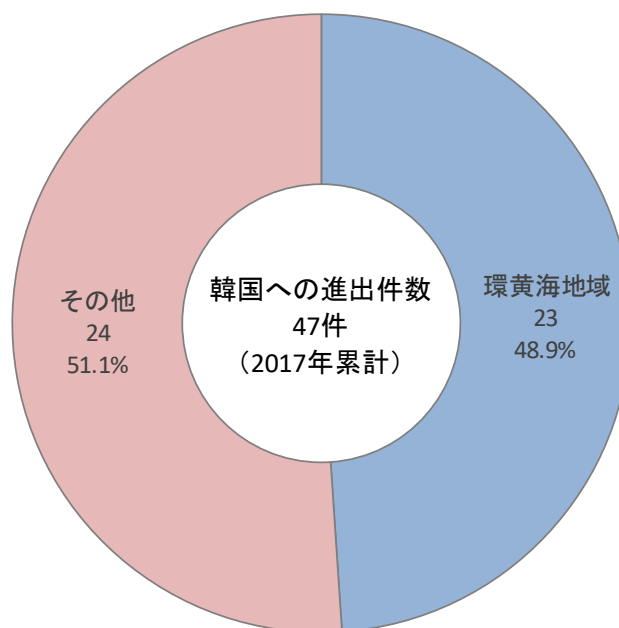
図表 2-3-6 九州から環黄海地域への企業進出件数（国ごとのシェア）

（単位：件、％）

【 中 国 】



【 韓 国 】



出所：（公財）九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

## 第4章 九州と台湾の経済関係

### 1. 台湾の経済概況

国・地域名	台湾
面積	3万6千km <sup>2</sup> (九州よりやや小さい)
人口	約2,357万人(2018年3月現在)
主要都市	台北、台中、高雄
言語	中国語、台湾語、客家語等
宗教	仏教、道教、キリスト教
政体	三民主義(民族独立、民権伸長、民生安定)に基づく民主共和制 五権分立(行政、立法、監察、司法、考試)
主要産業	電子・電気、化学品、鉄鋼金属、機械

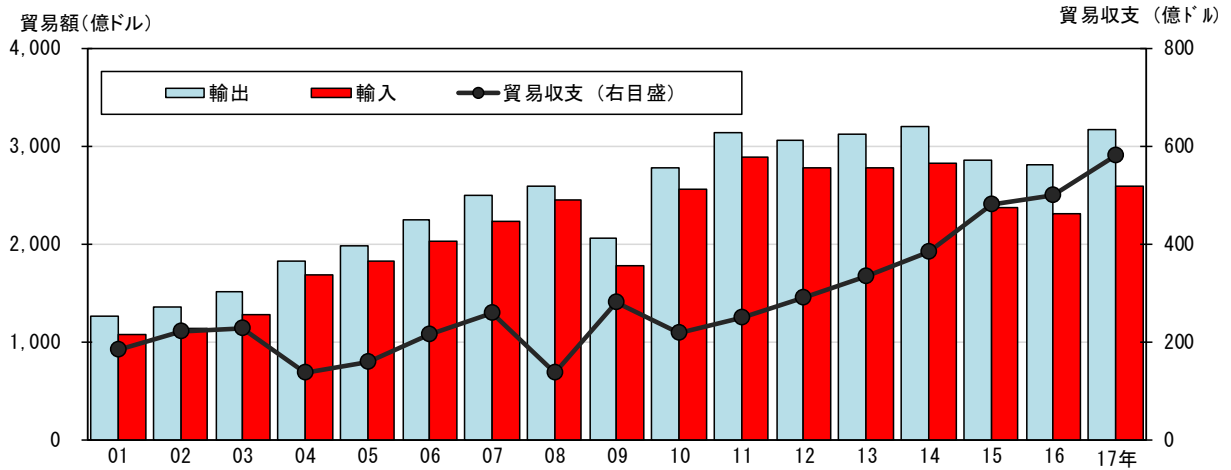
出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

図表 2-4-1 台湾のマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	2.2	4.0	0.8	1.4	2.9
名目GDP総額	十億ドル	512	531	526	531	573
一人当たりGDP(名目)	ドル	21,888	22,639	22,374	22,541	24,292
輸出額	億ドル	3,114	3,201	2,853	2,803	3,172
	前年比(%)	1.6	2.8	▲ 10.9	▲ 1.8	13.2
輸入額	億ドル	2,780	2,819	2,372	2,306	2,593
	前年比(%)	0.2	1.4	▲ 15.8	▲ 2.8	12.4
貿易収支	億ドル	334	382	481	498	580
対日貿易収支	億ドル	▲ 243	▲ 218	▲ 193	▲ 211	▲ 212
鉱工業生産指数	前年比(%)	3.2	6.4	▲ 1.3	2.0	5.0
失業率	(%)	4.2	4.0	3.8	3.9	3.8
消費者物価指数	前年比(%)	0.8	1.2	▲ 0.3	1.4	0.6
直接投資受入額	億ドル	36	28	24	93	33 *
為替レート(1ドル)	台湾元	29.77	30.37	31.91	32.33	30.44
為替レート(1台湾元)	円	3.28	3.49	3.79	3.37	3.68

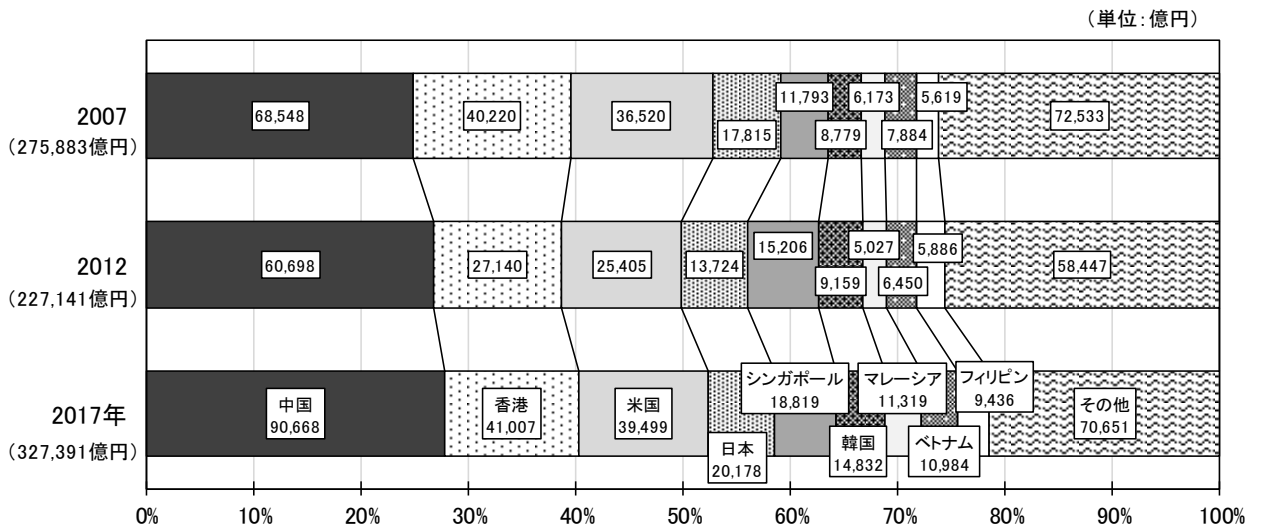
出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」(平成30年10月)、\*はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

図表 2-4-2 台湾の対外貿易額の推移

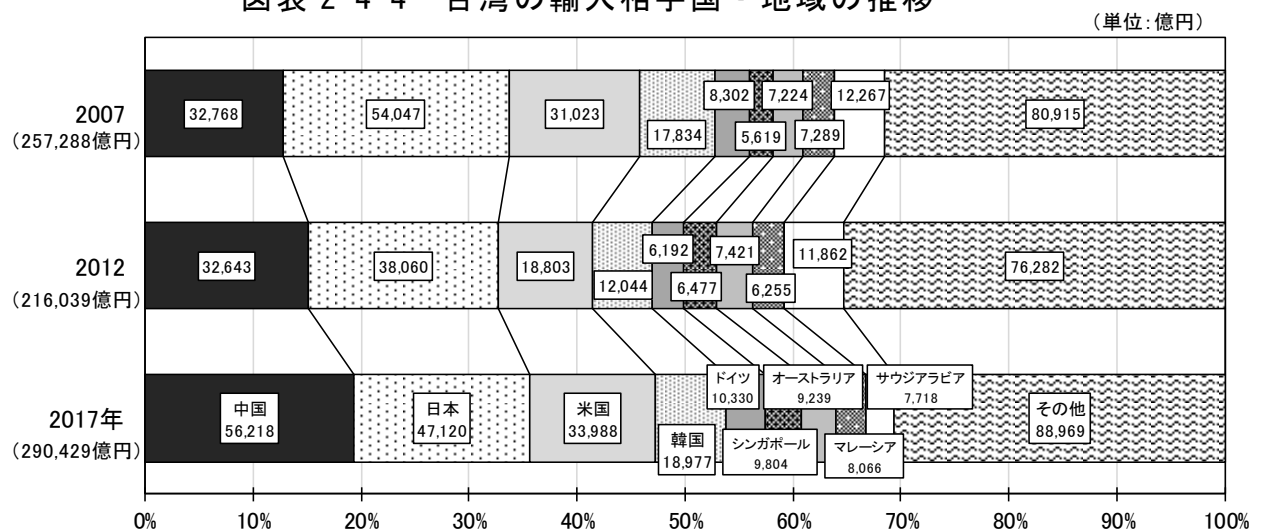


出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」（平成 30 年 10 月）より九州経済産業局作成。

図表 2-4-3 台湾の輸出相手国・地域の推移



図表 2-4-4 台湾の輸入相手国・地域の推移

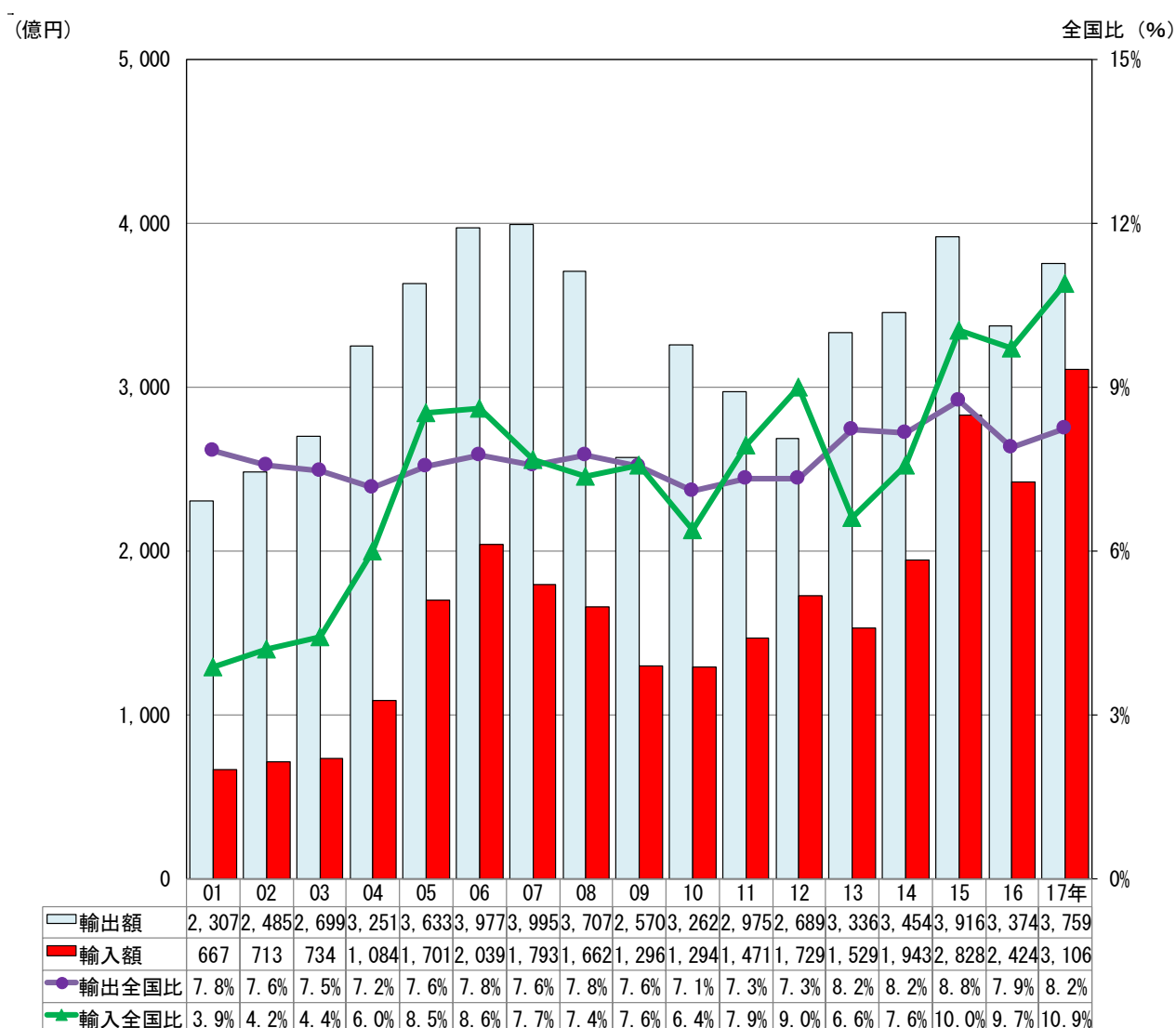


図表 2-4-3~4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

## 2. 九州と台湾の経済動向

- 2017年の九州の対台湾貿易額は、輸出が3,759億円（前年比11.4%増）で前年より増加した。一方、輸入も3,106億円（前年比28.1%増）で前年より増加した。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、半導体等電子部品、有機化合物であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、原動機（寄与度：+4.8%）、銅及び同合金（同+2.1%）等であった。一方、減少では、半導体等製造装置（同▲3.2%）、有機化合物（同▲0.9%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、半導体等電子部品、科学光学機器、非鉄卑金属くずであった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、半導体等電子部品（寄与度：+21.7%）、科学光学機器（同+0.9%）等であった。一方、減少では、有機化合物（同▲0.3%）、通信機（同▲0.2%）等であった。

図表 2-4-5 九州の対台湾貿易額の推移

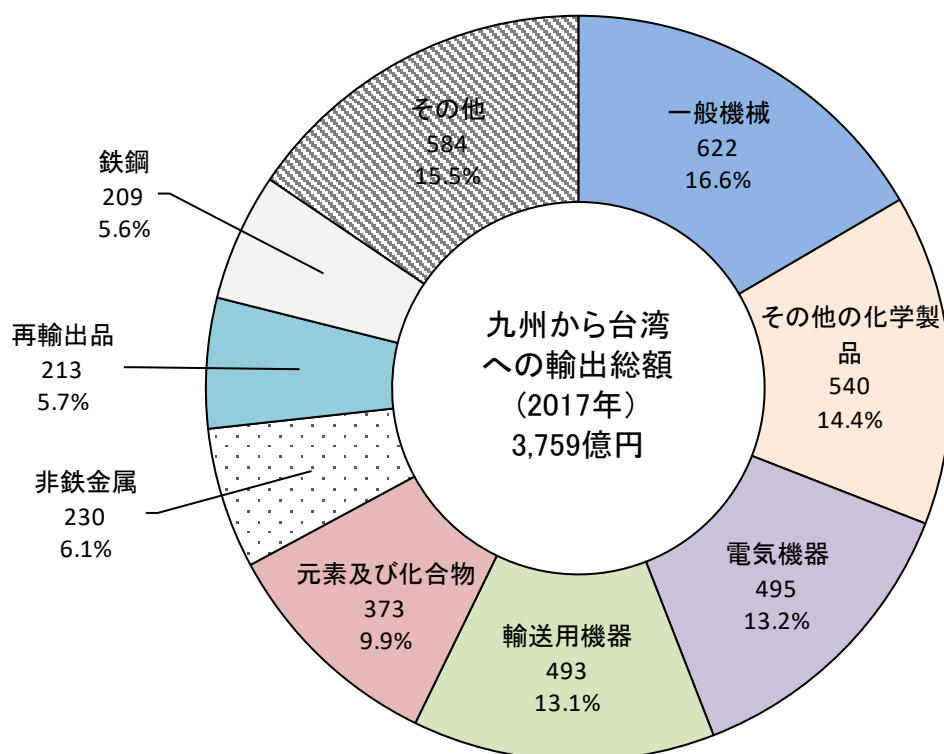


出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 2-4-6 九州から台湾への輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
自動車	輸送用機器	470	12.5%
半導体等電子部品	電気機器	388	10.3%
有機化合物	元素及び化合物	263	7.0%
半導体等製造装置	一般機械	220	5.9%
銅及び同合金	非鉄金属	190	5.1%
原動機	一般機械	160	4.3%
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	138	3.7%
科学光学機器	精密機器類	109	2.9%
無機化合物	元素及び化合物	97	2.6%
ポンプ及び遠心分離機	一般機械	83	2.2%
その他		1,639	43.6%
総 額		3,759	100.0%

寄与度 (増加分)：原動機 (+4.8%)、銅及び同合金 (+2.1%) 等

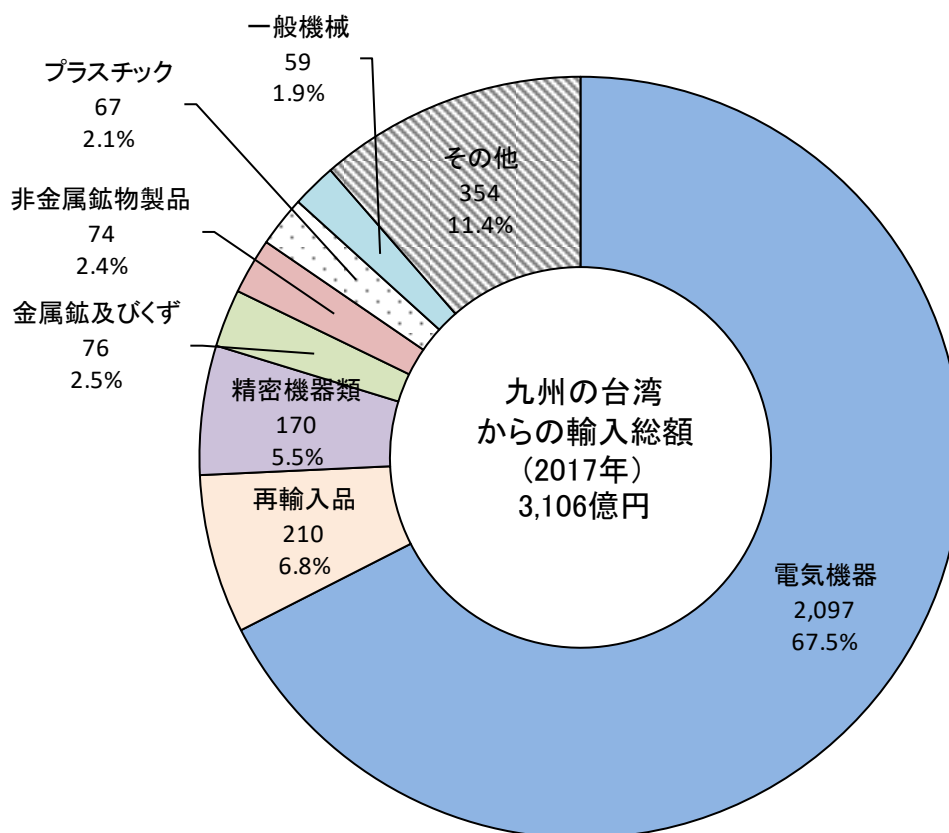
寄与度 (減少分)：半導体等製造装置 (▲3.2%)、有機化合物 (▲0.9%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-4-7 九州の台湾からの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
半導体等電子部品	電気機器	2,025	65.2%
科学光学機器	精密機器類	170	5.5%
非鉄卑金属くず	金属鉱及びびくず	60	1.9%
有機化合物	元素及び化合物	41	1.3%
音響・映像機器(含部品)	電気機器	25	0.8%
プラスチック製品	その他の雑製品	21	0.7%
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	20	0.7%
重電機器	電気機器	18	0.6%
アルミニウム及び同合金	非鉄金属	17	0.5%
合成ゴム	生ゴム	13	0.4%
その他		696	22.4%
総 額		3,106	100%

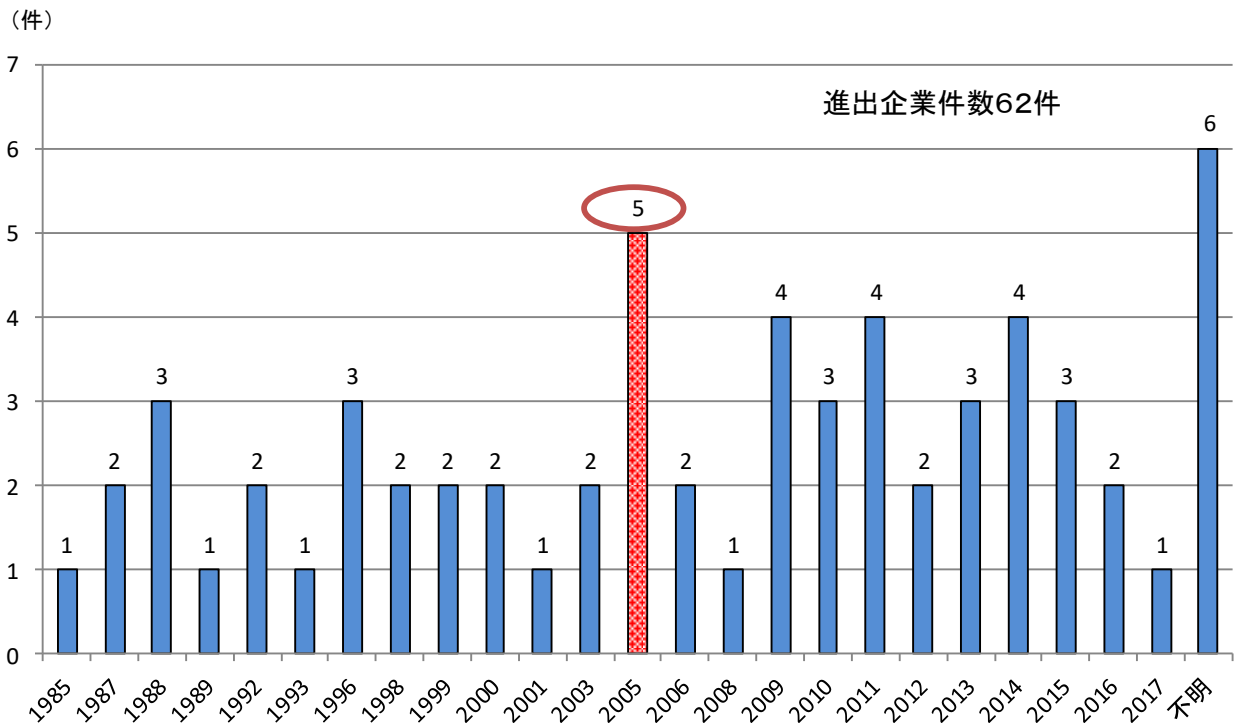
寄与度 (増加分)：半導体等電子部品 (+21.7%)、科学光学機器 (+0.9%) 等

寄与度 (減少分)：有機化合物 (▲0.3%)、通信機 (▲0.2%) 等

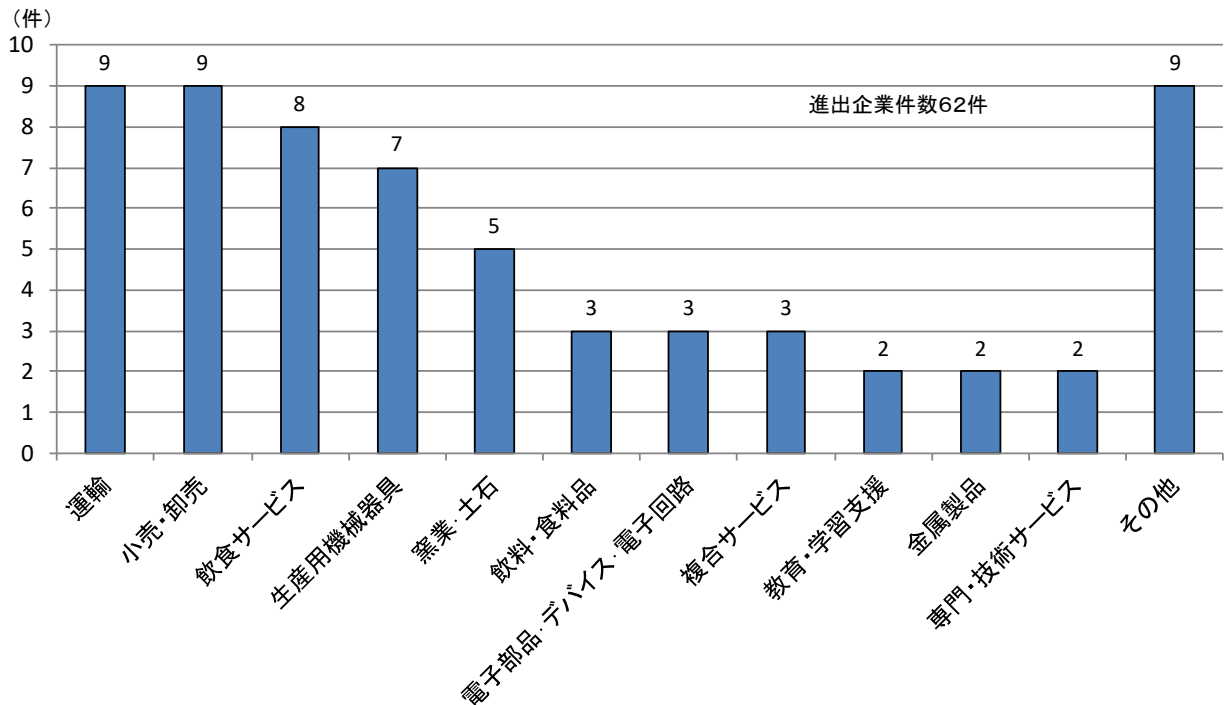
出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。



図表 2-4-8 九州企業の台湾への進出件数の推移



図表 2-4-9 台湾に進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-4-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

## 第5章 九州と香港の経済関係

### 1. 香港の経済概況

国・地域名	香港
面積	1,106km <sup>2</sup> (東京都の約半分)
人口	約734万人(2016年)
人種	中国系(約91%)
言語	広東語、英語、中国語(マンダリン)ほか
宗教	仏教、道教、プロテスタント、カトリック、イスラム教、ヒンドゥー教、シーク教、ユダヤ教
政体	中華人民共和国香港特別行政区(Hong Kong Special Administrative Region: SAR)
主要産業	金融業、不動産業、観光業、貿易業

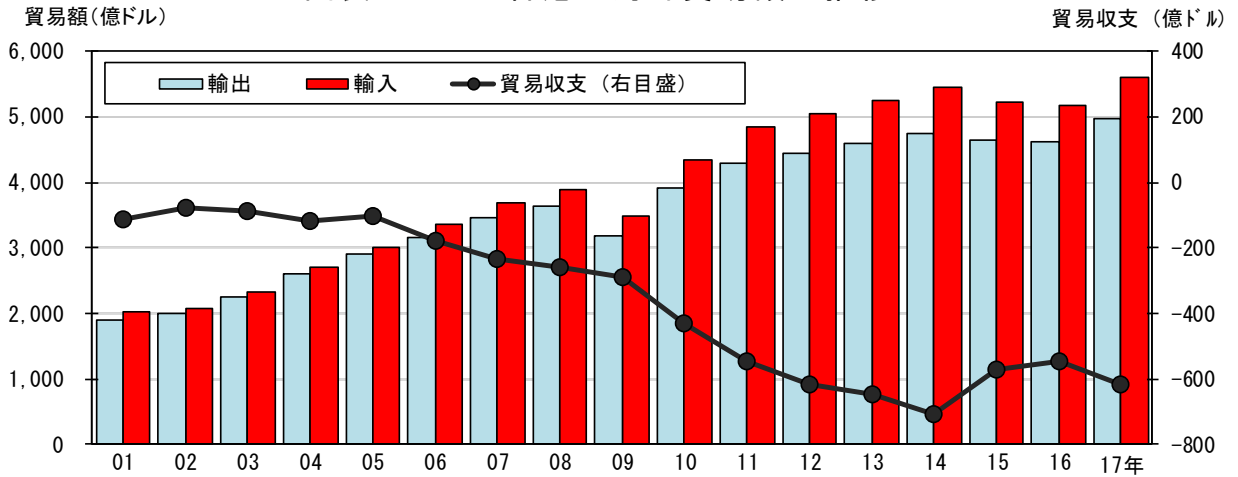
出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

図表 2-5-1 香港のマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	3.1	2.8	2.4	2.2	3.8
名目GDP総額	十億ドル	276	291	309	321	341
一人当たりGDP(名目)	ドル	38,230	40,182	42,322	43,499	46,080
輸出額	億ドル	4,593	4,740	4,655	4,626	4,976
	前年比(%)	3.6	3.2	▲ 1.8	▲ 0.6	7.6
輸入額	億ドル	5,241	5,449	5,226	5,170	5,595
	前年比(%)	3.8	4.0	▲ 4.1	▲ 1.1	8.2
貿易収支	億ドル	▲ 648	▲ 709	▲ 571	▲ 544	▲ 619
対日貿易収支	億ドル	▲ 195	▲ 203	▲ 202	▲ 185	▲ 192 *
製造業生産指数	前年比(%)	0.1	▲ 0.4	▲ 1.5	▲ 0.4	0.5
失業率	(%)	3.4	3.3	3.3	3.4	3.1
消費者物価指数	前年比(%)	4.3	4.4	3.0	2.4	1.5
直接投資受入額	億ドル	769	1,298	1,810	1,333	1,224 *
為替レート(1ドル)	香港ドル	7.76	7.75	7.75	7.76	7.79
為替レート(1香港ドル)	円	12.58	13.66	15.62	14.02	14.39

出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」(平成30年10月)、\*1はジェットロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

図表 2-5-2 香港の対外貿易額の推移



出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」（平成 30 年 10 月）より九州経済産業局作成。

図表 2-5-3 香港の輸出相手国・地域の推移

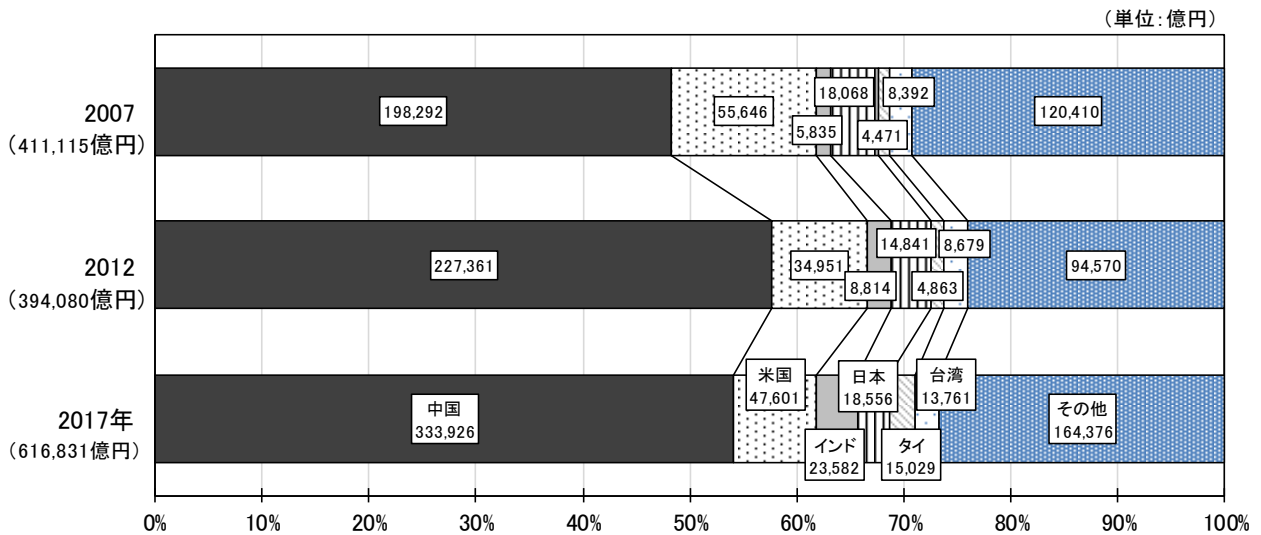
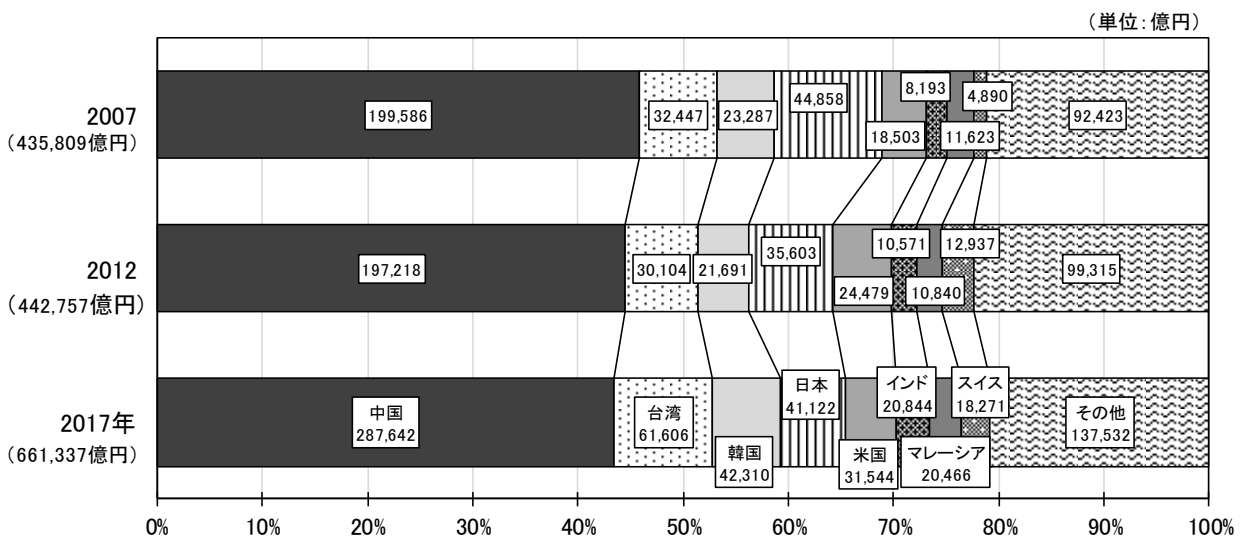


表 2-5-4 香港の輸入相手国・地域の推移

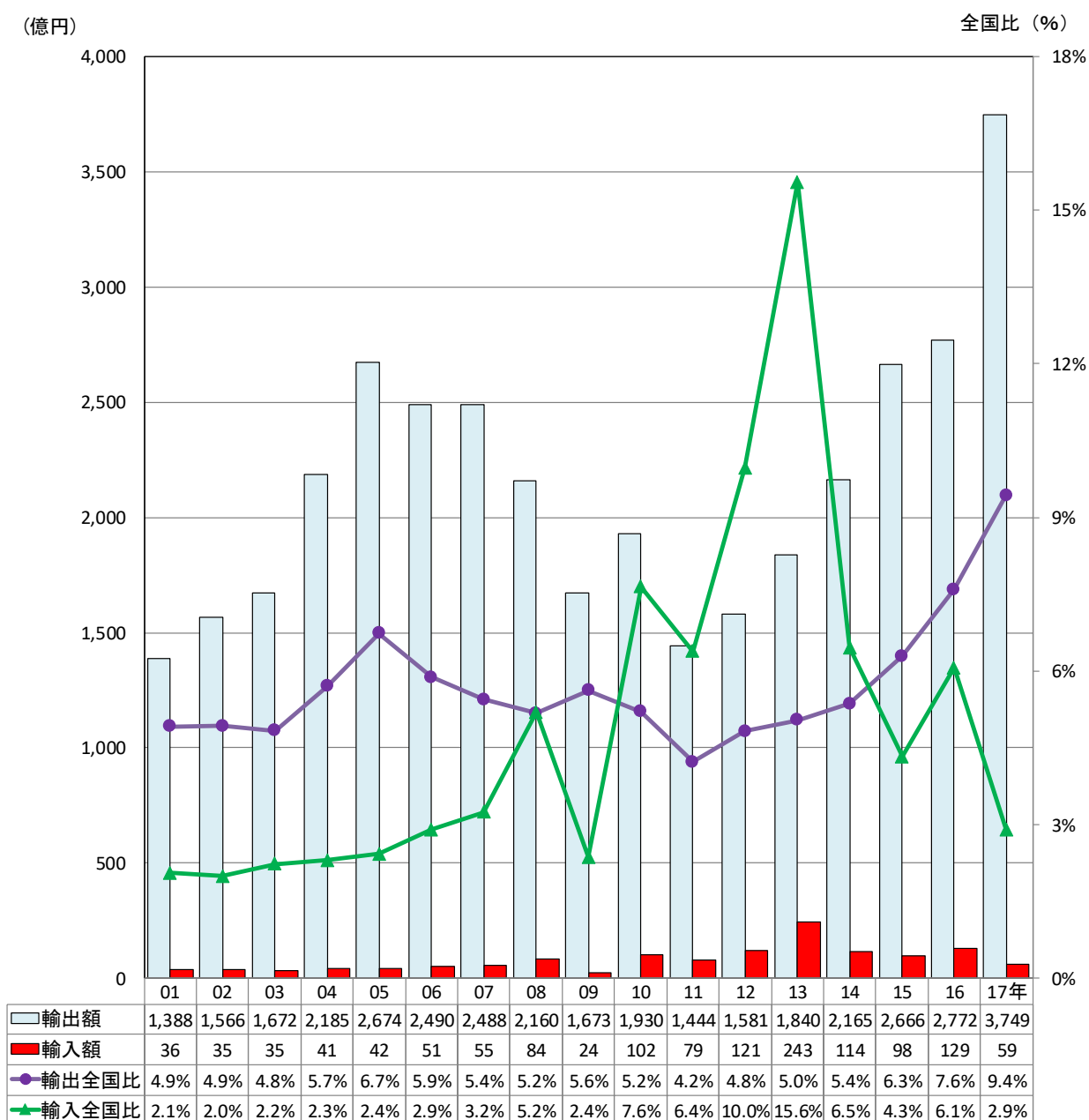


図表 2-5-3～4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

## 2. 九州と香港の経済動向

- 2017年の九州の対香港貿易額は、輸出が3,749億円（前年比35.3%増）で前年より増加し、6年連続の増加となった。一方、輸入は59億円（前年比53.8%減）で前年の半分以下に大きく減少した。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、半導体等電子部品、船舶類、電気回路等の機器であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、半導体等電子部品（寄与度：+29.1%）、船舶類（同+5.1%）等であった。一方、減少では、映像機器（同▲1.6%）、半導体等製造装置（同▲0.6%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、魚介類、鉄鋼くず、非鉄卑金属くずであった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、鉄鋼くず（寄与度：+6.7%）、半導体等電子部品（同+0.8%）等であった。一方、減少では、魚介類（同▲62.8%）、非鉄卑金属くず（同▲1.7%）等であった。

図表 2-5-5 九州の対香港貿易額の推移

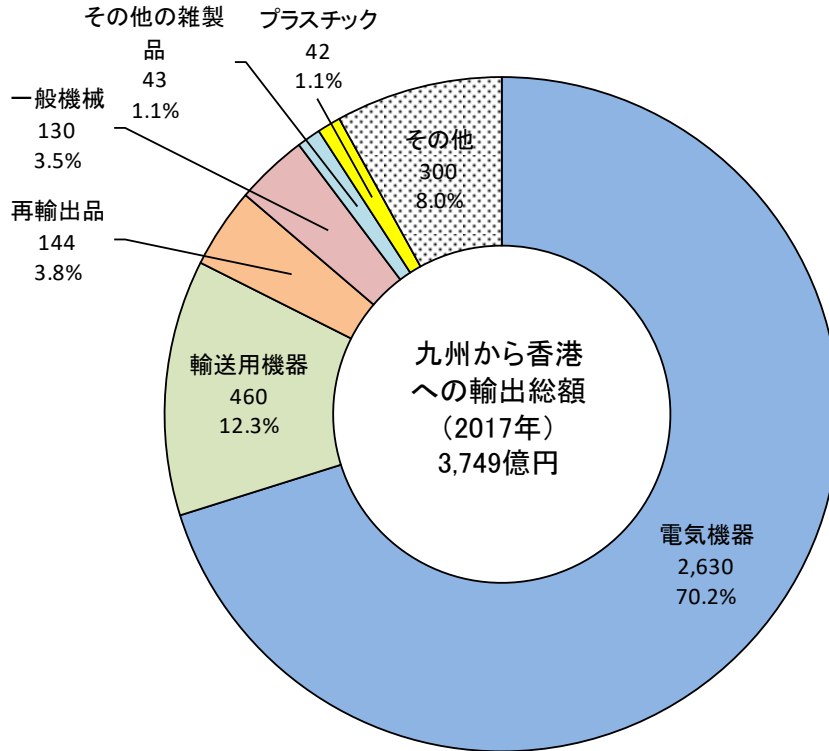


出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 2-5-6 九州から香港への輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
半導体等電子部品	電気機器	2,435	64.9%
船舶類	輸送用機器	423	11.3%
電気回路等の機器	電気機器	131	3.5%
建設用・鉱山用機械	一般機械	67	1.8%
自動車	輸送用機器	35	0.9%
ゴムタイヤ及びチューブ	ゴム製品	27	0.7%
化粧品	精油・香料及び化粧品類	25	0.7%
貴石等の製品類	その他の雑製品	23	0.6%
映像機器	電気機器	22	0.6%
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	22	0.6%
その他		539	14.4%
総 額		3,749	100.0%

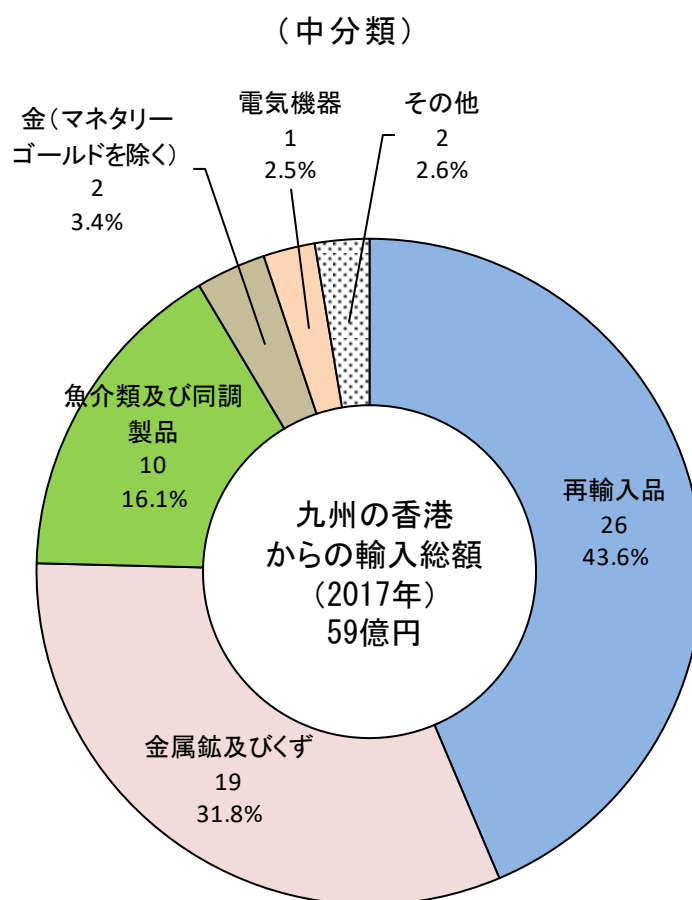
寄与度（増加分）：半導体等電子部品（+29.1%）、船舶類（+5.1%）等

寄与度（減少分）：映像機器（▲1.6%）、半導体等製造装置（▲0.6%）等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-5-7 九州の香港からの輸入品目

(単位：億円、%)



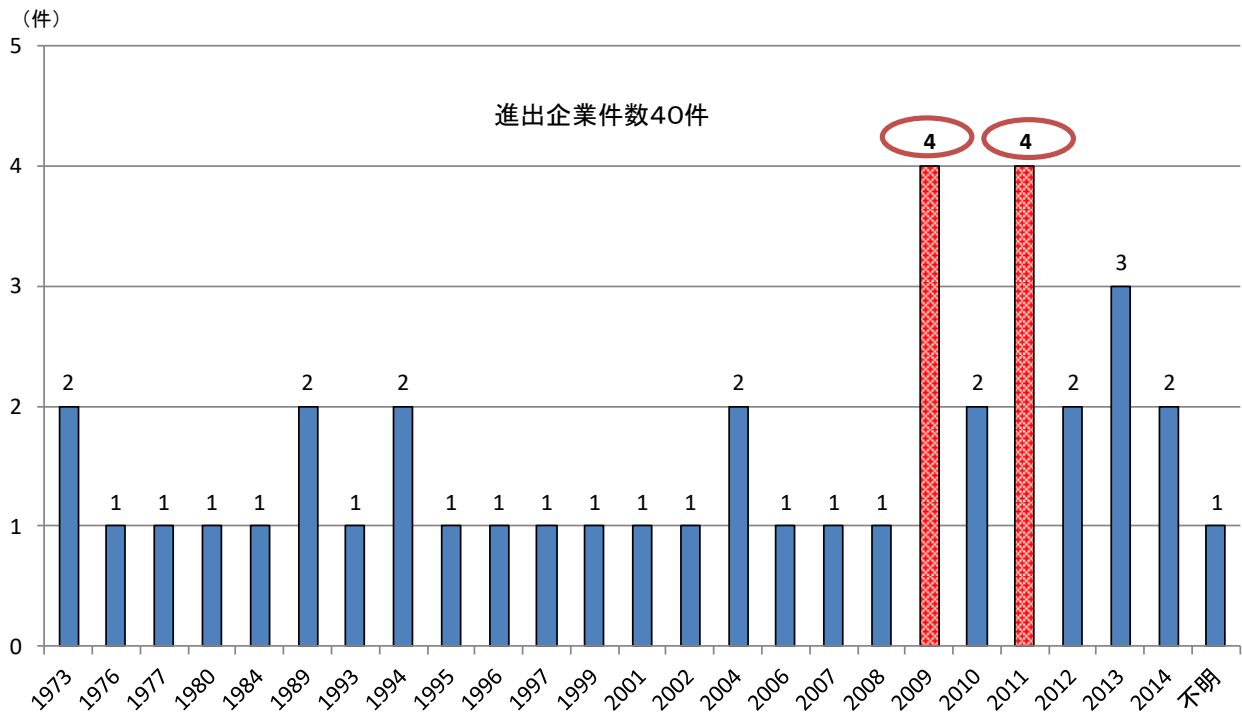
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
魚介類	魚介類及び同調製品	10	16.1%
鉄鋼くず	金属鉱及びびくず	9	14.5%
非鉄卑金属くず	金属鉱及びびくず	5	8.8%
半導体等電子部品	電気機器	1.0	1.7%
半導体等製造装置	一般機械	0.4	0.7%
ポンプ及び遠心分離機	一般機械	0.3	0.5%
絶縁電線及び絶縁ケーブル	電気機器	0.2	0.3%
プラスチック製品	その他の雑製品	0.1	0.2%
通信機	電気機器	0.1	0.2%
貴石及び半貴石	非金属鉱物製品	0.1	0.1%
その他		33.9	57.0%
総 額		59	100.0%

寄与度 (増加分)：鉄鋼くず (+6.7%)、半導体等電子部品 (+0.8) 等

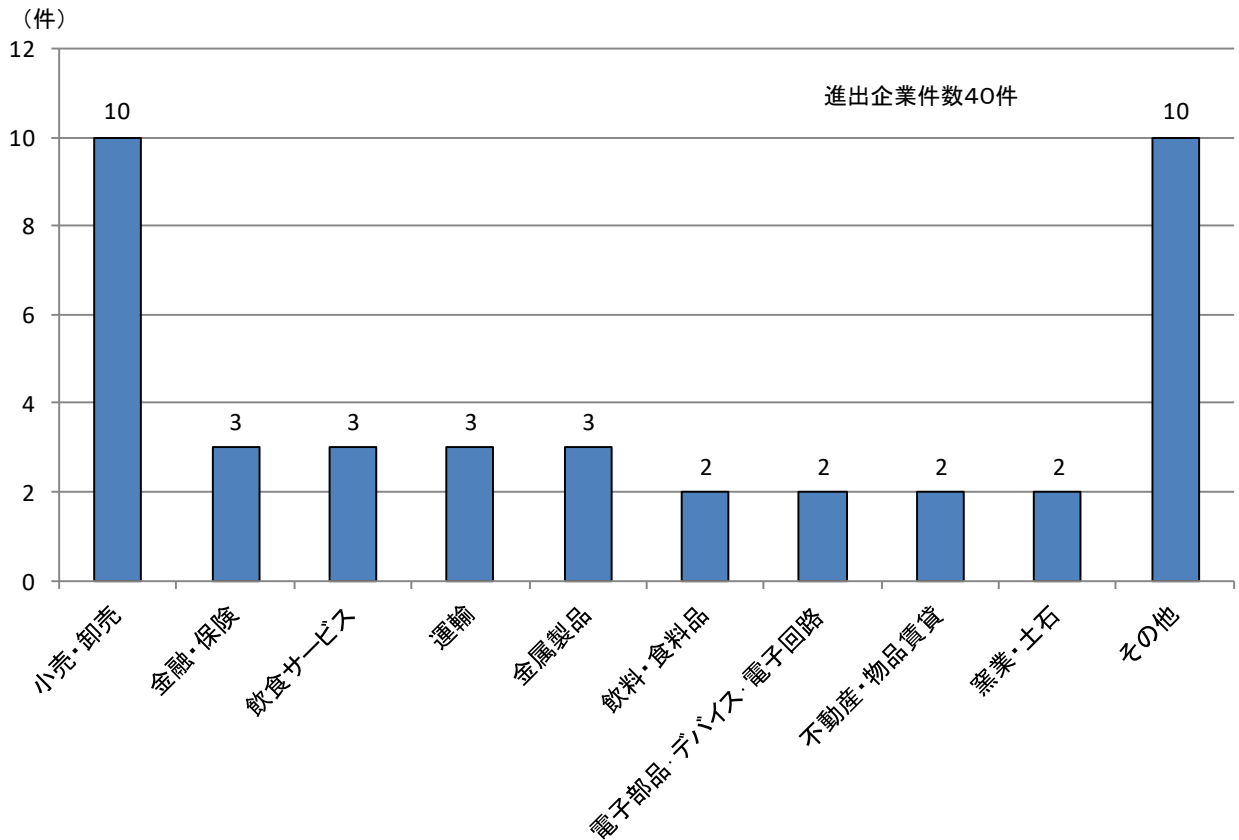
寄与度 (減少分)：魚介類 (▲62.8%)、非鉄卑金属くず (▲1.7%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-5-8 九州企業の香港への進出件数の推移



図表 2-5-9 香港に進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-5-8~9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

## 第6章 九州とASEANの経済関係

### 1. ASEANの経済概況

名 称	東南アジア諸国連合 (Association of Southeast Asian Nations)
設 立	1967年8月8日(於:バンコク)
事 務 局	ジャカルタ 事務総長:リム・ジョクホイ(2018年~)
加 盟 国	10ヶ国(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ブルネイ、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア)

出所: 日本 ASEAN センター「ASEAN 情報マップ」より九州経済産業局作成。

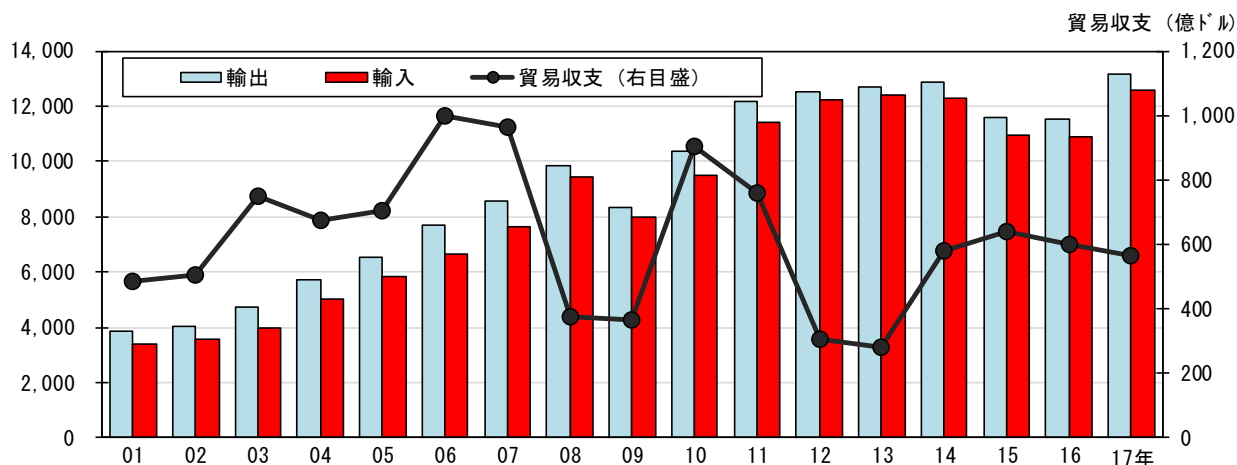
図表 2-6-1 世界の地域経済圏との比較 (2017年)

	加盟国	人口 (万人)	GDP (億米ドル)	GDP/人 (米ドル)	貿易額 (億米ドル)
東南アジア諸国連合 (ASEAN)	10か国	64,748	27,472	4,243	25,728
欧州連合 (EU)	28か国	51,115	172,848	33,815	117,049
北米自由貿易協定 (NAFTA)	3か国	49,401	223,019	45,144	56,596
南米共同市場 (MERCOSUR)	6か国	29,580	33,571	11,349	5,794

備考: NAFTA 加盟国 (アメリカ、カナダ、メキシコ)、MERCOSUR 加盟国 (アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ベネズエラ)

出所: UNCTADstat より九州経済産業局作成。

図表 2-6-2 ASEANの対外貿易額の推移



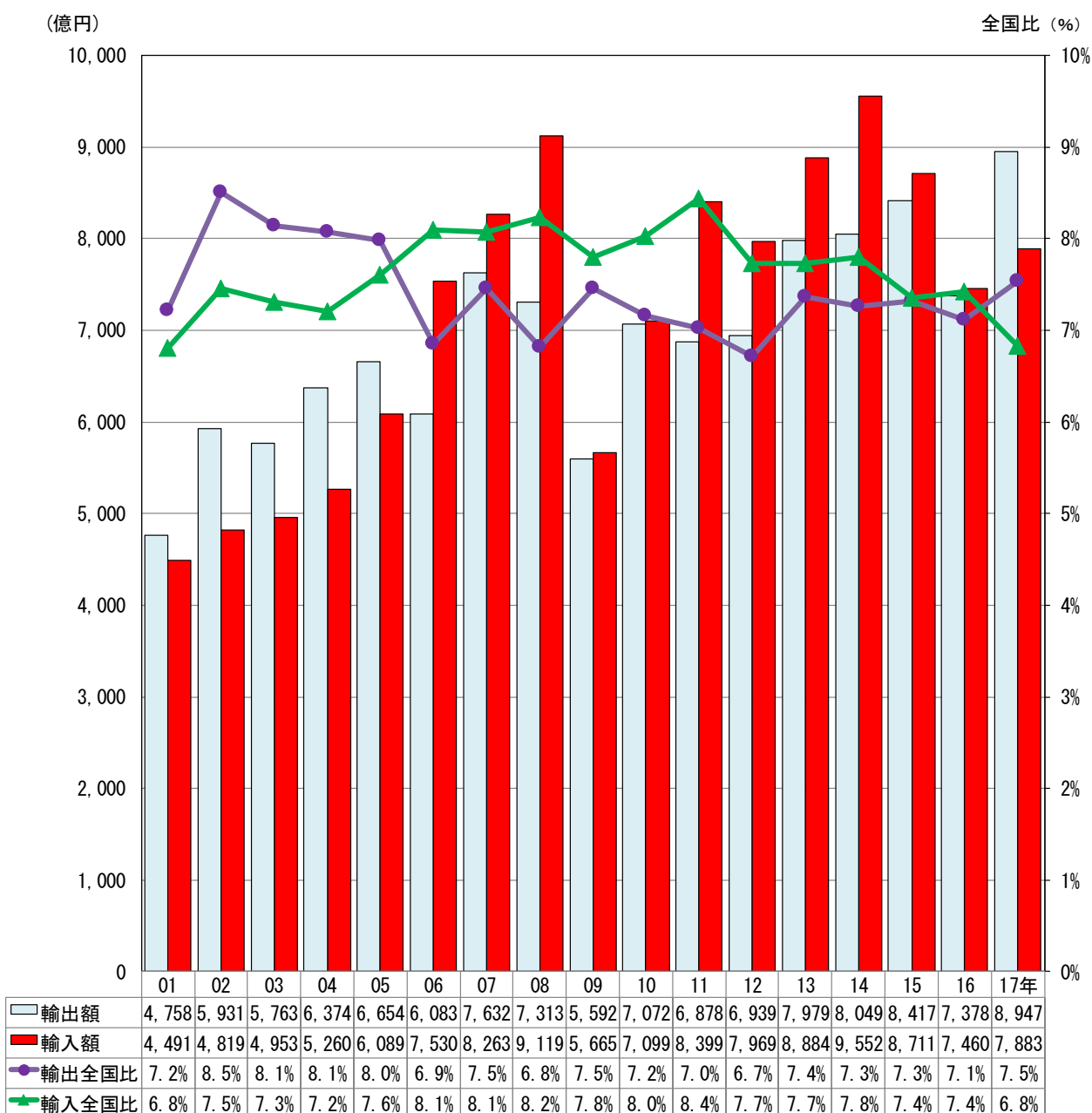
出所: ジェトロ「ASEAN10ヶ国貿易統計」、UNCTADstat より九州経済産業局作成。



## 2. 九州と ASEAN の経済動向

- 2017年の九州の対 ASEAN 貿易額は、輸出が 8,947 億円（前年比 21.3%増）で前年より増加した。一方、輸入も 7,883 億円（前年比 5.7%増）で前年より増加し、3年ぶりに増加へ転じた。
- 輸出は、シンガポール向け 2,123 億円（前年比 17.9%増）、タイ向け 2,077 億円（同 26.8%増）等で増加し、2ヶ国（ミャンマー、ブルネイ）向けは減少した。一方、輸入は、インドネシアから 2,543 億円（同 1.7%減）、タイから 1,692 億円（同 11.2%増）等で増加し、3ヶ国（シンガポール、フィリピン、インドネシア）からは減少した。
- 輸出品目は、輸出額が大きい順に、半導体等電子部品、鉄鋼のフラットロール製品、船舶類であった。一方、輸入品目は、輸入額が大きい順に、石油ガス類、絶縁電線及び絶縁ケーブル、天然ゴムであった。

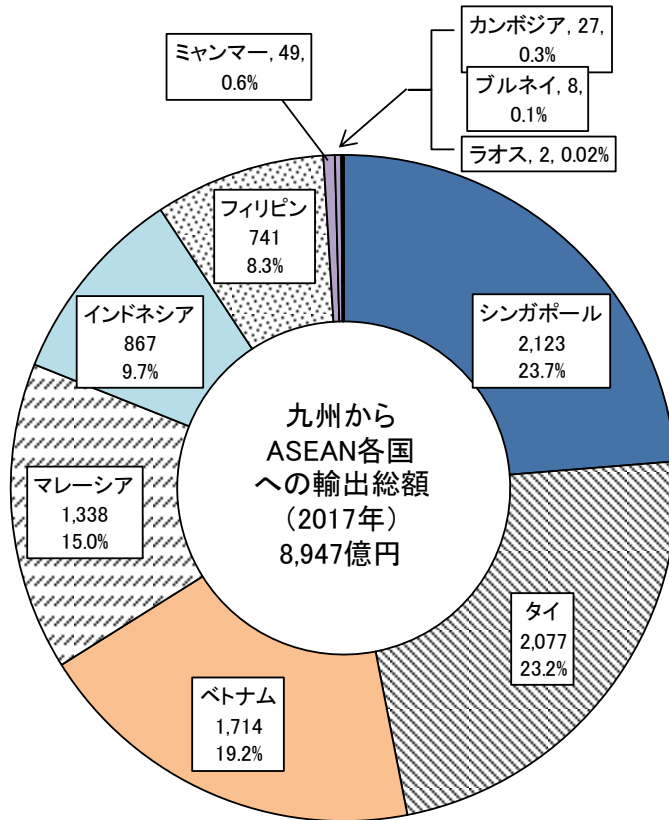
図表 2-6-3 九州の対 ASEAN 貿易額の推移



出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより、九州経済産業局作成。

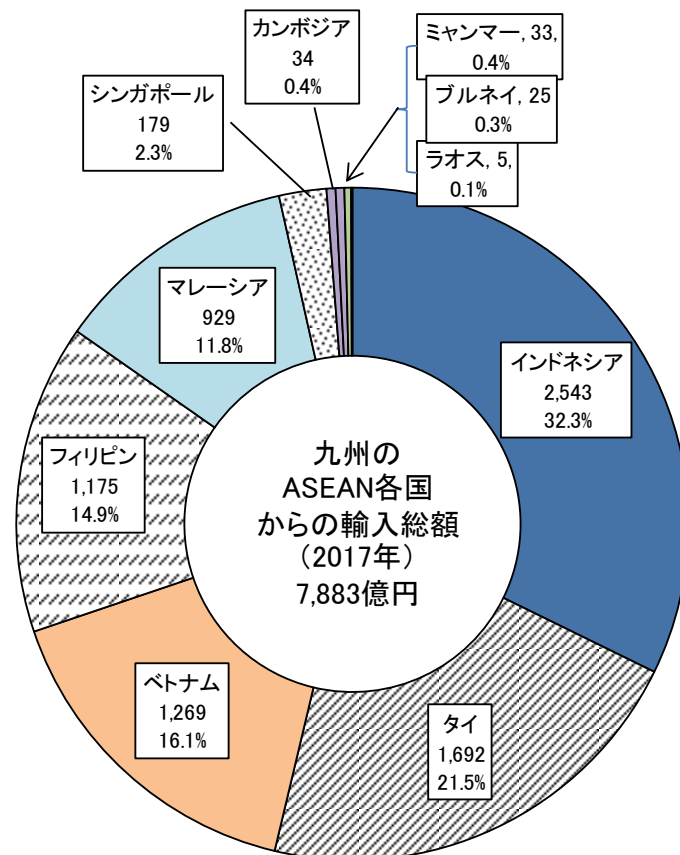
図表 2-6-4 九州から ASEAN への国別輸出額

(単位：億円、%)



図表 2-6-5 九州の ASEAN からの国別輸入額

(単位：億円、%)



図表 2-6-4~5 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-6-6 全国の ASEAN 域内における国別輸出入動向（2017 年）

（単位：億円、％）

国名	輸出				輸入			
	金額	構成比	伸び率	寄与度	金額	構成比	伸び率	寄与度
ベトナム	16,881	14.2%	19.7%	2.7%	20,791	18.0%	17.7%	3.1%
タイ	33,004	27.8%	11.0%	3.1%	25,502	22.1%	16.5%	3.6%
シンガポール	25,406	21.4%	17.9%	3.7%	9,565	8.3%	17.9%	1.4%
マレーシア	14,313	12.1%	8.6%	1.1%	21,619	18.7%	15.1%	2.8%
ブルネイ	95	0.1%	5.0%	0.0%	1,927	1.7%	4.2%	0.1%
フィリピン	12,480	10.5%	11.1%	1.2%	10,961	9.5%	11.5%	1.1%
インドネシア	15,022	12.7%	22.1%	2.6%	22,307	19.3%	12.2%	2.4%
カンボジア	402	0.3%	20.6%	0.1%	1,416	1.2%	8.1%	0.1%
ラオス	130	0.1%	3.3%	0.0%	168	0.1%	33.6%	0.0%
ミャンマー	988	0.8%	▲12.2%	▲0.1%	1,196	1.0%	17.5%	0.2%
ASEAN 計	118,720	100.0%	14.4%	14.4%	115,452	100.0%	14.9%	14.9%

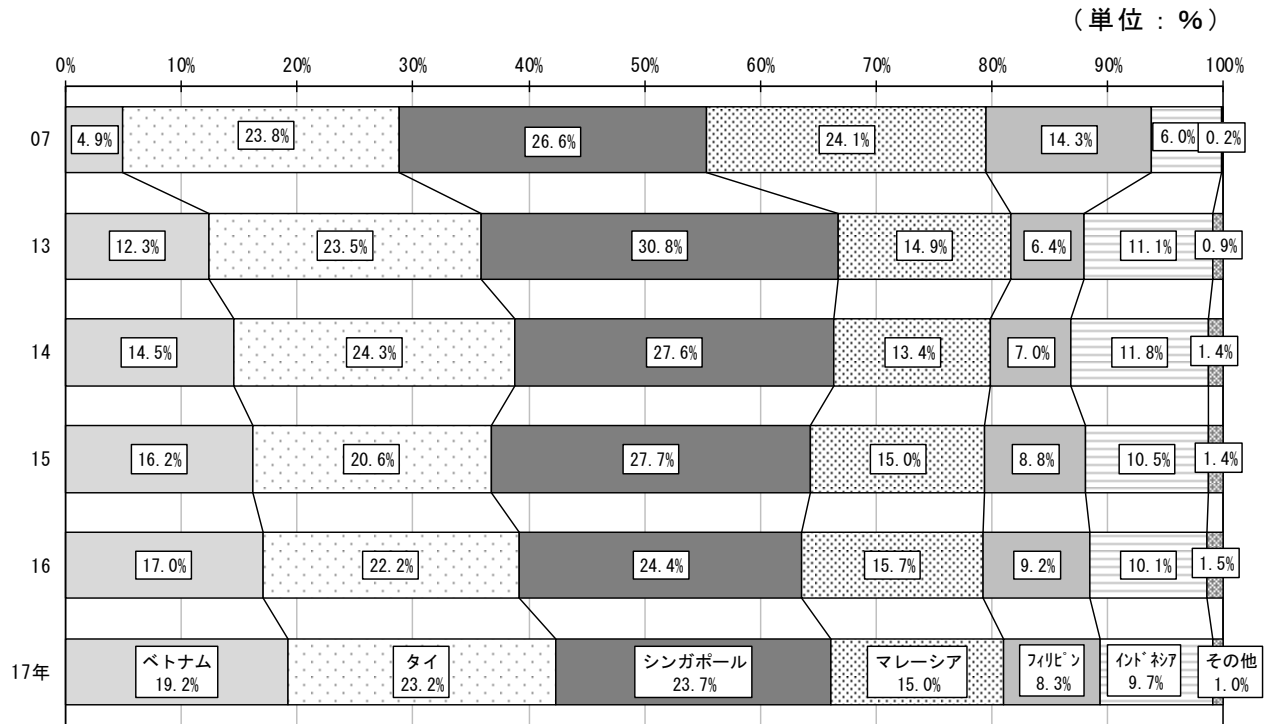
図表 2-6-7 九州の ASEAN 域内における国別輸出入動向（2017 年）

（単位：億円、％）

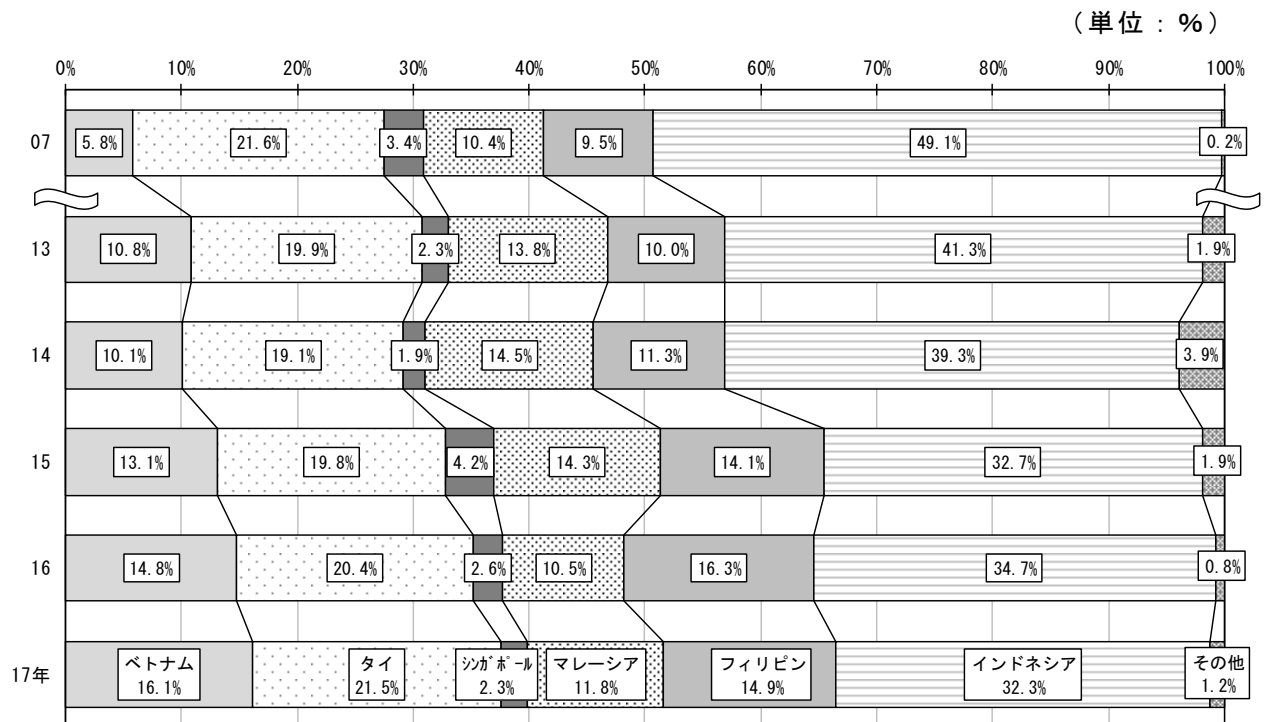
国名	輸出					輸入				
	金額	構成比	伸び率	寄与度	全国比	金額	構成比	伸び率	寄与度	全国比
ベトナム	1,714	19.2%	36.7%	6.2%	10.2%	1,269	16.1%	15.3%	2.3%	6.1%
タイ	2,077	23.2%	26.8%	6.0%	6.3%	1,692	21.5%	11.2%	2.3%	6.6%
シンガポール	2,123	23.7%	17.9%	4.4%	8.4%	179	2.3%	▲6.5%	▲0.2%	1.9%
マレーシア	1,338	15.0%	15.8%	2.5%	9.4%	929	11.8%	18.7%	2.0%	4.3%
ブルネイ	8	0.1%	▲14.3%	▲0.02%	8.8%	25.3	0.3%	18078.0%	0.3%	1.31%
フィリピン	741	8.3%	9.3%	0.9%	5.9%	1,175	14.9%	▲3.5%	▲0.6%	10.7%
インドネシア	867	9.7%	16.3%	1.6%	5.8%	2,543	32.3%	▲1.7%	▲0.6%	11.4%
カンボジア	27	0.3%	3.3%	0.0%	6.8%	34	0.4%	19.2%	0.1%	2.4%
ラオス	2	0.0%	1.8%	0.0%	1.6%	5	0.1%	42.5%	0.0%	2.9%
ミャンマー	49	0.6%	▲28.1%	▲0.3%	5.0%	33	0.4%	23.4%	0.1%	2.8%
ASEAN 計	8,947	100.0%	21.3%	21.3%	7.5%	7,883	100.0%	5.7%	5.7%	6.8%

図表 2-6-6～7 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-6-8 ASEAN 域内における九州の輸出相手国の推移



図表 2-6-9 ASEAN 域内における九州の輸入相手国の推移

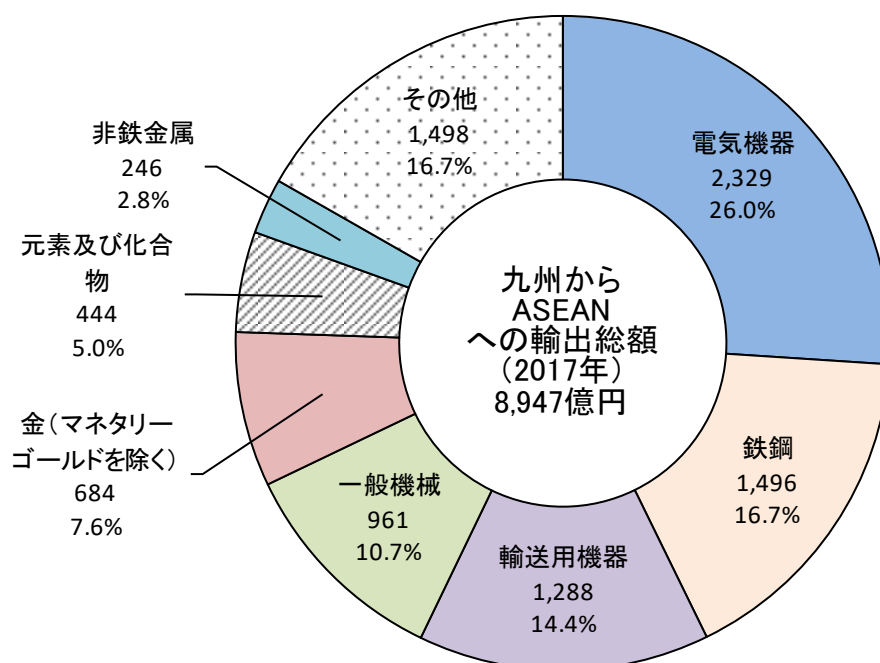


図表 2-6-8～9 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-6-10 九州から ASEAN への輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
半導体等電子部品	電気機器	1,751	19.6%
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	1,212	13.5%
船舶類	輸送用機器	687	7.7%
金(マネタリーゴールドを除く)	金(マネタリーゴールドを除く)	684	7.6%
自動車	輸送用機器	466	5.2%
有機化合物	元素及び化合物	356	4.0%
事務用機器	一般機械	268	3.0%
鉄鋼の棒・形鋼及び線	鉄鋼	254	2.8%
ゴムタイヤ及びチューブ	ゴム製品	189	2.1%
映像機器	電気機器	175	2.0%
その他		2,903	32.4%
総 額		8,947	100.0%

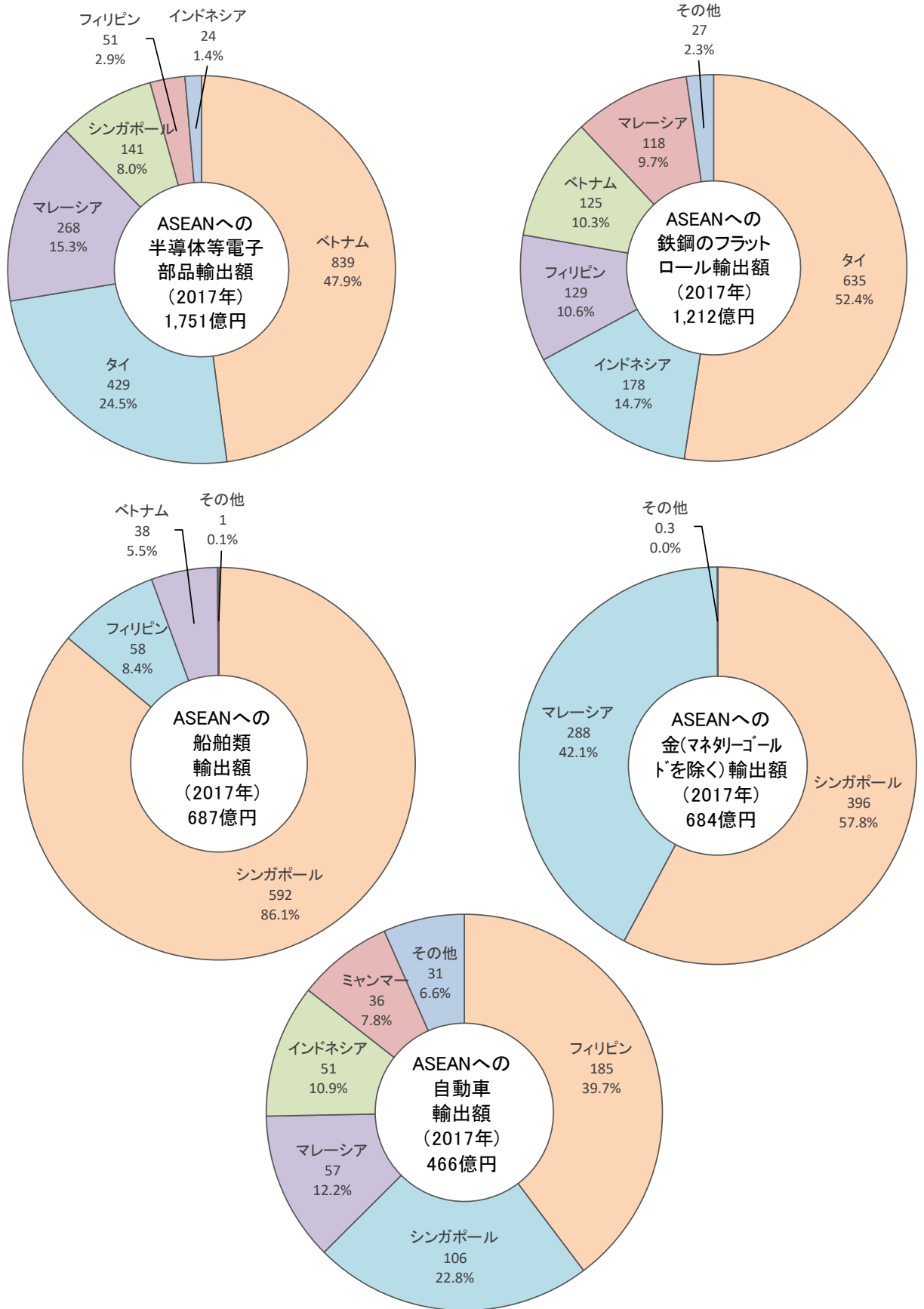
寄与度 (増加分) : 半導体等電子部品 (+5.9%)、鉄鋼のフラットロール製品 (+3.8%) 等

寄与度 (減少分) : 自動車の部分品 (▲0.6%)、加熱用・冷却用機器 (▲0.3%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-6-11 九州から ASEAN への主要輸出品目に係る輸出相手国

(単位：億円、%)

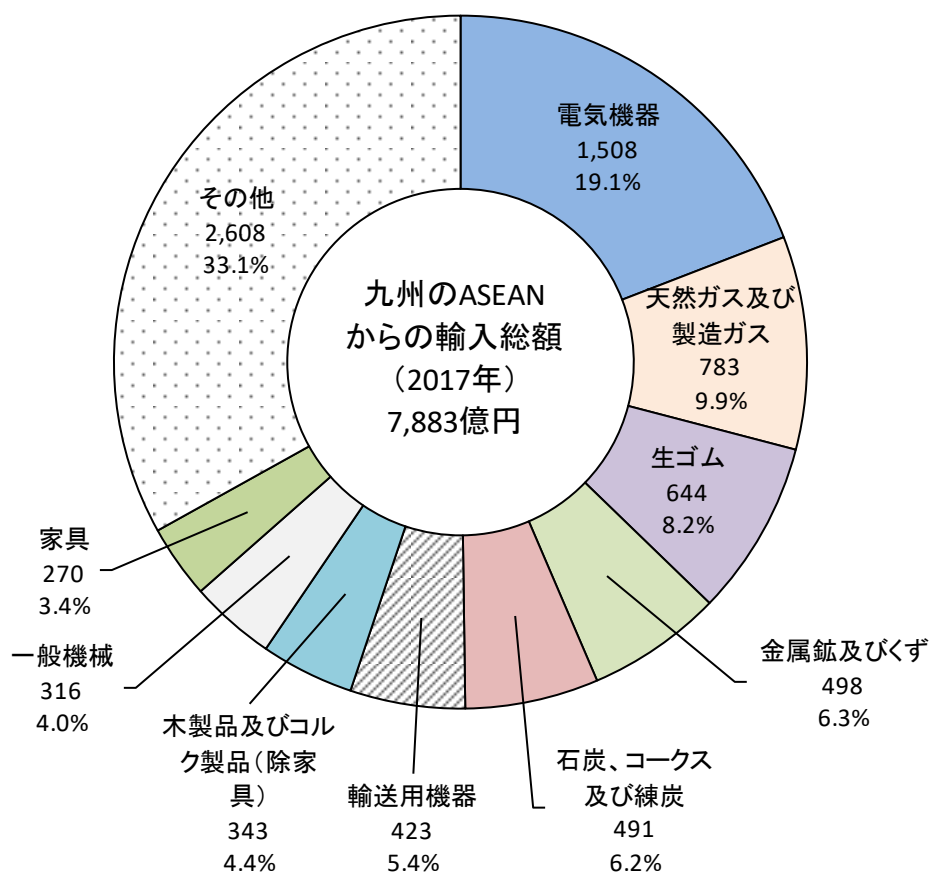


出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

表 2-6-12 九州の ASEAN からの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
石油ガス類	天然ガス及び製造ガス	783	9.9%
絶縁電線及び絶縁ケーブル	電気機器	779	9.9%
天然ゴム	生ゴム	618	7.8%
石炭	石炭、コークス及び練炭	491	6.2%
自動車の部分品	輸送用機器	381	4.8%
非鉄金属鉱	金属鉱及びびくず	370	4.7%
音響・映像機器(含部品)	電気機器	210	2.7%
原油及び粗油	石油及び同製品	163	2.1%
魚介類	魚介類及び同調製品	149	1.9%
半導体等電子部品	電気機器	139	1.8%
その他		3,800	48.2%
総額		7,883	100%

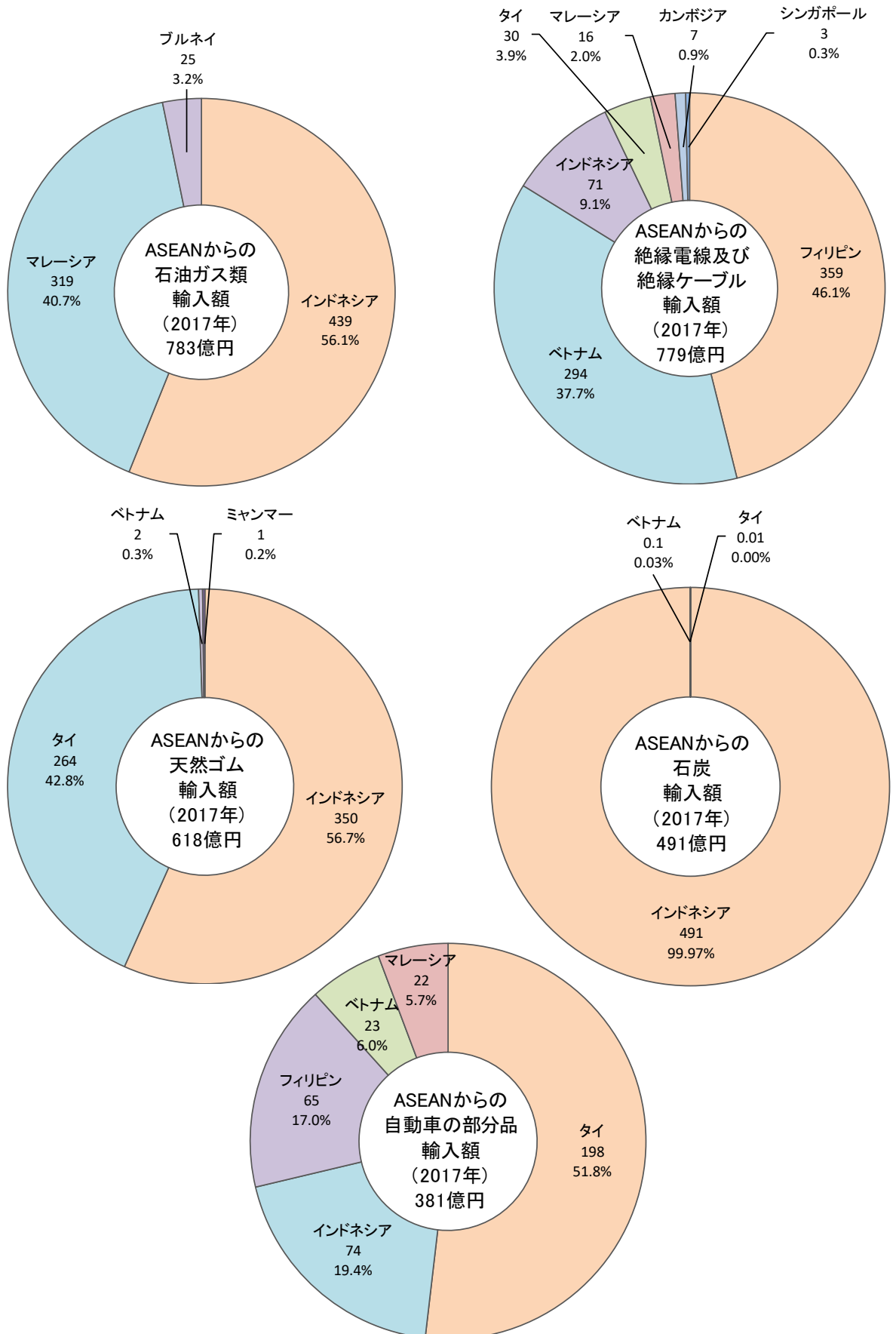
寄与度 (増加分)：天然ゴム (+2.8%)、絶縁電線及び絶縁ケーブル (+1.2%) 等

寄与度 (減少分)：非鉄金属鉱(銅鉱等) (▲3.9%)、石油ガス類 (▲2.2%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-6-13 九州の ASEAN からの主要輸入品目に係る輸入相手国

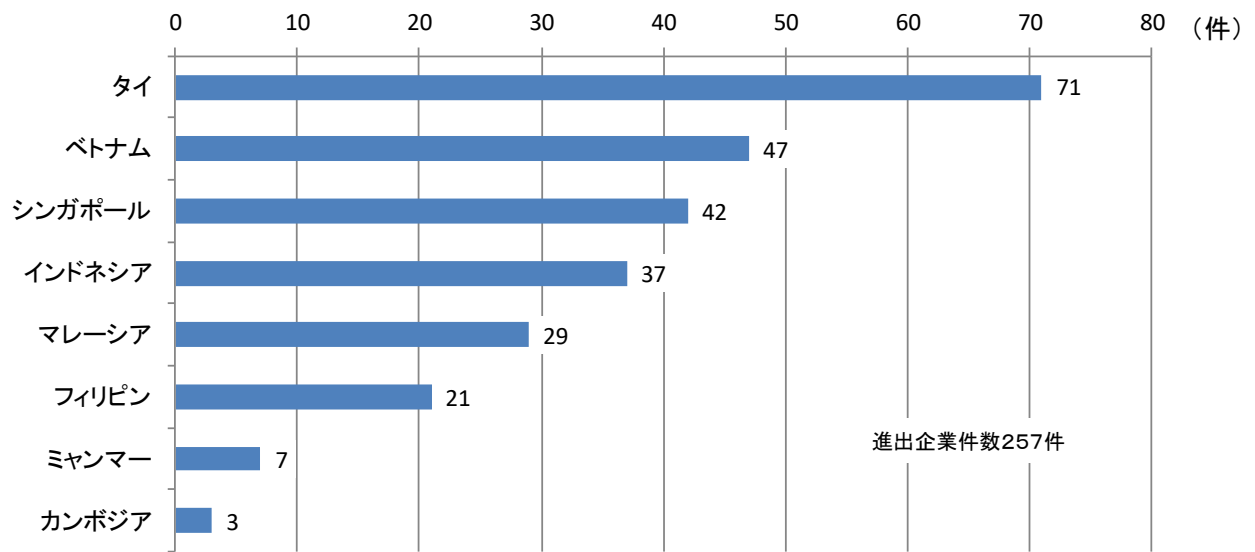
(単位：億円、%)



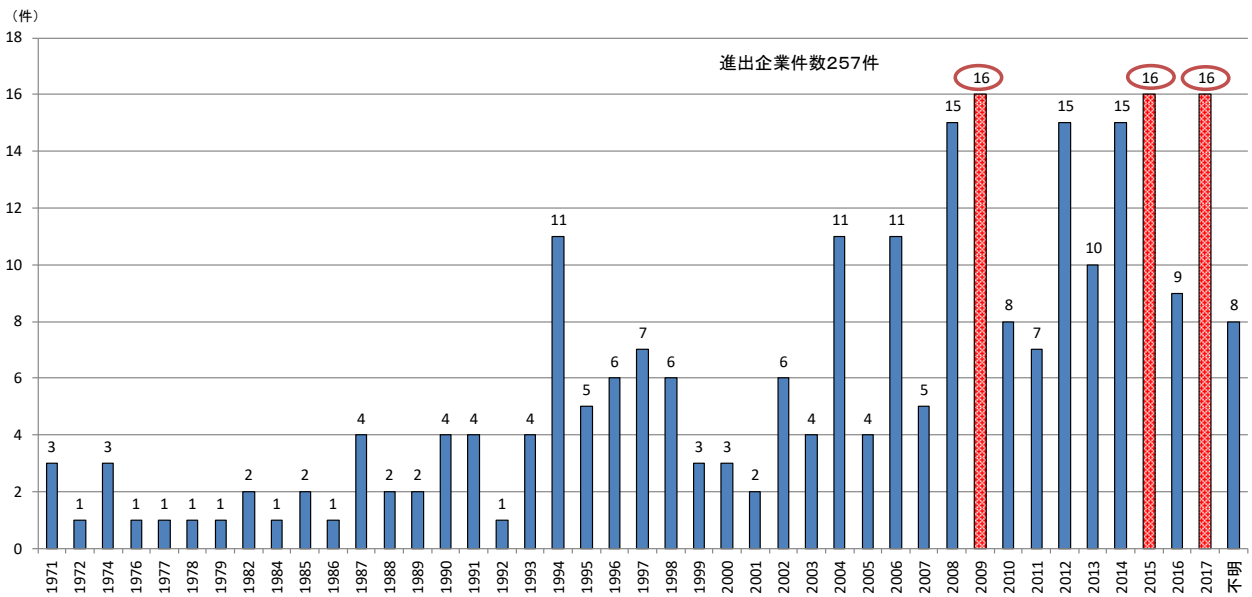
出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。



図表 2-6-14 九州企業の ASEAN 各国への進出件数（国別）

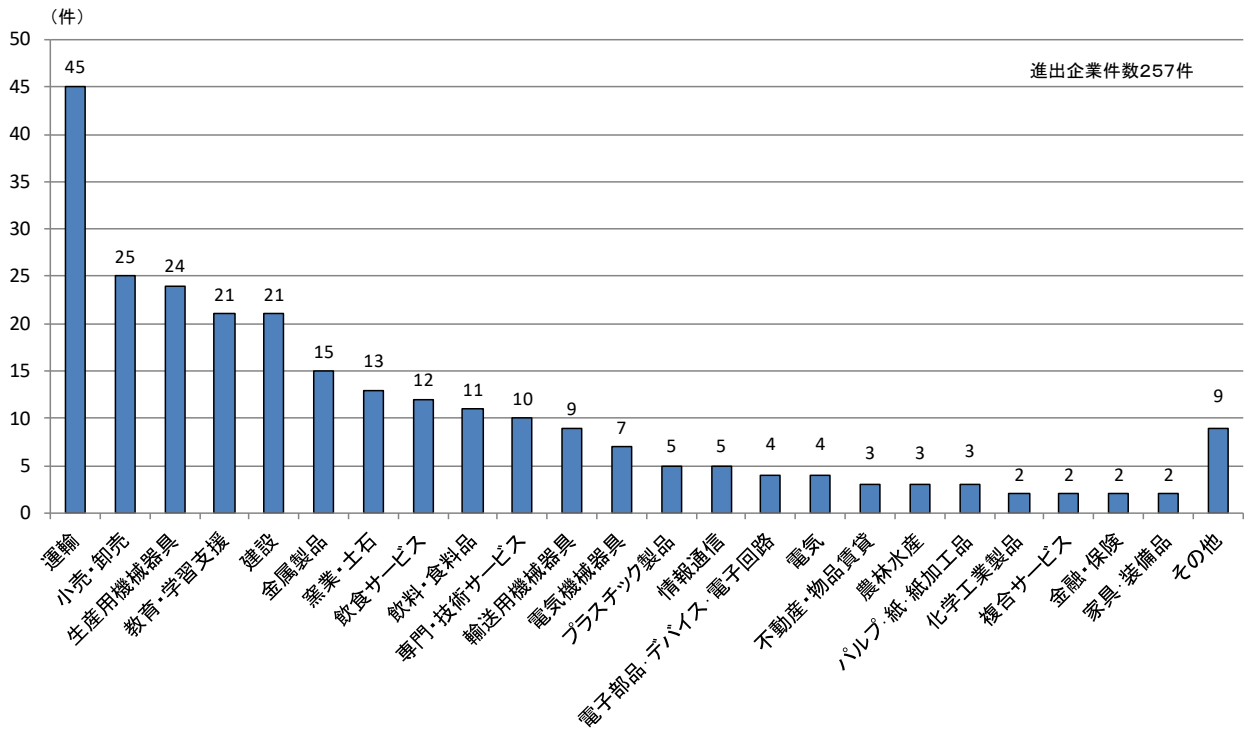


図表 2-6-15 九州企業の ASEAN への年次別進出件数の推移



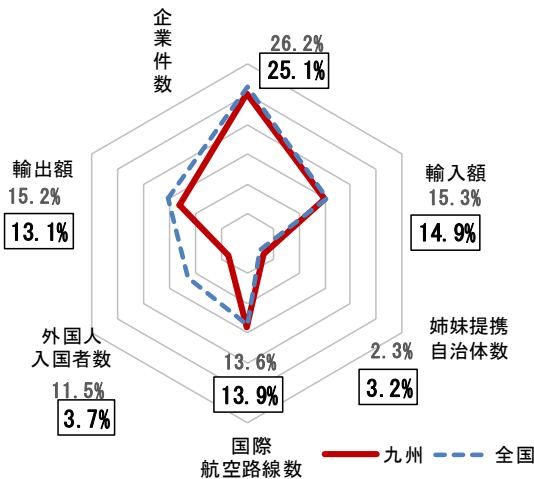
図表 2-6-14～15 出所：（公財）九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2016」より九州経済産業局作成。

図表 2-6-16 ASEANに進出した九州企業の業種別内訳



出所：（公財）九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

【トピックス】九州と全国のASEAN度



九州と全国の「ASEAN度」について、「アジア度」と同じ手法で分析したものが左図。  
 アジア度と比べると九州、全国ともに数値が低くなっており、九州のASEAN度が全国のASEAN度より高いのは、姉妹提携自治体数、国際航空路線数の2指標。

備考・出所：図表 1-1-6 と同じ

項目	単位	九州			全国		
		ASEAN	世界	ASEAN度	ASEAN	世界	ASEAN度
海外進出企業件数	件	257	1,025	25.1%	8,030	30,644	26.2%
輸入額	億円	7,883	52,788	14.9%	115,452	753,792	15.3%
姉妹提携自治体数	件	6	188	3.2%	40	1,734	2.3%
国際航空路線数	路線	5	36	13.9%	49	359	13.6%
外国人入国者数	人	120,959	3,255,751	3.7%	3,149,496	27,428,782	11.5%
輸出額	億円	8,947	68,410	13.1%	118,720	782,865	15.2%

## 第7章 九州とベトナムの経済関係

### 1. ベトナムの経済概況

国名	ベトナム社会主義共和国
面積	32万9,241km <sup>2</sup>
人口	約9,370万人(2017年、越統計総局)
首都	ハノイ
人種	キン族(越人)約86%、他に53の少数民族
言語	ベトナム語
宗教	仏教、カトリック、カオダイ教他
政体	社会主義共和国
主要産業	農林水産業、鉱業、工業

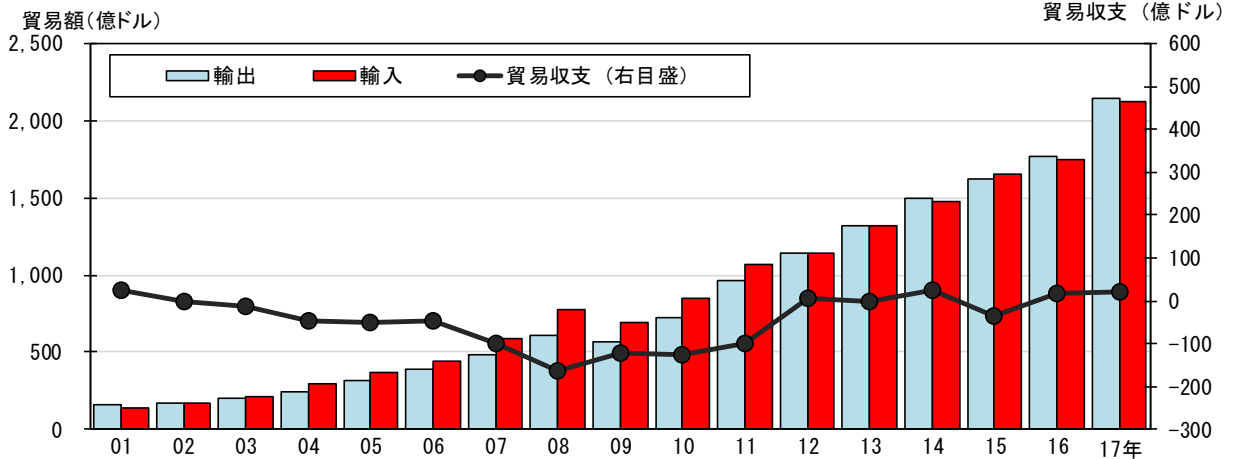
出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

図表 2-7-1 ベトナムのマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	5.4	6.0	6.7	6.2	6.8
名目GDP総額	億ドル	1,712	1,862	1,932	2,053	2,239 *
一人当たりGDP(名目)	ドル	1,907	2,052	2,109	2,215	2,389 *
輸出額	億ドル	1,320	1,502	1,620	1,766	2,151
	前年比(%)	15.3	13.8	7.9	9.0	21.8
輸入額	億ドル	1,320	1,478	1,656	1,748	2,130
	前年比(%)	16.0	12.0	12.0	5.6	21.9
貿易収支	億ドル	0	24	▲ 36	18	21
対日貿易収支	億ドル	20	18	▲ 1	▲ 4	▲ 5 *
鉱工業生産指数伸び率	前年比(%)	5.6	5.8	10.1	7.2	9.5
失業率	(%)	3.6	3.4	3.4	3.2	3.2
消費者物価上昇率	(%)	6.6	4.1	0.6	2.7	3.5
直接投資受入額	億ドル	224	219	241	269	371 *
為替レート(1ドル)	ドン	20,933	21,148	21,677	21,932	22,370 *

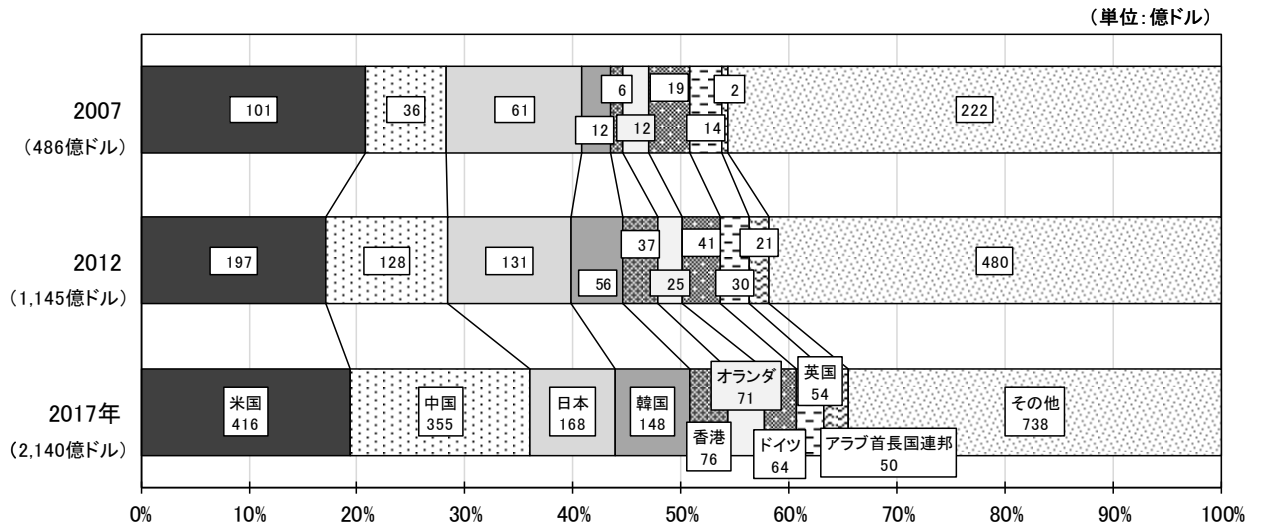
出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」(平成30年10月)、\*はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」より九州経済産業局作成。

図表 2-7-2 ベトナムの対外貿易額の推移

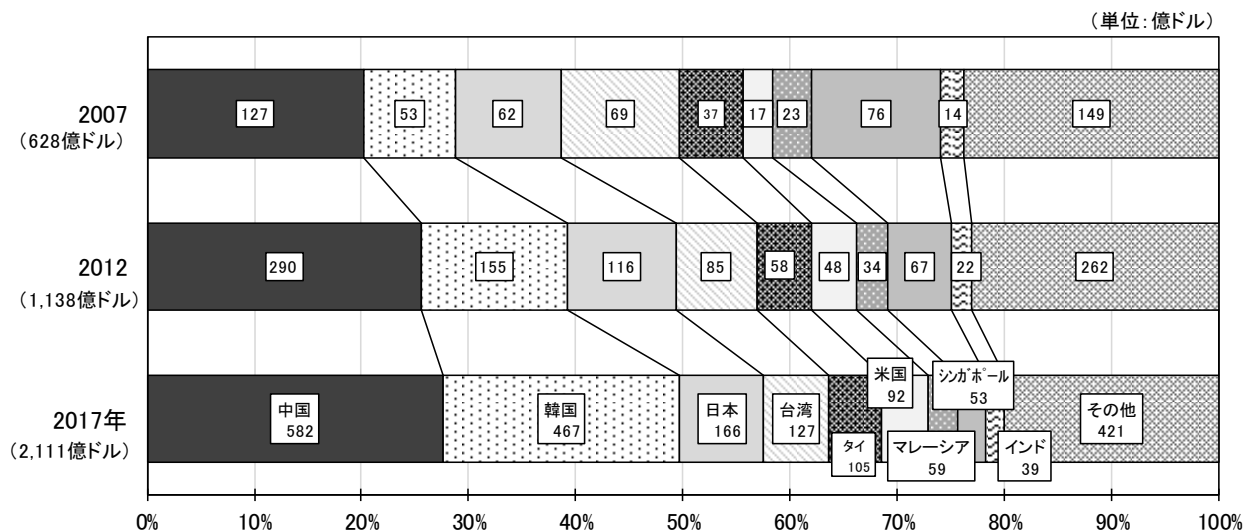


出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」（平成 30 年 10 月）より九州経済産業局作成。

図表 2-7-3 ベトナムの輸出相手国・地域の推移



図表 2-7-4 ベトナムの輸入相手国・地域の推移

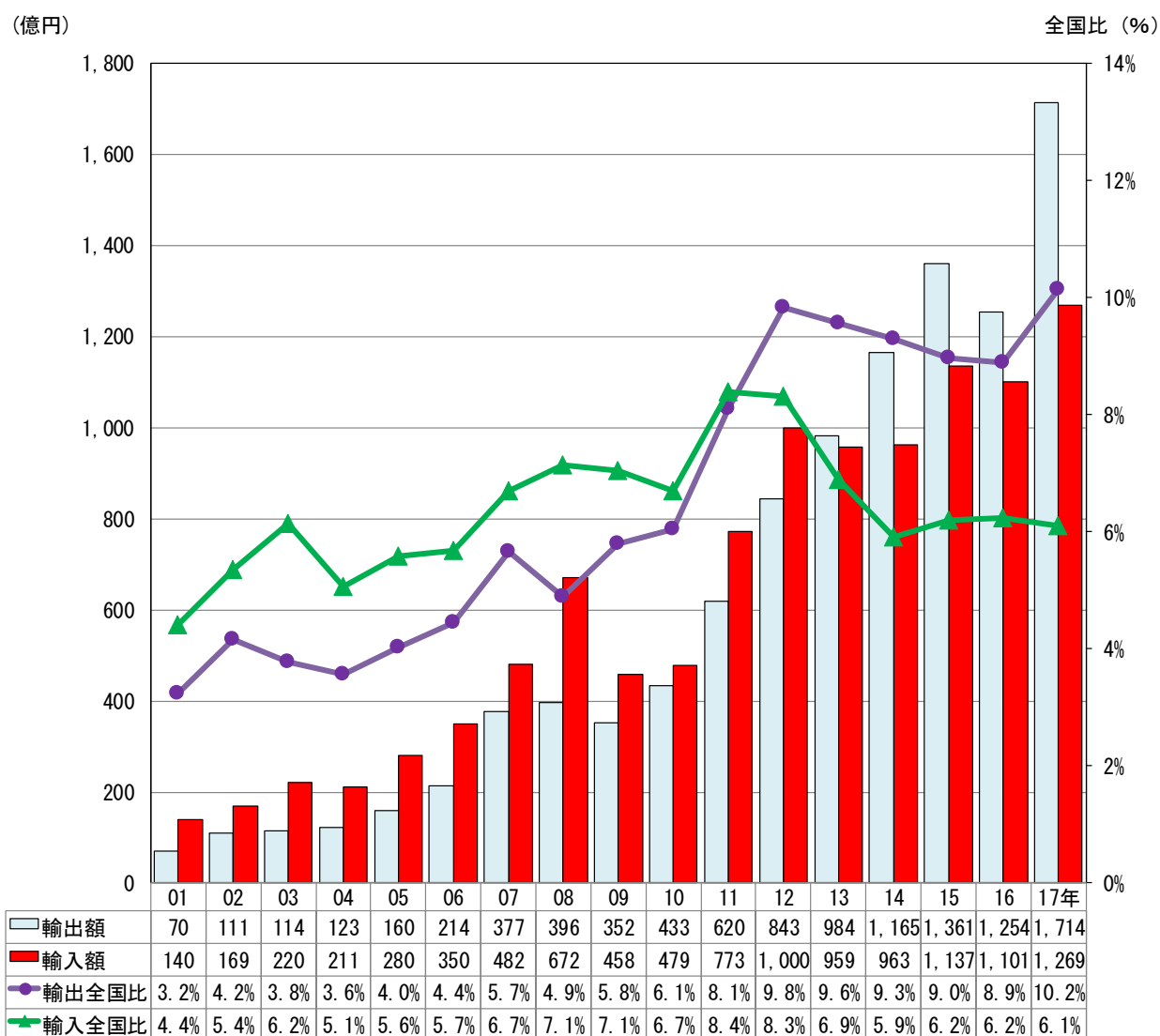


図表 2-7-3～4 出所：ベトナム統計局（GSO）データより九州経済産業局作成。

## 2. 九州とベトナムの経済動向

- 2017年の九州の対ベトナム貿易額は、輸出が1,714億円（前年比36.7%増）で前年より増加した。一方、輸入も1,269億円（前年比15.3%増）で前年より増加した。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、半導体等電子部品、鉄鋼のフラットロール製品、事務用機器であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、半導体等電子部品（寄与度：+17.7%）、電気回路等の機器（同+3.5%）等であった。一方、減少では、鉄鋼くず（同▲1.1%）、原動機（同▲1.0%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、絶縁電線及び絶縁ケーブル、メリヤス編み及びビクロセ編み衣類、パルプウッドであった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、絶縁電線及び絶縁ケーブル（寄与度：+3.8%）、メリヤス編み及びビクロセ編み衣類（同+2.4%）等であった。一方、減少では、パルプウッド等（同▲0.5%）、二輪自動車類（同▲0.5%）であった。

図表 2-7-5 九州の対ベトナム貿易額の推移

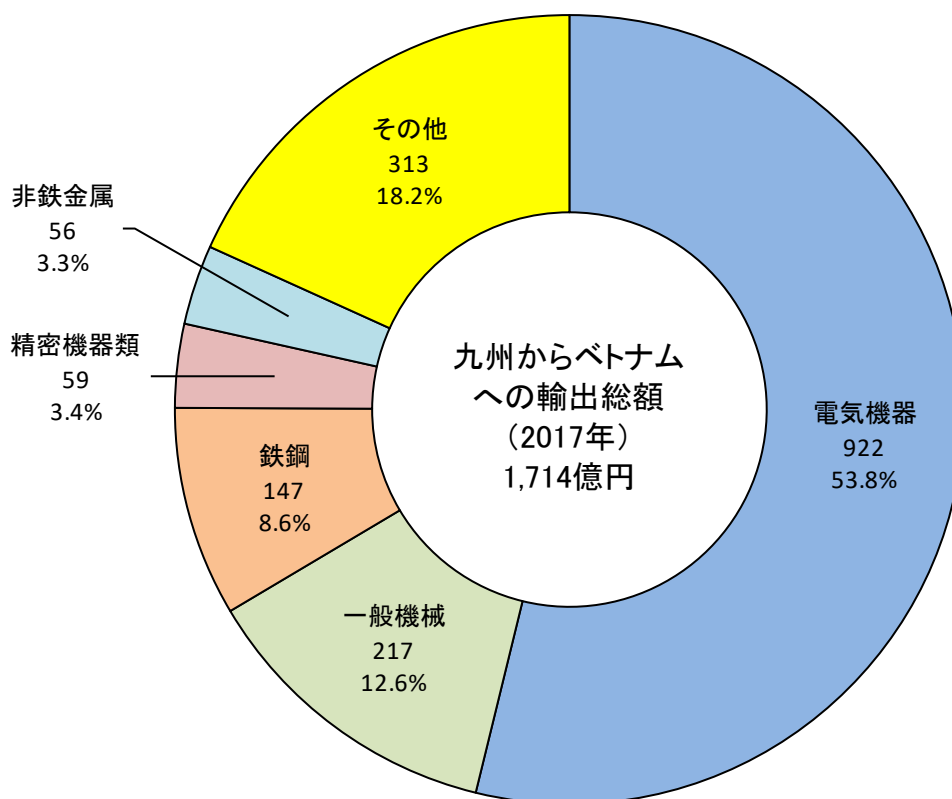


出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 2-7-6 九州からベトナムへの輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
半導体等電子部品	電気機器	839	49.0%
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	125	7.3%
事務用機器	一般機械	72	4.2%
科学光学機器	精密機器類	59	3.4%
銅及び同合金	非鉄金属	56	3.2%
電気回路等の機器	電気機器	54	3.1%
荷役機械	一般機械	50	2.9%
有機化合物	元素及び化合物	48	2.8%
魚介類	魚介類及び同調製品	44	2.6%
船舶類	輸送用機器	38	2.2%
その他		330	19.3%
総額		1,714	100%

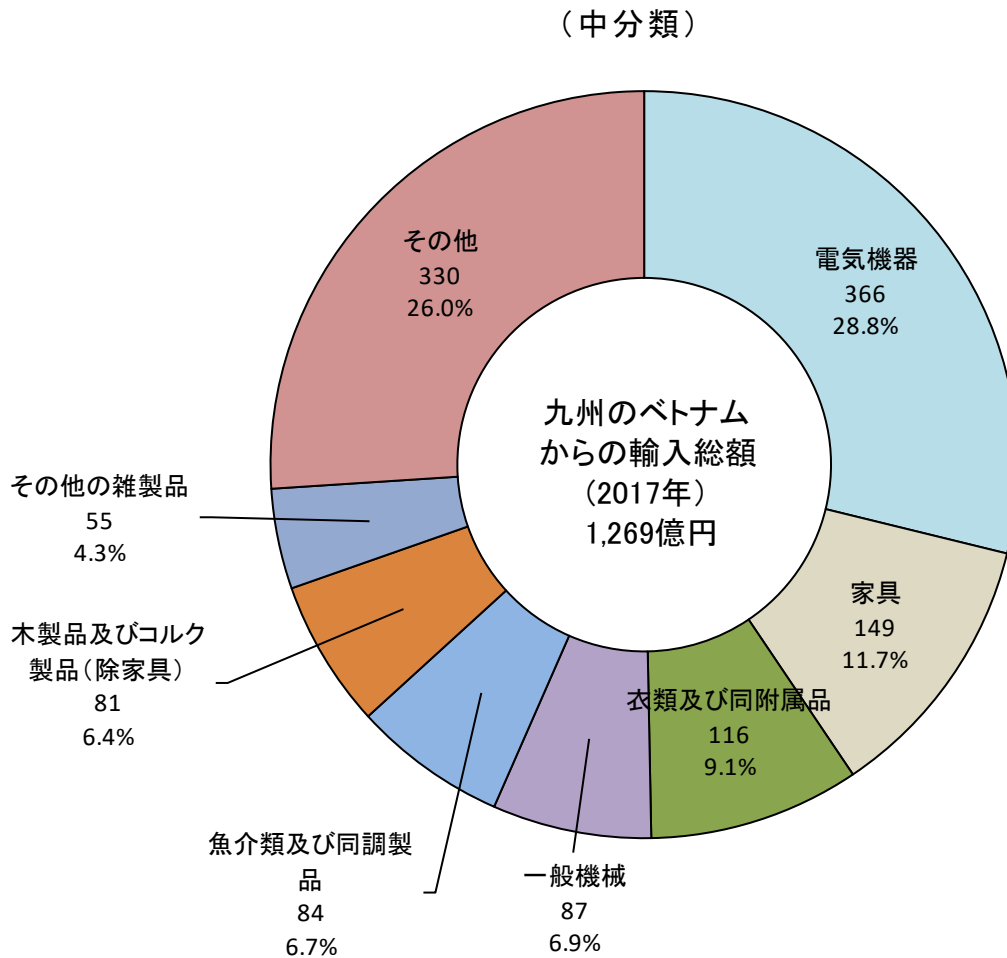
寄与度（増加分）：半導体等電子部品（+17.7%）、電気回路等の機器（+3.5%）等

寄与度（減少分）：鉄鋼くず（▲1.1%）、原動機（▲1.0%）等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-7-7 九州のベトナムからの輸入品目

(単位：億円、%)



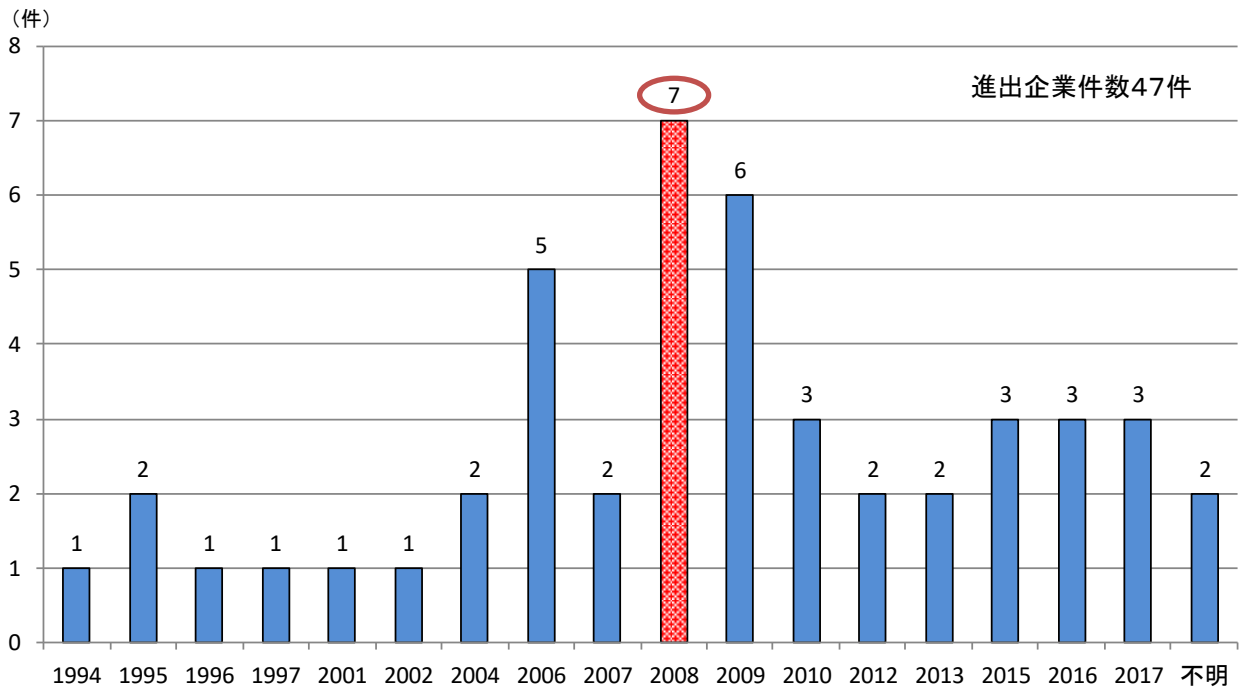
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
絶縁電線及び絶縁ケーブル	電気機器	294	23.1%
メリヤス編み及びクロセ編み衣類	衣類及び同附属品	81	6.3%
パルプウッド等	木製品及びコルク製品(除家具)	71	5.6%
魚介類の調製品	魚介類及び同調製品	46	3.6%
プラスチック製品	その他の雑製品	43	3.4%
魚介類	魚介類及び同調製品	38	3.0%
衣類	衣類及び同附属品	30	2.3%
合金鉄	鉄鋼	26	2.1%
原動機	一般機械	24	1.9%
コック・弁類	一般機械	24	1.9%
その他		593	46.7%
総 額		1,269	100.0%

寄与度 (増加分) : 絶縁電線及び絶縁ケーブル (+3.8%)、メリヤス編み及びクロセ編み衣類 (+2.4%) 等

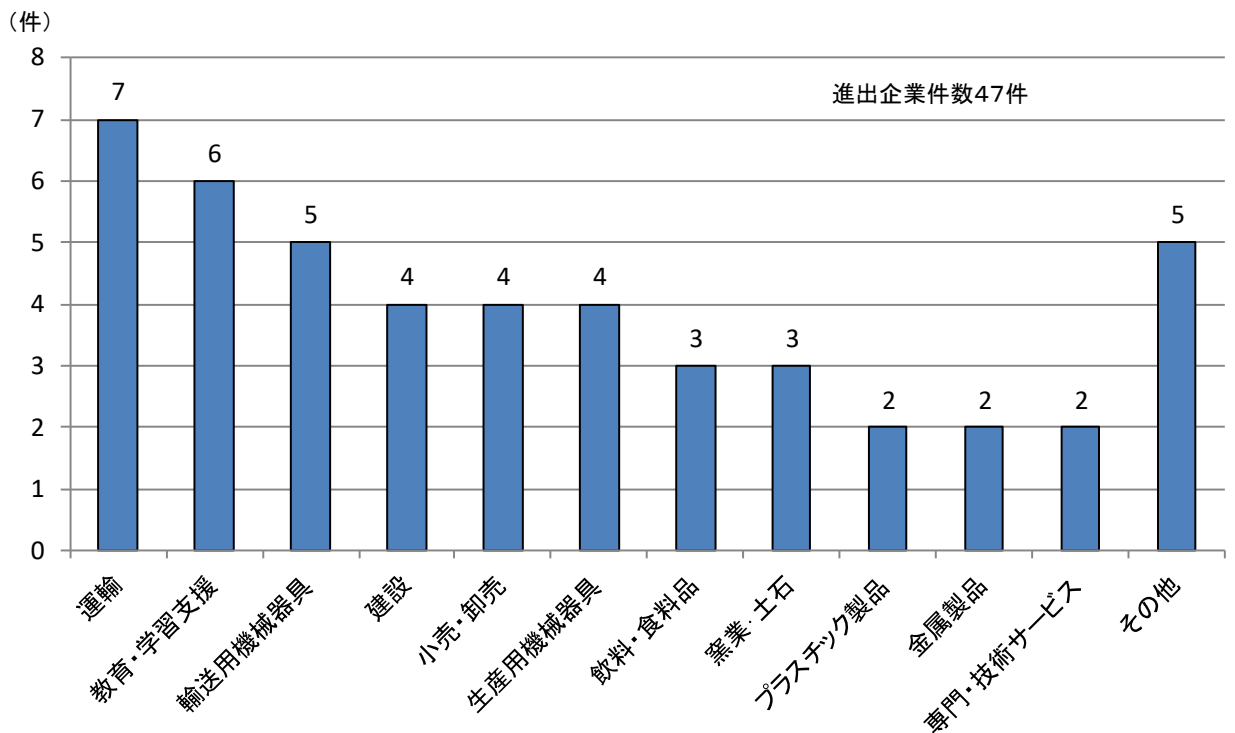
寄与度 (減少分) : パルプウッド等 (▲0.5%)、二輪自動車類 (▲0.5%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-7-8 九州企業のベトナムへの進出件数の推移



図表 2-7-9 ベトナムに進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-7-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2016」より九州経済産業局作成。



## 第8章 九州とタイの経済関係

### 1. タイの経済概況

国名	タイ王国
面積	51万4千km <sup>2</sup> (日本の約1.4倍)
人口	6,572万人(2015年)(タイ国勢調査)
首都	バンコク
人種	大多数がタイ族。その他 華人、マレー族等
言語	タイ語
宗教	仏教 94%、イスラム教 5%
政体	立憲君主制
主要産業	農業は就業者の約40%弱を占めるが、GDPでは12%にとどまる。一方、製造業の就業者は約15%だが、GDPの約34%、輸出額の90%弱を占める。

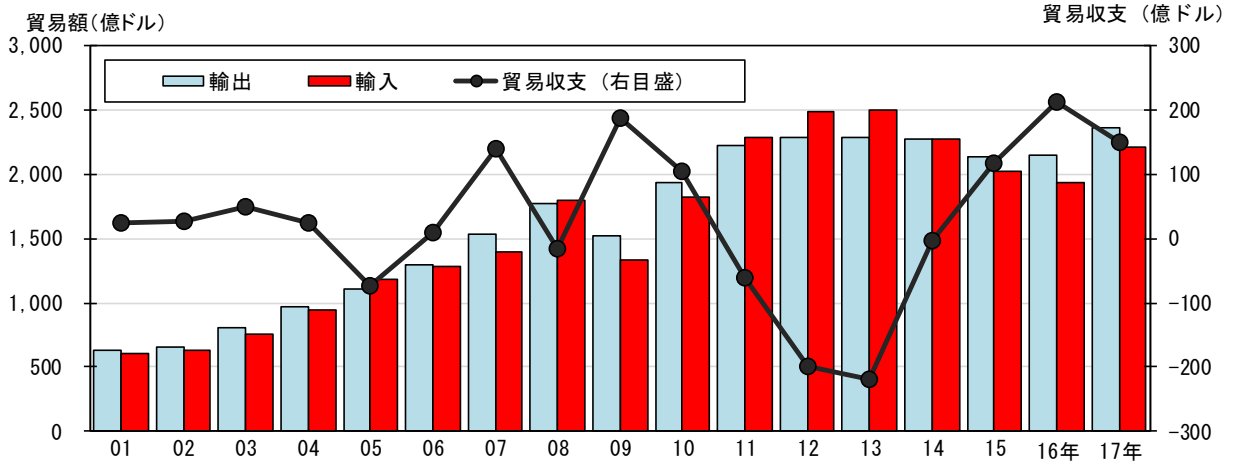
出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

図表 2-8-1 タイのマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	2.7	1.0	3.0	3.3	3.9
名目GDP総額	十億ドル	420	407	401	412	455
一人当たりGDP(名目)	ドル	6,154	5,933	5,831	5,970	6,591
輸出額	億ドル	2,285	2,275	2,143	2,154	2,366
	前年比(%)	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 5.8	0.5	9.9
輸入額	億ドル	2,504	2,277	2,027	1,942	2,215
	前年比(%)	0.5	▲ 9.1	▲ 11.0	▲ 4.2	14.1
貿易収支	億ドル	▲ 219	▲ 3	117	212	151
対日貿易収支	億ドル	▲ 189	▲ 138	▲ 112	▲ 102	▲ 100 *
製造業生産指数	前年比(%)	1.9	▲ 4.0	0.0	1.4	2.5
失業率	(%)	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2
消費者物価指数(総合)	前年比(%)	2.2	1.9	▲ 0.9	0.2	0.7
直接投資受入額	億ドル	159	37	86	31	79 *
為替レート(1ドル)	バーツ	30.73	32.48	34.25	35.30	33.94
為替レート(1バーツ)	円	3.18	3.26	3.53	3.08	3.31

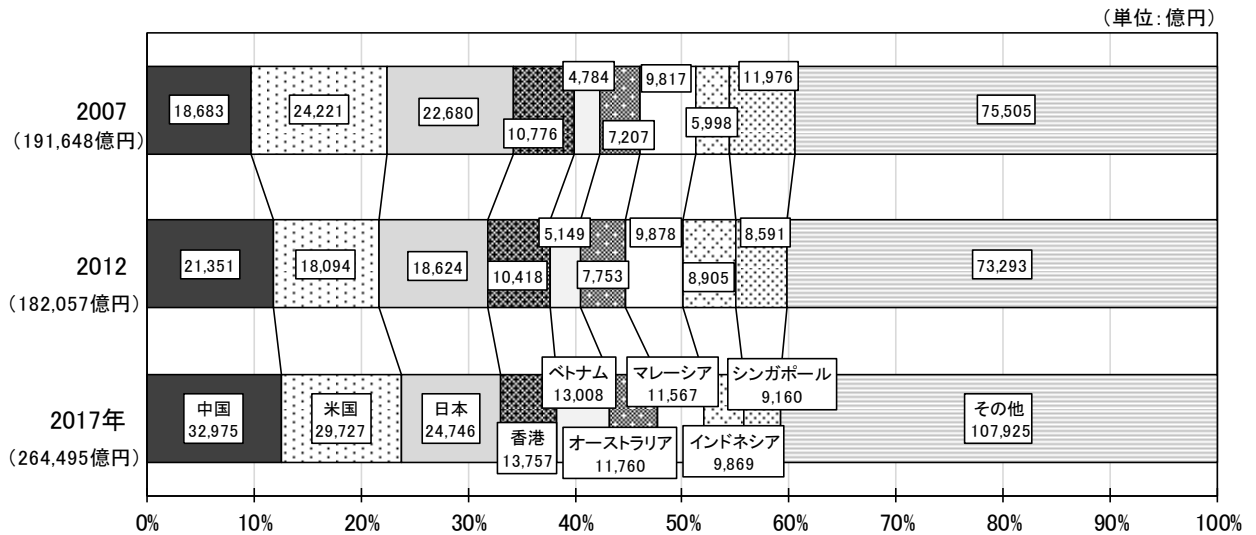
出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」(平成30年3月)、\*はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

図表 2-8-2 タイの対外貿易額の推移

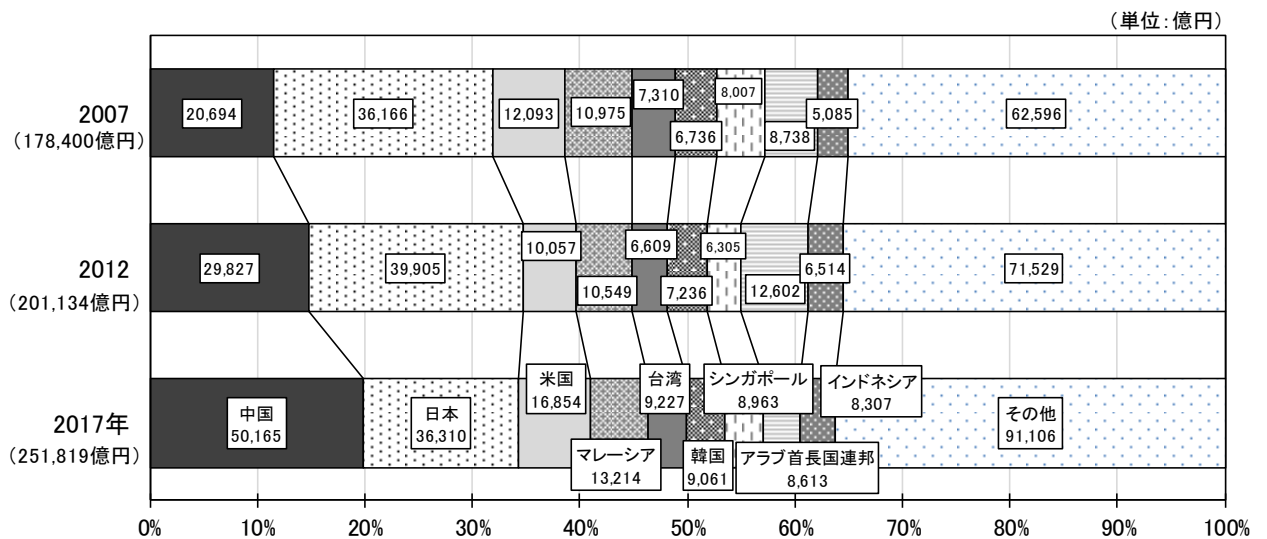


出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」（平成 30 年 10 月）より九州経済産業局作成。

図表 2-8-3 タイの輸出相手国・地域の推移



図表 2-8-4 タイの輸入相手国・地域の推移

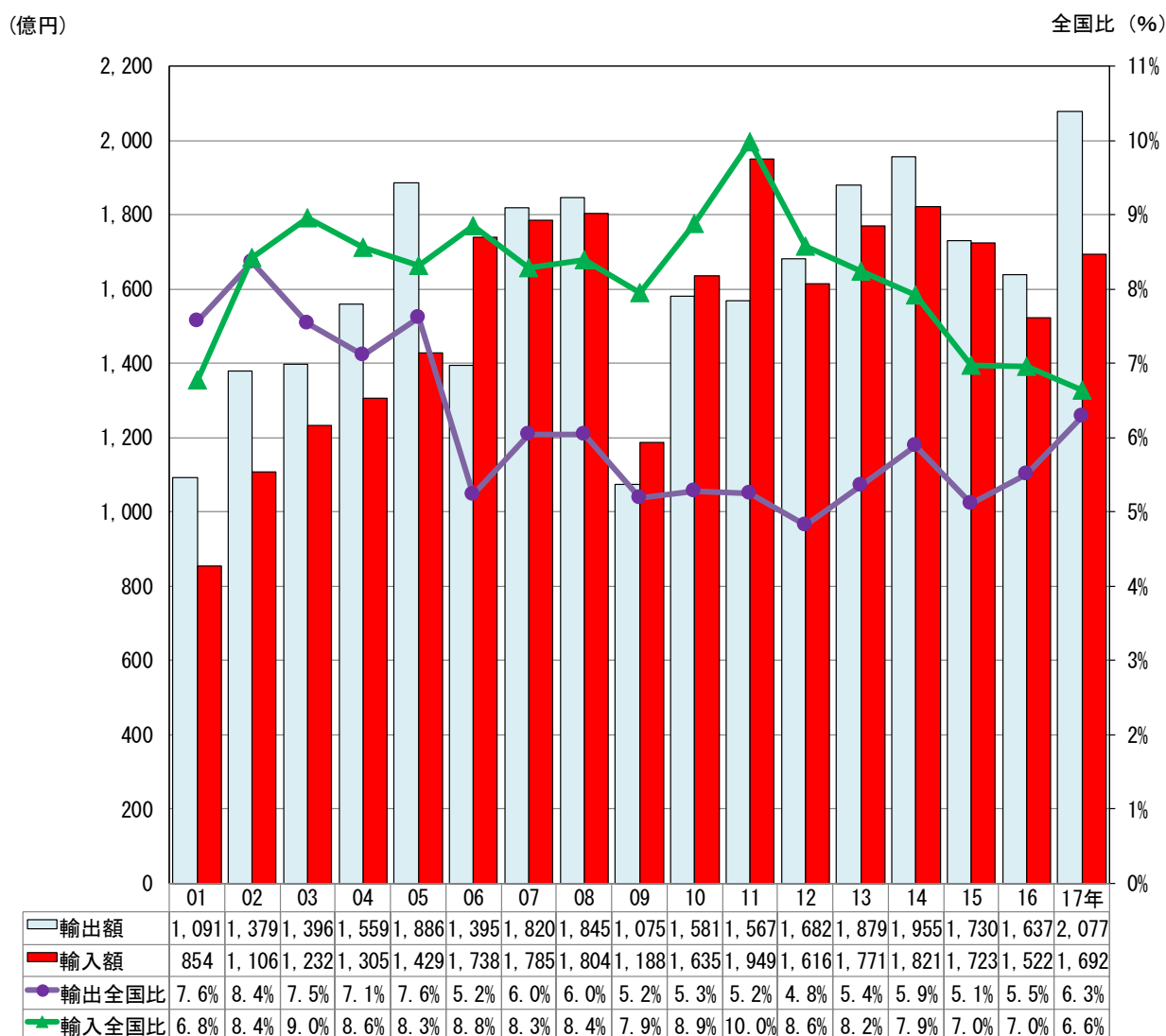


図表 2-8-3～4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

## 2. 九州とタイの経済動向

- 2017年の九州の対タイ貿易額は、輸出が2,077億円（前年比26.8%増）で前年より増加し、3年ぶりに増加に転じた。一方、輸入も1,692億円（前年比11.2%増）と前年より増加し、3年ぶりに増加に転じた。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、鉄鋼のフラットロール製品、半導体等電子部品、鉄鋼の棒・形鋼及び線であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、鉄鋼のフラットロール製品（寄与度：+10.4%）、半導体等電子部品（同+7.7%）等であった。一方、減少では、石油製品（同▲1.1%）、自動車の部分品（同▲0.5%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、天然ゴム、自動車の部分品、音響・映像機器（含部品）であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、天然ゴム（寄与度：+5.4%）、魚介類の調整品（同+1.3%）等であった。一方、減少では、砂糖（同▲1.4%）、魚介類の粉、ミール及びペレット（同▲0.6%）等であった。

図表 2-8-5 九州の対タイ貿易額の推移

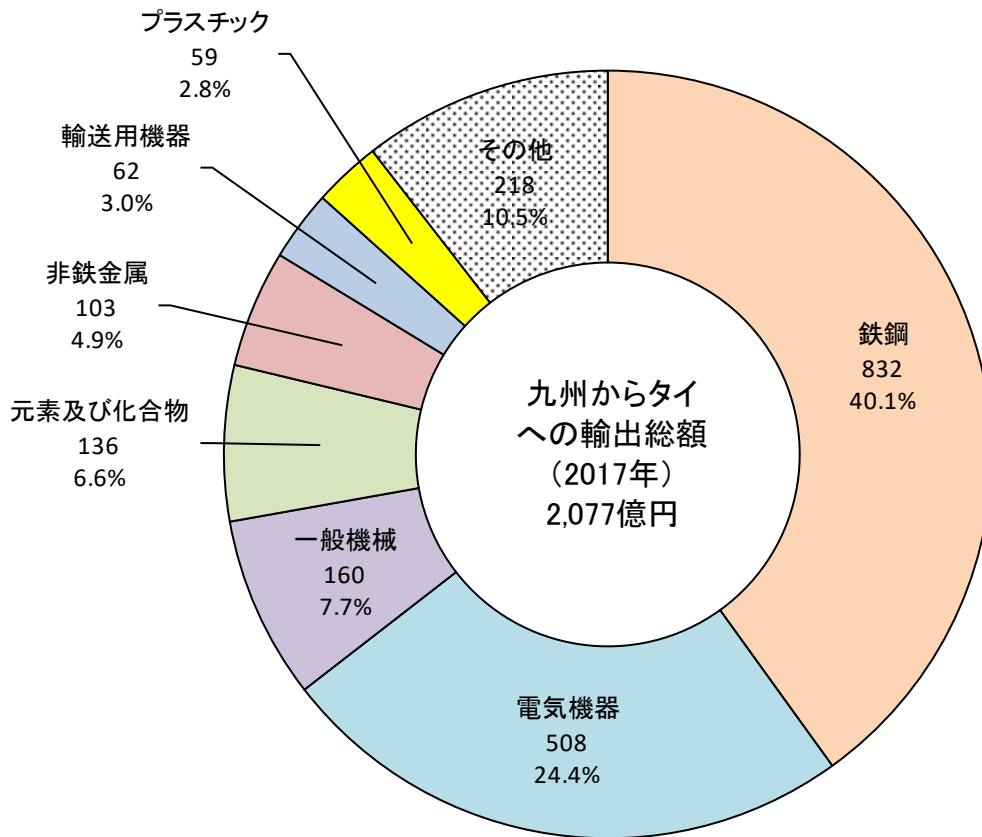


出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 2-8-6 九州からタイへの輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	635	30.6%
半導体等電子部品	電気機器	429	20.7%
鉄鋼の棒・形鋼及び線	鉄鋼	174	8.4%
有機化合物	元素及び化合物	123	5.9%
銅及び同合金	非鉄金属	86	4.2%
科学光学機器	精密機器類	59	2.8%
自動車	輸送用機器	26	1.3%
建設用・鉱山用機械	一般機械	22	1.1%
軌条及びその他の鉄道線路建設材	鉄鋼	22	1.0%
半導体等製造装置	一般機械	19	0.9%
その他		481	23.2%
総 額		2,077	100.0%

寄与度 (増加分)：鉄鋼のフラットロール製品 (+10.4%)、半導体等電子部品 (+7.7%) 等

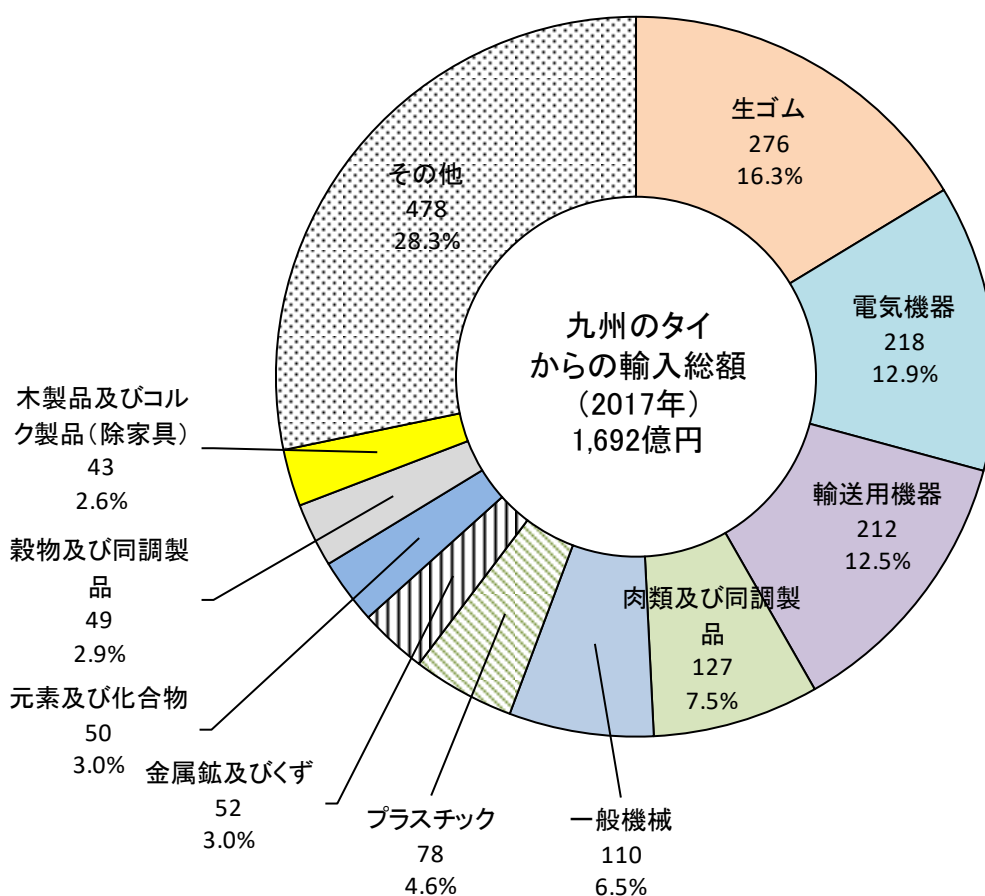
寄与度 (減少分)：石油製品 (▲1.1%)、自動車の部分品 (▲0.5%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-8-7 九州のタイからの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)



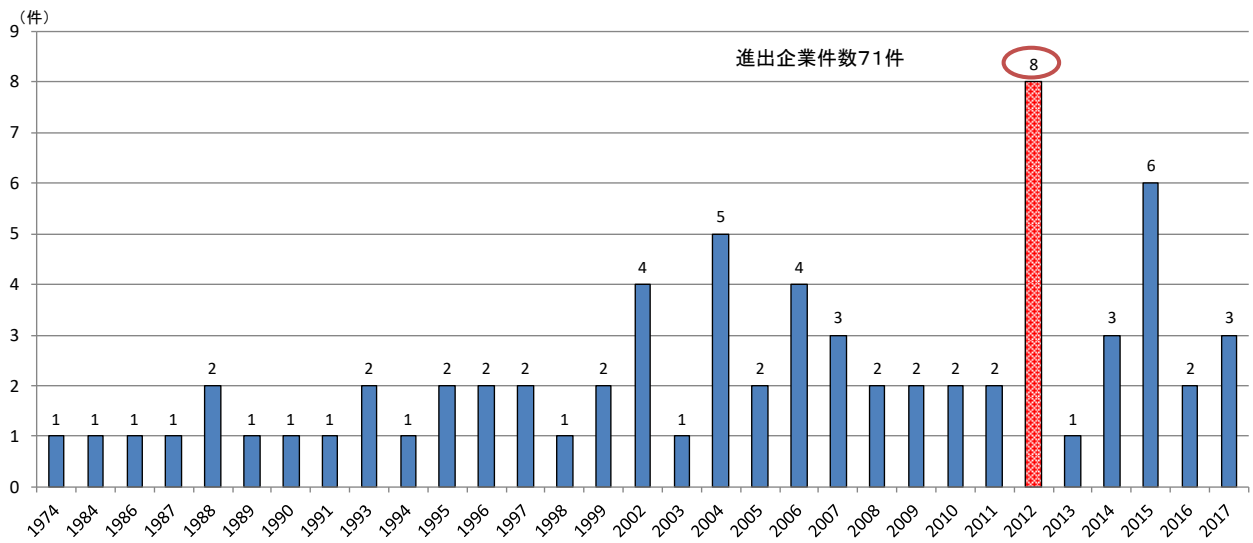
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
天然ゴム	生ゴム	264	15.6%
自動車の部分品	輸送用機器	198	11.7%
音響・映像機器(含部品)	電気機器	73	4.3%
米	穀物及び同調製品	45	2.7%
パルプウッド等	木製品及びコルク製品(除家具)	42	2.5%
非鉄卑金属くず	金属鉱及びびくず	37	2.2%
電気計測機器	電気機器	34	2.0%
電気回路等の機器	電気機器	34	2.0%
科学光学機器	精密機器類	33	1.9%
ポリエチレン	プラスチック	33	1.9%
その他		899	53.2%
	総額	1,692	100.0%

寄与度(増加分)：天然ゴム(+5.4%)、魚介類の調整品(+1.3%)等

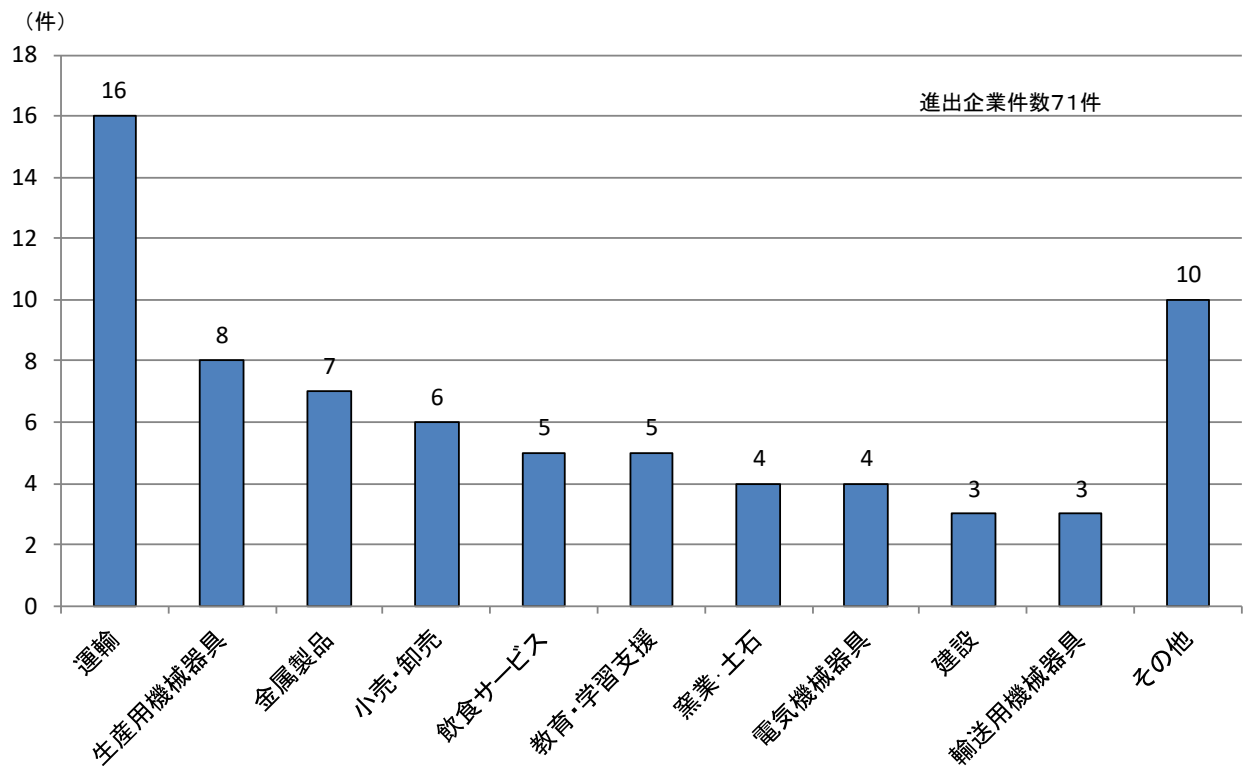
寄与度(減少分)：砂糖(▲1.4%)、魚介類の粉、ミール及びペレット(▲0.6%)等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-8-8 九州企業のタイへの進出件数の推移



図表 2-8-9 タイに進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-8-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2016」より九州経済産業局作成。

## 第9章 九州とシンガポールの経済関係

### 1. シンガポールの経済概況

国名	シンガポール共和国
面積	約720km <sup>2</sup> (東京23区と同程度)
人口	約561万人(うちシンガポール人・永住者は397万人)(2017年6月)
人種	中華系74%、マレー系13%、インド系9%、(2017年6月)
言語	国語はマレー語。公用語として英語、中国語、マレー語、タミール語
宗教	仏教、イスラム教、キリスト教、道教、ヒンズー教
政体	立憲共和制(1965年8月9日成立)(英連邦加盟)
主要産業	製造業(エレクトロニクス、化学関連、バイオメディカル、輸送機械、精密器械)、商業、ビジネスサービス、運輸・通信業、金融サービス業

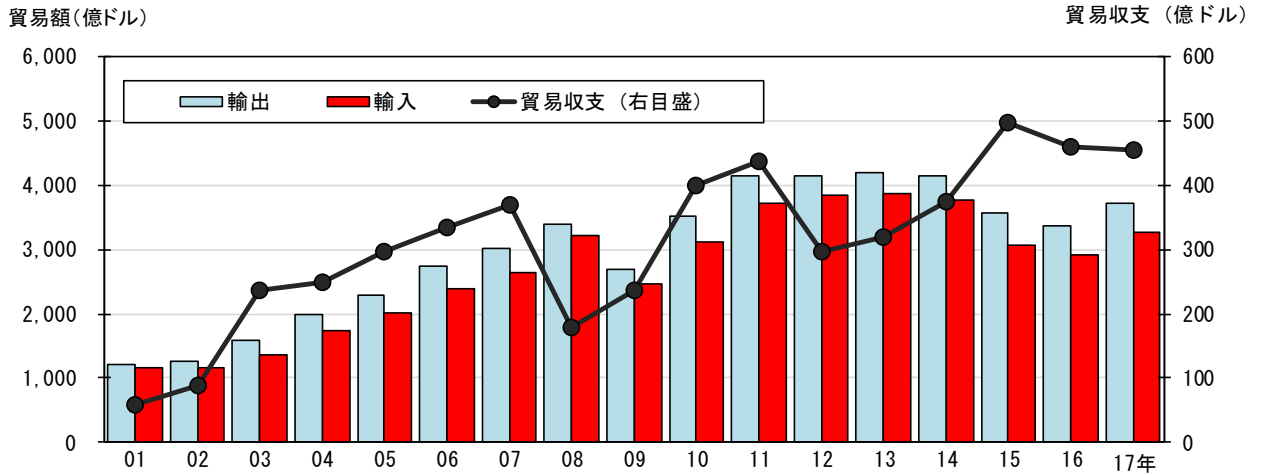
出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

図表 2-9-1 シンガポールのマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	5.1	3.9	2.2	2.4	3.6
名目GDP総額	十億ドル	304	312	304	310	324
一人当たりGDP(名目)	ドル	56,389	56,959	54,940	55,241	57,713
輸出額	億ドル	4,200	4,152	3,577	3,380	3,729
	前年比(%)	1.1	▲ 1.1	▲ 13.8	▲ 5.5	10.3
輸入額	億ドル	3,881	3,777	3,080	2,919	3,274
	前年比(%)	0.6	▲ 2.7	▲ 18.5	▲ 5.2	12.1
貿易収支	億ドル	319	375	498	460	455
対日貿易収支	億ドル	▲ 27	▲ 34	▲ 33	▲ 47	▲ 33 *
製造業生産指数	前年比(%)	1.7	2.7	▲ 5.1	3.7	10.1
失業率	(%)	1.9	2.0	1.9	2.1	2.2
消費者物価指数	前年比(%)	2.4	1.0	▲ 0.5	▲ 0.5	0.6
直接投資受入額	億ドル	645	695	706	743	636 *
為替レート(1ドル)	Sドル	1.25	1.27	1.38	1.38	1.38
為替レート(1Sドル)	円	78.00	83.62	88.04	78.75	81.23

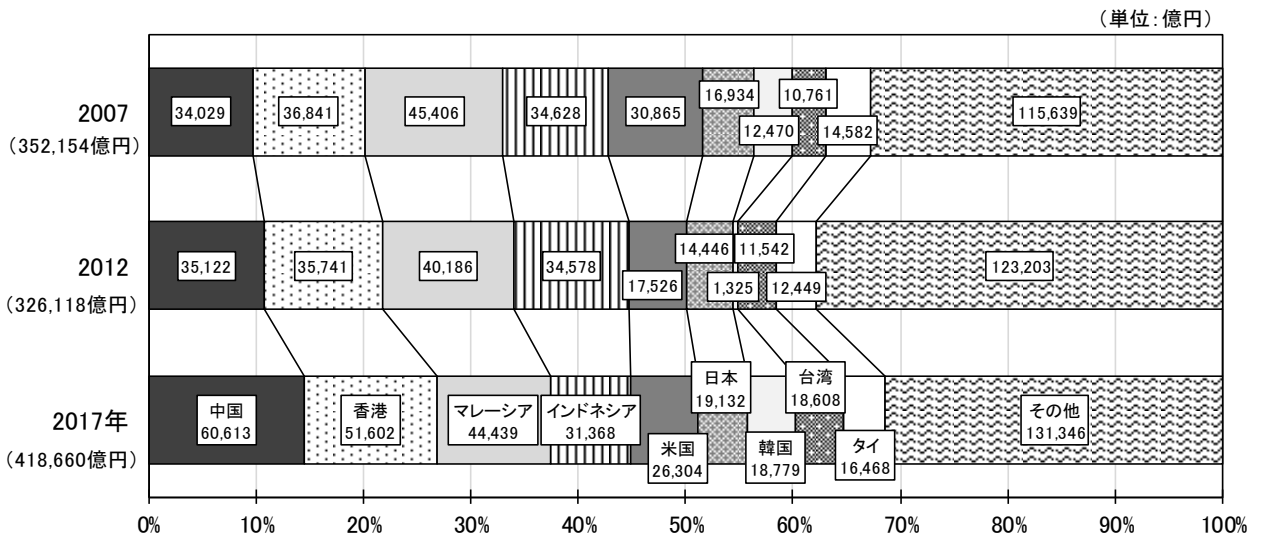
出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」(平成30年10月)、\*はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

図表 2-9-2 シンガポールの対外貿易額の推移

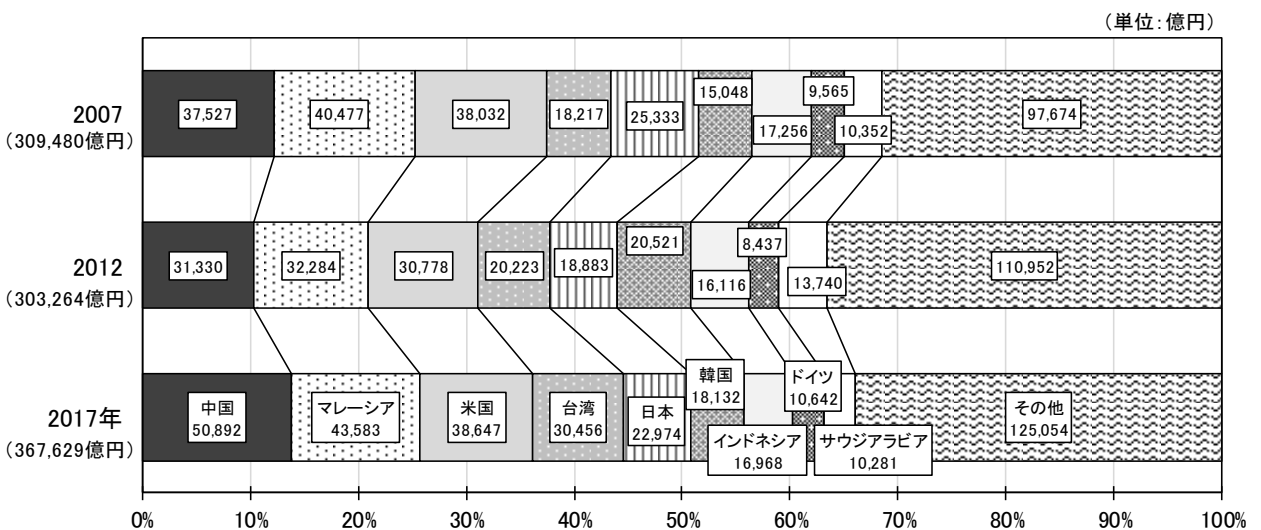


出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」（平成 30 年 10 月）より九州経済産業局作成。

図表 2-9-3 シンガポールの輸出相手国・地域の推移



図表 2-9-4 シンガポールの輸入相手国・地域の推移



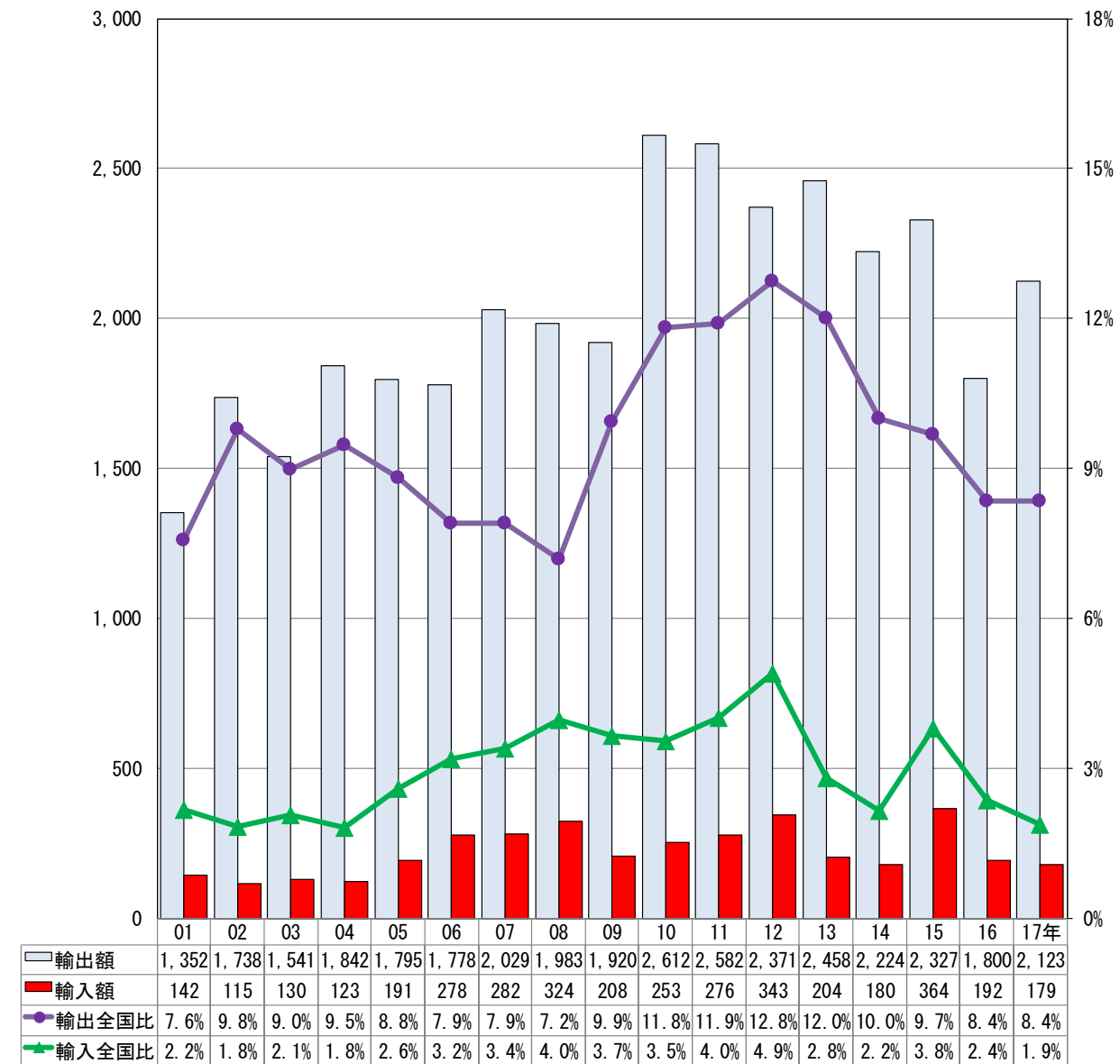
図表 2-9-3～4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。



## 2. 九州とシンガポールの経済動向

- 2017年の九州の対シンガポール貿易額は、輸出が2,123億円（前年比17.9%増）で前年より増加した。一方、輸入は179億円（前年比6.5%減）で前年より減少し、2年連続の減少となった。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、船舶類、金（マテリアル・ゴールドを除く）、映像機器であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、船舶類（寄与度：+10.6%）、映像機器（同+4.2%）等であった。一方、減少では、自動車（同▲4.1%）、有機化合物（同▲0.7%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、石油製品（重油等）、科学光学機器、非鉄卑金属くずであった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、合成ゴム（寄与度：+2.5%）、石油製品（重油等）（同+2.0%）等であった。一方、減少では、石油ガス類（液化天然ガス）（同▲10.6%）、科学光学機器（同▲1.2%）等であった。

図表 2-9-5 九州の対シンガポール貿易額の推移 全国比 (%)

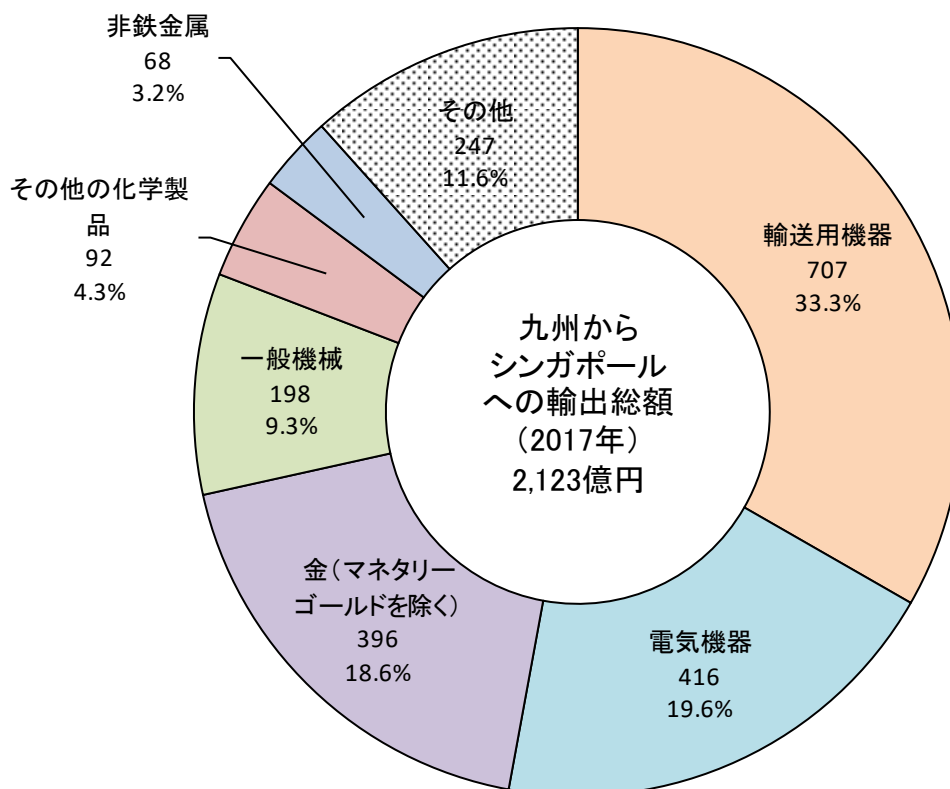


出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 2-9-6 九州からシンガポールへの輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
船舶類	輸送用機器	592	27.9%
金(マネタリーゴールドを除く)	金(マネタリーゴールドを除く)	370	20.6%
映像機器	電気機器	169	8.0%
事務用機器	一般機械	155	7.3%
半導体等電子部品	電気機器	141	6.6%
自動車	輸送用機器	106	5.0%
音響・映像機器の部分品	電気機器	69	3.2%
アルミニウム及び同合金	非鉄金属	63	3.0%
石油製品	石油及び同製品	48	2.3%
有機化合物	元素及び化合物	31	1.5%
その他		354	16.7%
総 額		2,123	100%

寄与度 (増加分)：船舶類 (+10.6%)、映像機器 (+4.2%) 等

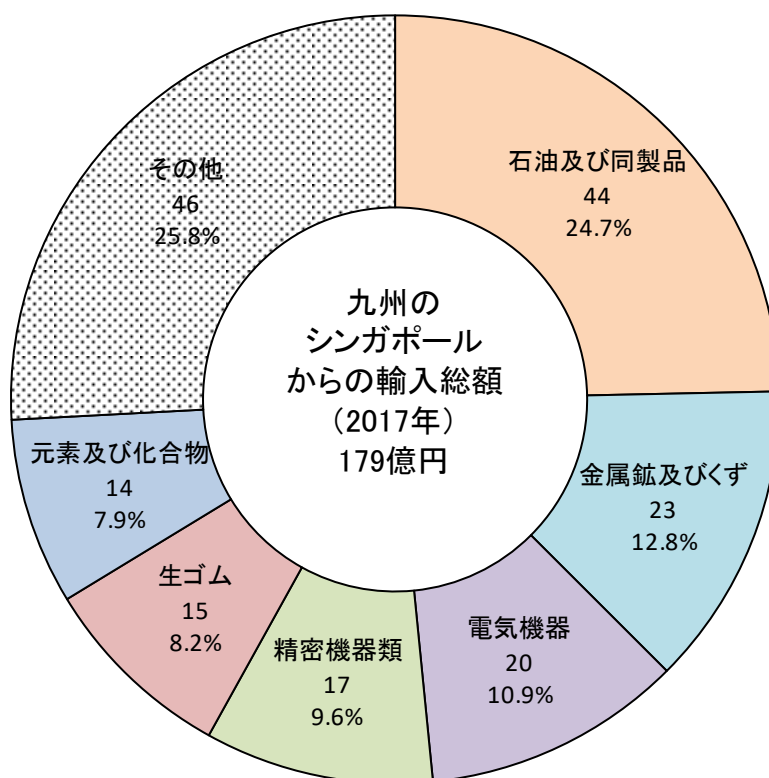
寄与度 (減少分)：自動車 (▲4.1%)、有機化合物 (▲0.7%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-9-7 九州のシンガポールからの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)



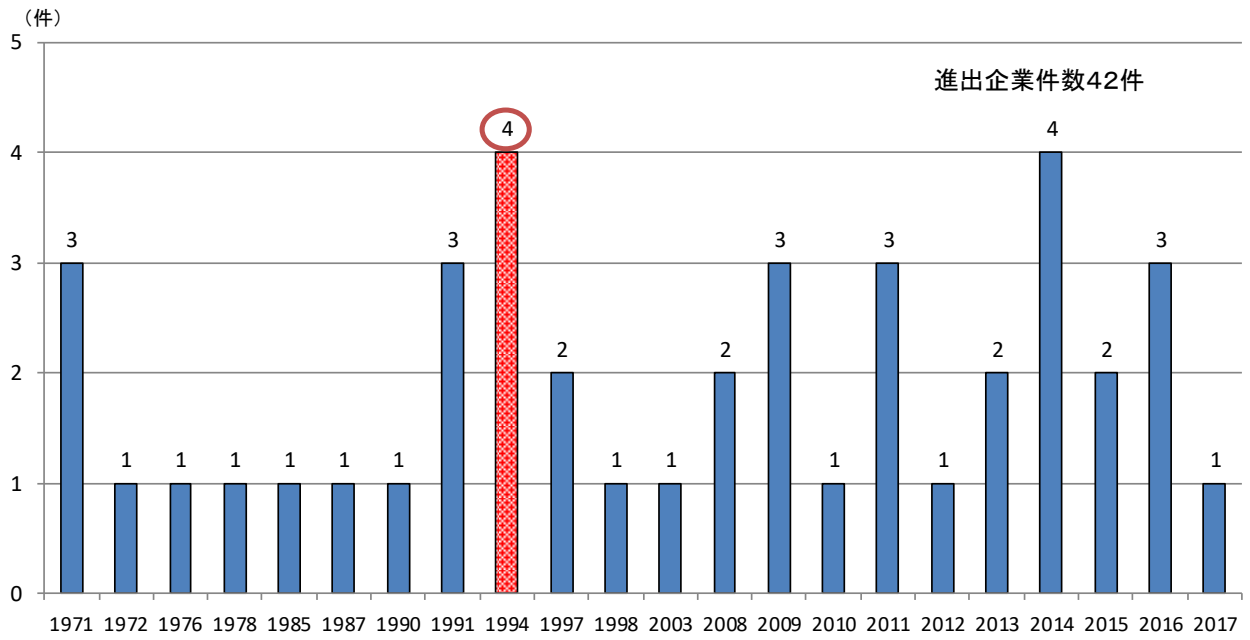
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
石油製品	石油及び同製品	44	24.7%
科学光学機器	精密機器類	17	9.6%
非鉄卑金属くず	金属鉱及びびくず	17	9.3%
半導体等電子部品	電気機器	15	8.4%
合成ゴム	生ゴム	15	8.2%
有機化合物	元素及び化合物	14	7.7%
合成樹脂	プラスチック	6	3.4%
半導体等製造装置	一般機械	4	2.4%
絶縁電線及び絶縁ケーブル	電気機器	3	1.4%
ポリエチレン	プラスチック	2	1.2%
その他		42	23.7%
総 額		192	100%

寄与度 (増加分) : 合成ゴム (+2.5%)、石油製品 (+2.0%) 等

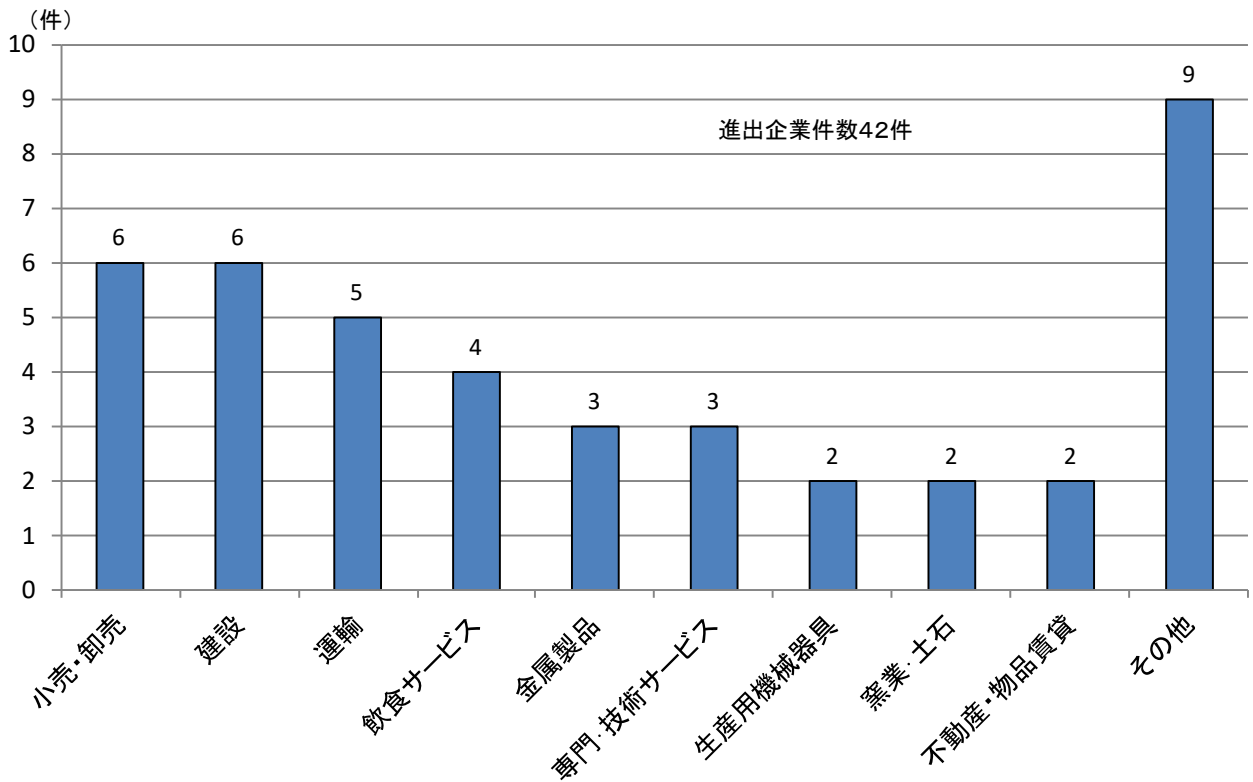
寄与度 (減少分) : 石油ガス類 (▲10.6%)、科学光学機器 (▲1.2%) 等

出所 : 財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-9-8 九州企業のシンガポールへの進出件数の推移



図表 2-9-9 シンガポールに進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-9-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

## 第10章 九州とマレーシアの経済関係

### 1. マレーシアの経済概況

国名	マレーシア
面積	約33万km <sup>2</sup> (日本の約0.9倍)
人口	約3,200万人(2016年マレーシア統計局)
首都	クアラルンプール
人種	マレー系(約67%)、中国系(約25%)、インド系(約7%) (注: マレー系には中国系及びインド系を除く他民族を含む)
言語	マレー語(国語)、中国語、タミール語、英語
宗教	イスラム教(連邦の宗教)61%、仏教20%、儒教・道教1.0%、ヒンドゥー教6.0%、キリスト教9.0%、その他
政体	立憲君主制(議会制民主主義)
主要産業	製造業(電気機器)、農林業(天然ゴム、パーム油、木材)及び鉱業(錫、原油、LNG)

出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

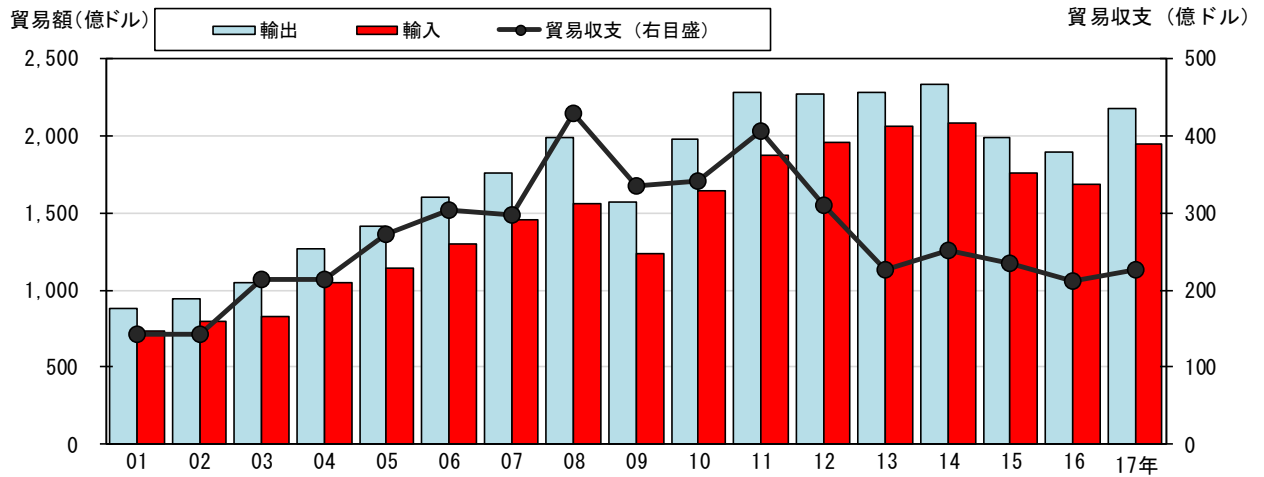
図表 2-10-1 マレーシアのマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	4.7	6.0	5.1	4.2	5.9
名目GDP総額	十億ドル	325	340	302	298	312
一人当たりGDP(名目)	ドル	10,755	11,074	9,677	9,415	9,755
輸出額	億ドル	2,286	2,338	1,990	1,899	2,176
	前年比(%)	0.5	2.3	▲ 14.9	▲ 4.6	14.6
輸入額	億ドル	2,059	2,086	1,755	1,686	1,949
	前年比(%)	4.8	1.3	▲ 15.9	▲ 3.9	15.6
貿易収支	億ドル	226	252	234	213	226
対日貿易収支	億ドル	73	85	49	15	26 *
鉱工業生産指数	前年比(%)	3.4	5.2	-	4.1	4.3 注
失業率	(%)	3.3	2.9	3.2	3.5	3.4
消費者物価上昇率	前年比(%)	2.1	3.1	2.1	2.1	3.8
直接投資受入額	億ドル	120	109	92	105	101 *
為替レート(1ドル)	リングギ	3.15	3.27	3.91	4.15	4.30
為替レート(1リングギ)	円	30.97	32.37	30.99	26.23	26.08

出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」(平成30年10月)、\*はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

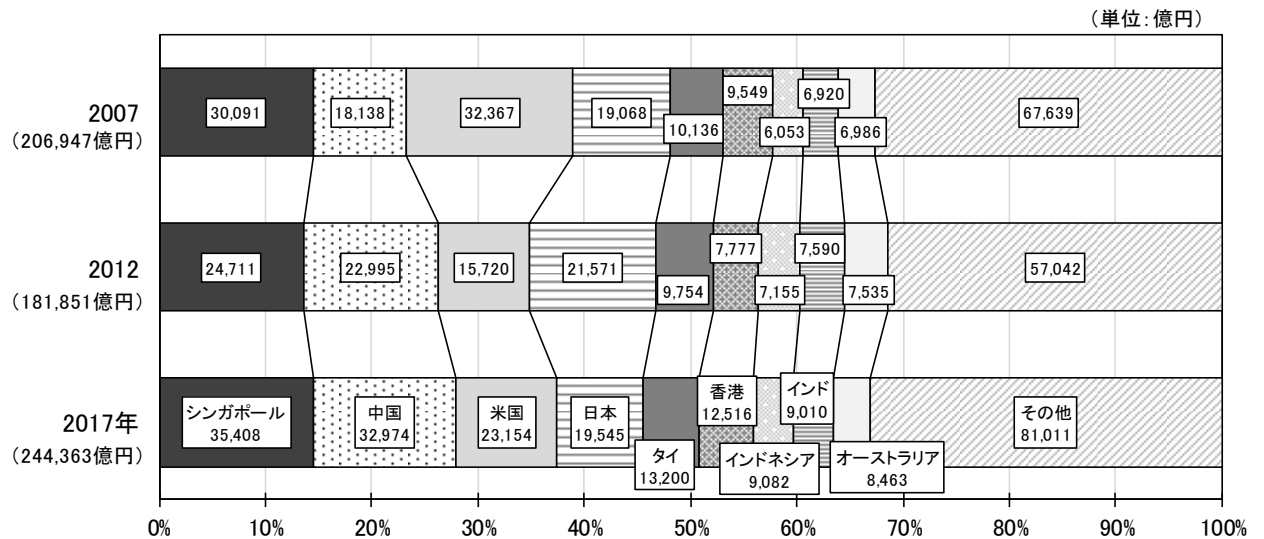
注：2010～2014年は2010年を基準、2015年以降は2015年を基準。

図表 2-10-2 マレーシアの対外貿易額の推移

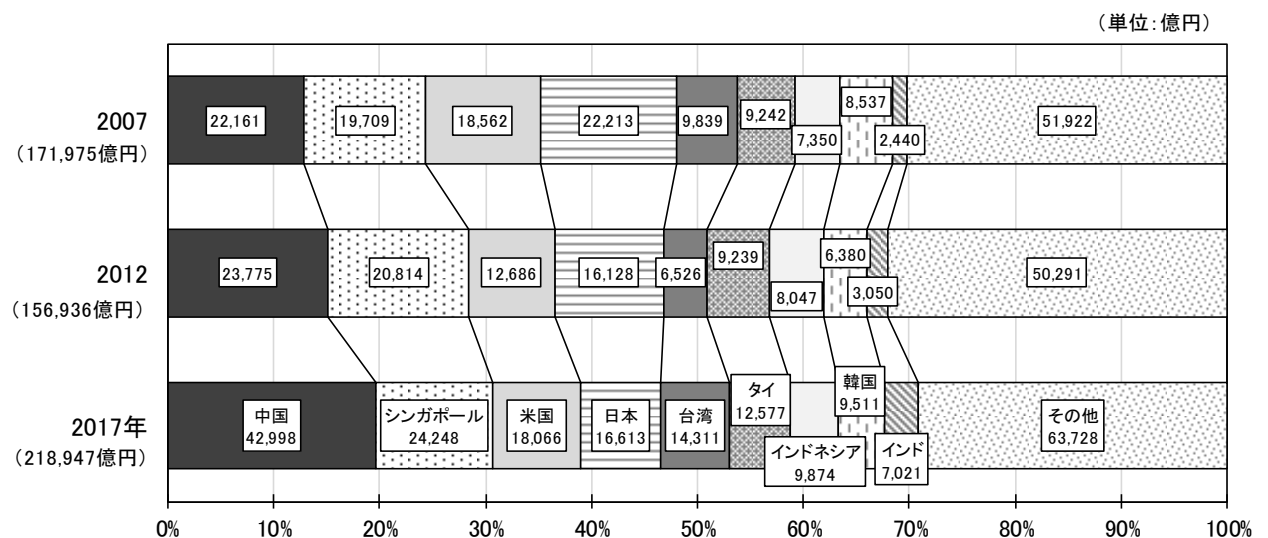


出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」（平成 30 年 10 月）より九州経済産業局作成。

図表 2-10-3 マレーシアの輸出相手国・地域の推移



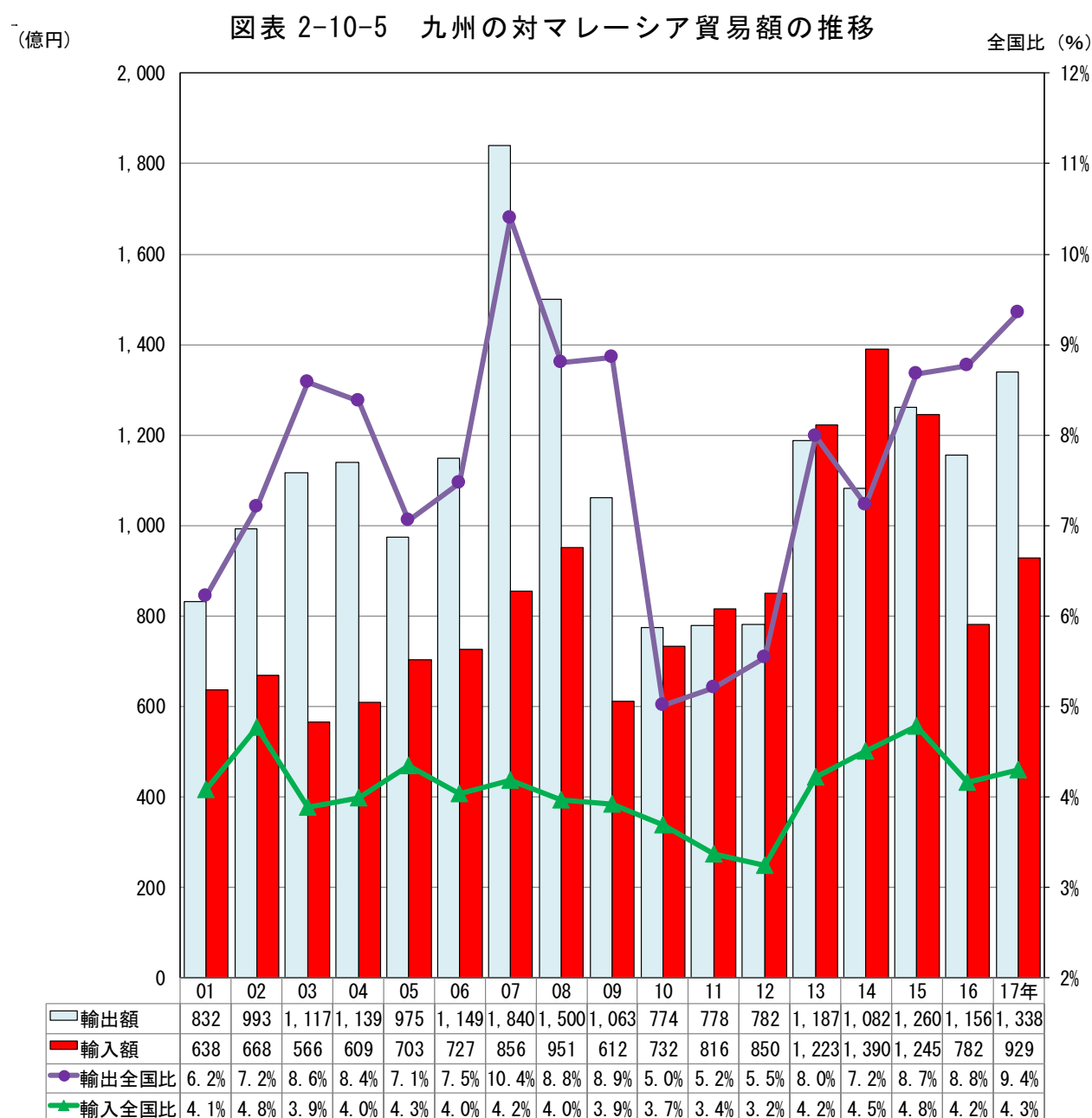
図表 2-10-4 マレーシアの輸入相手国・地域の推移



図表 2-10-3~4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

## 2. 九州とマレーシアの経済動向

- 2017年の九州の対マレーシア貿易額は、輸出が1,338億円（前年比15.8%増）で前年より増加した。一方、輸入も929億円（前年比18.7%増）で前年より増加した。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、金（マテリアールを除く）、半導体等電子部品、鉄鋼のフラットロール製品であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、半導体等電子部品（寄与度：+7.2%）、荷役機械（同+4.5%）等であった。一方、減少では、自動車の部分品（同▲2.7%）、ガラス及び同製品（同▲0.9%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、石油ガス類、合板・ウッドパネル、音響・映像機器（含部品）であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、石油ガス類（液化天然ガス）（寄与度：+6.4%）、通信機（同+3.4%）等であった。一方、減少では、魚介類の粉、ミール及びペレット（同▲0.9%）、半導体等製造装置（同▲0.4%）等であった。

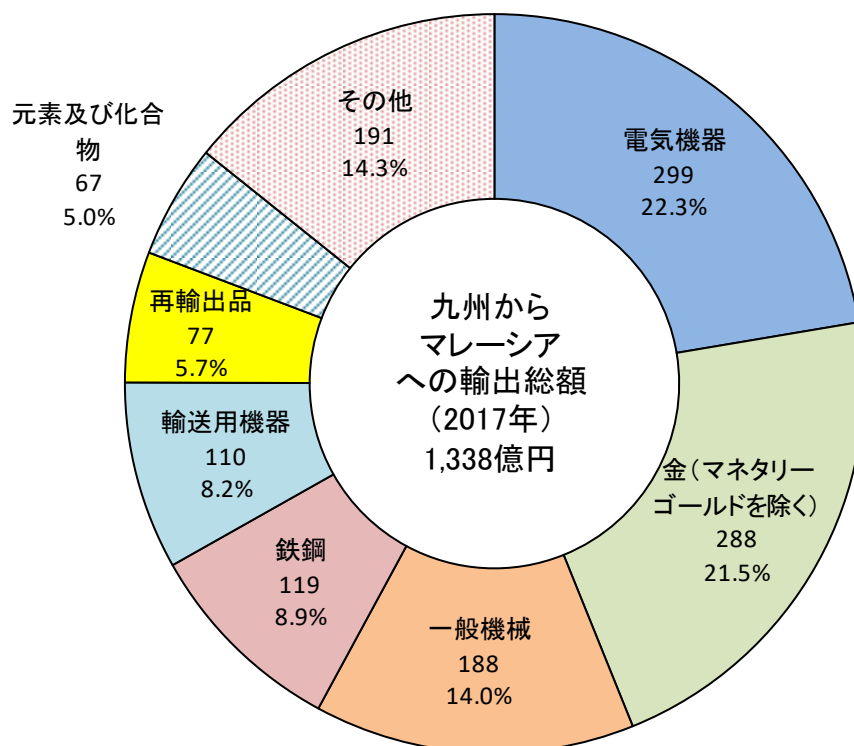


出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 2-10-6 九州からマレーシアへの輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
金(マネタリーゴールドを除く)	金(マネタリーゴールドを除く)	288	21.5%
半導体等電子部品	電気機器	268	20.0%
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	118	8.8%
荷役機械	一般機械	98	7.4%
自動車	輸送用機器	57	4.2%
自動車の部分品	輸送用機器	53	4.0%
無機化合物	元素及び化合物	34	2.6%
有機化合物	元素及び化合物	32	2.4%
半導体等製造装置	一般機械	31	2.3%
ガラス及び同製品	非金属鉱物製品	30	2.2%
その他		329	24.6%
総 額		1,338	100.0%

寄与度(増加分)：半導体等電子部品(+7.2%)、荷役機械(+4.5%)等

寄与度(減少分)：自動車の部分品(▲2.7%)等

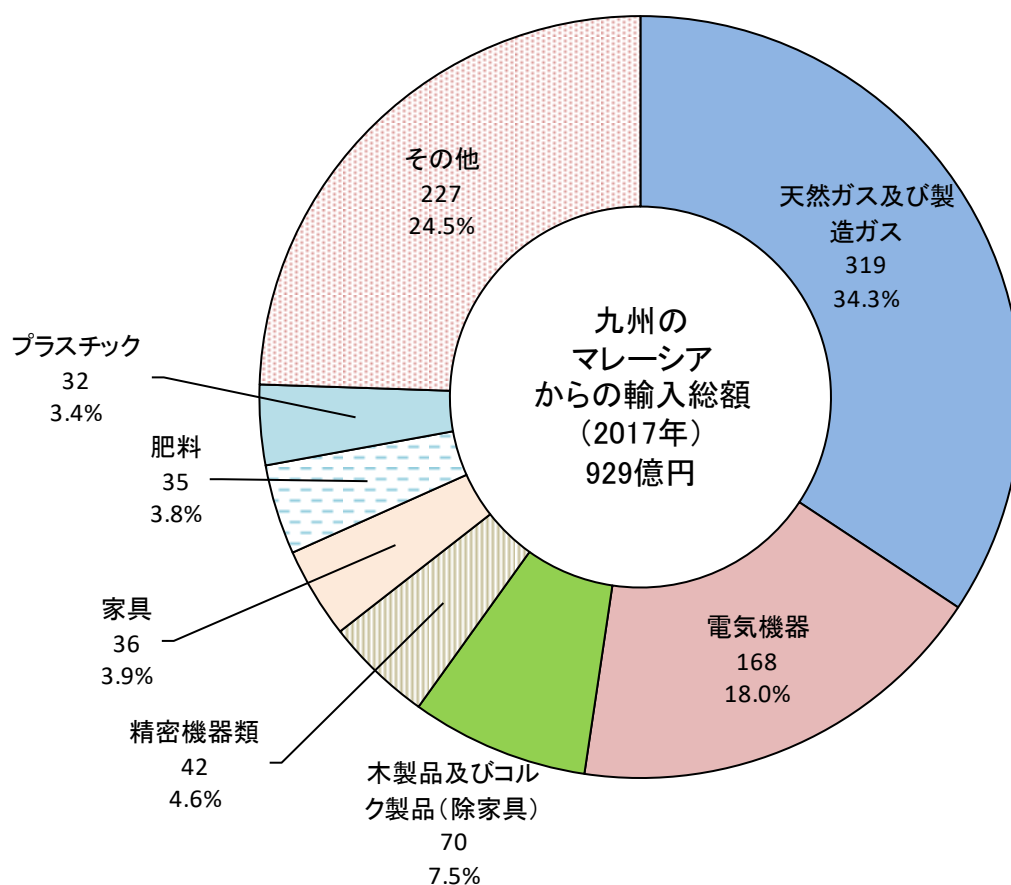
出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。



図表 2-10-7 九州のマレーシアからの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)



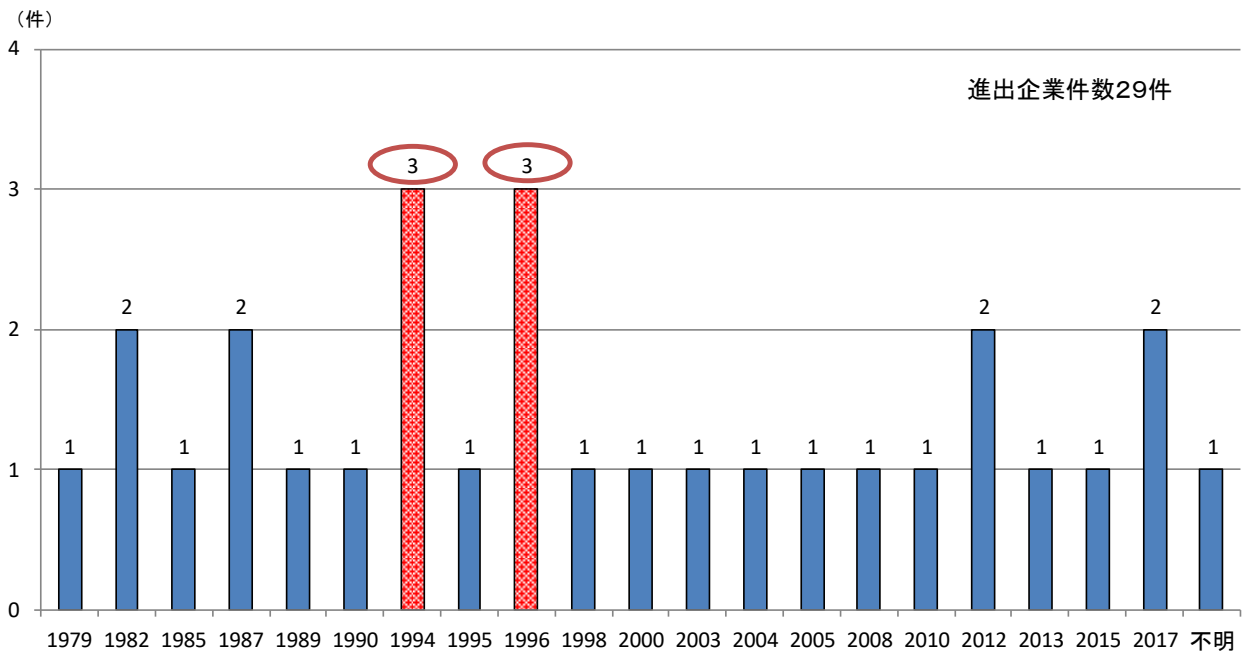
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
石油ガス類	天然ガス及び製造ガス	319	34.3%
合板・ウッドパネル	木製品及びコルク製品(除家具)	59	6.3%
音響・映像機器(含部品)	電気機器	45	4.9%
通信機	電気機器	43	4.6%
科学光学機器	精密機器類	42	4.6%
半導体等電子部品	電気機器	38	4.1%
植物性原材料	その他の動植物性原材料	24	2.6%
自動車の部分品	輸送用機器	22	2.4%
ポリエチレン	プラスチック	16	1.7%
絶縁電線及び絶縁ケーブル	電気機器	16	1.7%
その他		305	32.9%
総 額		929	100.0%

寄与度 (増加分)：石油ガス類 (+6.4%)、通信機 (+3.4%) 等

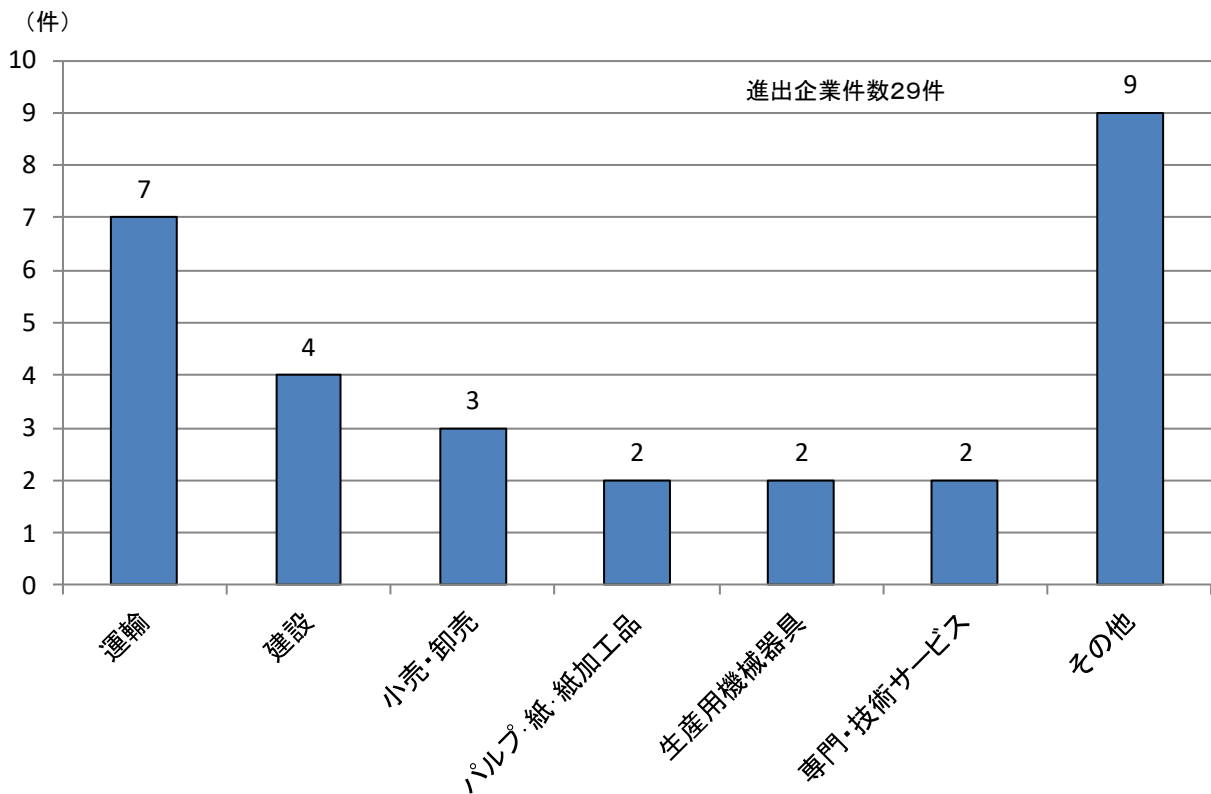
寄与度 (減少分)：魚介類の粉、ミール及びペレット (▲0.9%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-10-8 九州企業のマレーシアへの進出件数の推移



図表 2-10-9 マレーシアに進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-10-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

## 第11章 九州とフィリピンの経済関係

### 1. フィリピンの経済概況

国名	フィリピン共和国
面積	29万9,404km <sup>2</sup> (日本の約8割)。7,109の島々がある。
人口	約1億98万人(2015年フィリピン国勢調査)
首都	マニラ(首都圏人口約1,288万人)(2015年フィリピン国勢調査)
人種	マレー系が主体。ほかに中国系、スペイン系及びこれらとの混血並びに少数民族がいる。
言語	国語はフィリピン語、公用語はフィリピン語及び英語。80前後の言語がある。
宗教	ASEAN唯一のキリスト教国。国民の83%がカトリック、その他のキリスト教10%。イスラム教5%(ミンダナオではイスラム教徒が人口の2割以上)。
政体	立憲共和制
主要産業	農林水産業(全就業人口の約27%が従事)(2016年1月) 近年、コールセンター事業等のビジネス・プロセス・アウトソーシング(BPO)産業を含めたサービス業が大きく成長(全就業人口の約56%が従事)(2016年1月)

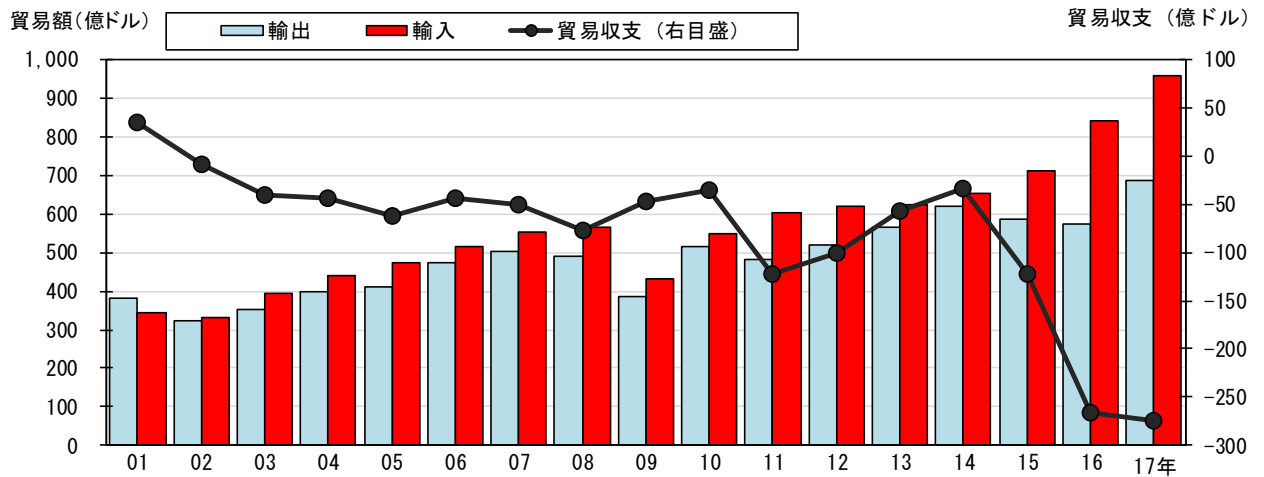
出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

図表 2-11-1 フィリピンのマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	7.1	6.1	6.1	6.9	6.7
名目GDP総額	十億ドル	272	285	293	305	314
一人当たりGDP(名目)	ドル	2,768	2,849	2,883	2,953	2,989
輸出額	億ドル	567	621	588	574	687
	前年比(%)	8.8	9.5	▲ 5.3	▲ 2.4	19.7
輸入額	億ドル	624	654	711	841	961
	前年比(%)	0.5	4.8	8.7	18.3	14.2
貿易収支	億ドル	▲ 57	▲ 33	▲ 122	▲ 267	▲ 274
対日貿易収支	億ドル	68	86	53	21	▲ 3 *
製造業生産指数	前年比(%)	5.4	6.2	▲ 4.4	6.6	▲ 1.4
失業率	(%)	7.1	6.8	6.3	5.5	5.7
消費者物価指数	前年比(%)	2.6	3.6	0.7	1.3	2.9
直接投資受入額	億ドル	65	42	54	46	21 *
為替レート(1ドル)	ペソ	42.45	44.40	45.50	47.49	50.40
為替レート(1ペソ)	円	2.30	2.39	2.66	2.29	2.23

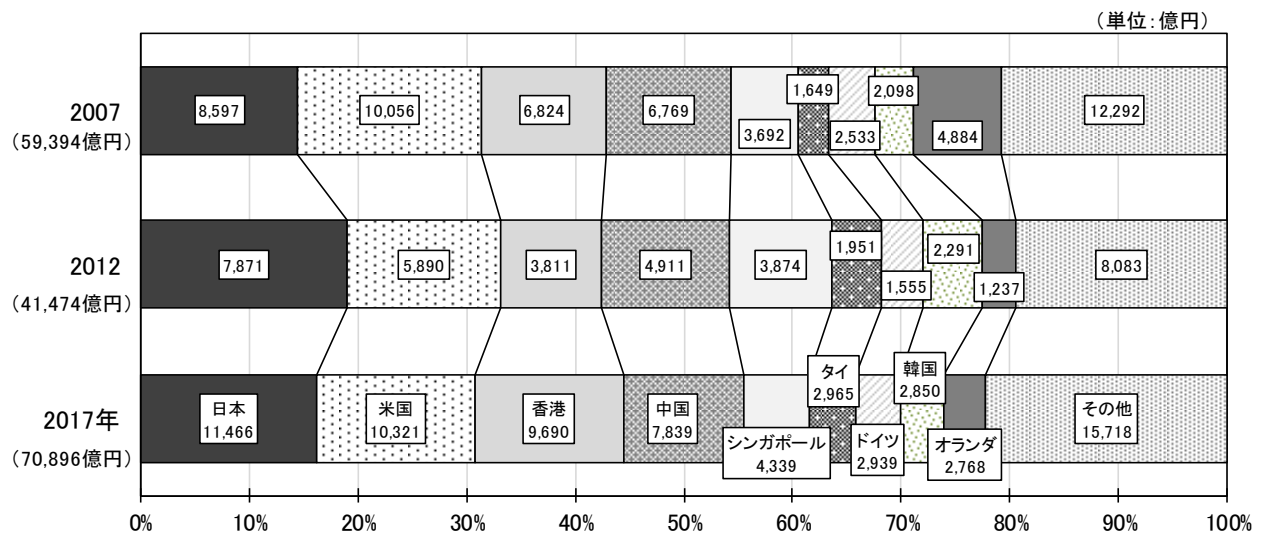
出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」(平成30年10月)、\*はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

図表 2-11-2 フィリピンの対外貿易額の推移

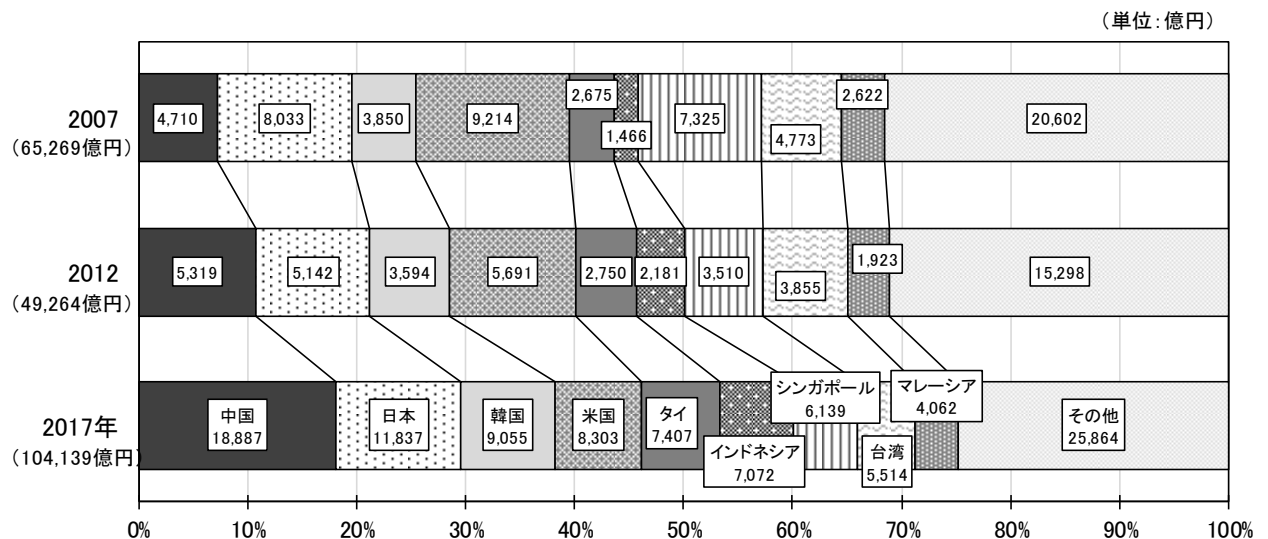


出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」（平成 30 年 10 月）より九州経済産業局作成。

図表 2-11-3 フィリピンの輸出相手国・地域の推移



図表 2-11-4 フィリピンの輸入相手国・地域の推移

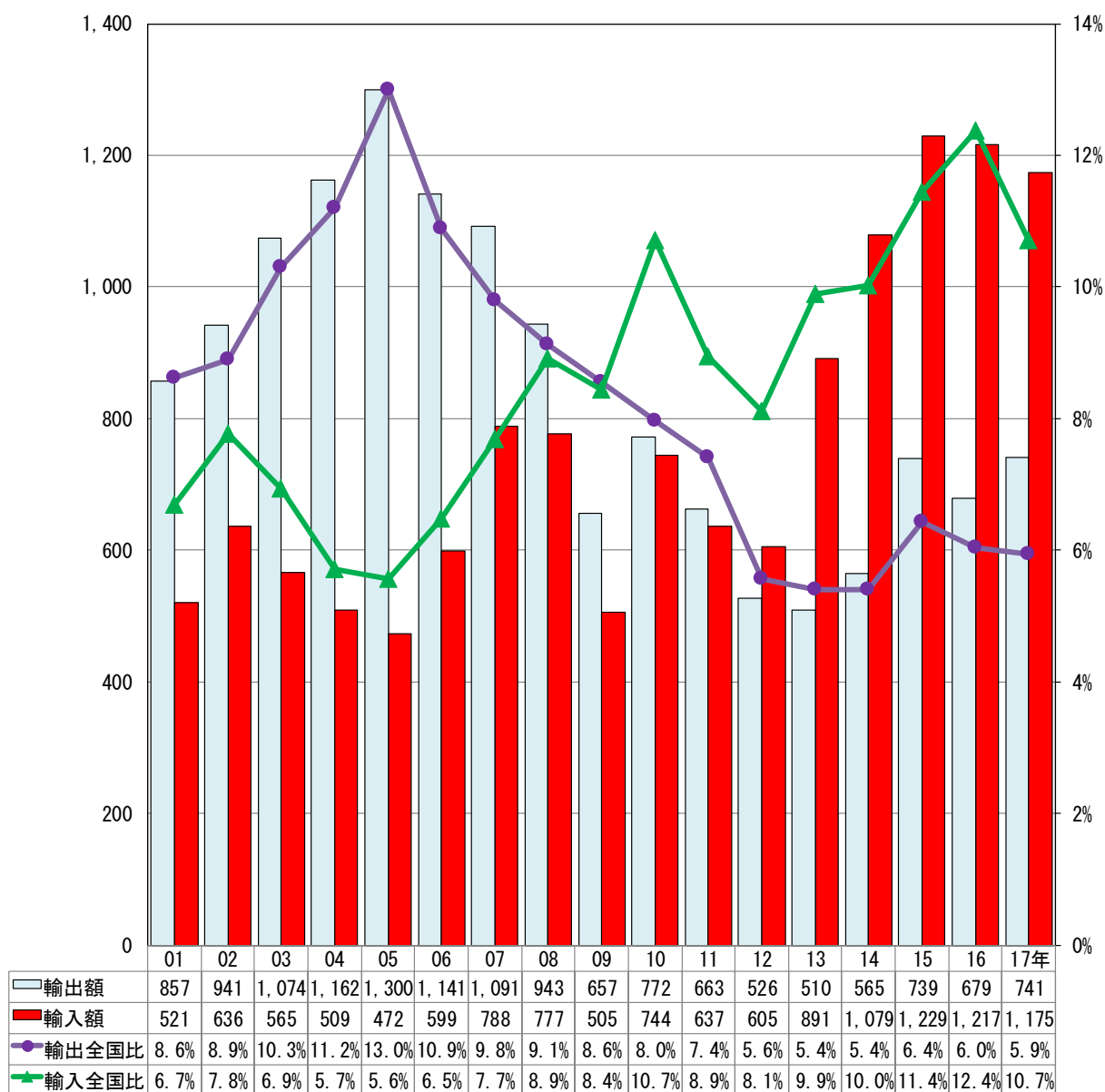


図表 2-11-3～4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

## 2. 九州とフィリピンの経済動向

- 2017年の九州の対フィリピン貿易額は、輸出が741億円（前年比9.3%増）で前年より増加した。一方、輸入は1,175億円（前年比3.5%減）で前年より減少し、2年連続の減少となった。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、鉄鋼のフラットロール製品、船舶類であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、自動車（寄与度：+6.4%）、鉄鋼のフラットロール製品（同+1.5%）等であった。一方、減少では、原動機（同▲2.4%）、石油製品（同▲0.9%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、絶縁電線及び絶縁ケーブル、果実、非鉄金属鉱であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、絶縁電線及び絶縁ケーブル（寄与度：+4.0%）、音響・映像機器（含部品）（同+1.6%）等であった。一方、減少では、非鉄金属鉱（銅鉱）（同▲7.8%）、半導体等電子部品（同▲1.1%）等であった。

図表 2-11-5 九州の対フィリピン貿易額の推移 全国比 (%)

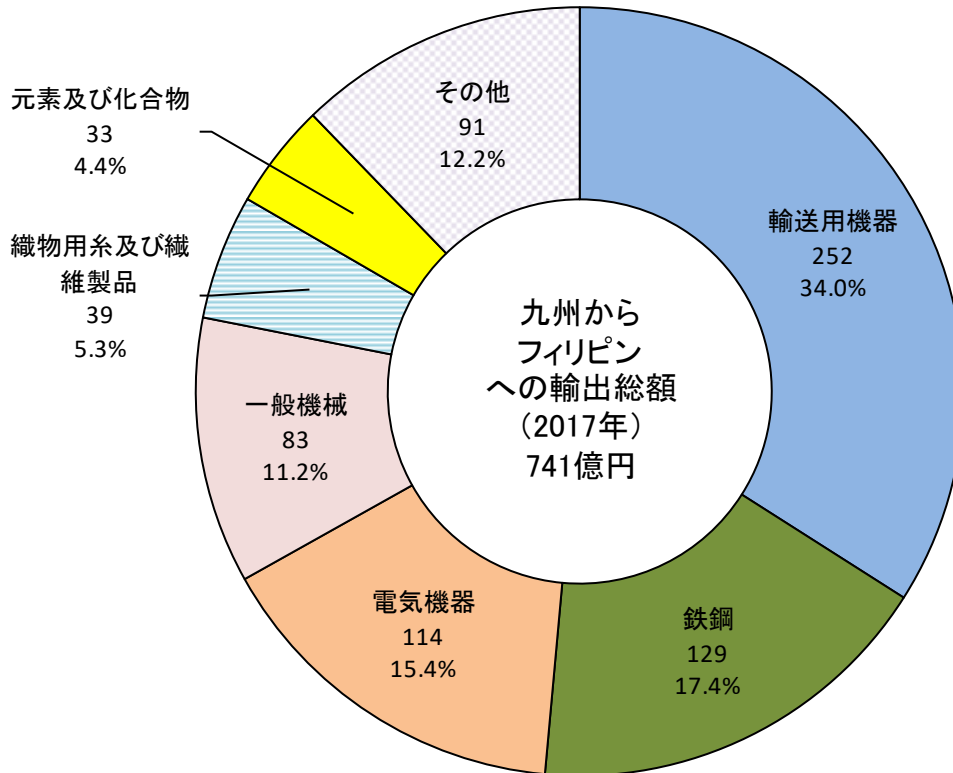


出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 2-11-6 九州からフィリピンへの輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
自動車	輸送用機器	185	25.0%
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	129	17.3%
船舶類	輸送用機器	58	7.8%
半導体等電子部品	電気機器	51	6.9%
織物用糸	織物用糸及び繊維製品	33	4.4%
有機化合物	元素及び化合物	30	4.1%
事務用機器	一般機械	29	3.9%
セメント	非金属鉱物製品	26	3.4%
建設用・鉱山用機械	一般機械	14	1.9%
原動機	一般機械	14	1.9%
その他		174	23.4%
総 額		741	100.0%

寄与度 (増加分)：自動車 (+6.4%)、鉄鋼のフラットロール製品 (+1.5%) 等

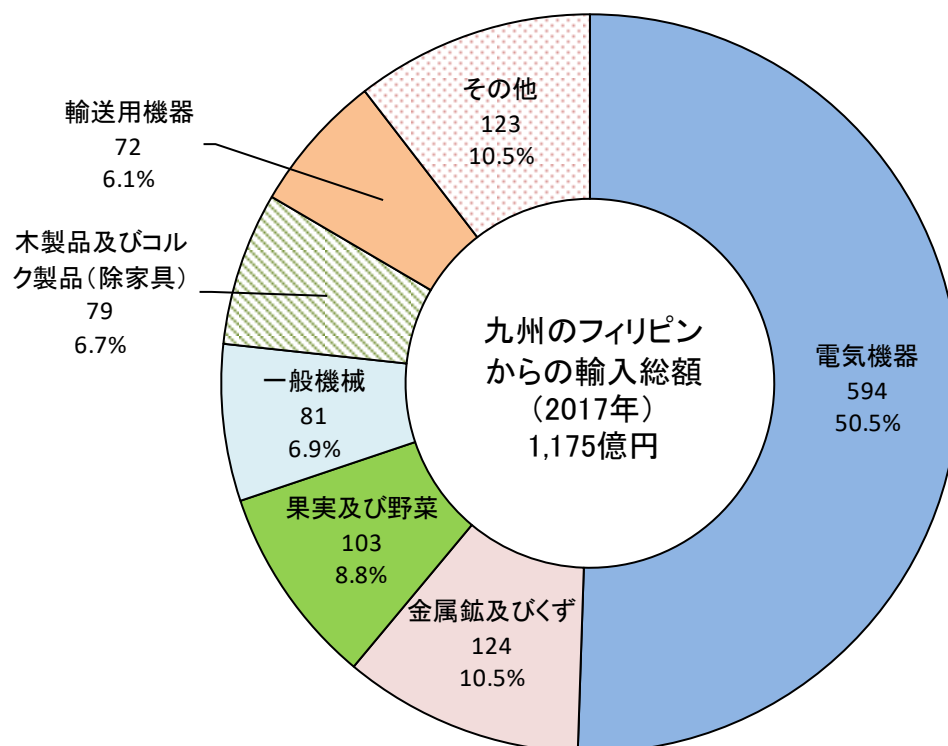
寄与度 (減少分)：原動機 (▲2.4%)、石油製品 (▲0.9%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-11-7 九州のフィリピンからの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)



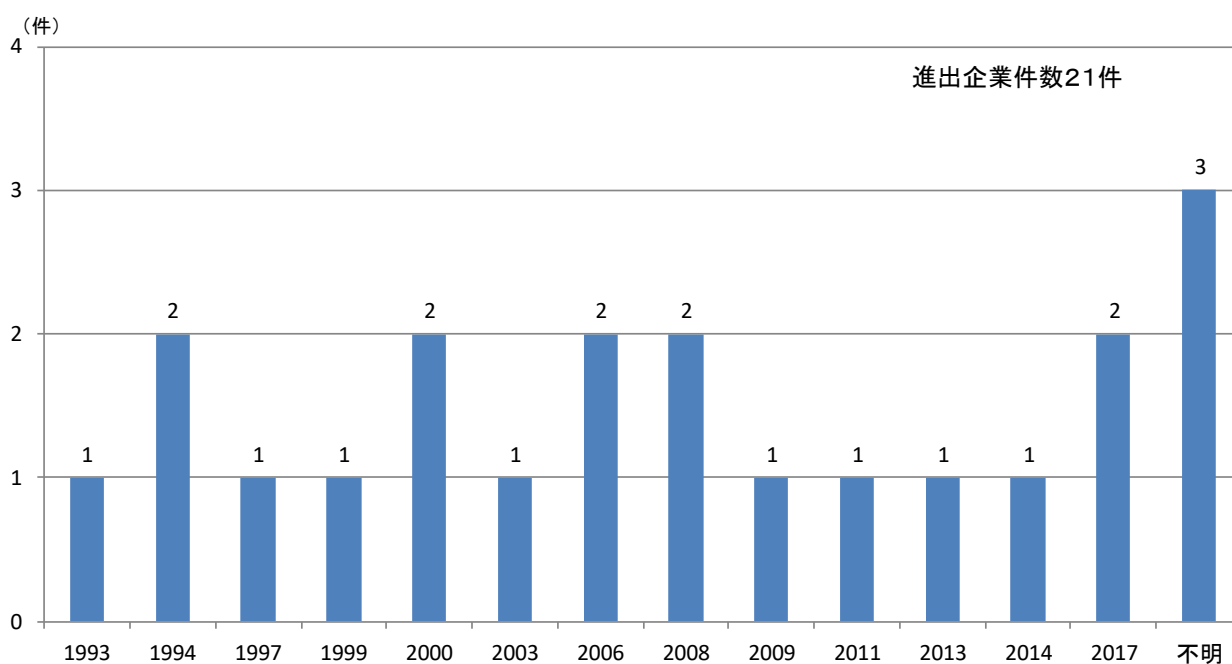
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
絶縁電線及び絶縁ケーブル	電気機器	359	30.6%
果実	果実及び野菜	103	8.8%
非鉄金属鉱	金属鉱及びびくず	90	7.7%
木製建具及び建築用木工品	木製品及びコルク製品(除家具)	76	6.4%
音響・映像機器(含部品)	電気機器	75	6.4%
自動車の部分品	輸送用機器	65	5.5%
重電機器	電気機器	54	4.6%
半導体等電子部品	電気機器	46	3.9%
事務用機器	一般機械	39	3.3%
ポンプ及び遠心分離機	一般機械	31	2.7%
その他		236	20.1%
総 額		1,175	100.0%

寄与度(増加分)：絶縁電線及び絶縁ケーブル(+4.0%)、音響・映像機器(含部品)(+1.6%)等

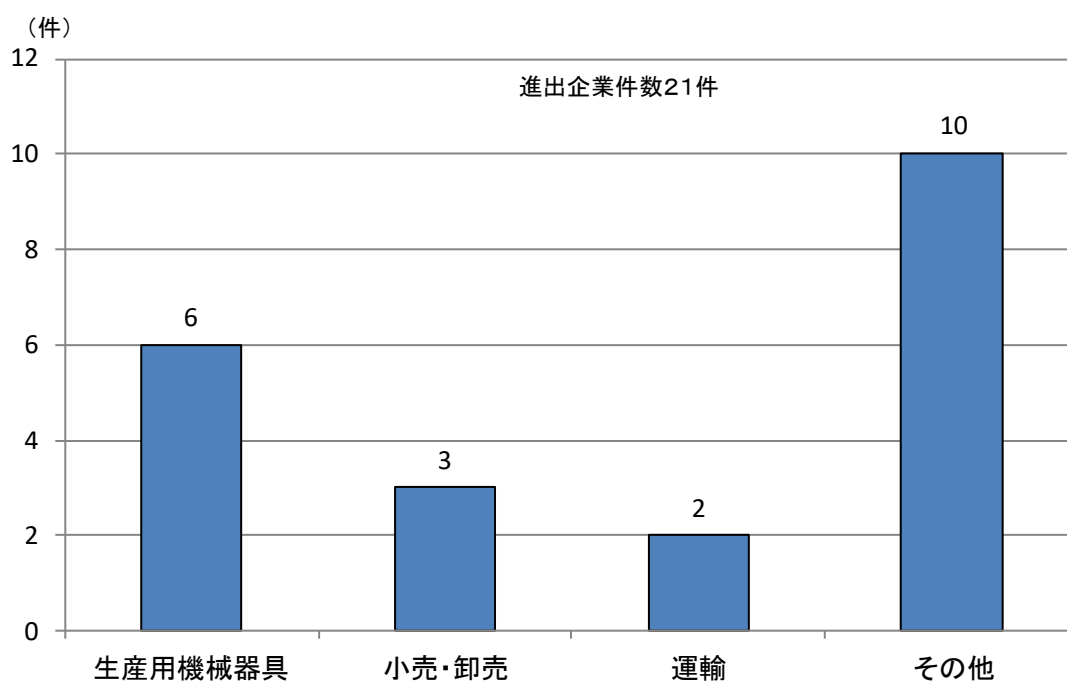
寄与度(減少分)：非鉄金属鉱(▲7.8%)、半導体等電子部品(▲1.1%)等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-11-8 九州企業のフィリピンへの進出件数の推移



図表 2-11-9 フィリピンに進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-11-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。



## 第12章 九州とインドネシアの経済関係

### 1. インドネシアの経済概況

国名	インドネシア共和国
面積	約189万km <sup>2</sup> (日本の約5倍)
人口	約2.55億人(2015年、インドネシア政府統計)
首都	ジャカルタ(人口1,017人:2015年、インドネシア政府統計)
人種	大半がマレー系(ジャワ、スダ等約300種族)
言語	インドネシア語
宗教	イスラム教 87.21%、キリスト教 9.87%(プロテスタント 6.96%、カトリック 2.91%)、ヒンズー教 1.69%、仏教 0.72%、儒教 0.05%、その他 0.50%(2013年、宗教省統計)
政体	大統領制、共和制
主要産業	製造業(20.2%):輸送機器(二輪車など)、飲食品など 農林水産業(13.1%):パーム油、ゴム、米、ココア、キャッサバ、コーヒー豆など 商業・ホテル・飲食業(13.0%) 鉱業(7.6%):LNG、石炭、錫、石油など 建設(10.4%)、運輸・通信(9.2%)、金融・保険(4.2%)、 行政サービス・軍事・社会保障(3.7%) (カッコ内は2017年における名目GDP構成比)(インドネシア政府統計)

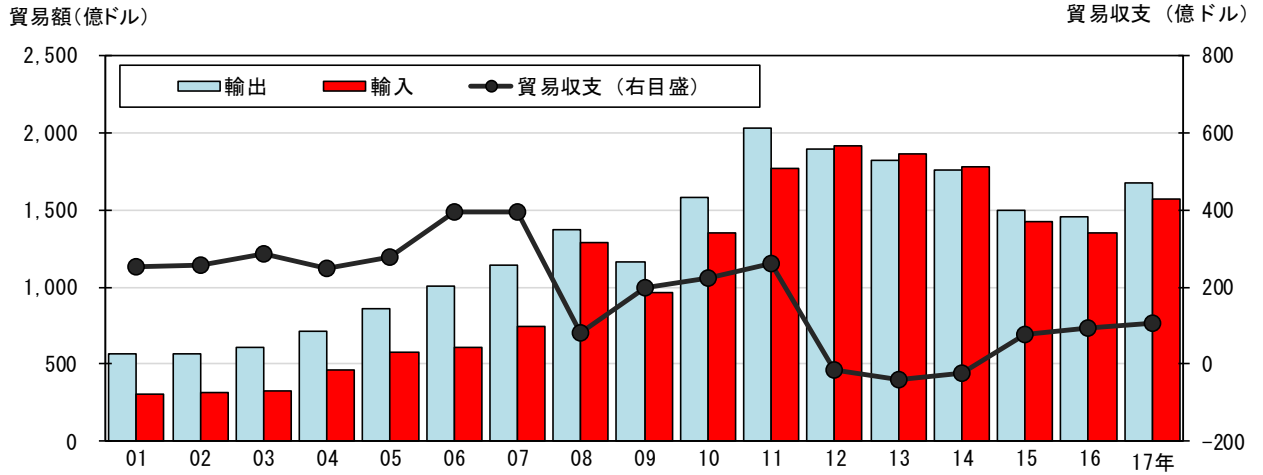
出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

図表 2-12-1 インドネシアのマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	5.6	5.0	4.9	5.0	5.1
名目GDP総額	十億ドル	917	891	861	932	1,015
一人当たりGDP(名目)	ドル	3,684	3,534	3,369	3,604	3,876
輸出額	億ドル	1,826	1,760	1,504	1,452	1,688
	前年比(%)	▲ 3.9	▲ 3.6	▲ 14.6	▲ 3.4	16.2
輸入額	億ドル	1,866	1,782	1,427	1,357	1,569
	前年比(%)	▲ 2.6	▲ 4.5	▲ 19.9	▲ 4.9	15.7
貿易収支	億ドル	▲ 41	▲ 22	77	95	118
対日貿易収支	億ドル	78	61	48	31	25*
製造業生産指数	前年比(%)	6.6	4.8	4.8	4.0	4.7
失業率	(%)	6.3	5.9	6.2	5.6	5.5
消費者物価指数	前年比(%)	6.4	6.4	6.4	3.5	3.8
直接投資受入額	億ドル	286	285	293	290	322*
為替レート(1ドル)	ルピア	10,461.24	11,865.21	13,389.41	13,308.33	13,380.83
為替レート(1ルピア)	円	0.009	0.009	0.009	0.008	0.008

出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」(平成30年10月)、\*はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

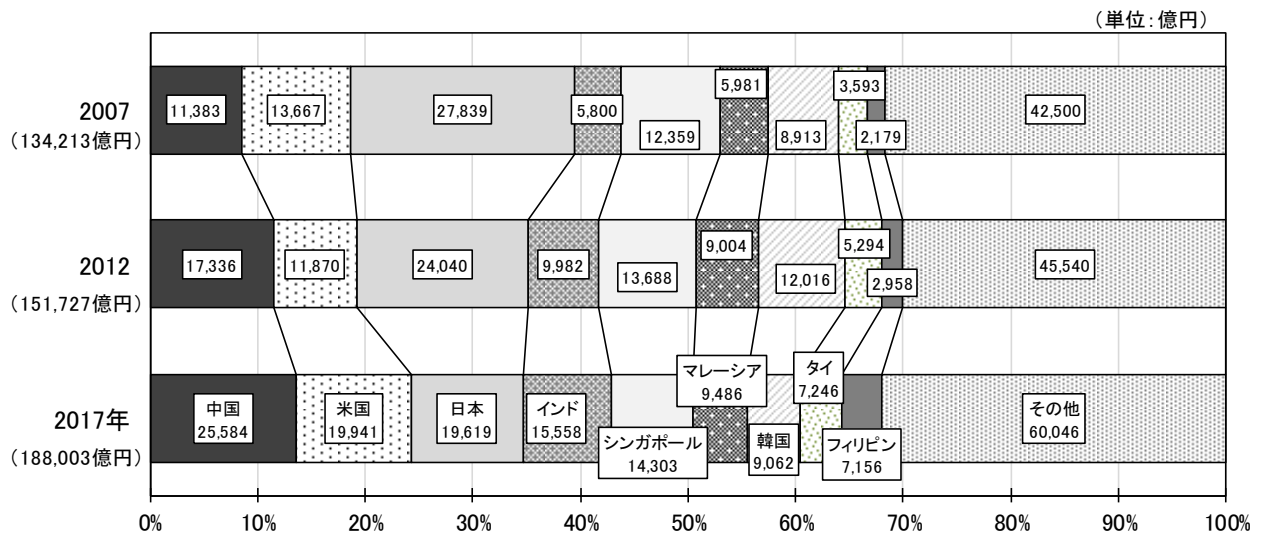
図表 2-12-2 インドネシアの対外貿易額の推移



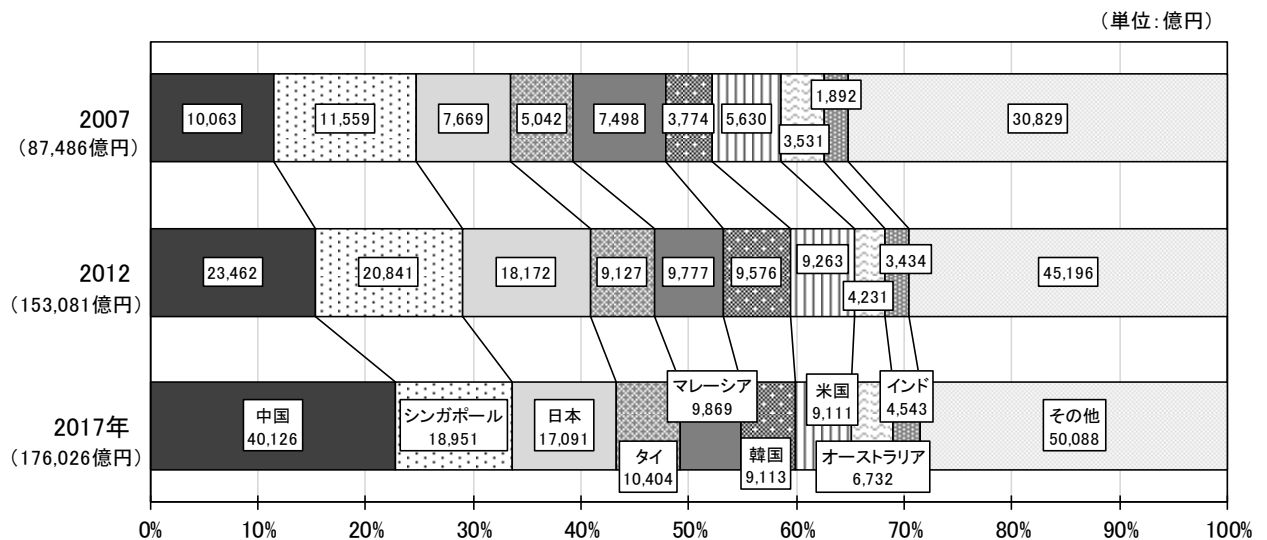
備考：一部推計値を含む。

出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」（平成 30 年 10 月）より九州経済産業局作成。

図表 2-12-3 インドネシアの輸出相手国・地域の推移



図表 2-12-4 インドネシアの輸入相手国・地域の推移

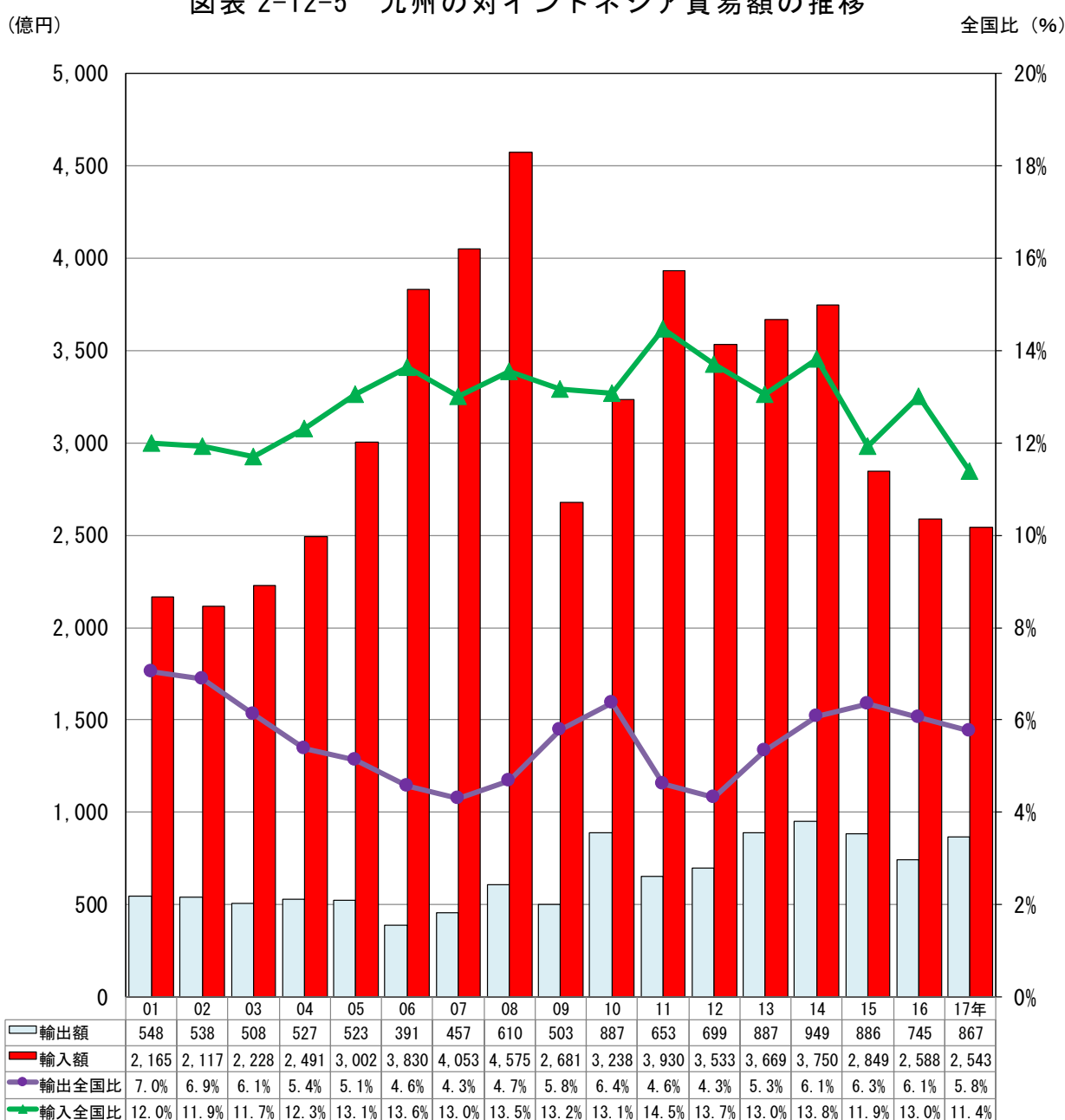


図表 2-12-3~4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

## 2. 九州とインドネシアの経済動向

- 2017年の九州の対インドネシア貿易額は、輸出が867億円（前年比16.3%増）で前年より増加した。一方、輸入は2,543億円（前年比1.7%減）で前年より減少し、3年連続の減少となった。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、鉄鋼のフラットロール製品、ゴムタイヤ及びチューブ、有機化合物であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、鉄鋼のフラットロール製品（寄与度：+7.3%）、ゴムタイヤ及びチューブ（同+6.6%）等であった。一方、減少では、荷役機械（同▲7.5%）、船舶類（同▲3.6%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、石炭、石油ガス類、天然ゴムであった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、天然ゴム（寄与度：+4.9%）、石炭（同+3.4%）等であった。一方、減少では、石油ガス類（同▲8.5%）、非鉄金属鉱（同▲7.5%）等であった。

図表 2-12-5 九州の対インドネシア貿易額の推移

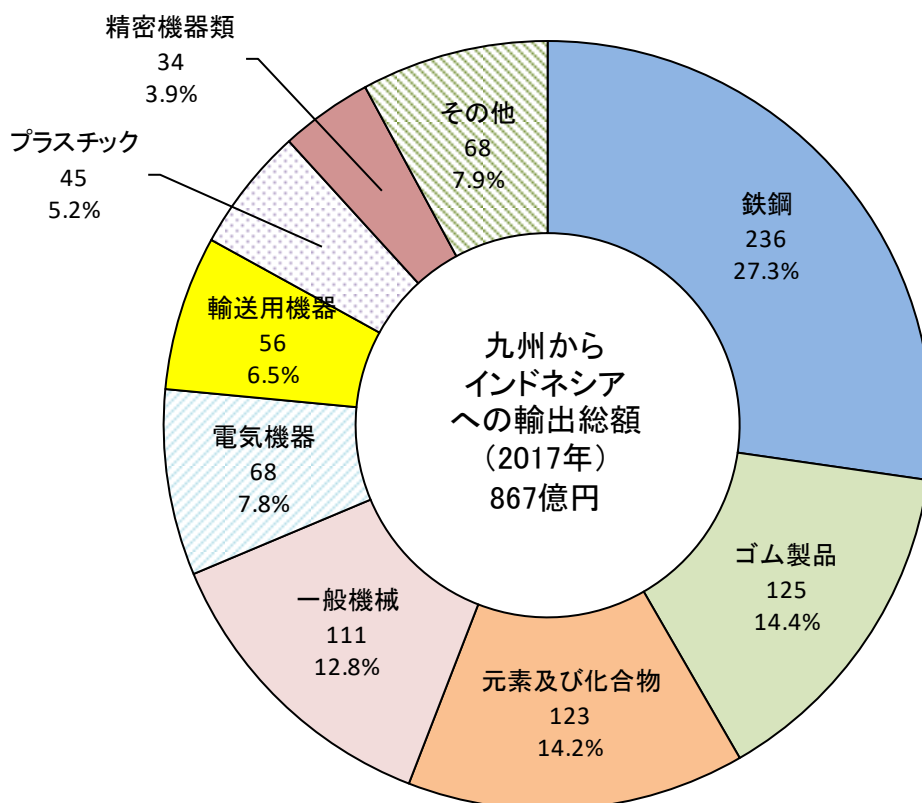


出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 2-12-6 九州からインドネシアへの輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	178	20.5%
ゴムタイヤ及びチューブ	ゴム製品	122	14.1%
有機化合物	元素及び化合物	90	10.4%
原動機	一般機械	61	7.0%
鉄鋼の棒・形鋼及び線	鉄鋼	56	6.4%
自動車	輸送用機器	51	5.9%
科学光学機器	精密機器類	34	3.9%
無機化合物	元素及び化合物	33	3.9%
半導体等電子部品	電気機器	24	2.8%
通信機	電気機器	21	2.4%
その他		198	22.8%
総 額		867	100.0%

寄与度（増加分）：鉄鋼のフラットロール（+7.3%）、ゴムタイヤ及びチューブ（+6.6%）等

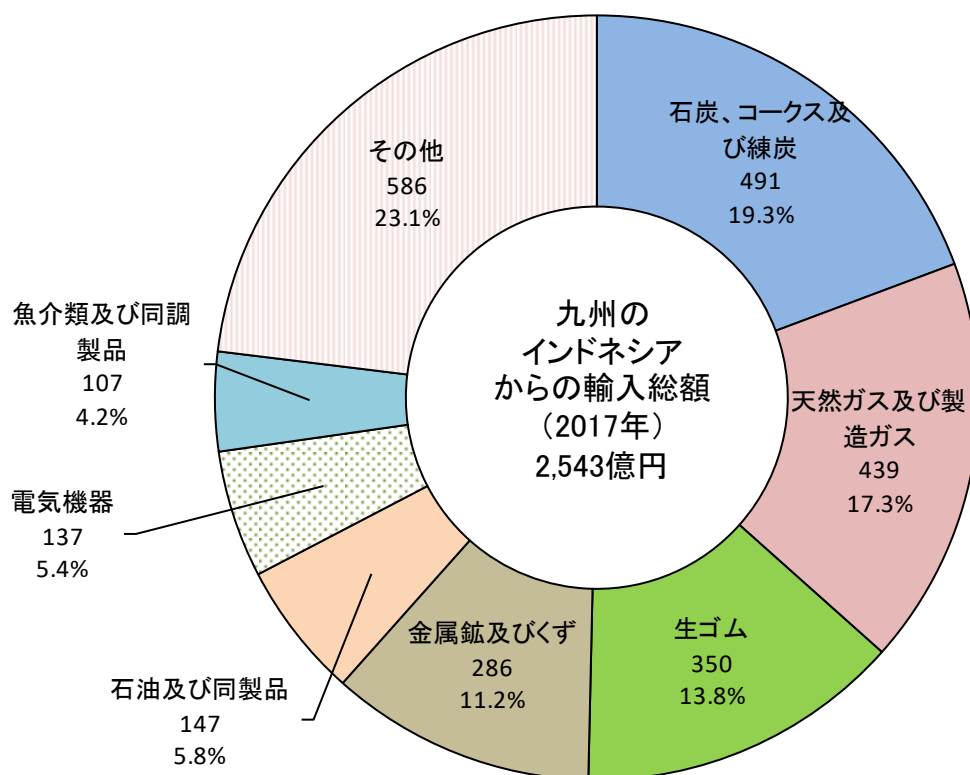
寄与度（減少分）：荷役機械（▲7.5%）、船舶類（▲3.6%）等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-12-7 九州のインドネシアからの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)



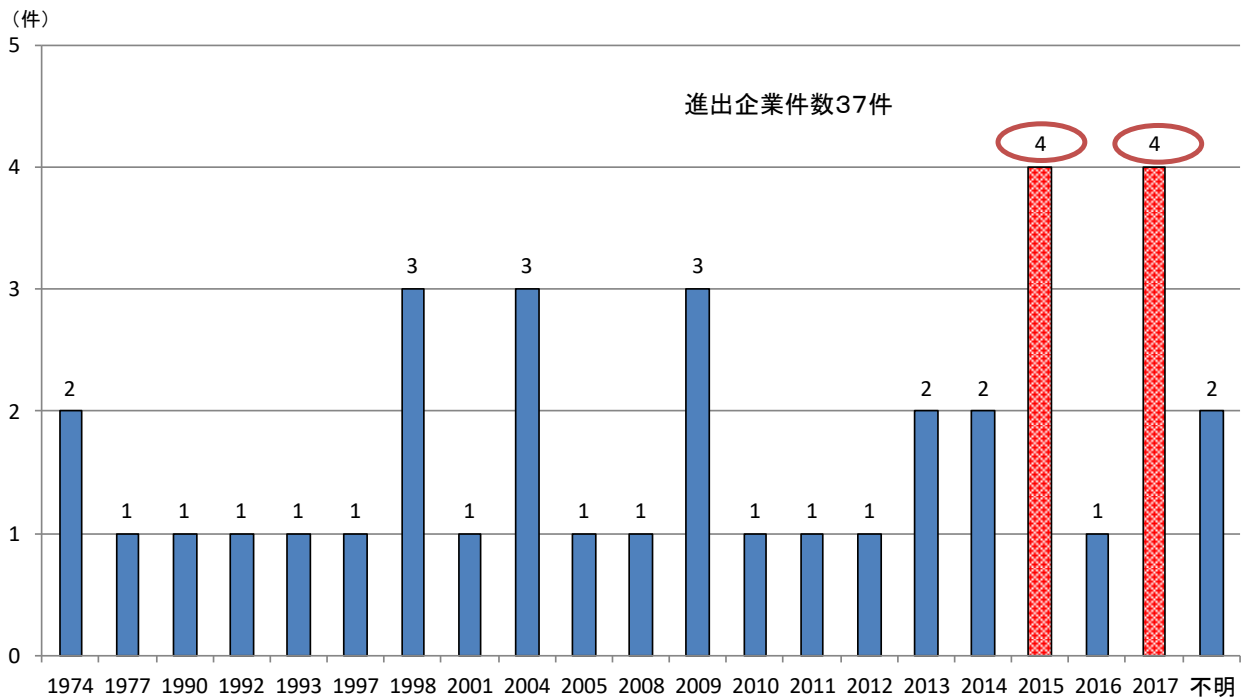
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
石炭	石炭、コークス及び練炭	491	19.3%
石油ガス類	天然ガス及び製造ガス	439	17.3%
天然ゴム	生ゴム	350	13.8%
非鉄金属鉱	金属鉱及びびくず	277	10.9%
原油及び粗油	石油及び同製品	147	5.8%
魚介類	魚介類及び同調製品	82	3.2%
自動車の部分品	輸送用機器	74	2.9%
絶縁電線及び絶縁ケーブル	電気機器	71	2.8%
すず及び同合金	非鉄金属	63	2.5%
合板・ウッドパネル	木製品及びコルク製品(除家具)	51	2.0%
その他		497	19.5%
総 額		2,543	100.0%

寄与度 (増加分) : 天然ゴム (+4.9%)、石炭 (+3.4%) 等

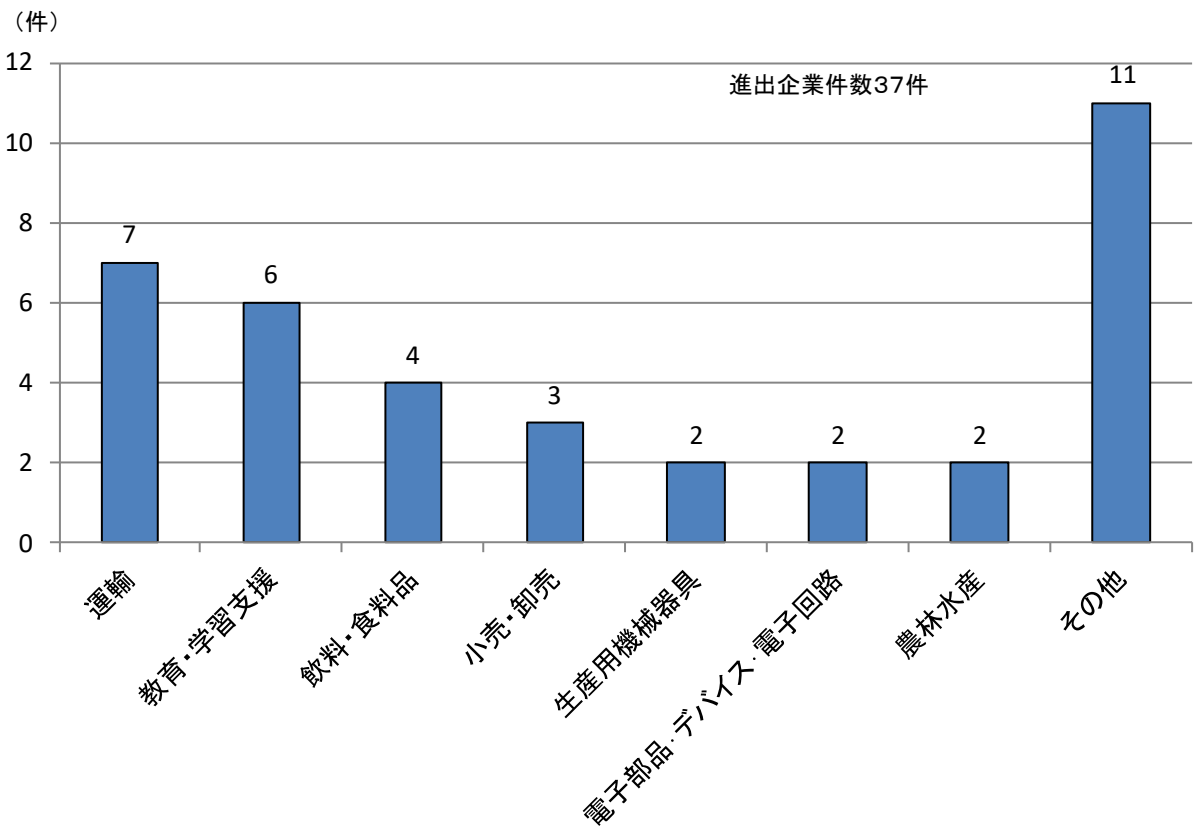
寄与度 (減少分) : 石油ガス類 (▲8.5%)、非鉄金属鉱 (▲7.5%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-12-8 九州企業のインドネシアへの進出件数の推移



図表 2-12-9 インドネシアに進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-12-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

## 第13章 九州とミャンマーの経済関係

### 1. ミャンマーの経済概況

国名	ミャンマー連邦共和国
面積	約68万km <sup>2</sup> (日本の約1.8倍)
人口	5,141万人(2014年9月(ミャンマー入国管理・人口省発表))
首都	ネーピードー
人種	ビルマ族(約70%)、その他多くの少数民族
言語	ミャンマー語
宗教	仏教(90%)、キリスト教、イスラム教等
政体	大統領制、共和制
主要産業	農業

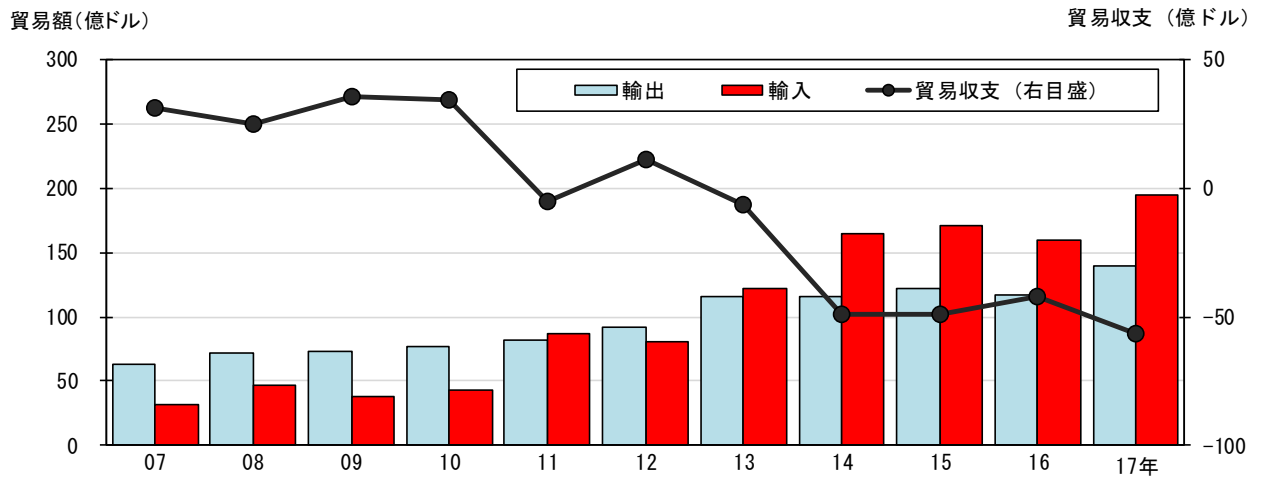
出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

図表 2-13-1 ミャンマー経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	8.4	8.0	7.0	5.9	6.7
名目GDP総額	10億ドル	60.1	65.6	59.5	63.3	66.5
一人当たりGDP(名目)	ドル	1,180	1,275	1,147	1,210	1,264
輸出額	億ドル	115.4	115.5	122.5	117.3	139.0
	前年比(%)	26.0	0.1	6.0	▲ 4.3	18.6
輸入額	億ドル	122.0	164.6	171.3	159.2	195.4
	前年比(%)	52.4	34.9	4.1	▲ 7.1	22.7
貿易収支	億ドル	▲ 6.6	▲ 49.1	▲ 48.9	▲ 42.0	▲ 56.4
対日貿易収支	億ドル	▲ 8.1	▲ 11.0	▲ 10.5	▲ 5.9	▲ 1.5
消費者物価上昇率	(%)	5.5	5.1	9.5	7.0	4.6
失業率	(%)	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
直接投資受入額	億ドル	22.55	21.75	40.84	32.78	46.85
為替レート(1ドル)	チャット	933.57	984.35	1162.62	1234.87	1360.36

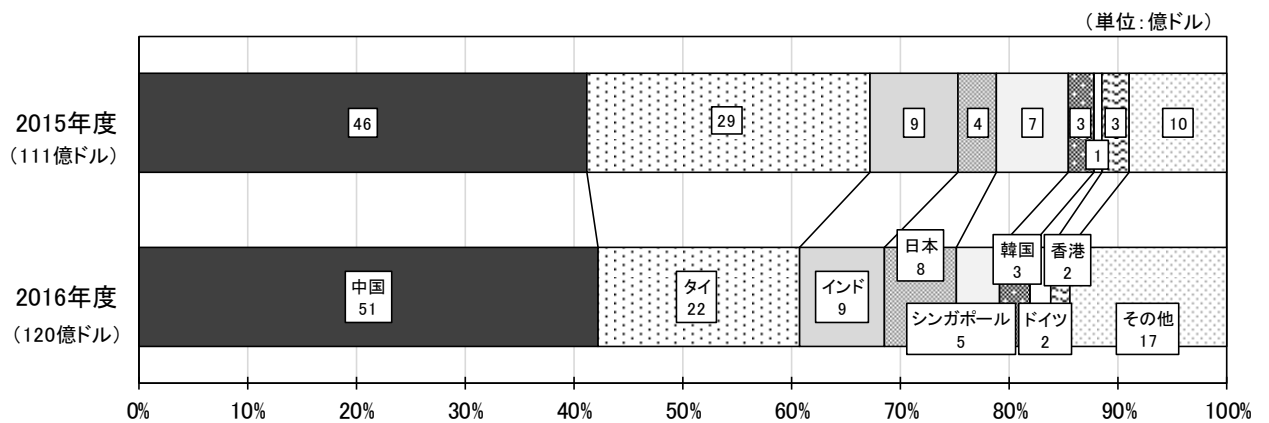
出所：ジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

図表 2-13-2 ミャンマーの対外貿易額の推移

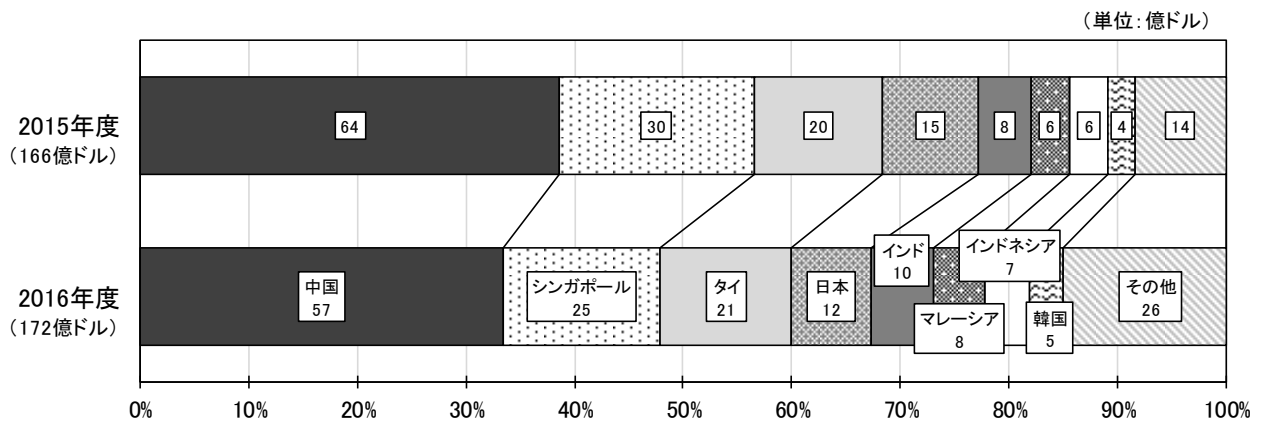


出所：ジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」（基礎的経済指標）より九州経済産業局作成。

図表 2-13-3 ミャンマーの輸出相手国・地域の推移



図表 2-13-4 ミャンマーの輸入相手国・地域の推移



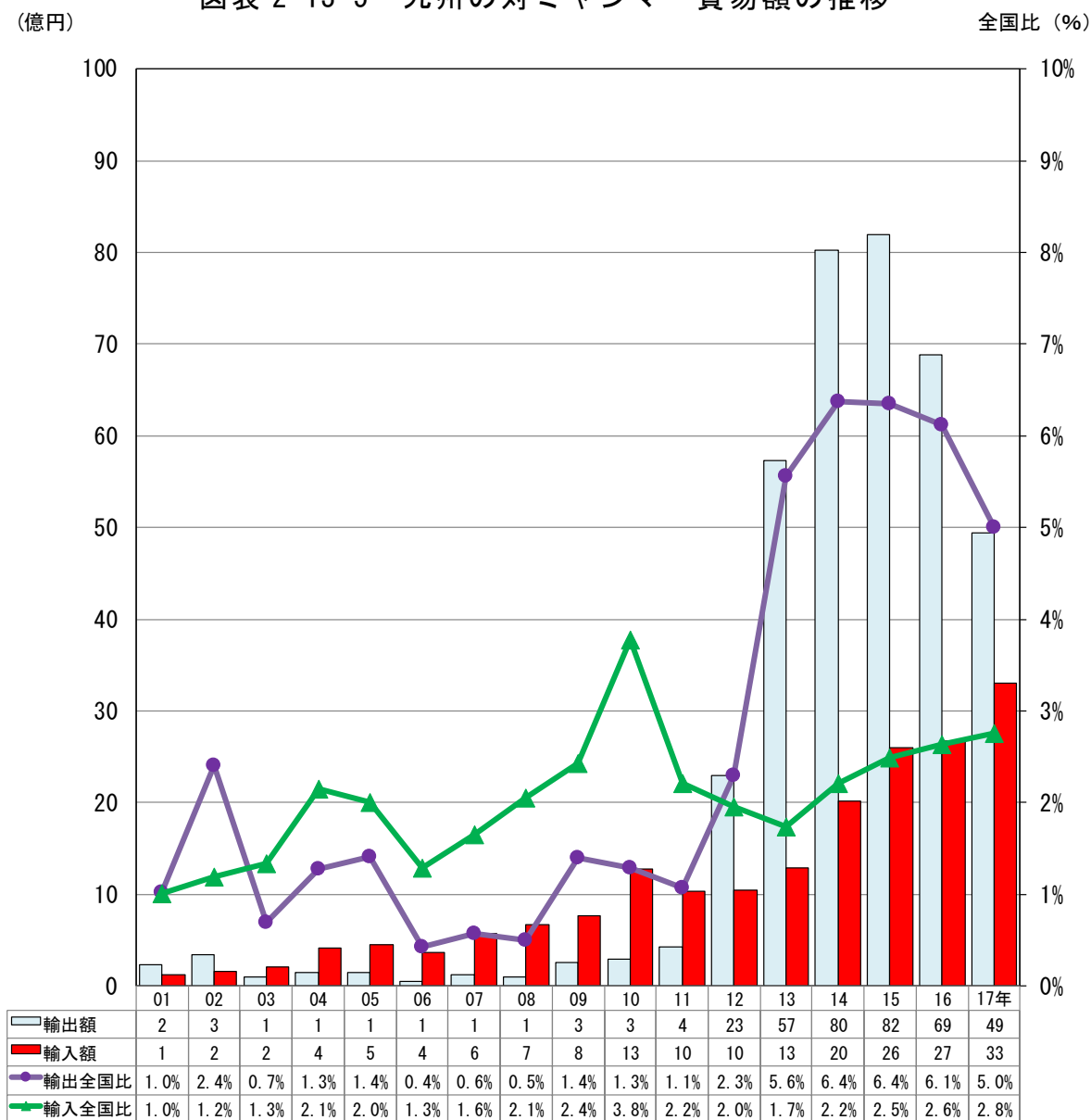
図表 2-13-3~4 出所：Central Statistical Organization Ministry of Planning and Finance より九州経済産業局作成。



## 2. 九州とミャンマーの経済動向

- 2012年以降、欧米諸国による制裁措置が緩和され、貿易額が大きく増加した。
- 2017年の九州の対ミャンマー貿易額は、輸出が49億円（前年比28.1%減）で前年より減少し、2年連続の減少となった。一方、輸入は33億円（前年比23.4%増）で前年より増加し、2012年以降5年連続の増加となった。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、ゴムタイヤ及びチューブ、鉄鋼のフラットロール製品であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、有機化合物（寄与度：+1.3%）、鉄鋼のフラットロール製品（同+1.1%）等であった。一方、減少では、自動車（同▲27.2%）、絶縁電線及び絶縁ケーブル（同▲1.6%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、衣類、メリヤス編み及びクロセ編み衣類、野菜であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、衣類（寄与度：+11.5%）、メリヤス編み及びクロセ編み衣類（同+5.4%）等であった。一方、減少では、野菜（同▲3.1%）であった。

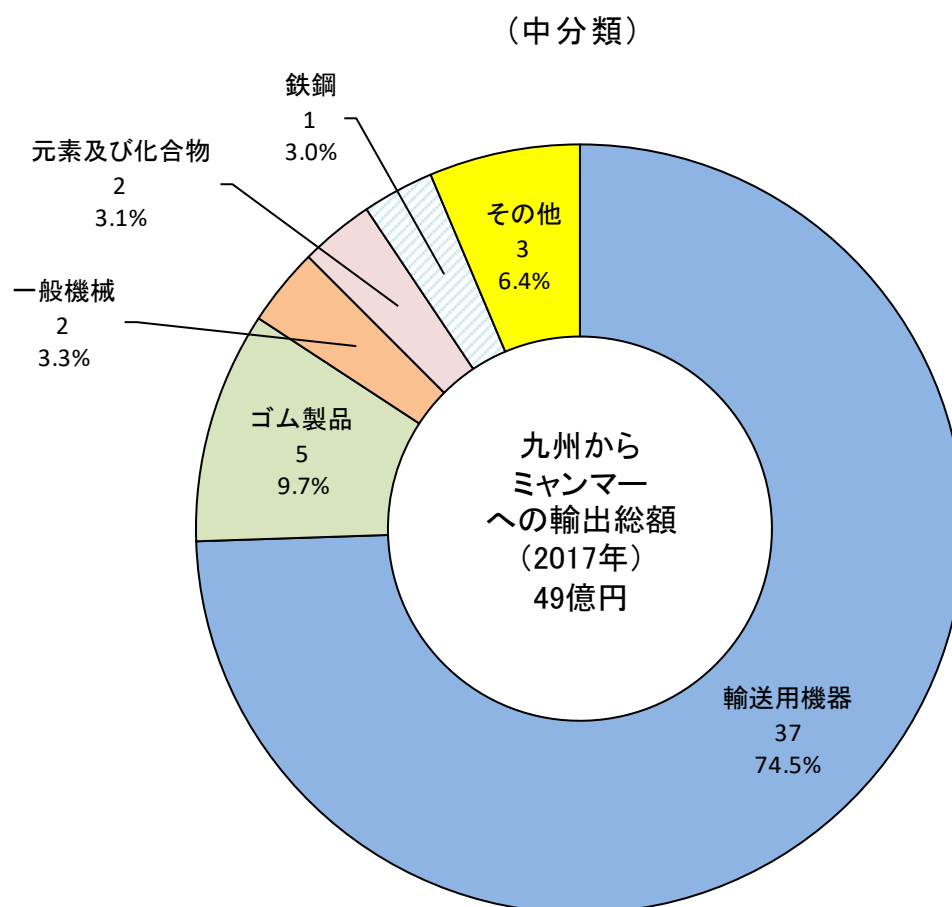
図表 2-13-5 九州の対ミャンマー貿易額の推移



出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 2-13-6 九州からミャンマーへの輸出品目

(単位：億円、%)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
自動車	輸送用機器	36	73.7%
ゴムタイヤ及びチューブ	ゴム製品	5	9.7%
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	1	3.0%
有機化合物	元素及び化合物	1.4	2.8%
加熱用・冷却用機器	一般機械	0.5	1.0%
二輪自動車類	輸送用機器	0.4	0.8%
紙及び板紙	紙類及び同製品	0.4	0.7%
構造物及び同建設材	金属製品	0.3	0.7%
映像機器	電気機器	0.3	0.6%
パルプ製造・製紙及び紙加工機械	一般機械	0.3	0.6%
その他		3	6.4%
総 額		49	100.0%

寄与度（増加分）：有機化合物（+1.3%）、鉄鋼のフラットロール製品（+1.1%）等

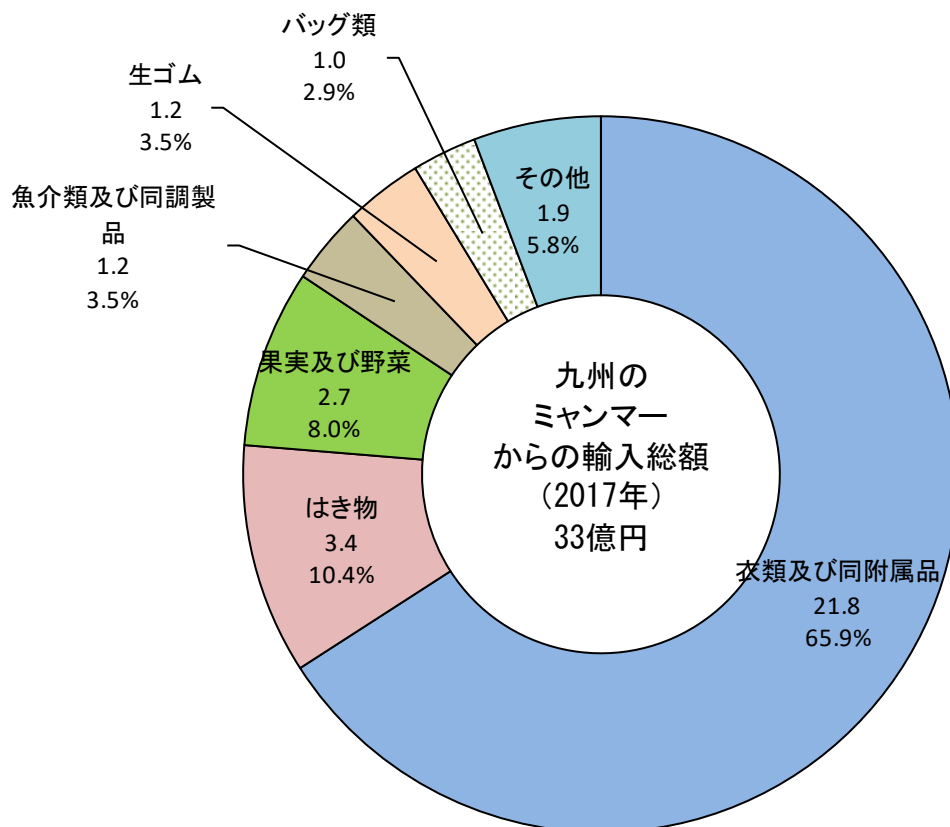
寄与度（減少分）：自動車（▲27.2%）、絶縁電線及び絶縁ケーブル（▲1.6%）等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-13-7 九州のミャンマーからの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)



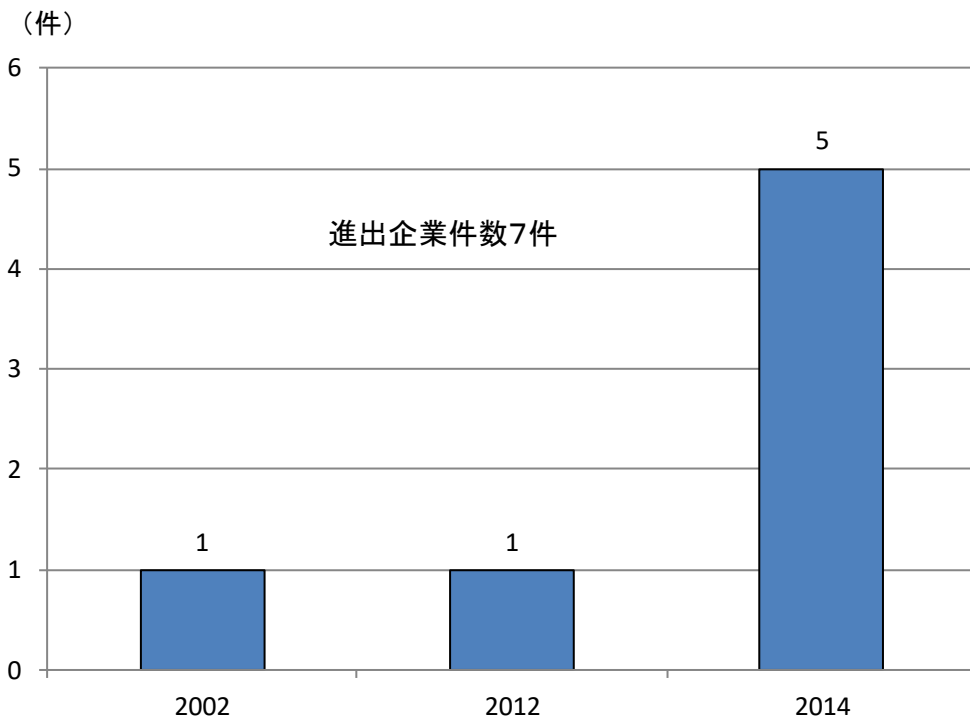
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
衣類	衣類及び同附属品	18.1	54.7%
メリヤス編み及びクロセ編み衣類	衣類及び同附属品	3.6	11.0%
野菜	果実及び野菜	2.6	7.8%
天然ゴム	生ゴム	1.2	3.5%
魚介類	魚介類及び同調製品	0.9	2.7%
その他		6.7	20.2%
総 額		33	100%

寄与度 (増加分)：衣類 (+11.5%)、メリヤス編み及びクロセ編み衣類 (+5.4%) 等

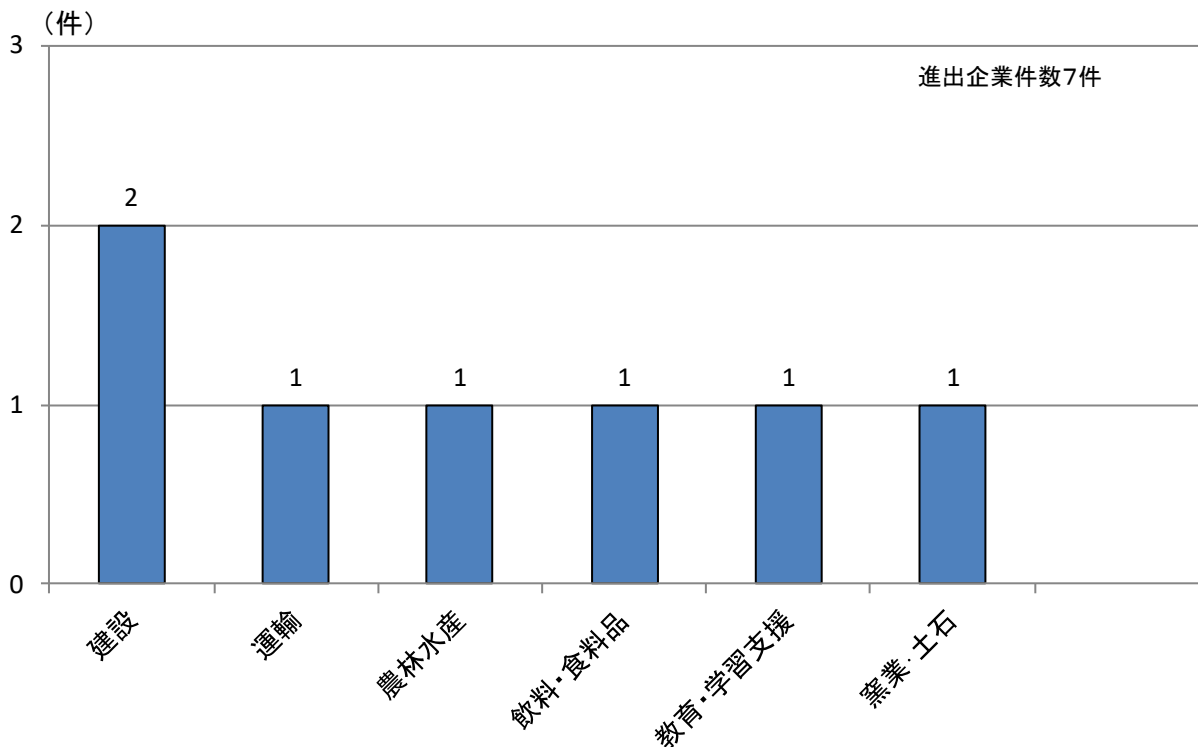
寄与度 (減少分)：野菜 (▲3.1%)

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-13-8 九州企業のミャンマーへの進出件数の推移



図表 2-13-9 ミャンマーに進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-13-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2016」より九州経済産業局作成。

## 第14章 九州とインドの経済関係

### 1. インドの経済概況

国名	インド
面積	328万7,469km <sup>2</sup> (インド政府資料:パキスタン、中国との係争地を含む)(2011年国勢調査)
人口	12億1,057万人(2011年国勢調査) 人口増加率17.68%(2011年国勢調査)
首都	ニューデリー
人種	インド・アーリア族、ドラビダ族、モンゴロイド族等
言語	連邦公用語はヒンディー語、他に憲法で公認されている州の言語が21
宗教	ヒンドゥー教徒79.8%、イスラム教徒14.2%、キリスト教徒2.3%、シク教徒1.7%、仏教徒0.7%、ジャイナ教徒0.4%(2011年国勢調査)
政体	共和制
主要産業	農業、工業、鉱業、IT産業

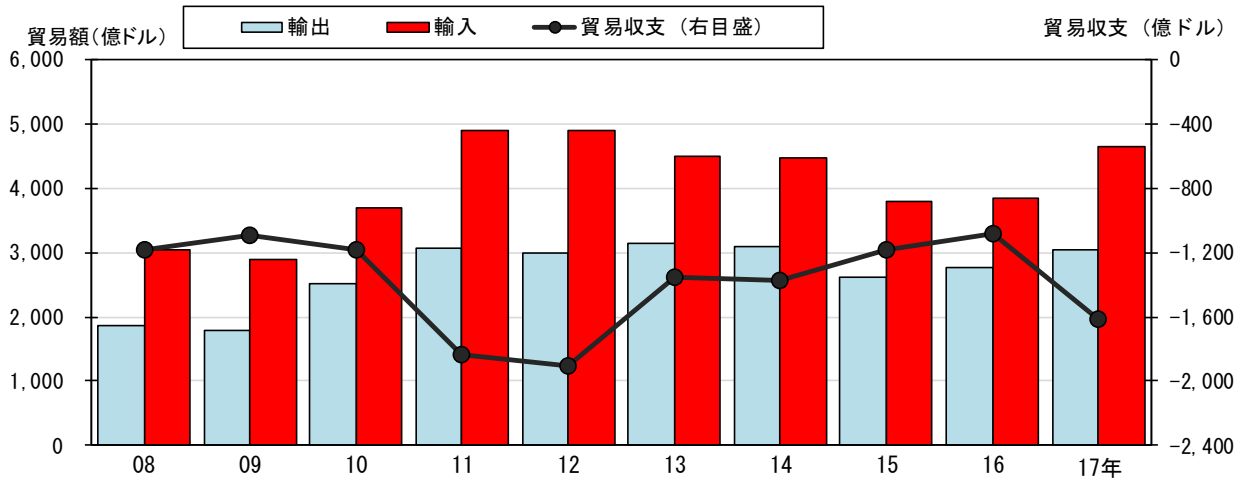
出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

図表 2-14-1 インドのマクロ経済

	単位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
実質GDP成長率	前年比(%)	6.4	7.4	8.2	7.1	6.7
名目GDP総額	十億ドル	1,857	2,039	2,102	2,274	2,602
一人当たりGDP(名目)	ドル	1,486	1,610	1,639	1,749	1,976
輸出額	億ドル	3,144	3,104	2,623	2,759	3,034
	前年比(%)	4.7	▲ 1.3	▲ 15.5	5.2	10.0
輸入額	億ドル	4,502	4,480	3,810	3,844	4,647
	前年比(%)	▲ 8.3	▲ 0.5	▲ 15.0	0.9	20.9
貿易収支	億ドル	▲ 1,358	▲ 1,377	▲ 1,187	▲ 1,085	▲ 1,613
対日貿易収支	億ドル	▲ 27	▲ 47	▲ 52	▲ 59	▲ 62 *
鉱工業生産指数	前年比(%)	3.3	4.0	3.3	4.6	4.4
失業率	(%)	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5 *
消費者物価指数(全国)	前年比(%)	9.4	5.9	4.9	4.5	3.6
直接投資受入額	億ドル	308	353	449	422	394 *
為替レート(1ドル)	ルピー	58.60	61.03	64.15	67.20	65.12
為替レート(1ルピー)	円	1.67	1.74	1.89	1.62	1.72

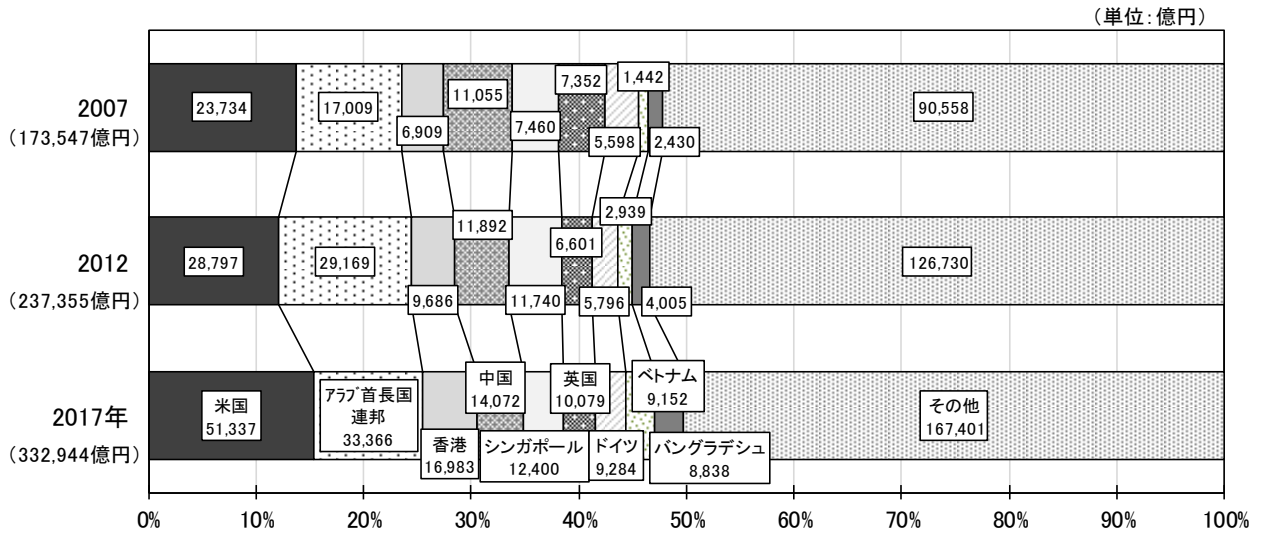
出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」(平成30年10月)、\*はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

図表 2-14-2 インドの対外貿易額の推移

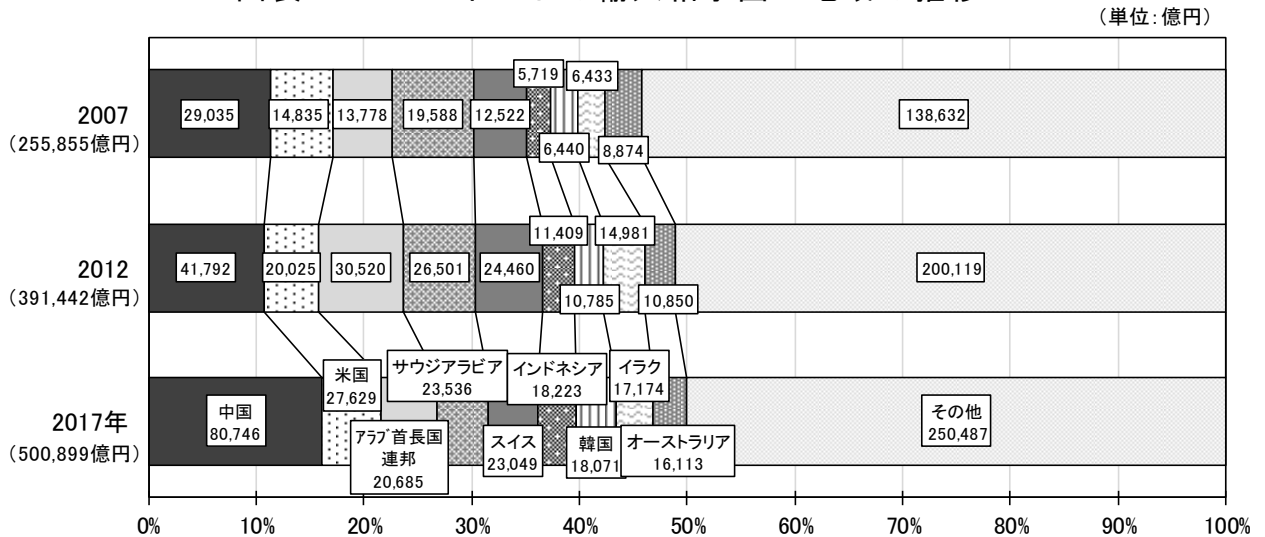


出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」（平成 30 年 10 月）より九州経済産業局作成。

図表 2-14-3 インドの輸出相手国・地域の推移



図表 2-14-4 インドの輸入相手国・地域の推移

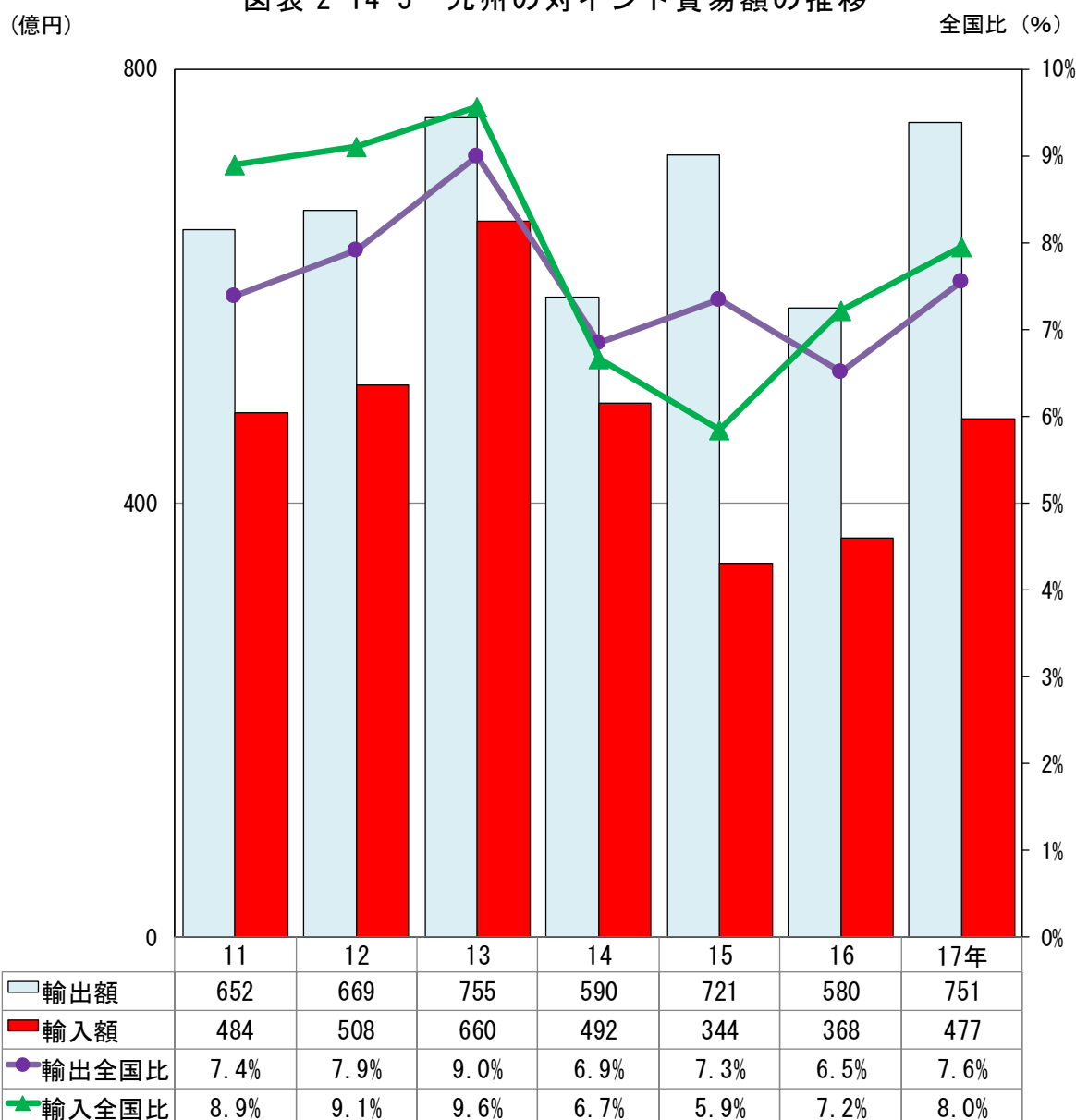


図表 2-14-3～4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

## 2. 九州とインドの経済動向

- 2017年の九州の対インド貿易額は、輸出が751億円（前年比29.5%増）で前年より増加した。一方、輸入も477億円（前年比29.9%増）で前年より増加し、2年連続の増加となった。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、鉄鋼のフラットロール製品、コークス、織物用糸であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、鉄鋼のフラットロール製品（寄与度：+14.6%）、コークス（同+14.0%）等であった。一方、減少では、半導体等電子部品（同▲5.1%）、軌条及びその他の鉄道線路建設材（同▲5.0%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、石油製品、植物性油かす、魚介類であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、植物性油かす（寄与度：+12.9%）、石油製品（同+11.2%）等であった。一方、減少では、自動車の部分品（同▲1.9%）、アルミニウム及び同合金（同▲0.5%）等であった。

図表 2-14-5 九州の対インド貿易額の推移

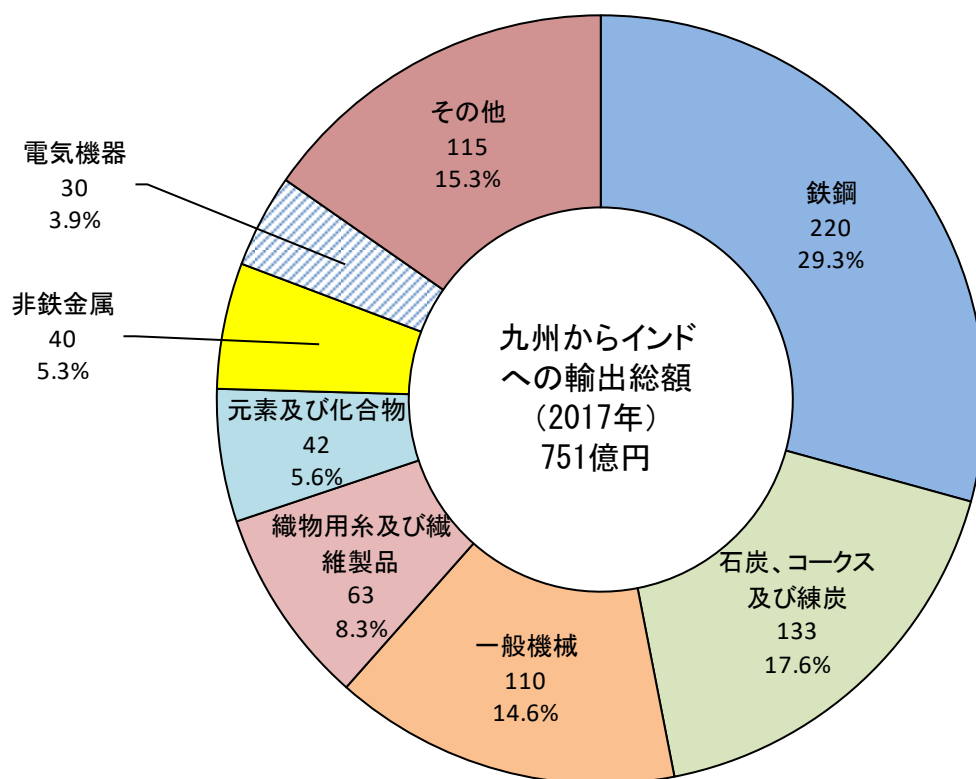


出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-14-6 九州からインドへの輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	188	25.0%
コークス	石炭、コークス及び練炭	133	17.6%
織物用糸	織物用糸及び繊維製品	59	7.9%
原動機	一般機械	53	7.0%
銅及び同合金	非鉄金属	39	5.2%
有機化合物	元素及び化合物	36	4.8%
軌条及びその他の鉄道線路建設材	鉄鋼	23	3.0%
ゴムタイヤ及びチューブ	ゴム製品	20	2.7%
金属加工機械	一般機械	17	2.3%
重電機器	電気機器	13	1.8%
その他		170	22.7%
総 額		751	100.0%

寄与度（増加分）：鉄鋼のフラットロール製品（+14.6%）、コークス（+14.0%）等

寄与度（減少分）：半導体用電子部品（▲5.1%）、軌条及びその他の鉄道線路建設材（▲5.0%）等

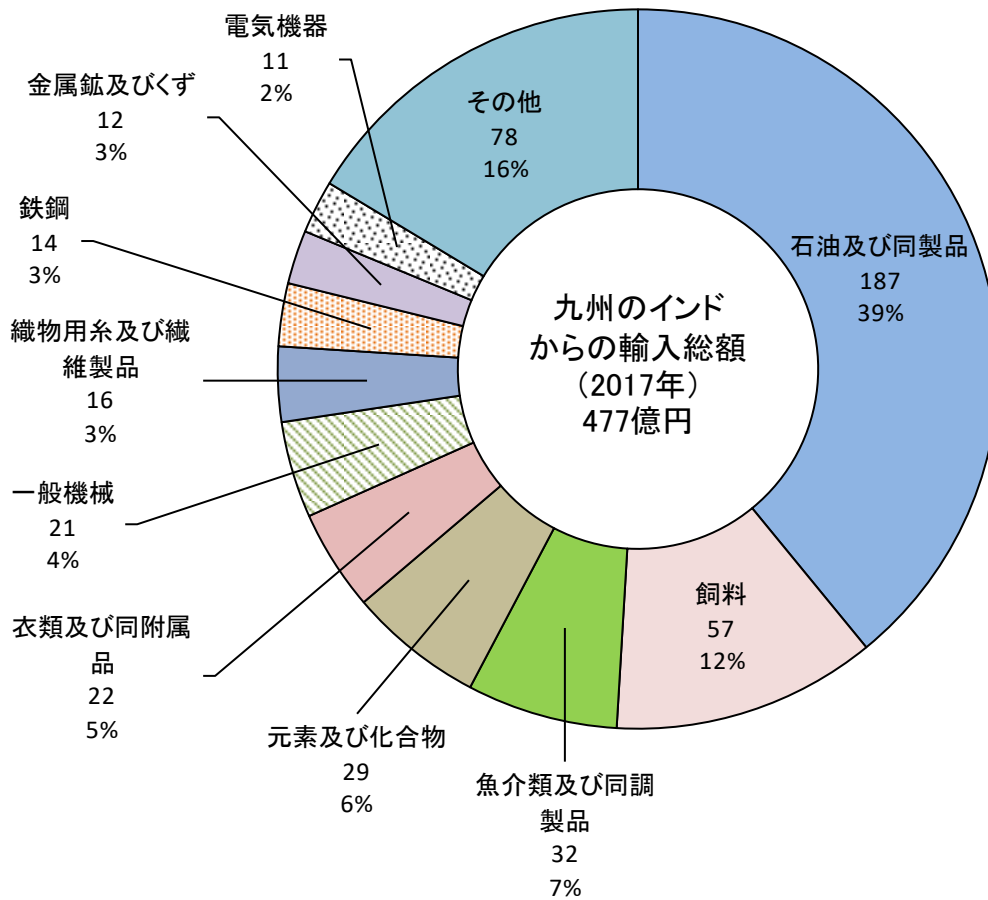
出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。



図表 2-14-7 九州のインドからの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)



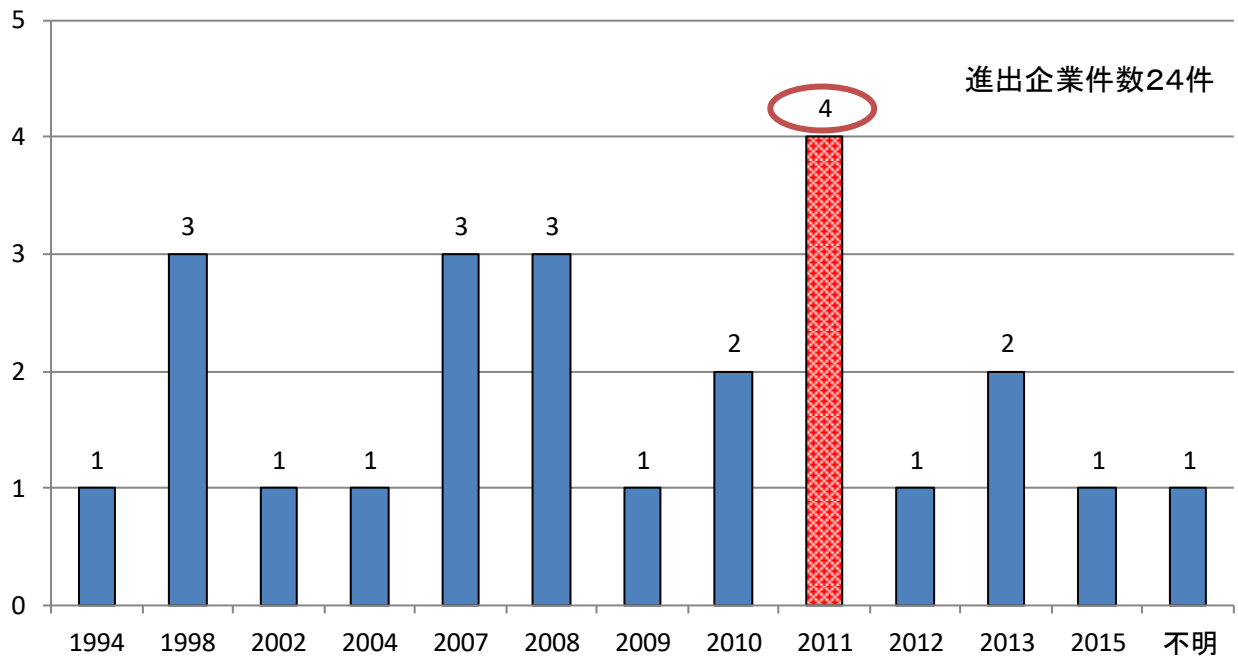
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
石油製品	石油及び同製品	187	39.1%
植物性油かす	飼料	54	11.3%
魚介類	魚介類及び同調製品	32	6.7%
有機化合物	元素及び化合物	24	5.0%
衣類	衣類及び同附属品	20	4.2%
原動機	一般機械	15	3.2%
合金鉄	鉄鋼	13	2.7%
非鉄金属鉱	金属鉱及びびくず	11	2.4%
果実	果実及び野菜	11	2.3%
綿花	織物用繊維及びびくず	9	1.9%
その他		102	21.3%
総額		477	100.0%

寄与度 (増加分)：植物性油かす (+12.9%)、石油製品 (+11.2%) 等

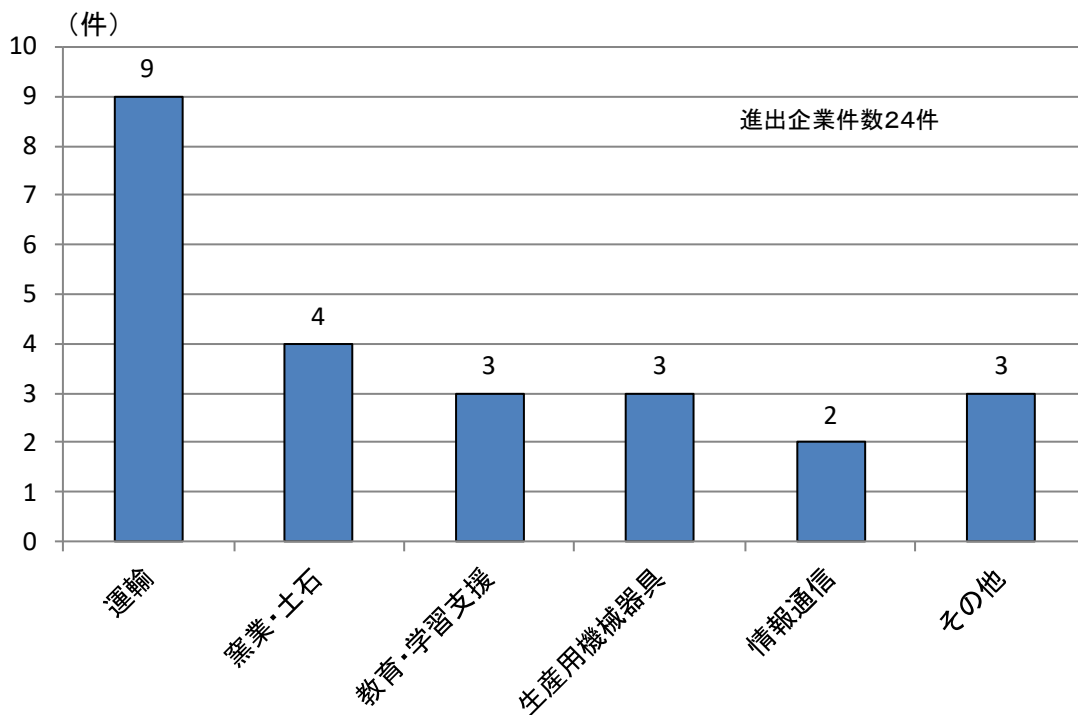
寄与度 (減少分)：自動車の部分品 (▲1.9%)、アルミニウム及び同合金 (▲0.5%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-14-8 九州企業のインドへの進出件数の推移



図表 2-14-9 インドに進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-14-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

## 第15章 九州とEUの経済関係

### 1. EUの概況

名 称	欧州連合 (European Union)
設 立	1993年11月
体 制	欧州理事会: 常任議長 ドナルド・トゥスク(Donald Tusk) 前ポーランド首相 EU理事会: 半年交替の輪番制議長国閣僚(2018年前半ブルガリア、2018年後半オーストラリア)
加 盟 国	28ヶ国: フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、オランダ、ルクセンブルク、英国、デンマーク、アイルランド、ギリシャ、スペイン、ポルトガル、オーストリア、スウェーデン、フィンランド、キプロス、チェコ、エストニア、ハンガリー、ラトビア、リトアニア、マルタ、ポーランド、スロバキア、スロベニア、ブルガリア、ルーマニア、クロアチア

出所：外務省HP「各国・地域情勢」

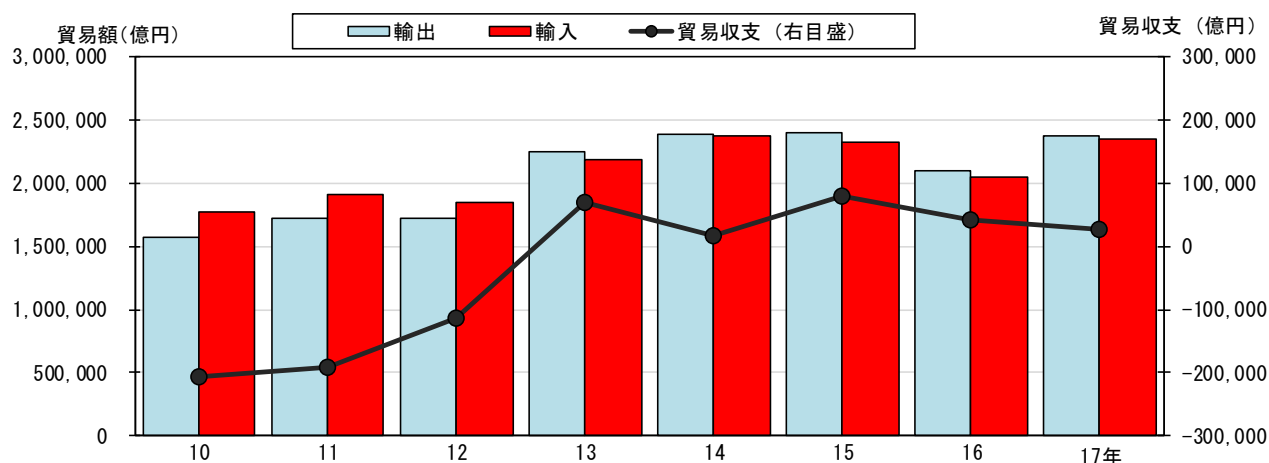
図表 2-15-1 世界の地域経済圏との比較（2017年）

	加盟国	人口 (万人)	GDP (億米ドル)	GDP/人 (米ドル)	貿易額 (億米ドル)
東南アジア諸国連合 (ASEAN)	10か国	64,748	27,472	4,243	25,728
欧州連合 (EU)	28か国	51,115	172,848	33,815	117,049
北米自由貿易協定 (NAFTA)	3か国	49,401	223,019	45,144	56,596
南米共同市場 (MERCOSUR)	6か国	29,580	33,571	11,349	5,794

備考：NAFTA加盟国（アメリカ、カナダ、メキシコ）、MERCOSUR加盟国（アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ベネズエラ）

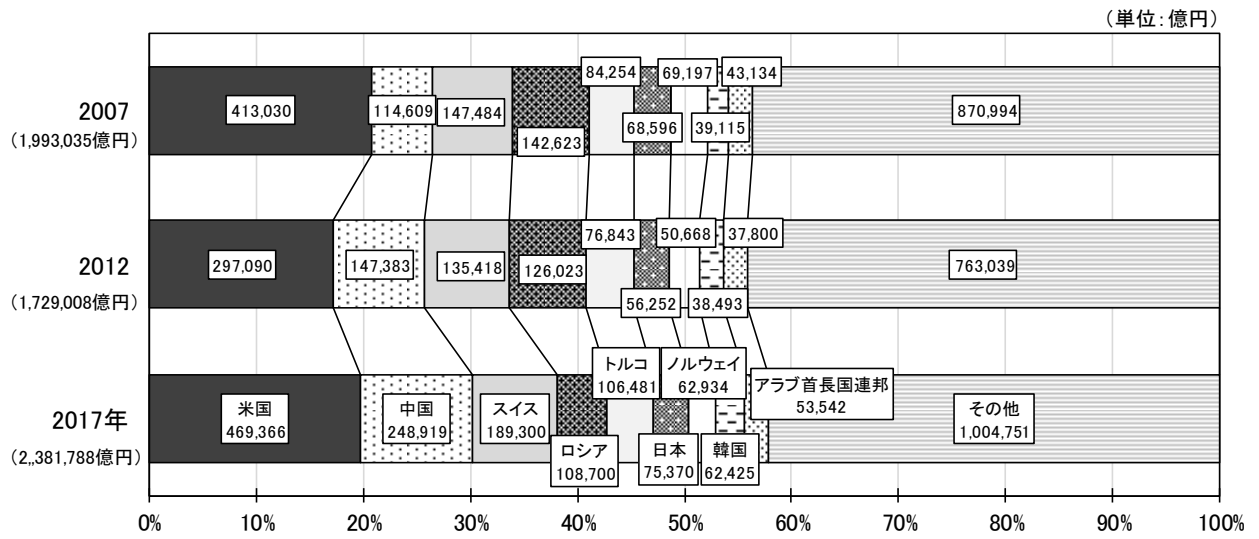
出所：UNCTADstatより九州経済産業局作成。

図表 2-15-2 EUの対外貿易額の推移

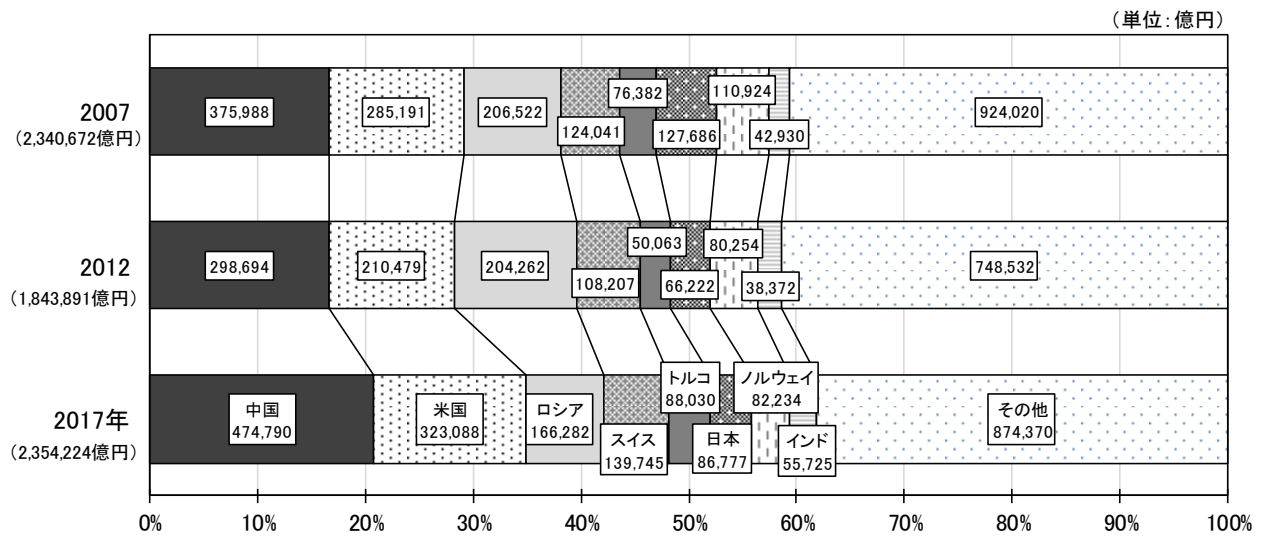


出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

図表 2-15-3 EU の輸出相手国・地域の推移



図表 2-15-4 EU の輸入相手国・地域の推移

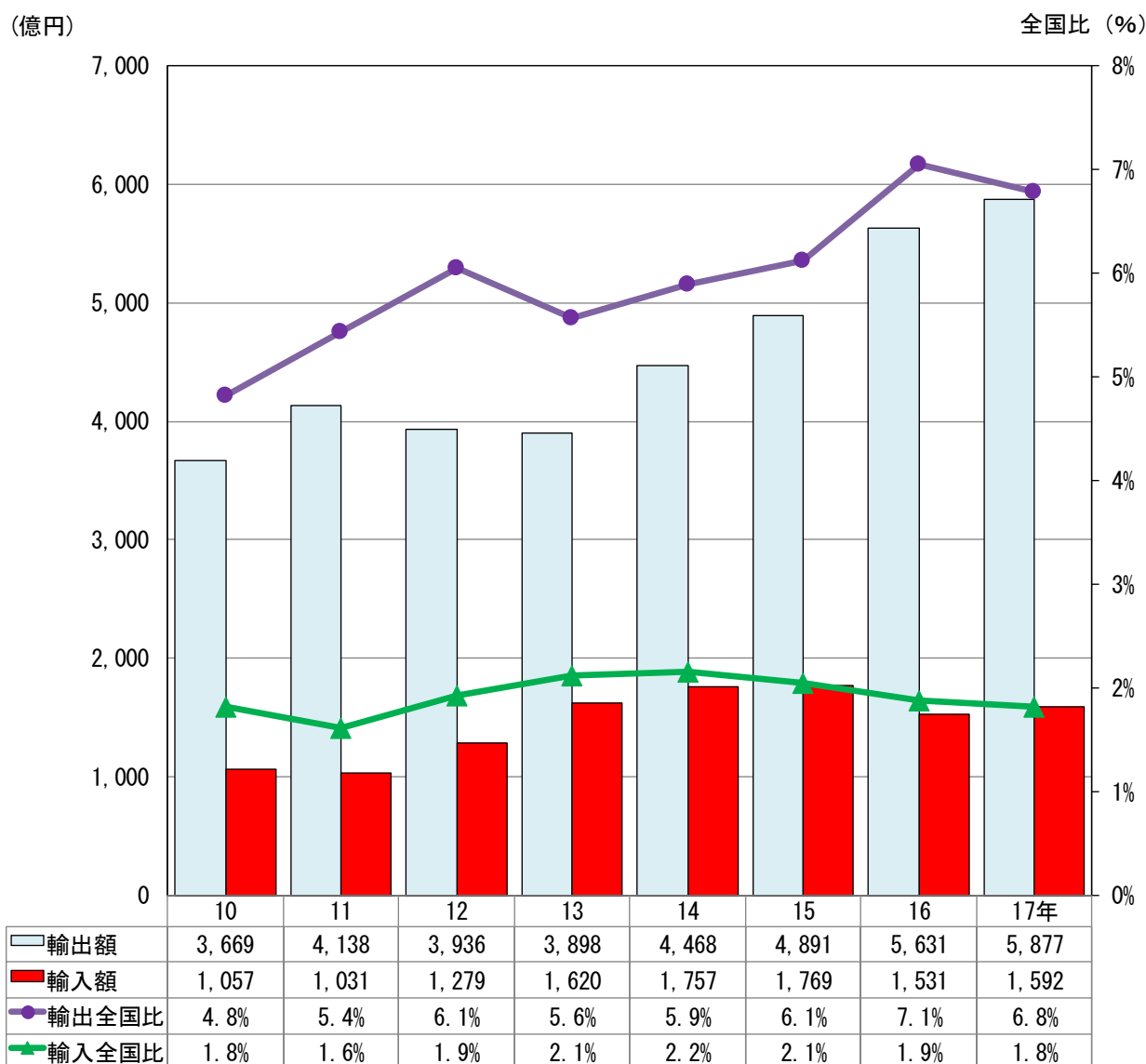


図表 2-15-3~4 出所: 「Global Trade Atlas」 より九州経済産業局作成。

## 2. 九州とEUの経済動向

- 2017年の九州の対EU貿易額は、輸出が5,877億円（前年比4.4%増）で前年より増加し、4年連続の増加となった。一方、輸入も1,592億円（前年比4.0%増）で前年より増加した。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、船舶類、事務用機器であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、二輪自動車（寄与度：+1.7%）、自動車（同+1.1%）等であった。一方、減少では、船舶類（同▲2.0%）、鉄鋼のフラットロール製品（同▲0.9%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、原動機、電気計測機器、自動車の部分品であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、原動機（寄与度：+3.4%）、電気計測機器（同+2.3%）等であった。一方、減少では、音響・映像機器（含部品）（同▲1.3%）、小麦及びメスリン（同▲0.8%）等であった。

図表 2-15-5 九州の対EU貿易額の推移

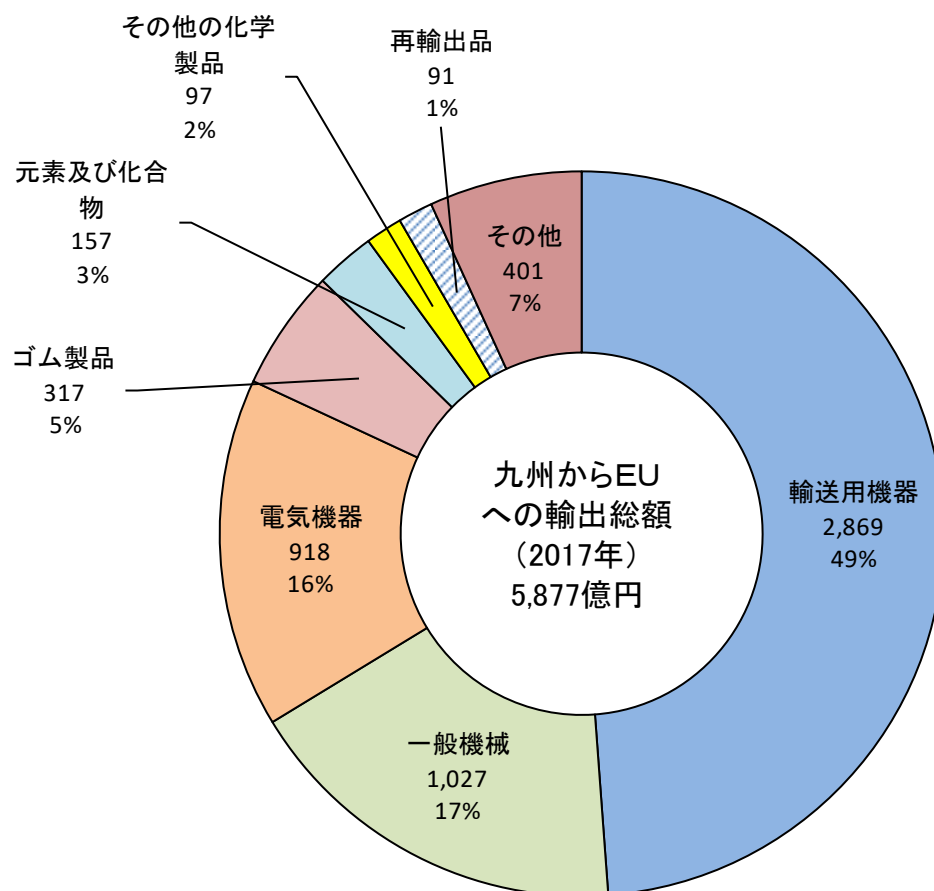


出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-15-6 九州から EU への輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



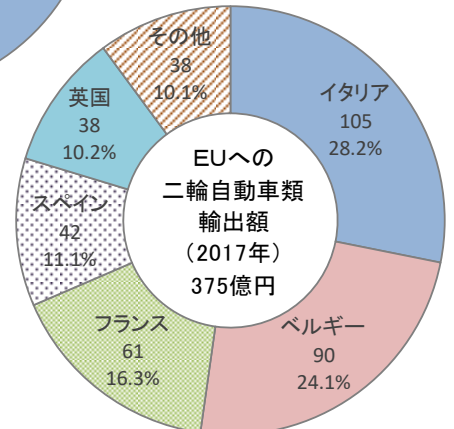
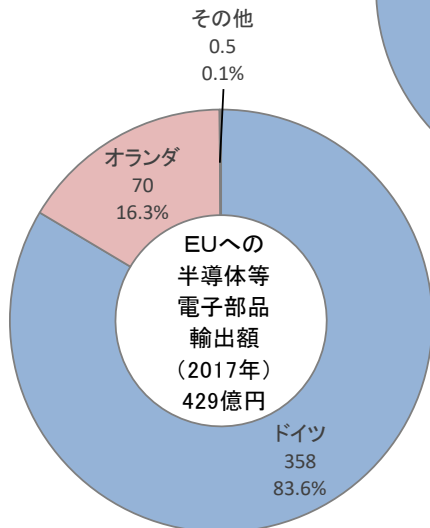
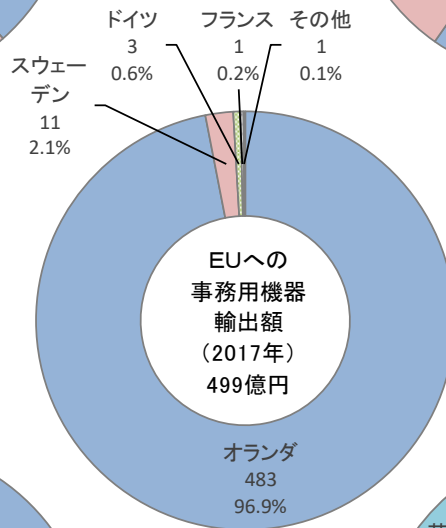
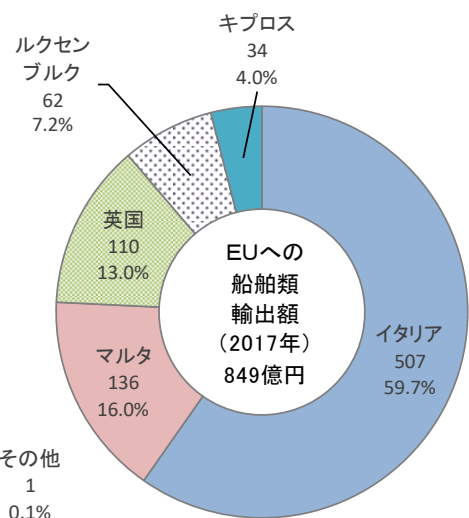
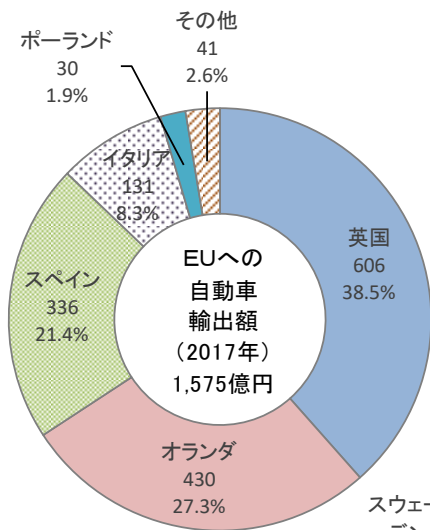
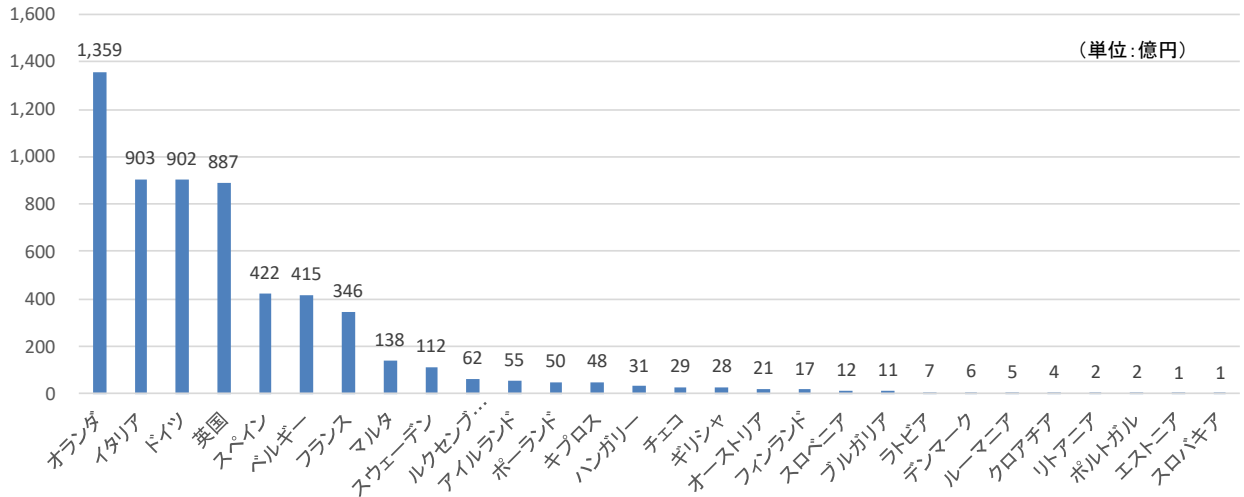
主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
自動車	輸送用機器	1,575	26.8%
船舶類	輸送用機器	849	14.4%
事務用機器	一般機械	499	8.5%
半導体等電子部品	電気機器	429	7.3%
二輪自動車類	輸送用機器	375	6.4%
ゴムタイヤ及びチューブ	ゴム製品	306	5.2%
映像機器	電気機器	190	3.2%
ポンプ及び遠心分離機	一般機械	145	2.5%
自動車用等の電気機器	電気機器	138	2.3%
有機化合物	元素及び化合物	120	2.1%
その他		1,252	21.3%
総計		5,877	100.0%

寄与度 (増加分) : 二輪自動車類 (+1.7%)、自動車 (+1.1%) 等

寄与度 (減少分) : 船舶類 (▲2.0%)、鉄鋼のフラットロール製品 (▲0.9%) 等

出所 : 財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

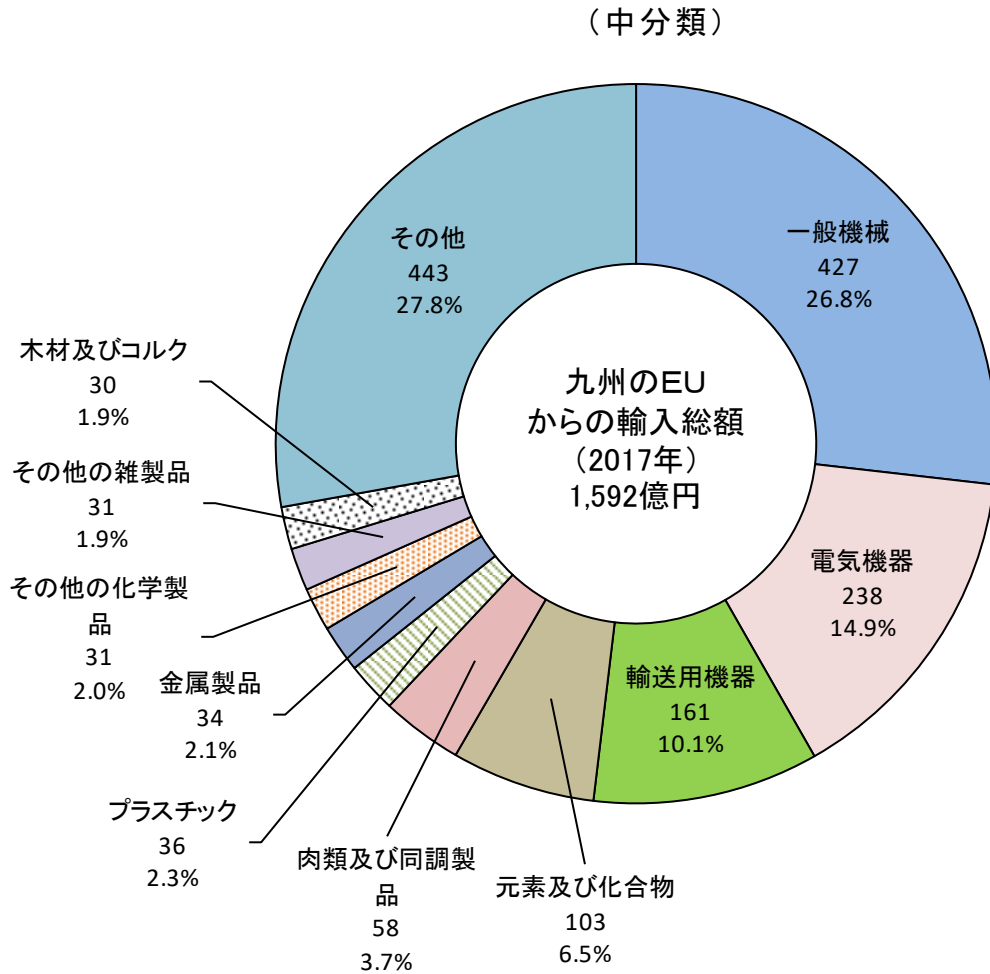
図表 2-15-7 九州から EU への国別輸出額



出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-15-8 九州の EU からの輸入品目

(単位：億円、%)



主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
原動機	一般機械	265	16.6%
電気計測機器	電気機器	100	6.3%
自動車の部分品	輸送用機器	82	5.1%
有機化合物	元素及び化合物	58	3.6%
航空機類	輸送用機器	54	3.4%
豚・いのししの肉	肉類及び同調製品	53	3.3%
無機化合物	元素及び化合物	45	2.8%
ポンプ及び遠心分離機	一般機械	43	2.7%
重電機器	電気機器	36	2.3%
木材	木材及びコルク	30	1.9%
その他		826	51.9%
総 額		1,592	100%

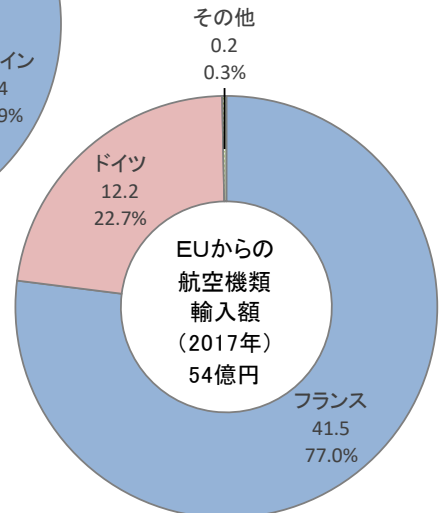
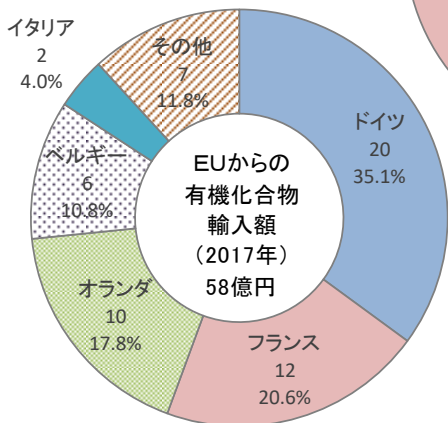
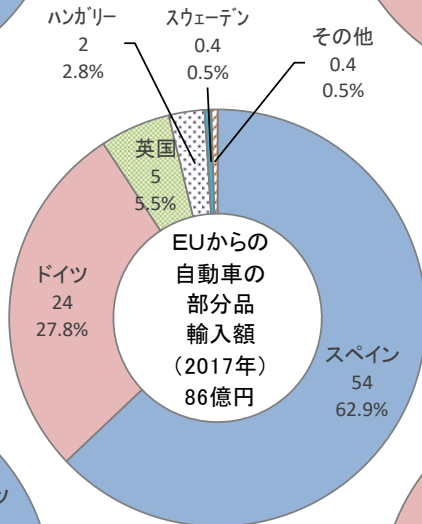
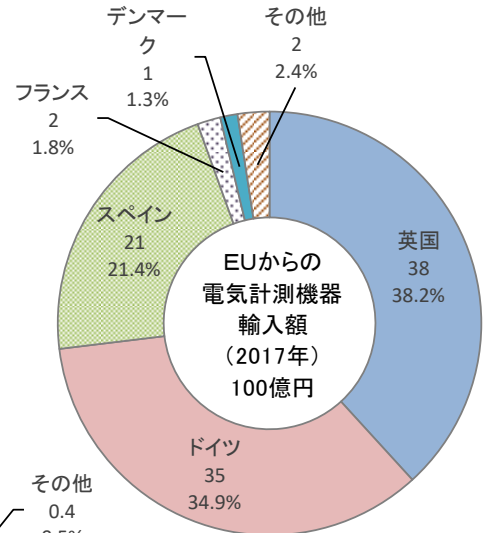
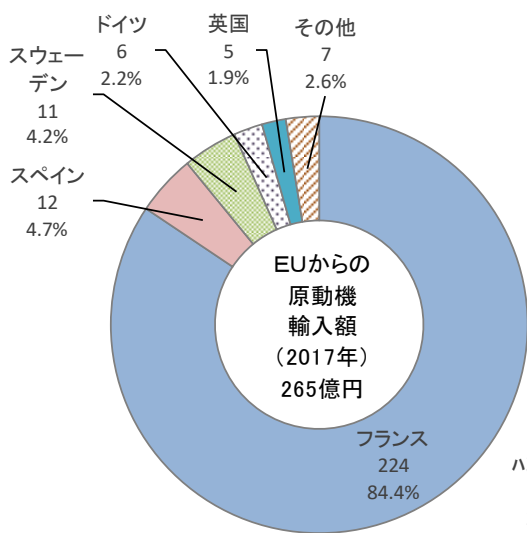
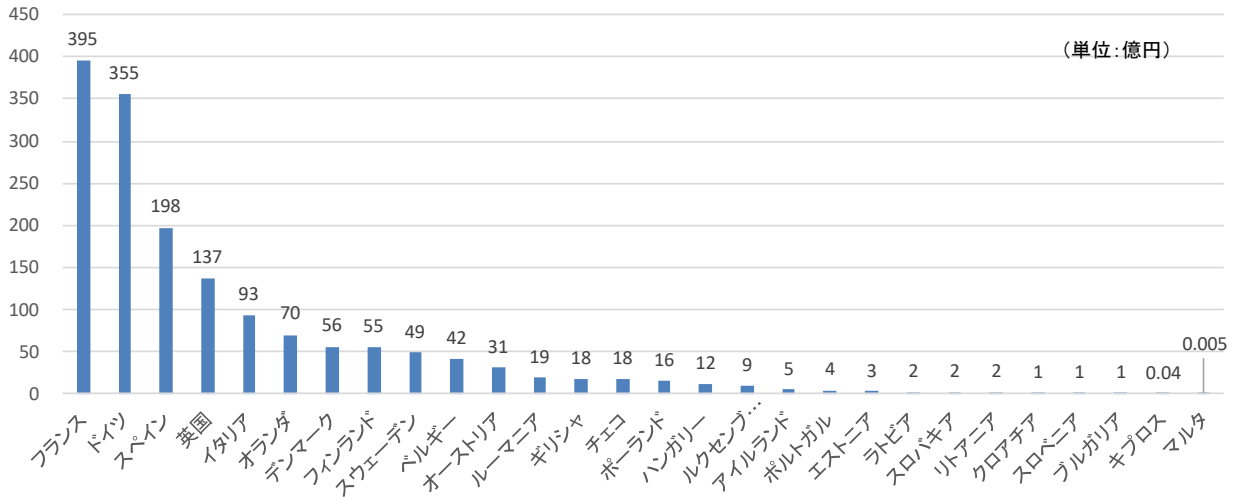
寄与度 (増加分)：原動機 (+3.4%)、電気計測機器 (+2.3%) 等

寄与度 (減少分)：音響・映像機器 (含部品) (▲1.3%)、小麦及びメリスン (▲0.8%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

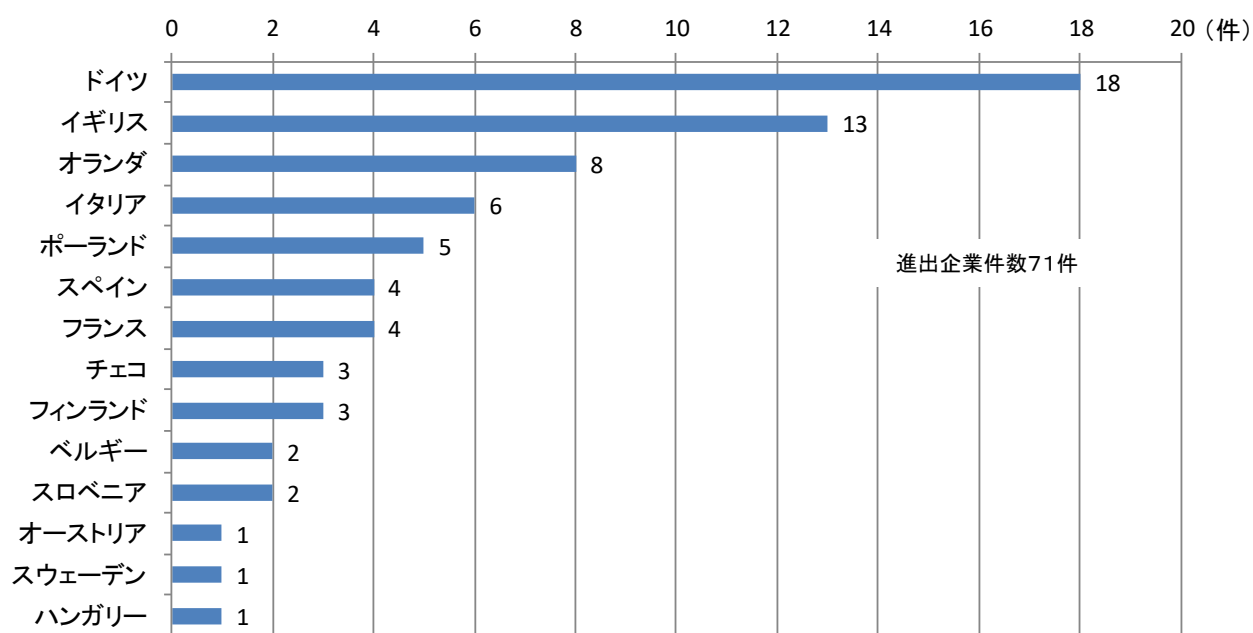


図表 2-15-9 九州の EU からの国別輸入額

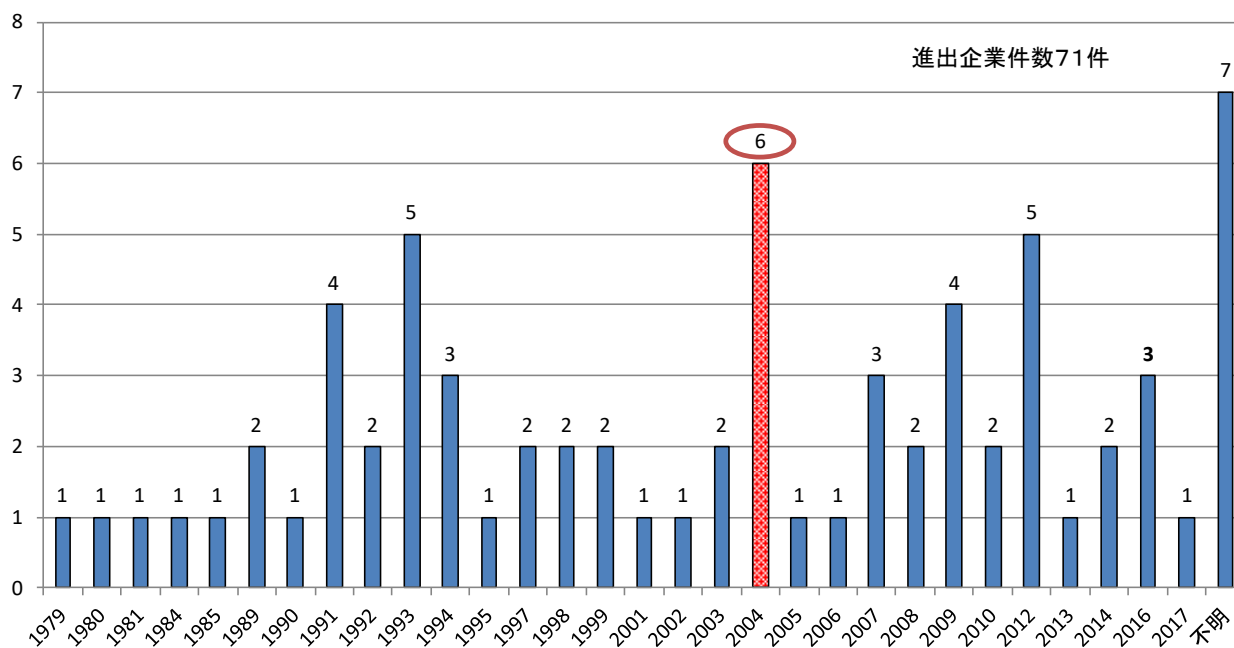


出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-15-10 九州企業の EU 各国への進出件数（国別）

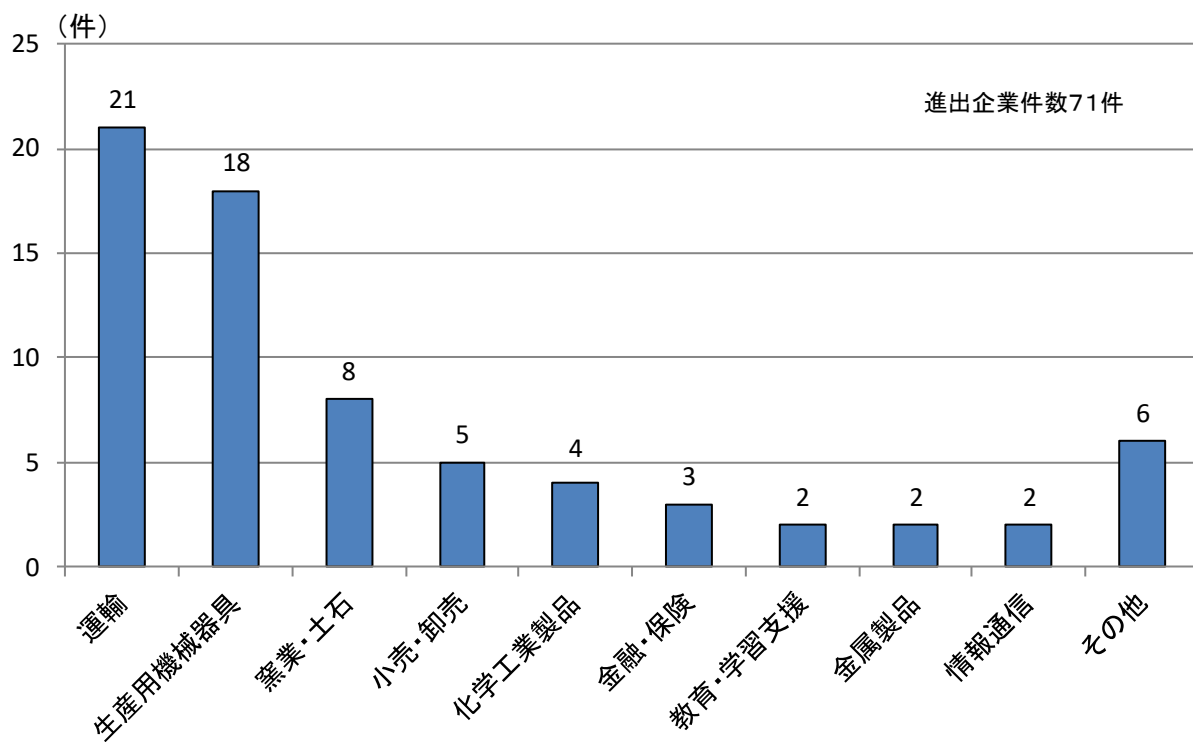


図表 2-15-11 九州企業の EU への進出件数の推移



図表 2-15-10～11 出所：（公財）九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2016」より九州経済産業局作成。

図表 2-15-12 EUに進出した九州企業の業種別内訳

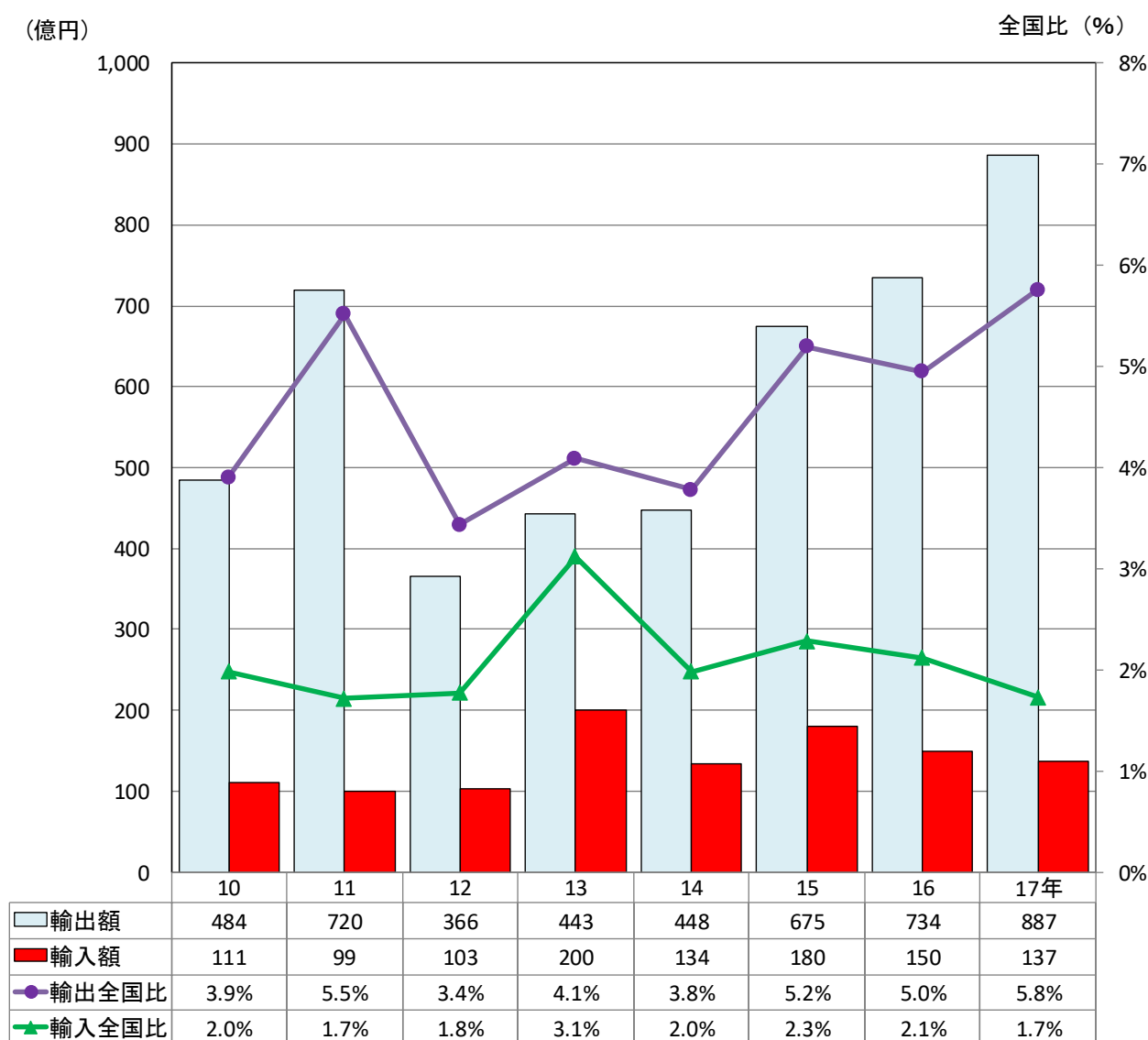


出所：（公財）九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2016」より九州経済産業局作成。

### 3. 九州と英国の経済動向

- 2017年の九州の対英国貿易額は、輸出が887億円（前年比20.8%増、EU内比率15.1%）で前年より増加し、5年連続の増加となった。一方、輸入は137億円（前年比8.4%減、EU内比率8.6%）で前年より減少し、2年連続の減少となった。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、船舶類、二輪自動車類であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、電気計測機器、ニッケル及び同合金、自動車であった。

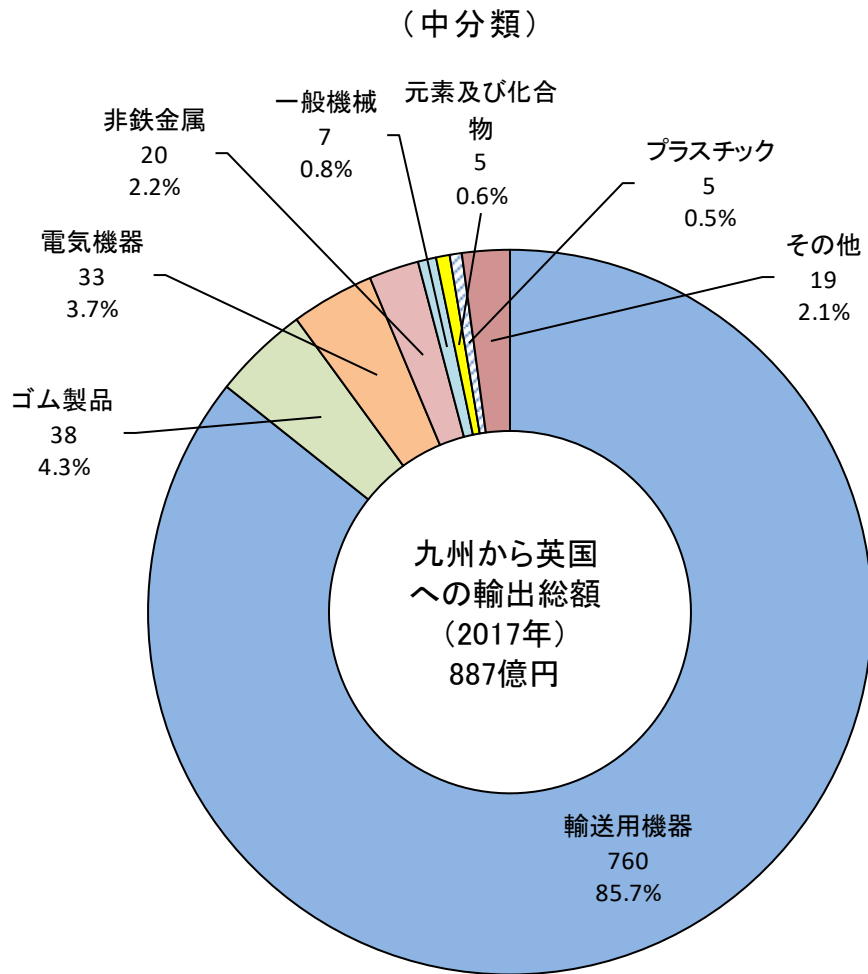
図表 2-15-13 九州の対英国貿易額の推移



出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-15-14 九州から英国への輸出品目

(単位：億円、%)



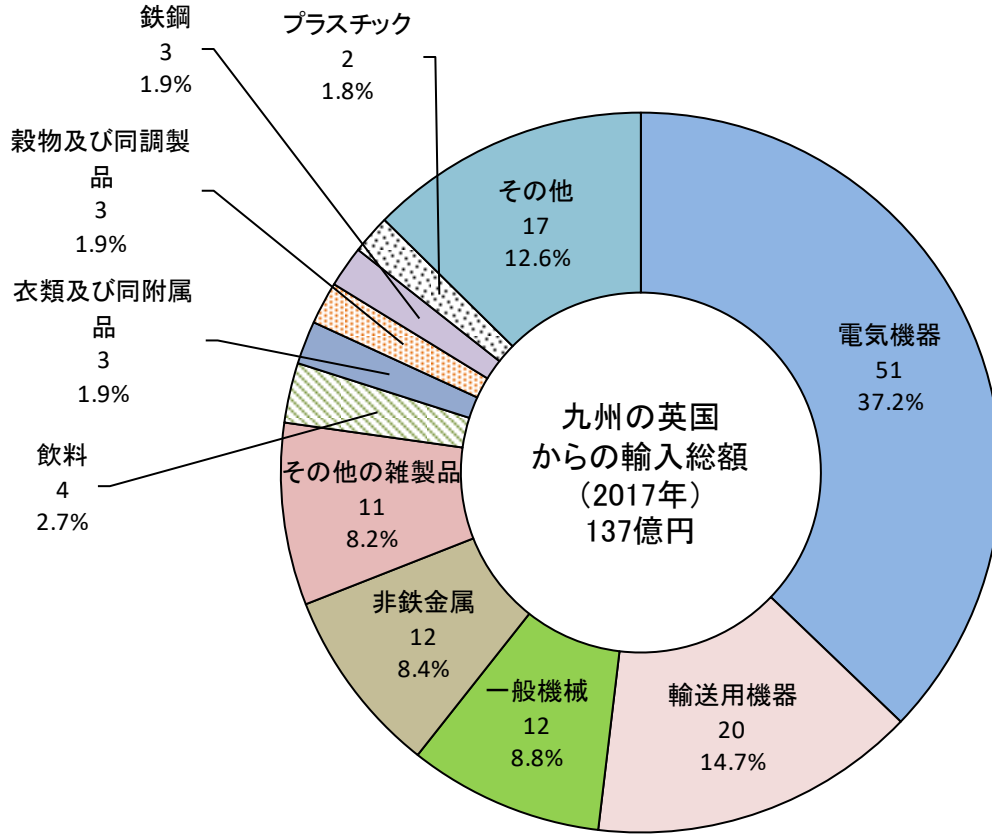
主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
自動車	輸送用機器	606	68.3%
船舶類	輸送用機器	110	12.4%
二輪自動車類	輸送用機器	38	4.3%
ゴムタイヤ及びチューブ	ゴム製品	37	4.2%
自動車用等の電気機器	電気機器	19	2.1%
チタン及び同合金	非鉄金属	18	2.0%
鉄道用車両	輸送用機器	5	0.6%
重電機器	電気機器	4	0.5%
有機化合物	元素及び化合物	3	0.4%
加熱用・冷却用機器	一般機械	2	0.3%
その他		43	4.9%
総計		887	100%

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-15-15 九州の英国からの輸入品目

(単位：億円、%)

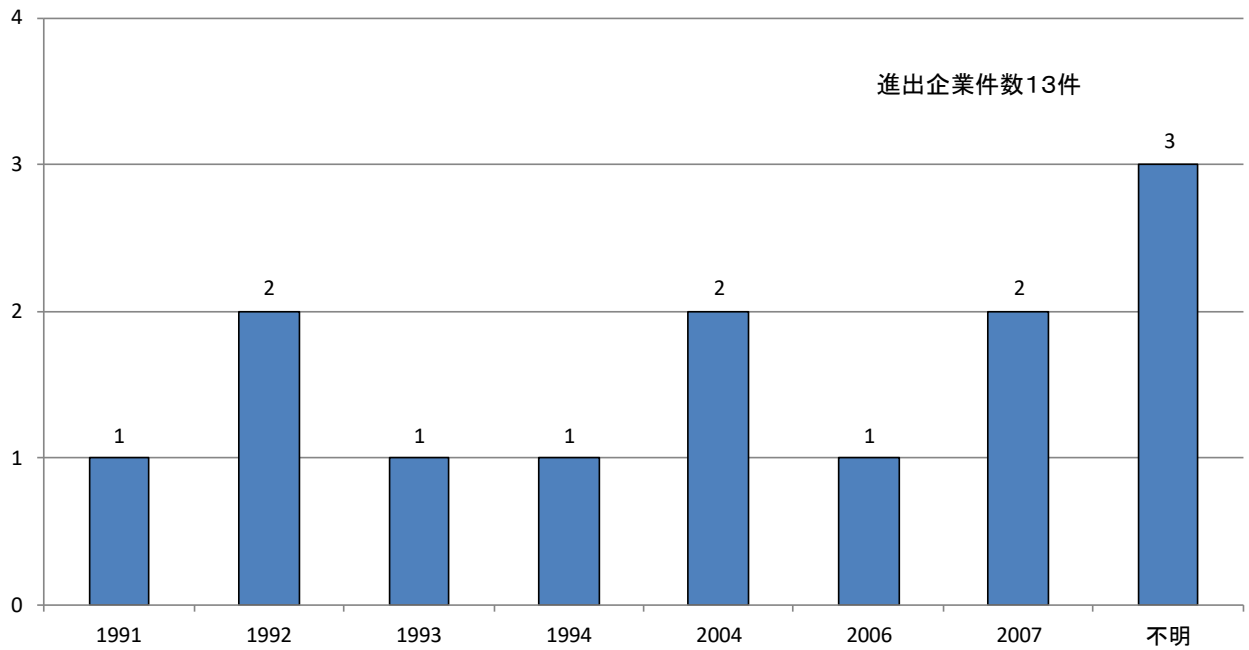
(中分類)



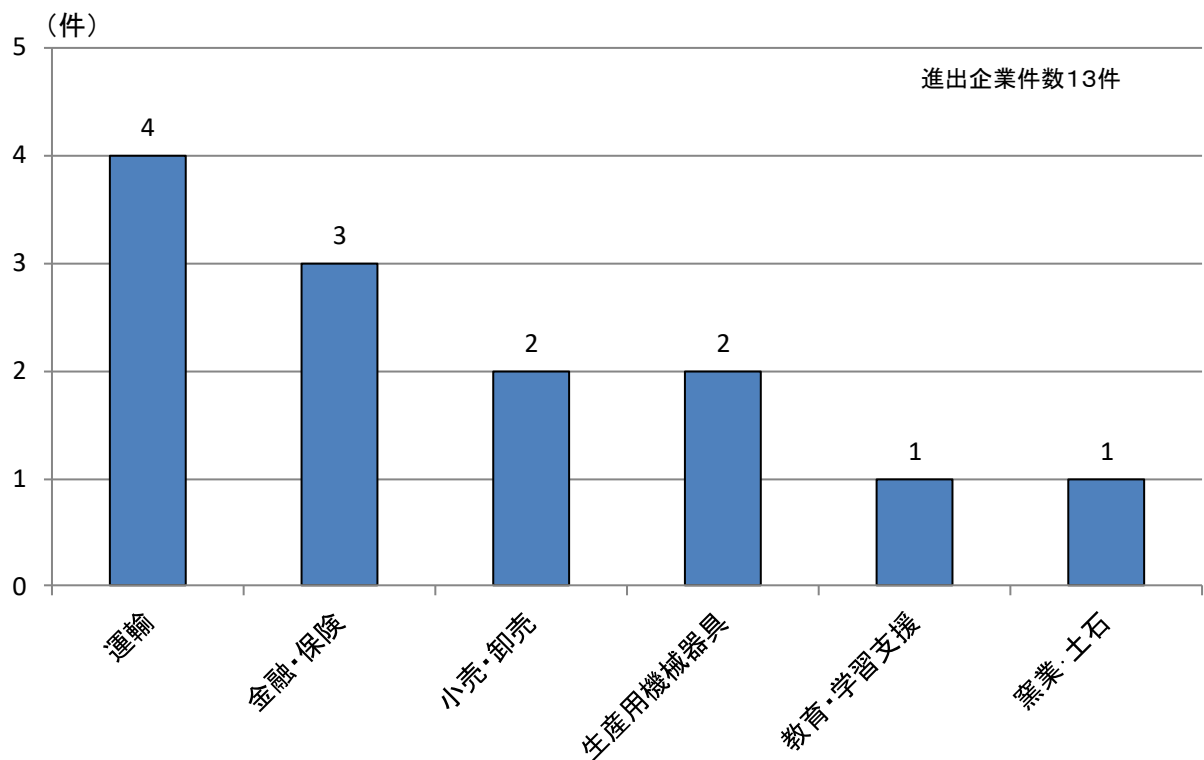
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
電気計測機器	電気機器	38	27.8%
ニッケル及び同合金	非鉄金属	10	7.4%
自動車	輸送用機器	10	7.2%
自動車の部分品	輸送用機器	10	7.1%
原動機	一般機械	5	3.6%
重電機器	電気機器	4	3.2%
アルコール飲料	飲料	4	2.7%
合金鉄	鉄鋼	2	1.7%
音響・映像機器(含部品)	電気機器	2	1.6%
麦芽	穀物及び同調製品	2	1.5%
その他		50	36.3%
総 額		137	100%

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-15-16 九州企業の英国への進出件数の推移



図表 2-15-17 英国に進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-15-16～17 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

## 第16章 九州とロシアの経済関係

### 1. ロシアの経済概況

国名	ロシア連邦
面積	約1,710万km <sup>2</sup> (日本の45倍, 米国の2倍近く)
人口	1億4,680万人(2017年1月)
首都	モスクワ
言語	ロシア語
宗教	ロシア正教, イスラム教, 仏教, ユダヤ教等。
政体	共和制, 連邦制(共和国や州等83の構成主体からなる連邦国家)
主要産業	鉱業(石油, 天然ガス, 石炭, 金, ダイヤモンド等)、鉄鋼業、機械工業、化学工業、繊維工業

出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

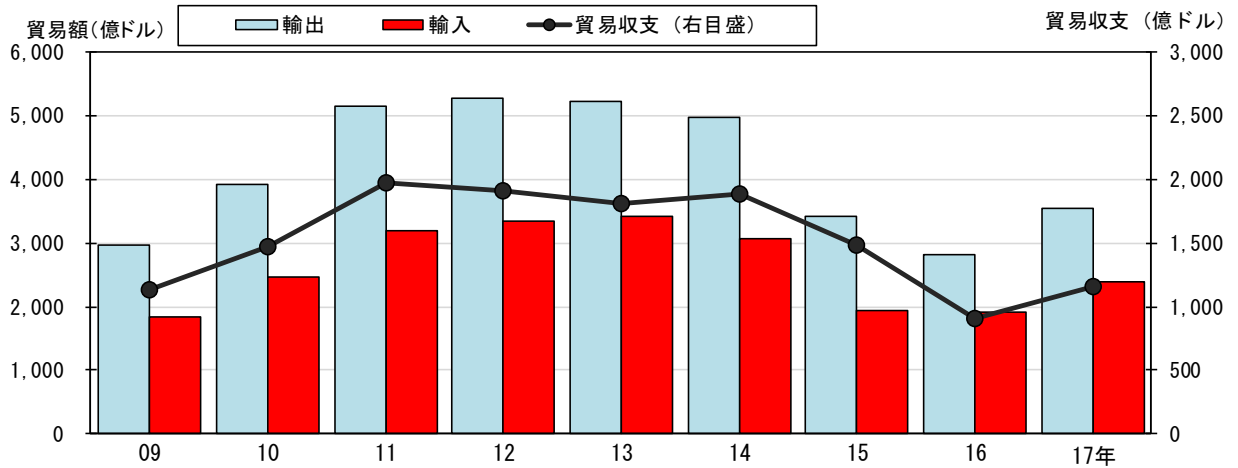
図表 2-16-1 ロシアのマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	1.8	0.7	▲ 2.5	▲ 0.2	1.5
名目GDP総額	十億ドル	2,297	2,064	1,368	1,285	1,578
一人当たりGDP(名目)	ドル	15,997	14,355	9,510	8,924	10,956
輸出額	億ドル	5,218	4,968	3,414	2,817	3,535
	前年比(%)	▲ 1.1	▲ 4.8	▲ 31.3	▲ 17.5	25.5
輸入額	億ドル	3,413	3,079	1,930	1,915	2,381
	前年比(%)	1.6	▲ 9.8	▲ 37.3	▲ 0.8	24.4
貿易収支	億ドル	1,806	1,889	1,484	902	1,154
対日貿易収支	億ドル	61	89	77	27	27
鉱工業生産指数	前年比(%)	0.4	1.6	▲ 0.8	2.1	2.3
失業率	(%)	5.5	5.2	5.6	5.5	6.5
消費者物価指数(総合)	前年比(%)	6.8	7.8	15.5	7.1	3.7
直接投資受入額	億ドル	692	220	48	325	286
為替レート(1ドル)	ルーブル	31.87	38.64	61.24	66.95	58.33

出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」(平成30年10月)、\*はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

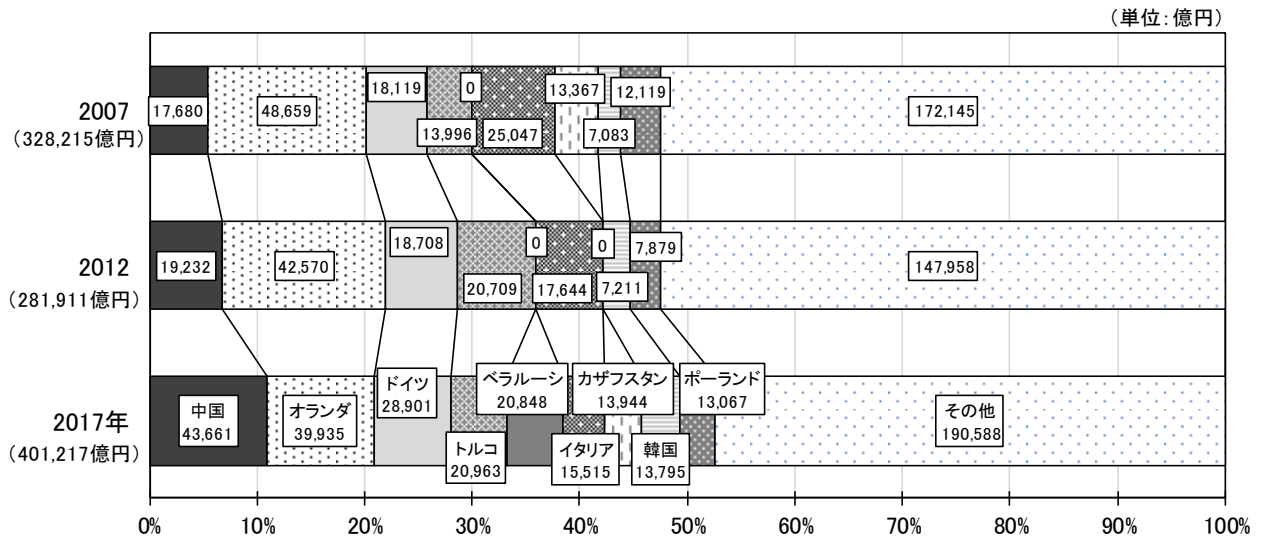


図表 2-16-2 ロシアの対外貿易額の推移

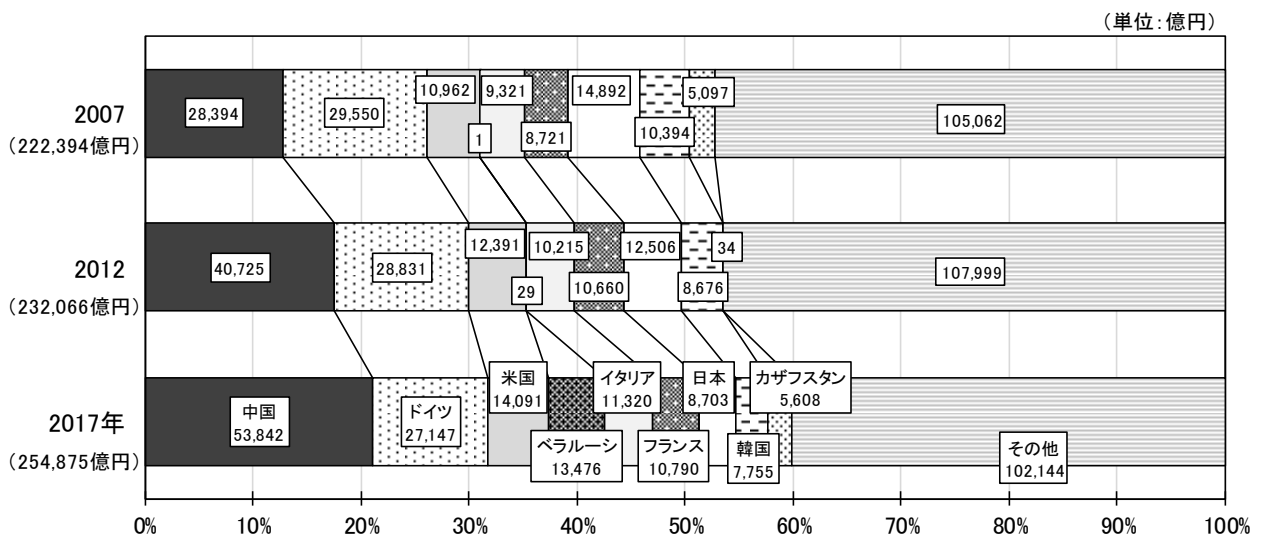


出所：内閣府「海外経済データ-月次アップデート-」（平成 30 年 10 月）より九州経済産業局作成。

図表 2-16-3 ロシアの輸出相手国・地域の推移



図表 2-16-4 ロシアの輸入相手国・地域の推移

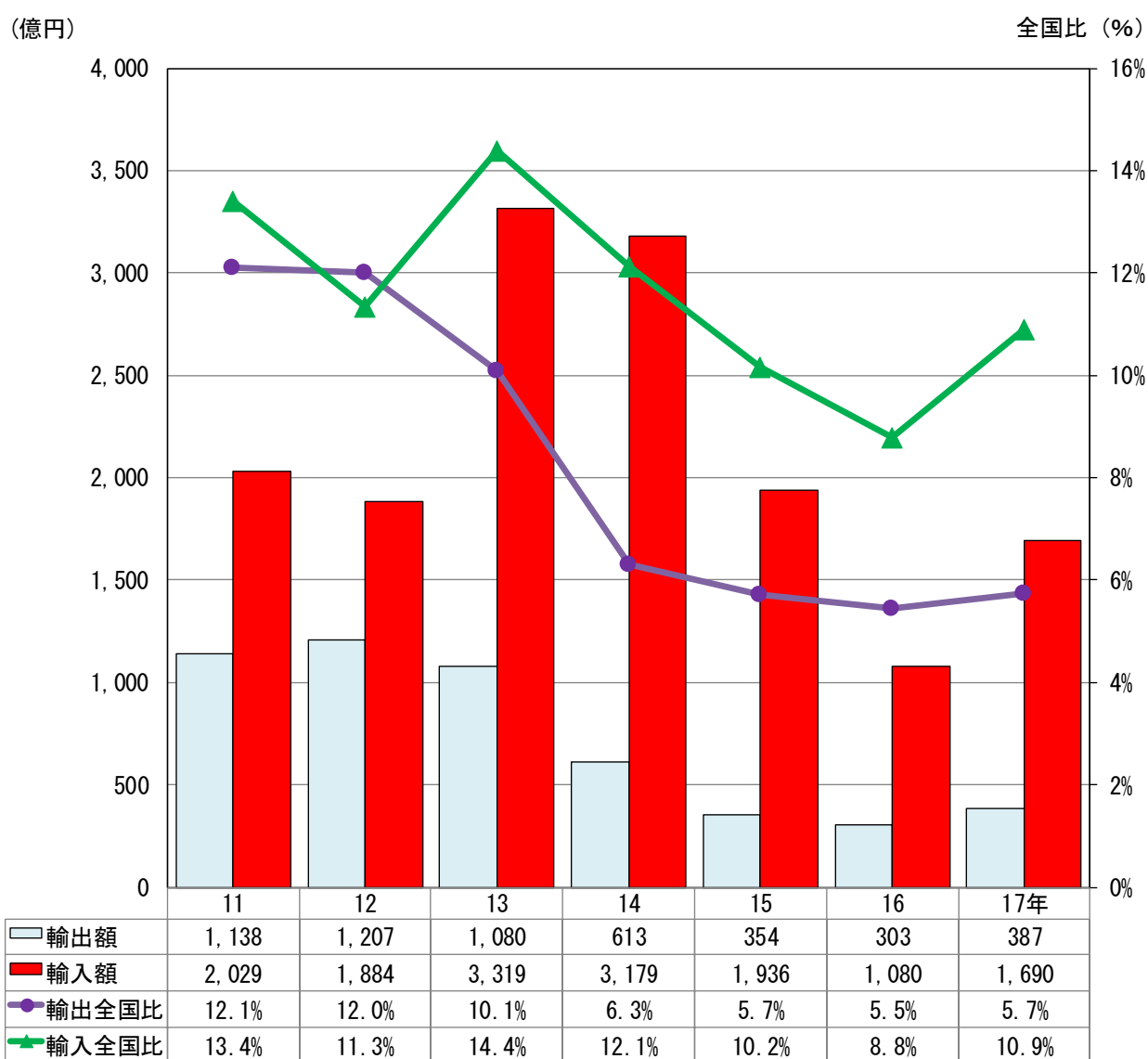


図表 2-16-3~4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

## 2. 九州とロシアの経済動向

- 2017年の九州の対ロシア貿易額は、輸出が387億円（前年比27.7%増）で前年より増加した。一方、輸入も1,690億円（前年比56.5%増）で前年より増加した。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、ゴムタイヤ及びチューブ、自動車の部分品、原動機であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、ゴムタイヤ及びチューブ（寄与度：+13.5%）、自動車の部分品（同+6.2%）等であった。一方、減少では、電気回路等の機器（同▲1.8%）、石油製品（▲0.7%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、原油及び粗油、石油ガス類、石炭であった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、原油及び粗油（寄与度：+29.1%）、石油ガス類（同+11.7%）等であった。一方、減少では、合成ゴム（寄与度：▲0.2%）、カリ肥料（同▲0.2%）等であった。

図表 2-16-5 九州の対ロシア貿易額の推移

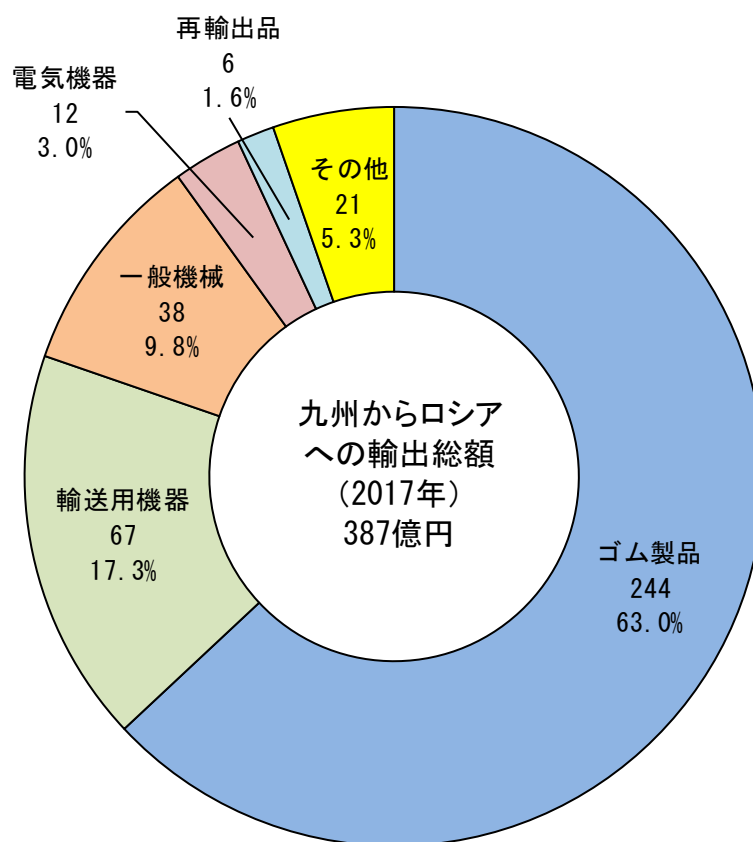


出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-16-6 九州からロシアへの輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



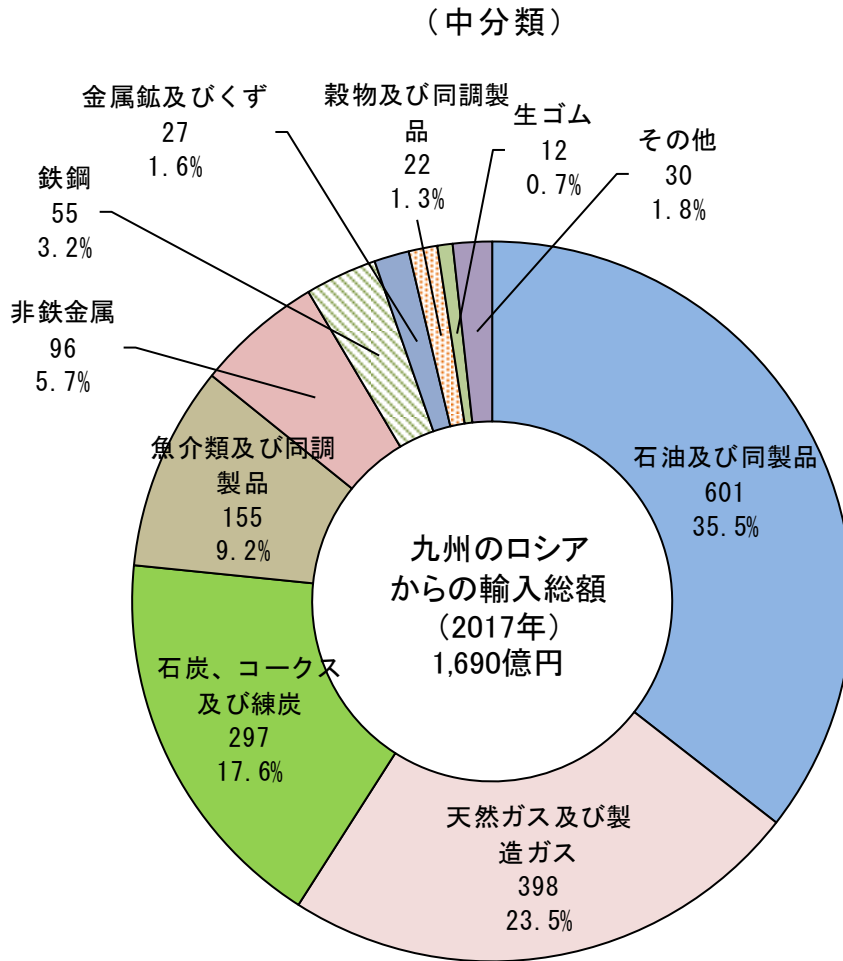
主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
ゴムタイヤ及びチューブ	ゴム製品	243	62.9%
自動車の部分品	輸送用機器	44	11.5%
原動機	一般機械	20	5.3%
自動車	輸送用機器	14	3.6%
加熱用・冷却用機器	一般機械	9	2.3%
二輪自動車類	輸送用機器	8	2.1%
ガラス及び同製品	非金属鉱物製品	4	1.0%
石油製品	石油及び同製品	3	0.7%
絶縁電線及び絶縁ケーブル	電気機器	2	0.5%
有機化合物	元素及び化合物	2	0.5%
自動車用等の電気機器	電気機器	2	0.5%
その他		35	9.2%
総額		387	100.0%

寄与度（増加分）：ゴムタイヤ及びチューブ（+13.5%）、自動車の部分品（+6.2%）等  
 寄与度（減少分）：電気回路等の機器（▲1.8%）、石油製品（▲0.7%）等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-16-7 九州のロシアからの輸入品目

(単位：億円、%)



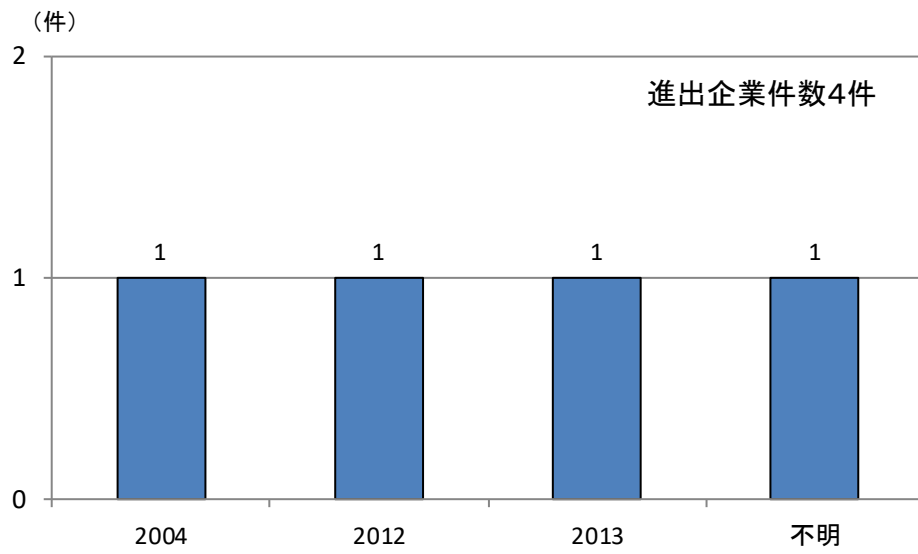
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
原油及び粗油	石油及び同製品	570	33.7%
石油ガス類	天然ガス及び製造ガス	398	23.5%
石炭	石炭・コークス及びれん炭	297	17.5%
魚介類	魚介類及び同調製品	155	9.2%
アルミニウム及び同合金	非鉄金属	92	5.5%
合金鉄	鉄鋼	54	3.2%
石油製品	石油及び同製品	31	1.8%
鉄鉱石	金属鉱及びびくず	23	1.4%
とうもろこし	穀物及び同調製品	21	1.2%
合成ゴム	生ゴム	12	0.7%
その他		38	2.2%
総額		1,690	100.0%

寄与度 (増加分)：原油及び粗油 (+29.1%)、石油ガス類 (+11.7%) 等

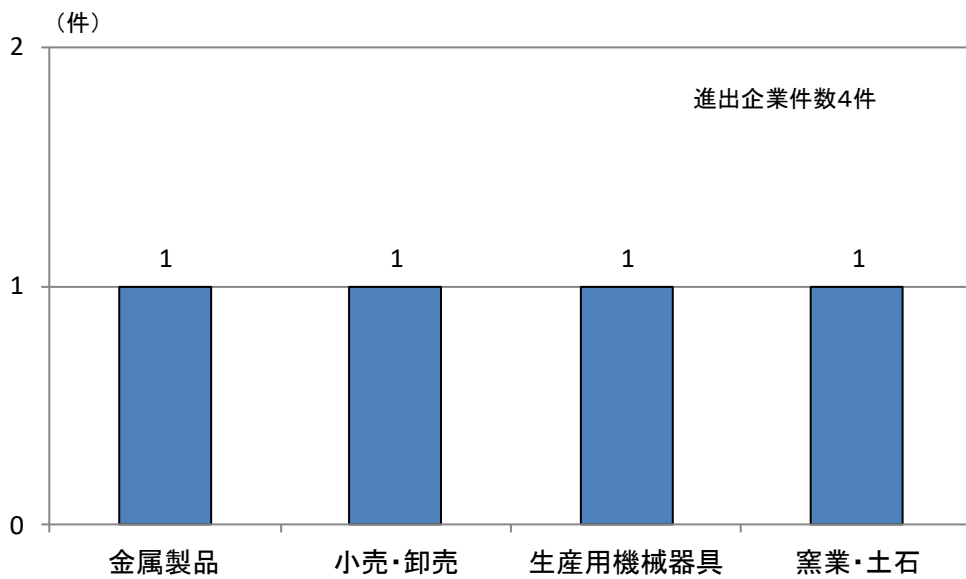
寄与度 (減少分)：合成ゴム (▲0.2%)、カリ肥料 (▲0.2%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-16-8 九州企業のロシアへの進出件数の推移



図表 2-16-9 ロシアに進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-16-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

## 第17章 九州と米国の経済関係

### 1. 米国の経済概況

国名	アメリカ合衆国
面積	371.8万平方マイル(962.8万平方キロメートル、50州・日本の約25倍) (内水面18.1万平方マイル)
人口	3億2,775万人(2018年5月 米国国勢局)
首都	ワシントンD.C.
言語	主として英語(法律上の定めはない)
宗教	信教の自由を憲法で保障、主にキリスト教
政体	大統領制、連邦制(50州他)
主要産業	工業(全般)、農林業(小麦、トウモロコシ、大豆、木材他)、金融・保険・不動産業、サービス業

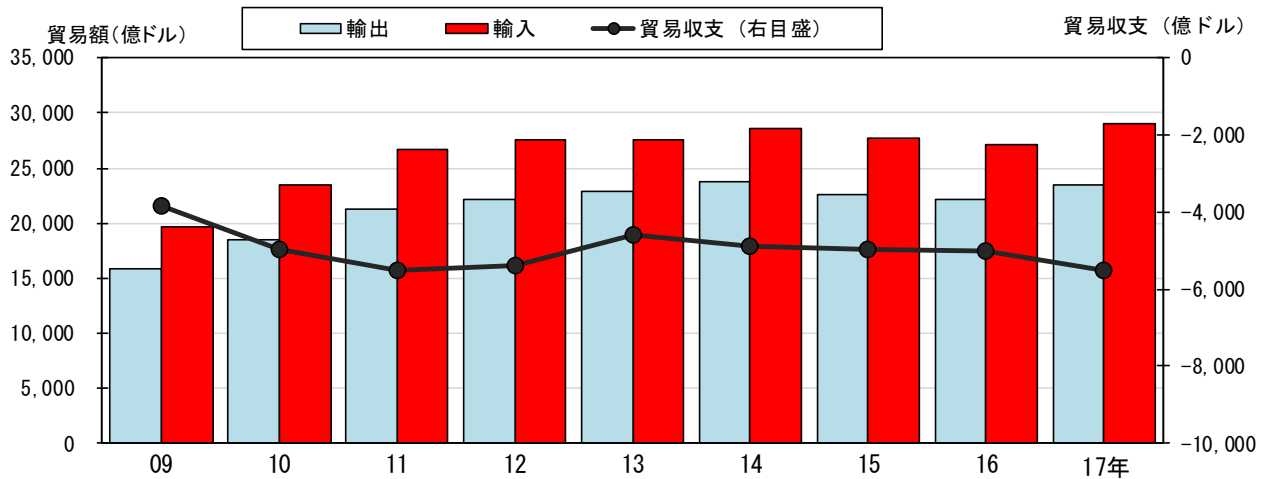
出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

図表 2-17-1 米国のマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	1.8	2.5	2.9	1.6	2.2
名目GDP総額	十億ドル	16,785	17,522	18,219	18,707	19,485
一人当たりGDP(名目)	ドル	53,032	54,952	56,718	57,815	59,792
輸出額	億ドル	22,942	23,767	22,667	22,158	23,511
	前年比(%)	3.4	3.6	▲ 4.6	▲ 2.2	6.1
輸入額	億ドル	27,553	28,662	27,652	27,178	29,033
	前年比(%)	▲ 0.0	4.0	▲ 3.5	▲ 1.7	6.8
貿易収支	億ドル	▲ 4,611	▲ 4,896	▲ 4,985	▲ 5,020	▲ 5,523
対日貿易収支	億ドル	▲ 733	▲ 676	▲ 691	▲ 688	▲ 689
鉱工業生産指数	前年比(%)	2.0	3.1	▲ 1.0	▲ 1.9	1.6
失業率	(%)	7.4	6.2	5.3	4.9	4.4
消費者物価	前年比(%)	1.5	1.6	0.1	1.3	2.1
直接投資受入額	億ドル	2,014	2,017	4,676	4,718	2,773*
為替レート(1ドル)	円	97.60	105.94	121.04	108.79	112.17

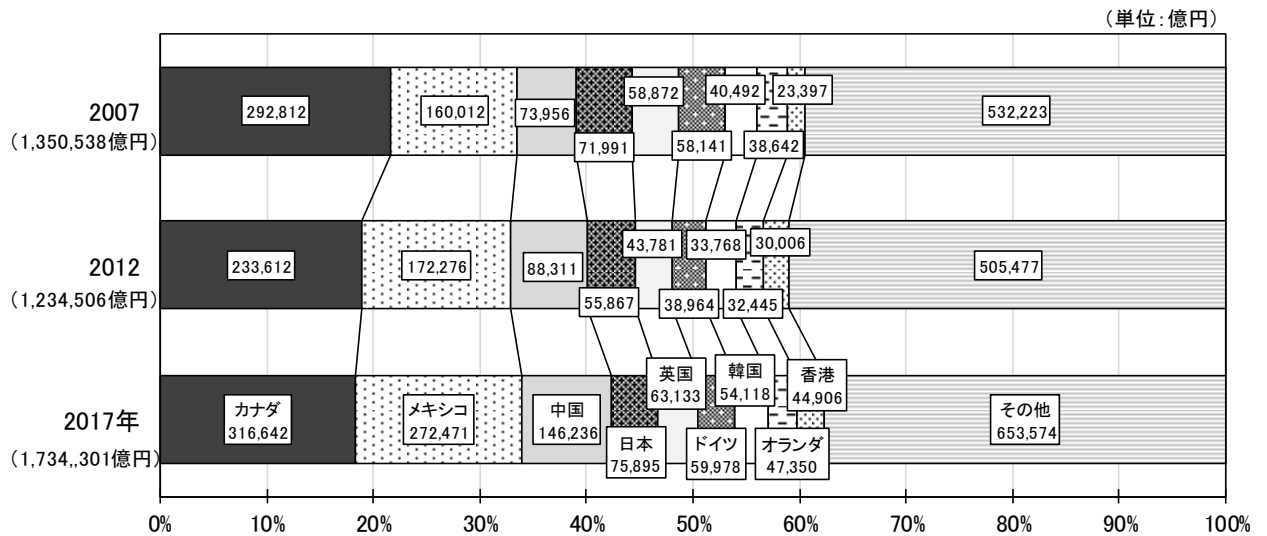
出所：内閣府「海外経済データ 一月次アップデート」(平成30年10月)、\*はジェットロ・ウェブサイトに「国・地域別情報」(基礎的経済指標)から九州経済産業局作成。

図表 2-17-2 米国の対外貿易額の推移

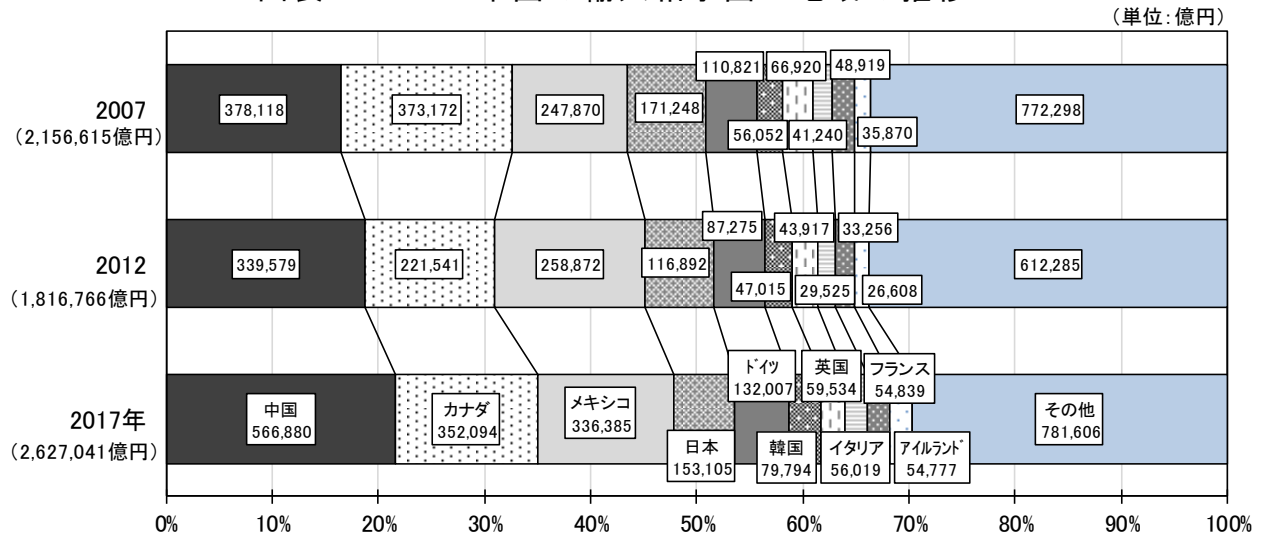


出所：内閣府「海外経済データ－月次アップデート－」（平成 30 年 10 月）から九州経済産業局作成。

図表 2-17-3 米国の輸出相手国・地域の推移



図表 2-17-4 米国の輸入相手国・地域の推移

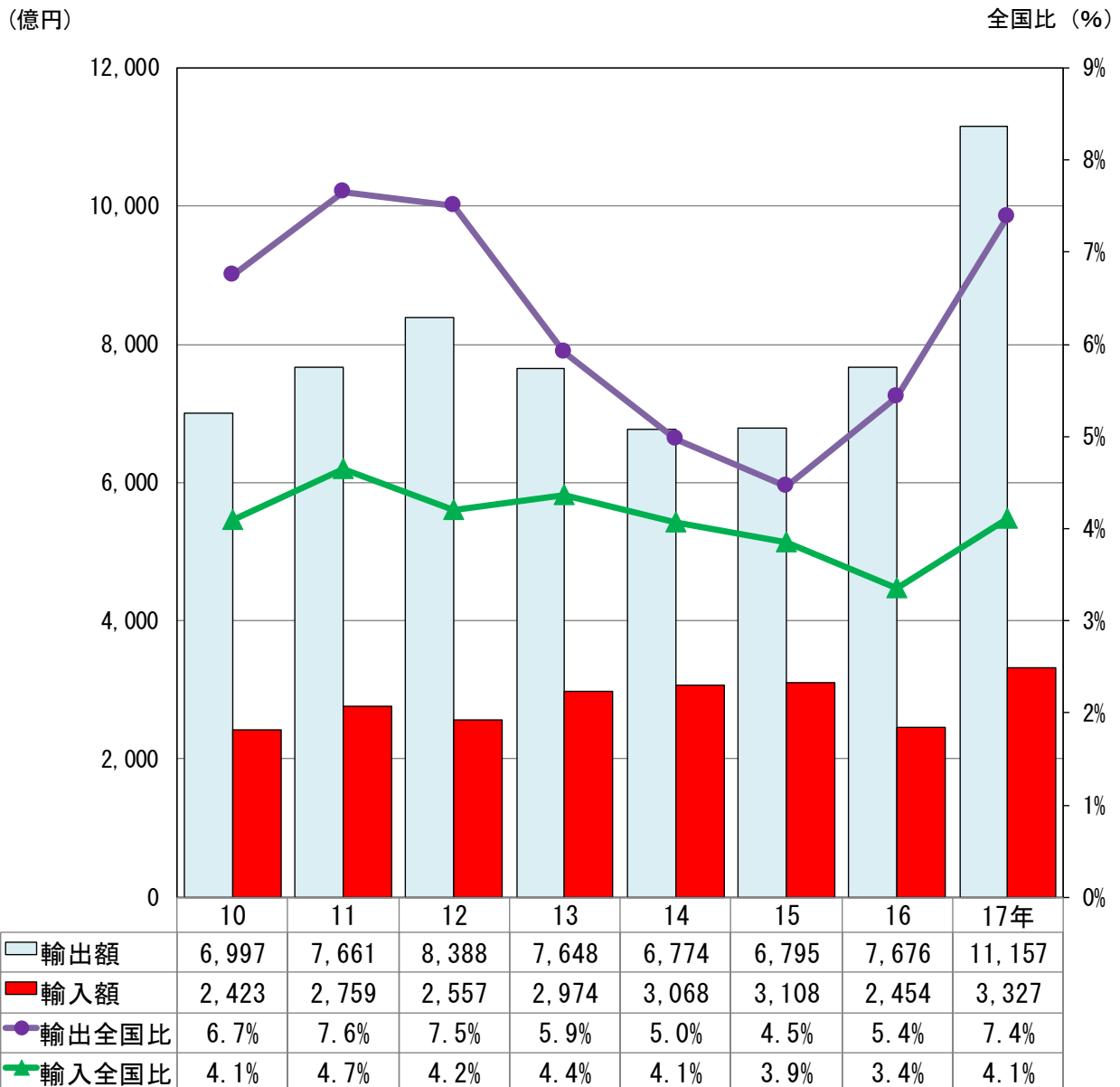


図表 2-17-3～4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

## 2. 九州と米国の経済動向

- 2017年の九州の対米貿易額は、輸出が1兆1,157億円（前年比45.4%増）で前年より増加し、3年連続の増加となった。一方、輸入も3,327億円（前年比35.6%増）で前年より増加した。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、事務用機器、ゴムタイヤ及びチューブであった。輸出額の増加に大きく寄与したものは、自動車（寄与度：+36.7%）、二輪自動車類（同+1.2%）等であった。一方、減少では、半導体等電子部品（同▲0.7%）、ゴムタイヤ及びチューブ（同▲0.5%）等であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、とうもろこし、石油ガス類、石炭であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、石油ガス類（寄与度：+9.1%）、石油製品（同+3.7%）等であった。一方、減少では、音響・映像機器（含部品）（同▲1.3%）、米（同▲0.2%）等であった。

図表 2-17-5 九州の対米貿易額の推移



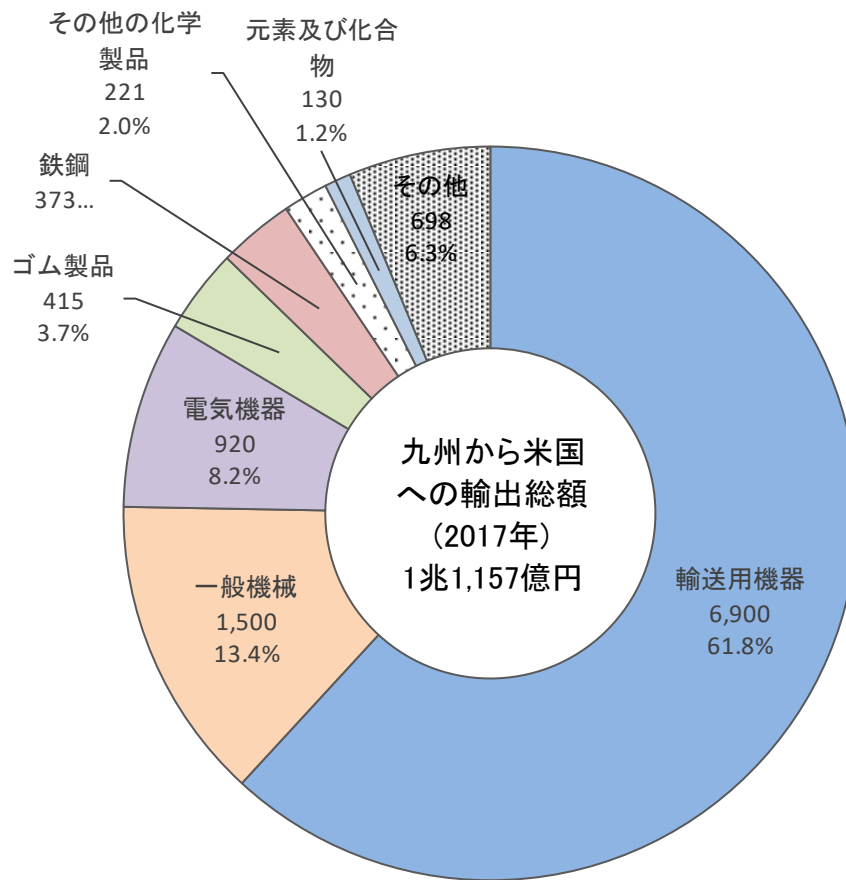
出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。



図表 2-17-6 九州から米国への輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
自動車	輸送用機器	6,369	57.1%
事務用機器	一般機械	530	4.7%
ゴムタイヤ及びチューブ	ゴム製品	369	3.3%
原動機	一般機械	356	3.2%
半導体等電子部品	電気機器	291	2.6%
二輪自動車類	輸送用機器	265	2.4%
自動車の部分品	輸送用機器	265	2.4%
映像機器	電気機器	240	2.1%
鉄鋼のフラットロール製品	鉄鋼	212	1.9%
自動車用等の電気機器	電気機器	178	1.6%
その他		2,081	18.7%
総 額		11,157	100%

寄与度（増加分）：自動車（+36.7%）、二輪自動車類（+1.2%）等

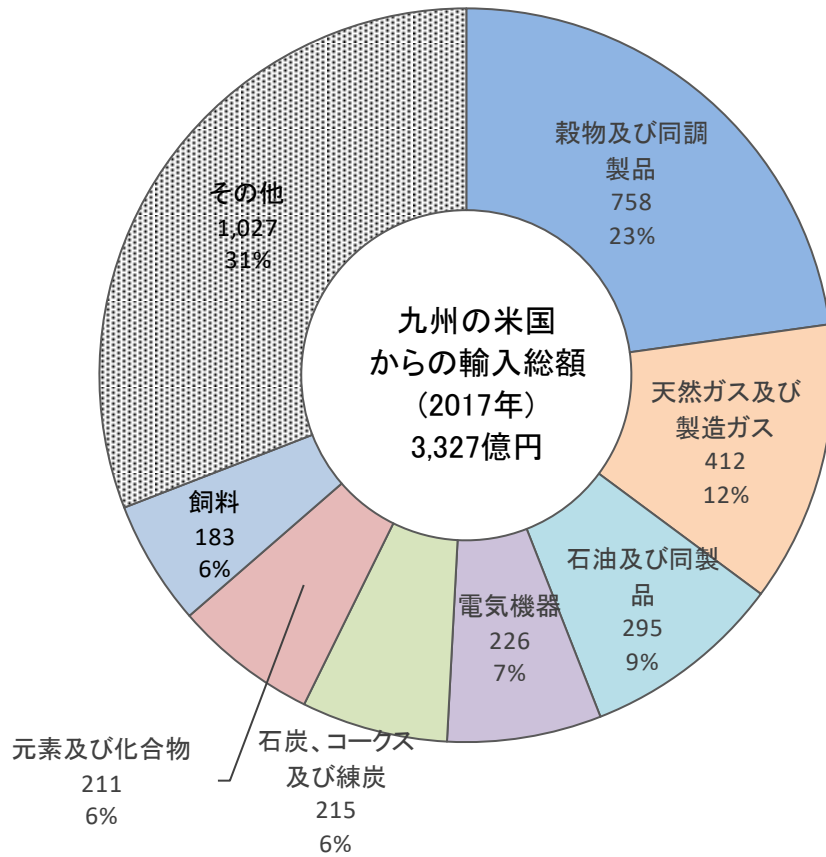
寄与度（減少分）：半導体等電子部品（▲0.7%）、ゴムタイヤ及びチューブ（▲0.5%）等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-17-7 九州の米国からの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)



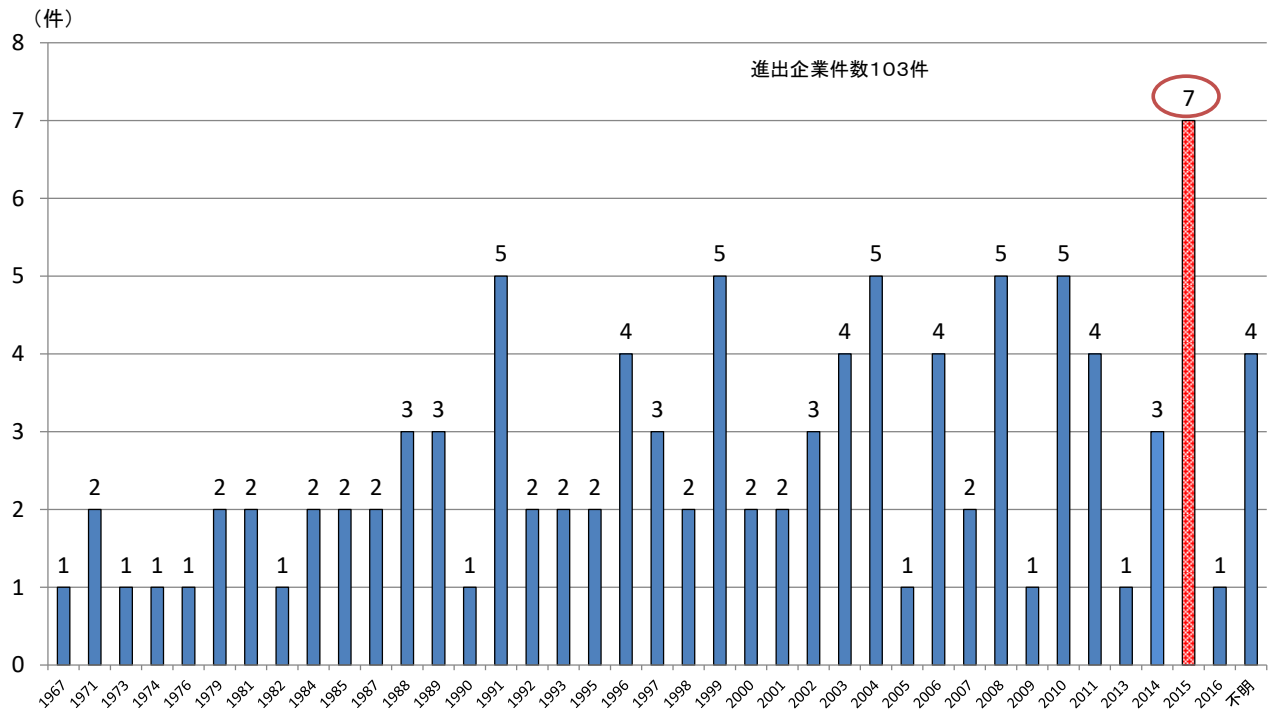
主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
とうもろこし	穀物及び同調製品	578	17.4%
石油ガス類	天然ガス及び製造ガス	412	12.4%
石炭	石炭、コークス及び練炭	215	6.4%
石油製品	石油及び同製品	166	5.0%
原油及び粗油	石油及び同製品	129	3.9%
魚介類	魚介類及び同調製品	125	3.8%
有機化合物	元素及び化合物	120	3.6%
小麦及びメスリン	穀物及び同調製品	97	2.9%
原動機	一般機械	95	2.9%
無機化合物	元素及び化合物	90	2.7%
その他		1,299	39.1%
総 額		3,327	100%

寄与度 (増加分)：石油ガス類 (+9.1%)、石油製品 (+3.7%) 等

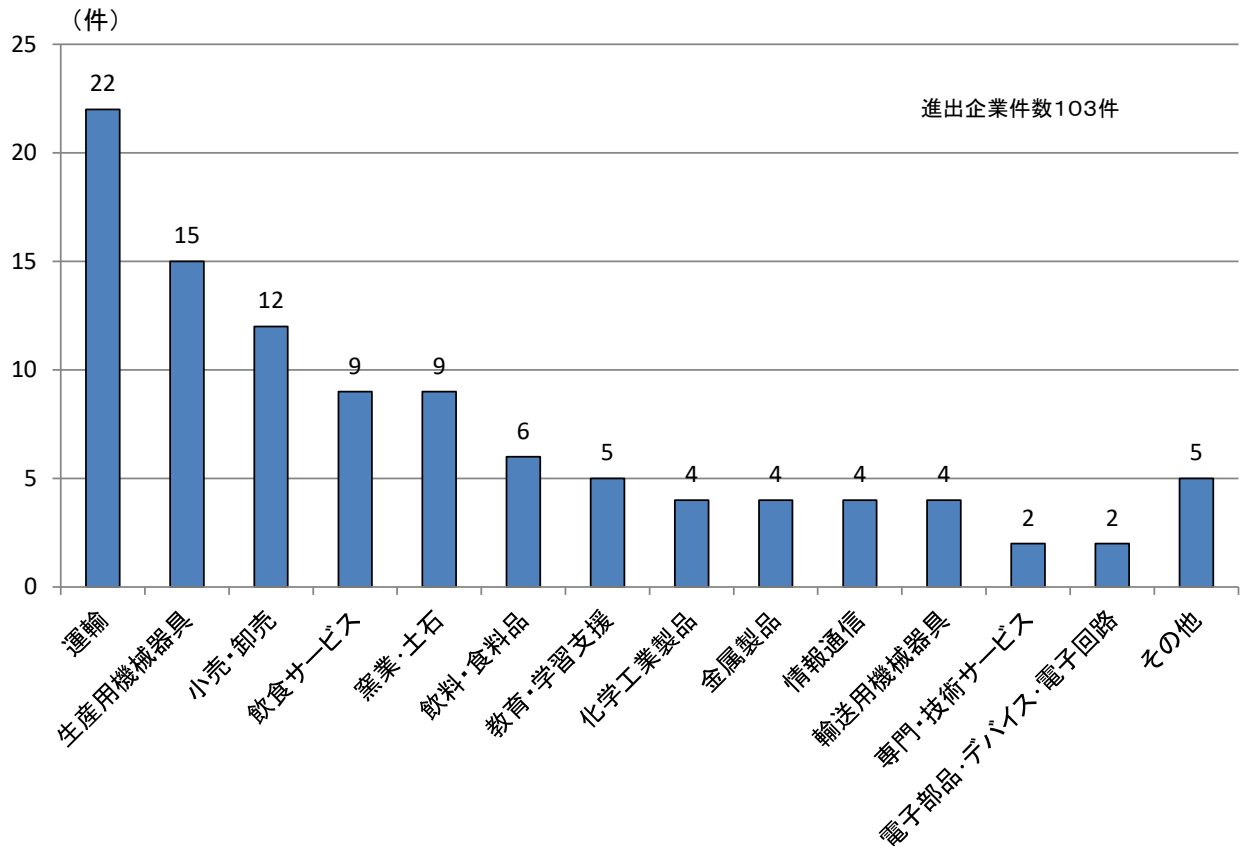
寄与度 (減少分)：音響・映像機器 (含部品) (▲1.3%)、米 (▲0.2%) 等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-17-8 九州企業の米国への進出件数の推移



図表 2-17-9 米国に進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-17-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。

## 第 18 章 九州とオーストラリアの経済関係

### 1. オーストラリアの経済概況

国名	オーストラリア連邦
面積	769万2,024km <sup>2</sup> (日本の約20倍、アラスカを除く米とほぼ同じ)
人口	約2,460万人(2017年6月。豪州統計局)
首都	キャンベラ
人種	アングロサクソン系等欧州系が中心。その他に中東系、アジア系、先住民など。
言語	英語
宗教	キリスト教52%、無宗教30%(2016年国勢調査)
政体	立憲君主制
主要産業	第一次産業2.2%、第二次産業26.9%、第三次産業70.9% 農林水産業(2.2%)、鉱業(9.5%)、製造業(6.3%)、建設業(8.3%)、卸売・小売業(9.1%)、運輸・通信業(8.0%)、金融・保険業(9.5%)、専門職・科学・技術サービス(6.2%)など(2015-16年度のGDP産業別シェア、豪州統計局)

出所：外務省HP「国・地域」より九州経済産業局作成。

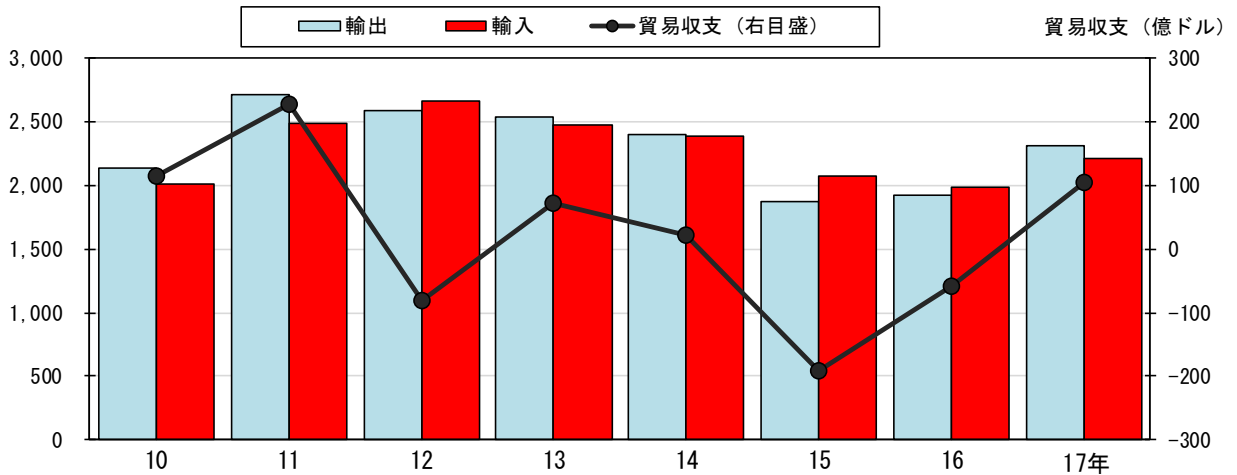
図表 2-18-1 オーストラリアのマクロ経済

	単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	前年比(%)	2.2	2.6	2.5	2.6	2.2
名目GDP総額	十億ドル	1,516	1,455	1,233	1,265	1,380
一人当たりGDP(名目)	ドル	65,064	61,547	51,404	51,861	55,693
輸出額	億ドル	2,544	2,404	1,880	1,926	2,315
	前年比(%)	5.5	1.2	▲ 6.2	3.5	16.6
輸入額	億ドル	2,471	2,383	2,073	1,985	2,209
	前年比(%)	▲ 0.6	3.3	4.4	▲ 3.2	7.9
貿易収支	億ドル	73	21	▲ 193	▲ 59	106
対日貿易収支	億ドル	262	268	143	79	164*
鉱工業生産指数	前年比(%)	0.9	3.7	0.8	1.4	1.2
失業率	(%)	5.7	6.1	6.1	5.7	5.6
消費者物価上昇率	前年比(%)	2.4	2.5	1.5	1.3	1.9
直接投資受入額	億ドル	540	460	374	400	451*
為替レート(1ドル)	豪ドル	1.04	1.11	1.33	1.35	1.30
為替レート(1豪ドル)	円	94.37	95.47	91.07	80.85	86.00

備考：貿易額については、表記載の為替レートで米ドルに換算

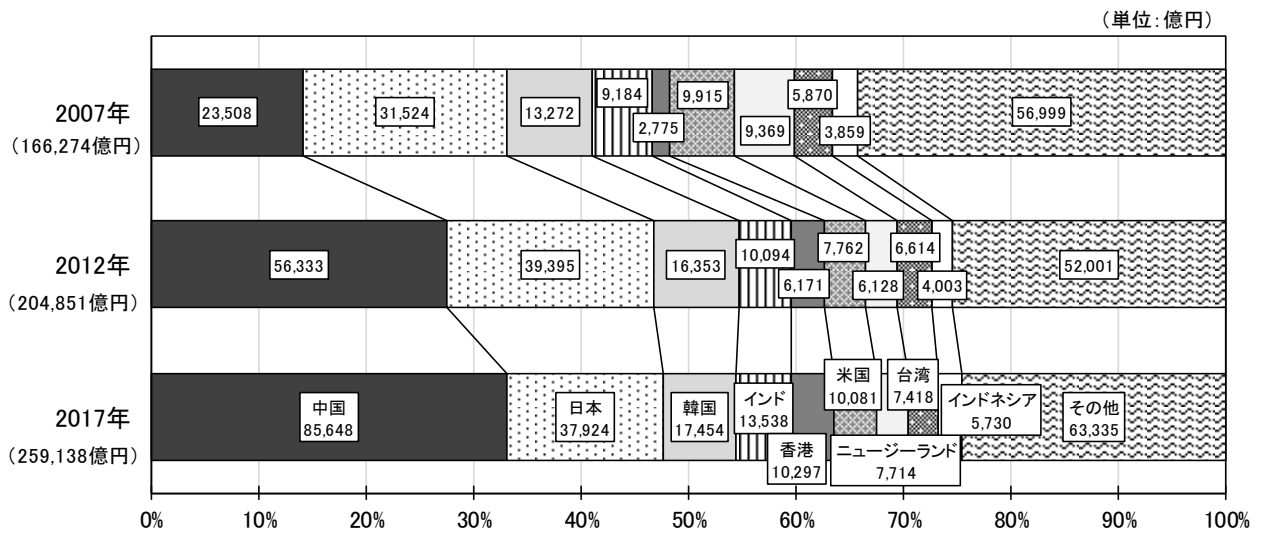
出所：内閣府「海外経済データ月次アップデート」(平成30年10月)、\*はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(基礎的経済指標)より九州経済産業局作成。

図表 2-18-2 オーストラリアの対外貿易額の推移

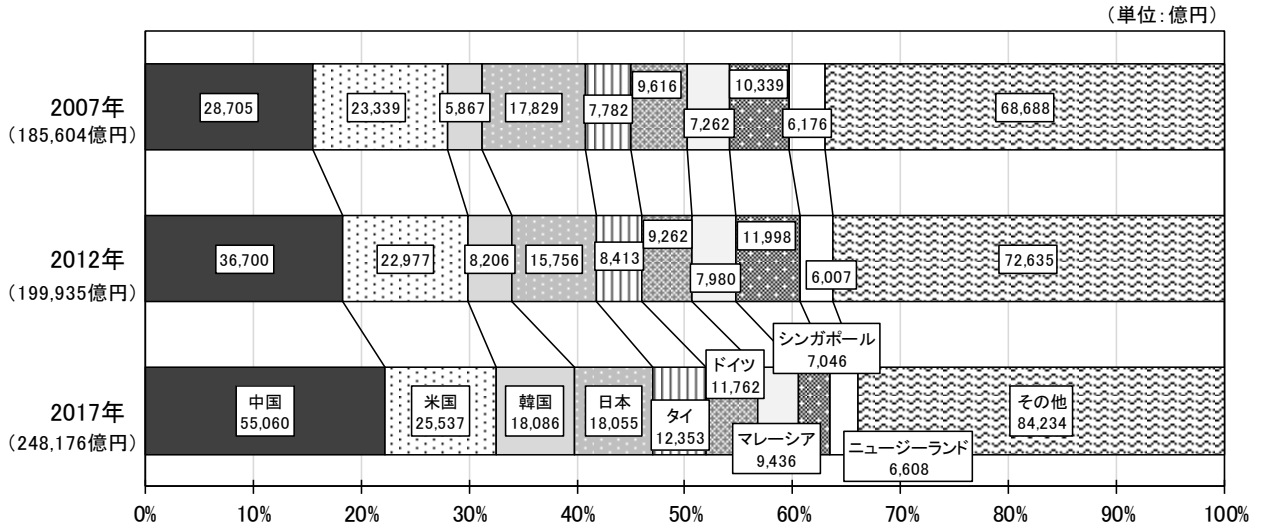


出所：2017年の輸出入額は内閣府「海外経済データ 一月次アップデート」（平成30年10月）（1米ドル=1.3048豪ドルで換算）、他はジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」（基礎的経済指標）より作成

図表 2-18-3 オーストラリアの輸出相手国・地域の推移



図表 2-18-4 オーストラリアの輸入相手国・地域の推移

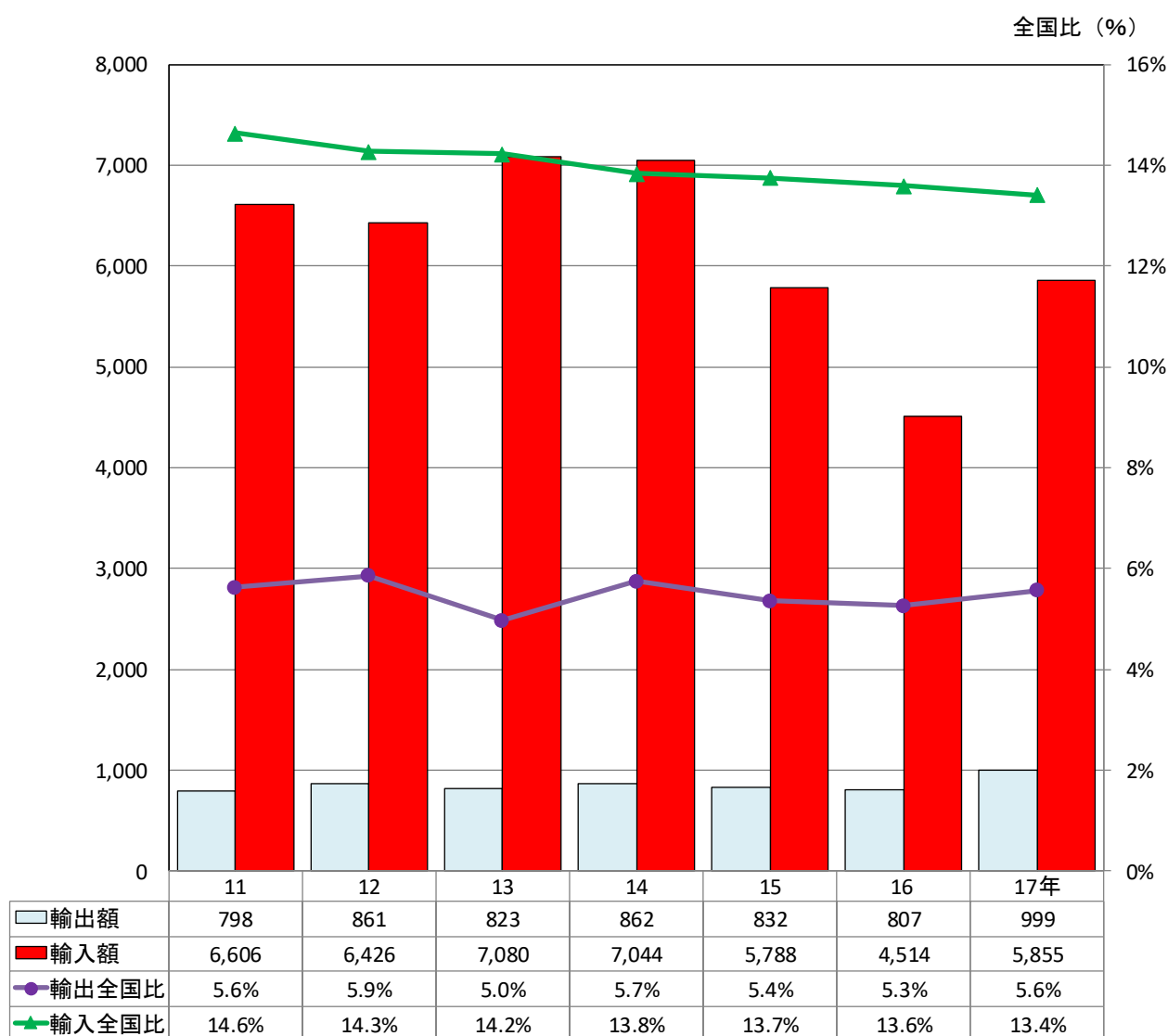


図表 2-18-3~4 出所：「Global Trade Atlas」より九州経済産業局作成。

## 2. 九州とオーストラリアの経済動向

- 2017年の九州の対オーストラリア貿易額は、輸出が999億円（前年比23.8%増）で前年より増加し、3年ぶりに増加へ転じた。一方、輸入も5,855億円（前年比29.7%増）で前年より増加し、4年ぶりに増加へ転じた。
- 輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、ゴムタイヤ及びチューブ、映像機器であった。なお、上位二品目で全体の6割以上を占めた。輸出額の増加に大きく寄与したものは、ゴムタイヤ及びチューブ（寄与度：+11.5%）、石油製品（同+4.8%）等であった。一方、減少では、軌条及びその他の鉄道線路建設材（同▲2.7%）、メラミン樹脂（同▲0.04%）であった。
- 輸入品目は、輸入額が多い順に、石炭、石油ガス類、鉄鉱石であった。輸入額の増加に大きく寄与したものは、石炭（寄与度：+19.5%）、石油ガス類（同+8.5%）等であった。一方、減少では、非鉄金属鉱（同▲3.1%）、パルプウッド等（同▲0.2%）であった。

図表 2-18-5 九州の対オーストラリア貿易額の推移

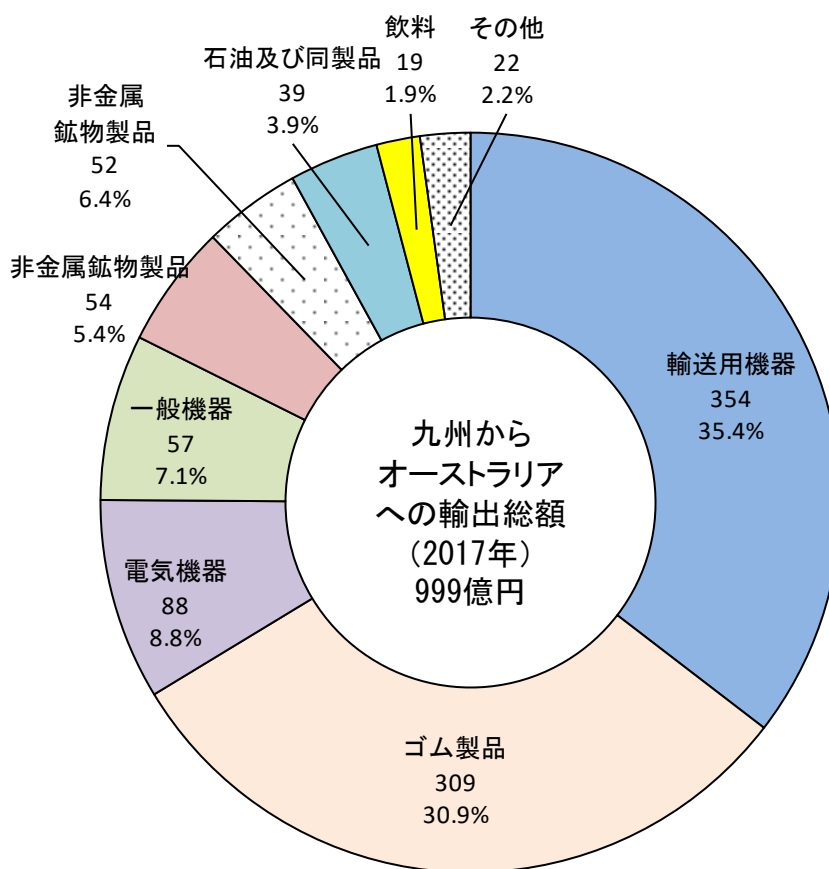


出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-18-6 九州からオーストラリアへの輸出品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸出品目	中分類	輸出額(億円)	構成比(%)
自動車	輸送用機器	332	33.3%
ゴムタイヤ及びチューブ	ゴム製品	309	30.9%
映像機器	電気機器	63	6.3%
セメント	非金属鉱物製品	51	5.1%
石油製品	石油及び同製品	39	3.9%
建設用・鉱山用機械	一般機械	35	3.5%
軌条及びその他の鉄道線路建設材	鉄鋼	28	2.8%
加熱用・冷却用機器	一般機械	24	2.4%
二輪自動車類	輸送用機器	22	2.2%
自動車用等の電気機器	電気機器	21	2.1%
その他		77	7.7%
総 額		999	100%

寄与度（増加分）：ゴムタイヤ及びチューブ（+11.5%）、石油製品（+4.8%）等

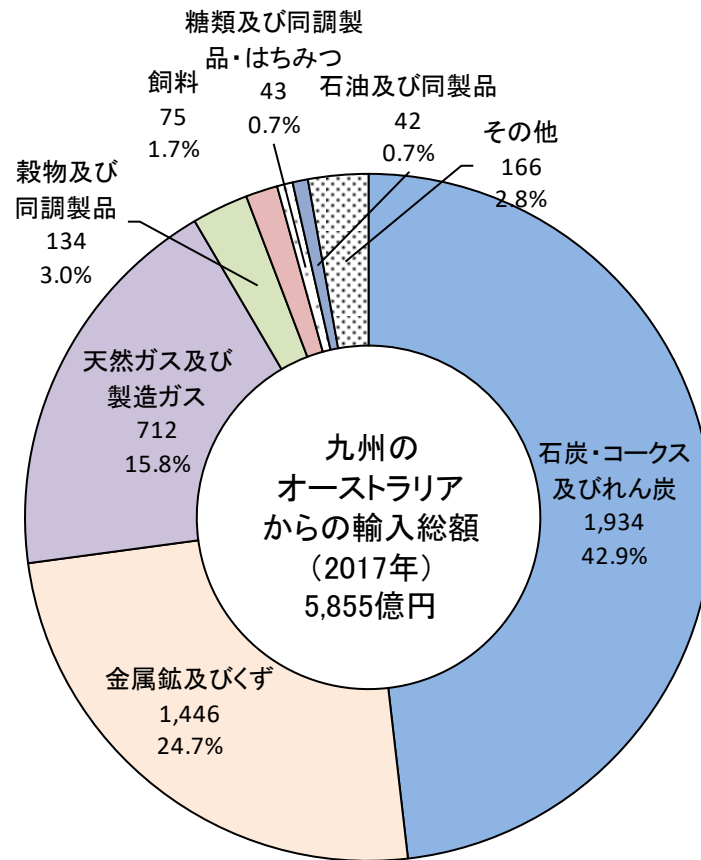
寄与度（減少分）：軌条及びその他の鉄道線路建設材（▲2.7%）、メラミン樹脂（▲0.04）等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 2-18-7 九州のオーストラリアからの輸入品目

(単位：億円、%)

(中分類)



主な輸入品目	中分類	輸入額(億円)	構成比(%)
石炭	石炭、コークス及び練炭	2,821	48.2%
石油ガス類	天然ガス及び製造ガス	1,094	18.7%
鉄鉱石	金属鉱及びくず	935	16.0%
非鉄金属鉱	金属鉱及びくず	504	8.6%
大麦及びはだか麦	穀物及び同調製品	110	1.9%
砂糖	糖類及び同調製品・はちみつ	43	0.7%
原油及び粗油	石油及び同製品	42	0.7%
小麦及びメスリン	穀物及び同調製品	38	0.6%
アルミニウム及び同合金	非鉄金属	34	0.6%
その他の採油用種子	採油用の種・ナット及び核	8	0.1%
その他		234	4.0%
総 額		5,855	100.0%

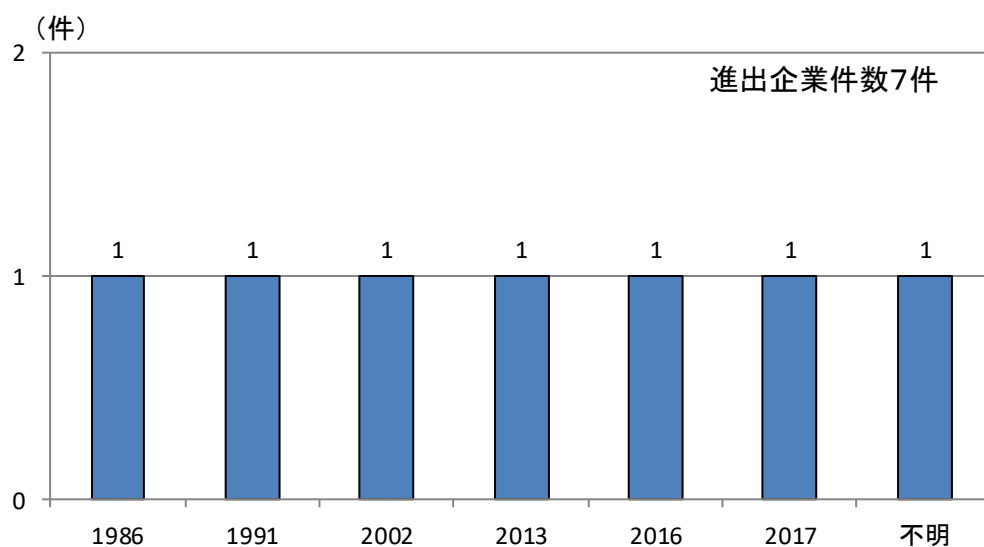
寄与度 (増加分)：石炭 (+19.5%)、石油ガス類 (+8.5%) 等

寄与度 (減少分)：非鉄金属鉱 (▲3.1%)、パルプウッド等 (▲0.2%) 等

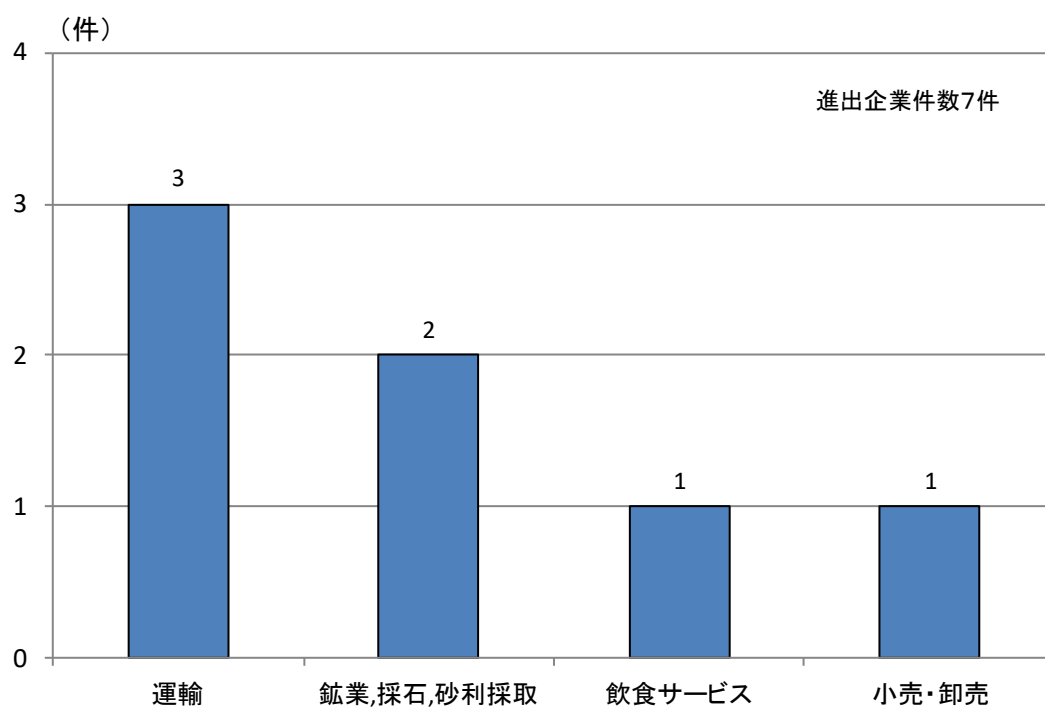
出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。



図表 2-18-8 九州企業のオーストラリアへの進出件数の推移



図表 2-18-9 オーストラリアに進出した九州企業の業種別内訳



図表 2-18-8～9 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2017」より九州経済産業局作成。